

LWCI を用いた社会動向調査及び
他自治体とのサービスレベル比較調査
報告書

令和6年2月

鎌倉市

目 次

1 LWC Iを用いた社会動向調査.....	1
I. 調査概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査の内容と方法.....	1
(3) LWC Iの「因子」と「指標」について.....	2
(4) 留意事項.....	4
(5) 回答者の属性.....	4
II. 調査結果概略.....	8
(1) 現在の幸福度.....	8
(2) 地域に対する満足度.....	9
(3) 他人の気持ちに関する認識.....	9
(4) 医療・福祉、子育てに関する指標.....	10
(5) 買物、住宅環境に関する指標.....	11
(6) 行政サービス、デジタル化に関する指標.....	12
(7) まちなみ、公共空間に関する指標.....	13
(8) 地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標.....	14
(9) 自分自身の状態や認識に関する指標.....	15
III. 各指標の分析.....	16
(1) 幸福度、満足度.....	18
(2) 医療・福祉、子育て等に関する指標.....	36
(3) 買物、住宅環境等に関する指標.....	58
(4) 行政サービス、デジタル化に関する指標.....	81
(5) まちなみ、公共空間に関する指標.....	91
(6) 地域とのつながりや地域の雰囲気等に関する指標.....	115
(7) 自分自身の状態に関する指標.....	138
IV. 幸福度及び満足度と各指標の相関分析.....	163
(1) 生活環境因子に係る指標.....	163
(2) 地域の間関係因子並びに自分らしい生き方因子に係る指標.....	164
2 他自治体とのサービスレベル比較.....	165

I.	分析概要	165
	(1) 分析方法.....	165
	(2) 比較対象自治体.....	168
II.	分析結果	169
	(1) 指標ごとの得点とLWC Iに基づく因子得点.....	169
	(2) 鎌倉市におけるLWCI偏差値の算出と他自治体との比較.....	177
	(3) 客観偏差値と主観偏差値の関係.....	186
	(4) まとめ(転出入調査、市民意識調査、世論・住民意識調査ソリューションの共同 研究結果を踏まえた分析).....	191

1 LWC I を用いた社会動向調査

I. 調査概要

(1) 調査の目的

現行の第3次鎌倉市総合計画の終了に伴って、令和8年(2026年)度を始期とした新たな総合計画の策定を検討するにあたり、市民の暮らしやすさや幸福度を把握するため、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートによるLWCI(Liveable Well-Being City 指標)に基づくアンケート調査を実施する。

(2) 調査の内容と方法

調査の概要は以下に示すとおりである。

図表 1-1 調査の内容と方法

項目	内容
調査対象	令和5年7月13日時点で住民基本台帳に記載されている満18歳以上の市民の中から、無作為に抽出した2,000名
調査方法	<ul style="list-style-type: none">本調査は、紙調査票及びWebアンケートを用いて実施した。調査票は、対象者に対して郵送配布を行った。対象者は、紙調査票の返送(郵送回収)またはWebアンケートの利用(Web回答)のうち、どちらかを選んで回答いただいた。
有効回答数	1,015票/2,000票(回収率:50.75%) ※うち、郵送回収652票、Web回答363票
調査期間	令和5年8月4日(金)～8月28日(月)
調査項目	I. 回答者属性(性別、年齢、職業、居住年数、居住地域、同居家族) II. 幸福度・満足度について(自身の幸福感、地域への満足度等) III. 地域の生活環境について(医療福祉、子育て・教育、買い物、住宅環境、行政、行政サービス、まちなみ、公共空間、環境、防災等) IV. 地域の間人関係について(地域とのつながり、多様性、寛容性等) V. 自身の状態や考えについて(自己効力感、健康状態、文化・芸術、教育機会の豊かさ、雇用・所得、事業創造等)

(3) LWC Iの「因子」と「指標」について

LWCI (Liveable Well-Being City 指標) は、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが開発した地域幸福度(Well-Being)指標である。同法人によれば、「客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-Being)」を指標で数値化可視化したもの」(引用: デジタル庁/一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度 (Well-Being) 指標活用ガイドブック」) であるという。

LWC Iは「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」の3つの視点で、生活環境は16因子、地域の人間関係は2因子、自分らしい生き方は6因子から構成される。

これらの因子には、すべて、「主観因子」と「客観因子」の2つがあり、各「主観因子」は当該地域に居住する市民による主観的な評価である「主観指標」によって構成され、各「客観因子」は当該地域の統計データから客観的な評価である「客観指標」によって構成される。

各因子と主観指標、客観指標の関係は次のとおりである。

図表 1-2 各因子と主観指標の一覧



※「医療・福祉」「買物・飲食」が因子、「■医療機関が充実している (利便性)」「■介護・福祉施設のサービスが受けやすい」が指標である。

出典: デジタル庁/一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度 (Well-Being) 指標活用ガイドブック」より

図表 1-3 各因子と客観指標の一覧

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ			
生活環境 (16)			
医療・福祉 <ul style="list-style-type: none"> 医療施設徒歩圏人口カバー率 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-) 人口あたり国保医療費 (-) 人口あたり後期高齢者医療費 (-) 特定健康診断受診率 福祉施設徒歩圏人口カバー率 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-) 人口あたり児童福祉施設数 人口あたり障害者施設数 人口あたり認知症サポートチーム・サポーター数 	遊び・娯楽 <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり娯楽業 (映画館、劇場、スポーツ施設等) の事業所数 	公共空間 <ul style="list-style-type: none"> 公園緑地徒歩圏人口カバー率 人口あたり公園の面積 歩道設置率 ウォークアブル指数 	環境共生 <ul style="list-style-type: none"> NOx平均値 (-) PM2.5年平均値 (-) ゴミのリサイクル率 人口あたり年間CO2排出量 (-) 人口あたり再生エネルギー 環境政策指数
買物・飲食 <ul style="list-style-type: none"> 商業施設徒歩圏人口カバー率 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-) 可住地面積あたりの飲食店数 人口あたり飲食店数 	子育て <ul style="list-style-type: none"> 保育所まで1km未満の住宅割合 可住地面積あたり幼稚園数 施設あたり幼稚園児数 (-) 人口あたり待機児童数 (-) 歳出総額における教育費の構成比 合計特殊出生率 	都市景観 <ul style="list-style-type: none"> 都市景観指数 	自然災害 <ul style="list-style-type: none"> 外水氾濫危険度 高潮危険度 土砂災害危険度 地震動危険度 津波危険度 ハード対策 避難・救助 要配慮者支援 防災教育 防災まちづくり 情報・デジタル防災
住宅環境 <ul style="list-style-type: none"> 住宅あたり延べ面積 平均価格 (住宅地) (-) 専用住宅1m²あたり家賃 (-) 一戸建の持ち家の割合 	初等・中等教育 <ul style="list-style-type: none"> 可住地面積あたり小学校数 可住地面積あたり中学校数 可住地面積あたり高等学校数 施設あたり小学生数 (-) 施設あたり中学生数 (-) 施設あたり高校生数 (-) 	自然景観 <ul style="list-style-type: none"> 自然景観指数 	自然の恵み <ul style="list-style-type: none"> 食料生産ポテンシャル 水供給ポテンシャル 木材供給ポテンシャル 炭素吸収量 蒸発散量 地下水涵養量 土壌流出防止量 窒素除去量 リン酸除去量 NO2吸収量 SO2吸収量 洪水調整量 表層崩壊からの安全率 緑地へのアクセス度 水域へのアクセス度 オートキャンプ場の立地
移動・交通 <ul style="list-style-type: none"> 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率 駅およびバス停留所平均人口密度 (-) 人口あたり小型車走行キロ (-) 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合 職場までの平均通勤時間 (-) 	地域行政 <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり体育施設利用者数 人口あたり図書館借出者数 人口あたり博物館入館者数 地域財政指数 	デジタル生活 <ul style="list-style-type: none"> 自治体DX指数 デジタル政策指数 デジタル生活指数 	事故・犯罪 <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり交通事故件数* (-) 人口あたり刑法犯認知件数* (-) 空家率 (-)

指数を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

指数を構成するKPIはP14~15を参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ	
地域の人間関係 (2)	自分らしい生き方 (6)
地域とのつながり <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり自殺者数 (-) 拡大家族世帯割合 既婚者の割合 高齢単身世帯の割合 (-) 居住期間が20年以上の人口の割合 祭り開催数 自治会・町内会加入率* 人口あたり政治団体等の数 人口あたり宗教の事業所数 人口あたりNPOの数 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数 関係人口割合活動指数 	自己効力感 <ul style="list-style-type: none"> 首長選挙投票率 市区町村議会選挙の投票率
多様性と寛容性 <ul style="list-style-type: none"> 議会における女性議員の割合 自治体の管理職職員における女性の割合 自治体職員における障害者の割合 人口あたり外国人人口 多様性政策指数 	健康状態 <ul style="list-style-type: none"> 健康寿命 (平均自立期間) (男性) 健康寿命 (平均自立期間) (女性)
	文化・芸術 <ul style="list-style-type: none"> 芸術家・著述家等の割合 国宝・重要文化財 (建造物) の数 日本遺産の数
	雇用・所得 <ul style="list-style-type: none"> 完全失業率 (-) 若年層完全失業率 (-) 正規雇用者比率 高齢者有業率 高卒者進路未定者率 (-) 市区町村内で従業している者の割合 創業比率 納税者あたり課税対象所得
	事業創造 <ul style="list-style-type: none"> クリエイティブ産業事業所の構成比 新規設立法人の割合 従業者数あたりコワーキングスペースの数 大学発ベンチャー企業数
	教育機会の豊かさ <ul style="list-style-type: none"> 大卒・院卒者の割合 可住地面積あたり大学・短期大学の数 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数 人口あたり生涯学習講座数 人口あたり生涯学習講座受講者数 人口あたり青少年教育施設利用者数 人口あたり女性教育施設利用者数

33

※「医療・福祉」「買物・飲食」が因子、「■医療施設徒歩圏人口カバー率」「■可住地面積あたり飲食店数」が指標である。

出典：デジタル庁／一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度 (Well-Being) 指標活用ガイドブック」より

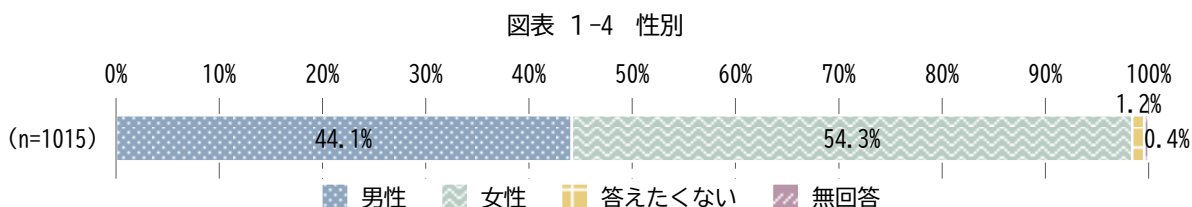
(4) 留意事項

- ・ 百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。したがって、小数点以下の表示上、グラフの%の合計が100%とならない場合がある。
- ・ グラフ中の「n」は、その質問への回答者数を示す。
- ・ 属性別のクロス集計では、属性項目の無回答を除いて集計していることから、各項目の回答者数の合計は、全体の回答者数と一致しない場合がある。また、設問間のクロス集計においても同様である。
- ・ 本文、表、グラフは表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

(5) 回答者の属性

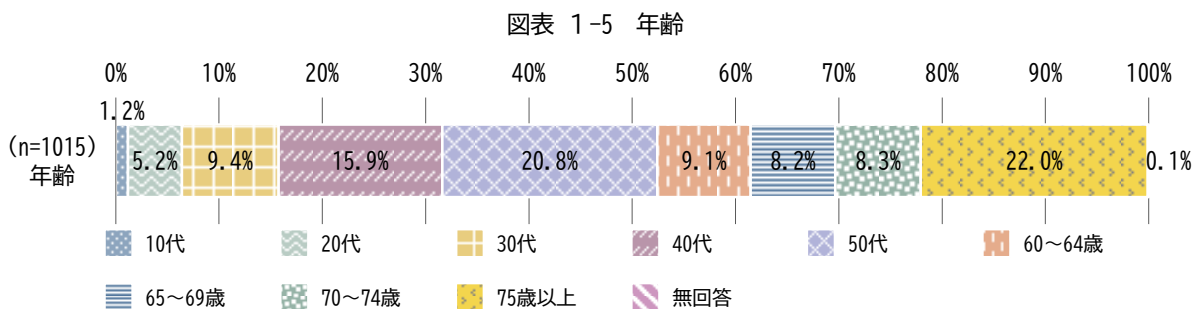
①性別

回答者の性別は女性が54.3%、男性が44.1%となっている。



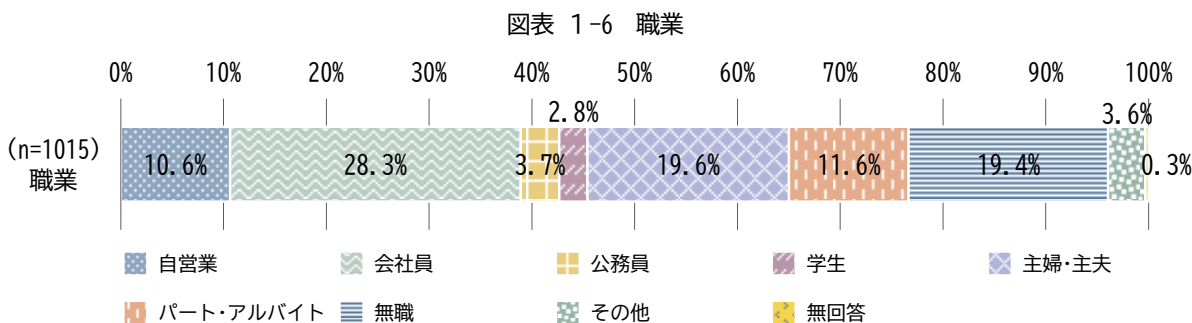
②年齢

回答者の年齢は75歳以上が最も多く、70歳以上で30.3%となっている。次いで50代が20.8%となっている。



③職業

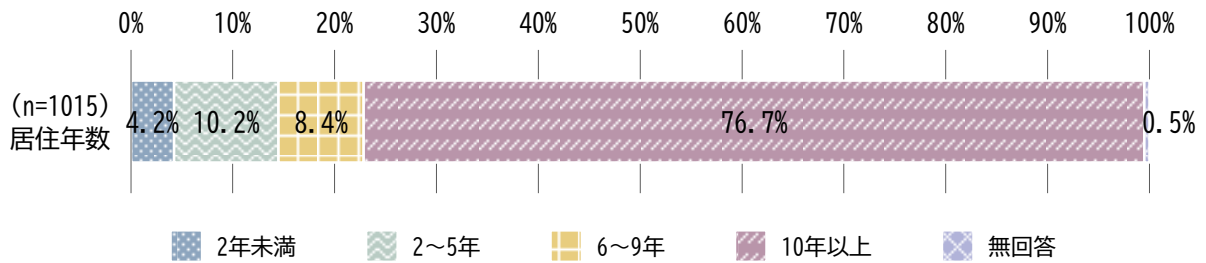
回答者の職業は「会社員」が最も多く28.3%、次いで「主婦・主夫(19.6%)」「無職(19.4%)」となっている。



④居住年数

回答者の居住年数は「10年以上」が最も多く76.7%となっている。

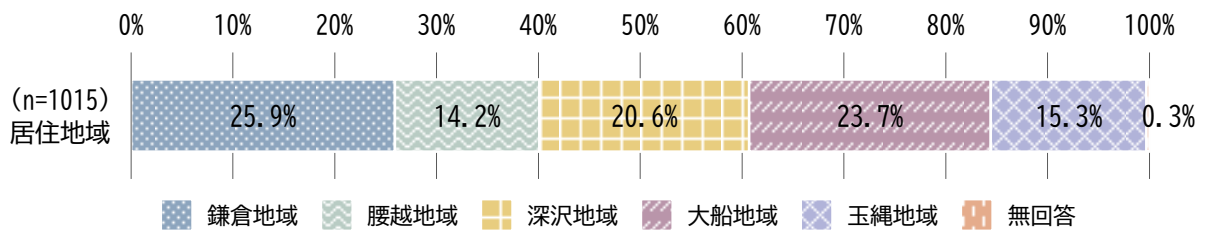
図表 1-7 居住年数



⑤居住地域

回答者の居住地域は「鎌倉地域」が最も多く25.9%、次いで「大船地域(23.7%)」「深沢地域(20.6%)」となっている。

図表 1-8 居住地域



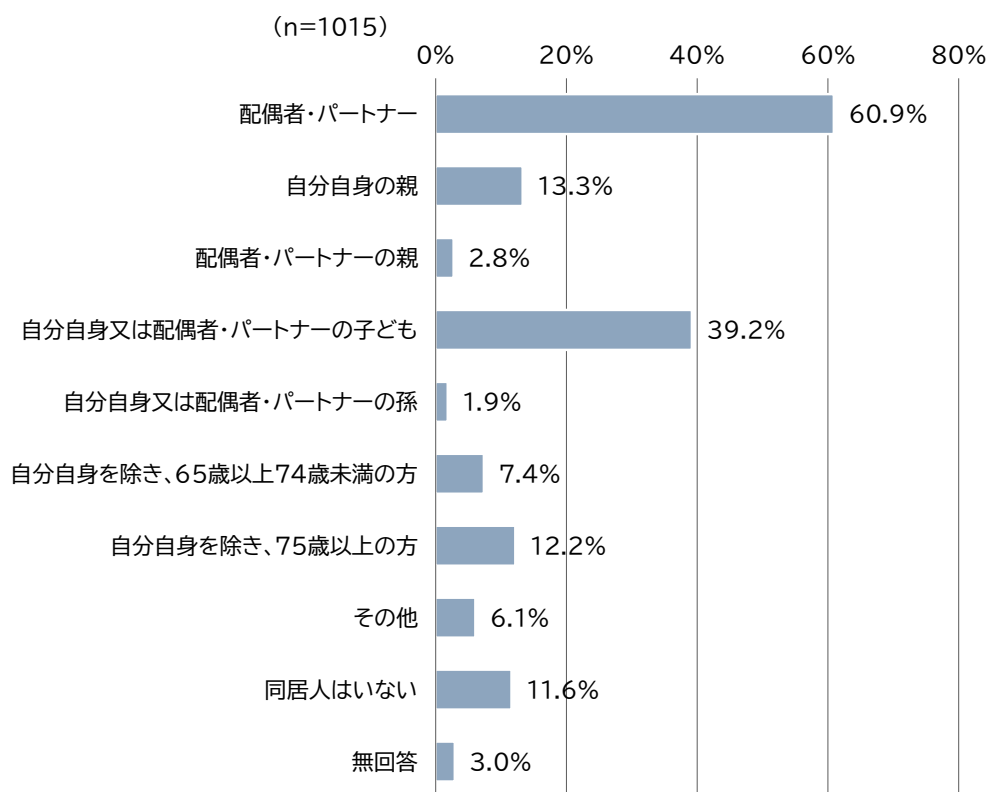
⑥同居人

回答者の同居人は「配偶者・パートナー」が最も多く 60.9%、次いで「自分自身又は配偶者・パートナーの子ども (39.2%)」となっている。「同居人はいない」回答者は 11.6%に留まる。

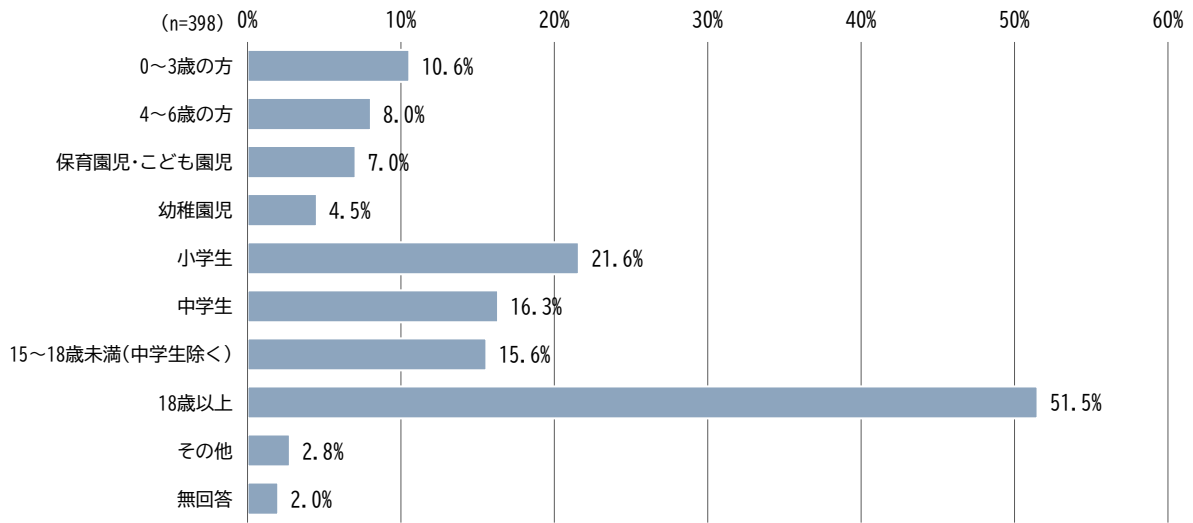
同居する自分自身又は配偶者・パートナーの子どもの属性としては、「18歳以上」が最も多く 51.5%となっている。なお、3歳以下の子どもがいる回答者は 10.6%、4～6歳の子どもがいる回答者は 8.0%、「小学生」は 21.6%、「中学生」は 16.3%となっている。

同居する自分自身又は配偶者・パートナーの孫の属性としては、「18歳以上」が最も多く 63.2%となっている。なお、3歳以下の孫がいる回答者は 10.5%、「小学生」は 10.5%、「中学生」は 15.8%となっている。

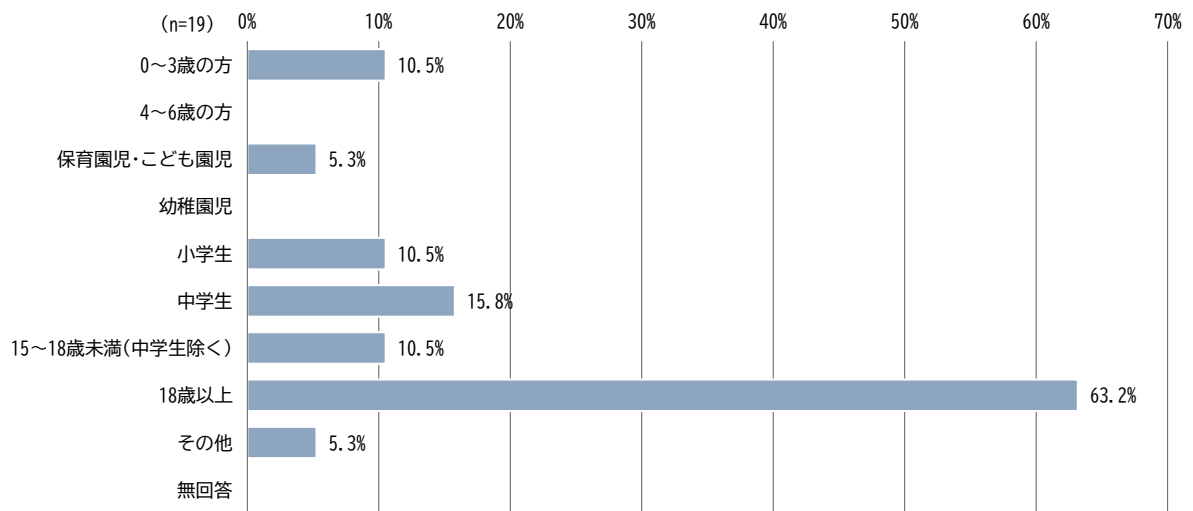
図表 1-9 同居人



図表 1-10 自分自身又は配偶者・パートナーの子どもの属性



図表 1-11 自分自身又は配偶者・パートナーの孫の属性



II. 調査結果概略

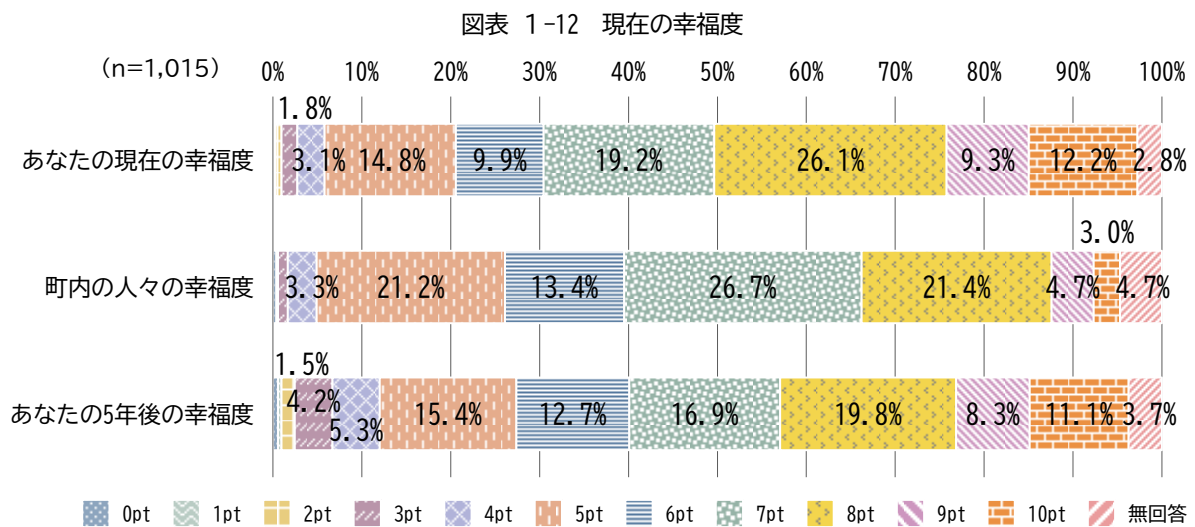
(1) 現在の幸福度

「あなたの現在の幸福度」「町内の人々の幸福度」「あなたの5年後の幸福度」について、0pt（幸福でない）～10pt（幸福である）の評価を得た。

「あなたの現在の幸福度」は、「8pt」の割合が最も高く26.1%、次いで「7pt（19.2%）」、「5pt（14.8%）」となっている。

「町内の人々の幸福度」は、「7pt」の割合が最も高く26.7%、次いで「8pt（21.4%）」、「5pt（21.2%）」となっている。

「あなたの5年後の幸福度」は、「8pt」の割合が最も高く19.8%、次いで「7pt（16.9%）」、「5pt（15.4%）」となっている。



	合計	0 pt	1 pt	2 pt	3 pt	4 pt	5 pt
あなたの現在の幸福度	1,015	2	1	7	18	31	150
	100.0%	0.2%	0.1%	0.7%	1.8%	3.1%	14.8%
町内の人々の幸福度	1,015	4	0	2	11	33	215
	100.0%	0.4%	0.0%	0.2%	1.1%	3.3%	21.2%
あなたの5年後の幸福度	1,015	6	4	15	43	54	156
	100.0%	0.6%	0.4%	1.5%	4.2%	5.3%	15.4%

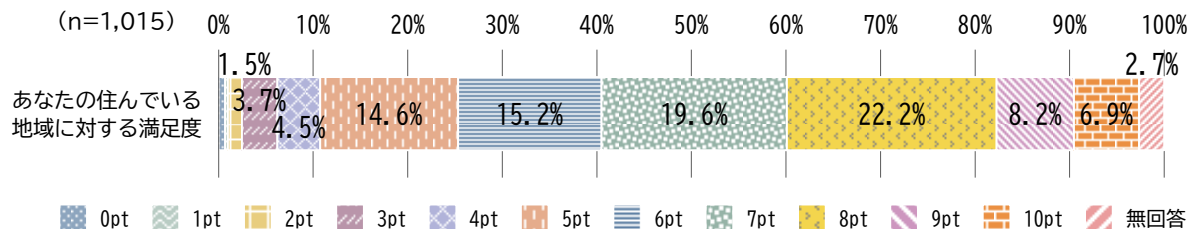
6 pt	7 pt	8 pt	9 pt	10 pt	無回答	平均値	
100	195	265	94	124	28	7.21	あなたの現在の幸福度
9.9%	19.2%	26.1%	9.3%	12.2%	2.8%		
136	271	217	48	30	48	6.64	町内の人々の幸福度
13.4%	26.7%	21.4%	4.7%	3.0%	4.7%		
129	172	201	84	113	38	6.79	あなたの5年後の幸福度
12.7%	16.9%	19.8%	8.3%	11.1%	3.7%		

(2) 地域に対する満足度

「あなたの住んでいる地域に対する満足度」について、0pt（不満）～10pt（満足）の評価を得た。

満足度は「8pt」の割合が最も高く 22.2%、次いで「7pt（19.6%）」、「6pt（15.2%）」となっている。

図表 1-13 地域に対する満足度



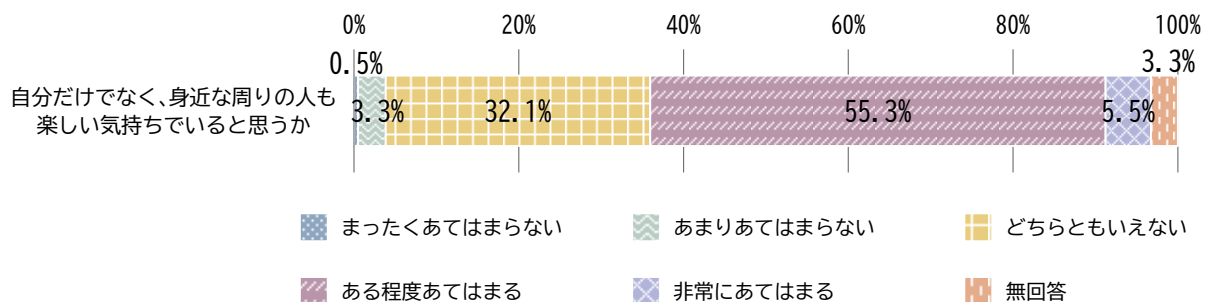
	合計	0 pt	1 pt	2 pt	3 pt	4 pt	5 pt
住んでいる地域	1,015	7	3	15	38	46	148
に対する満足度	100.0%	0.7%	0.3%	1.5%	3.7%	4.5%	14.6%

6 pt	7 pt	8 pt	9 pt	10 pt	無回答	平均値	
154	199	225	83	70	27	6.72	住んでいる地域 に対する満足度
15.2%	19.6%	22.2%	8.2%	6.9%	2.7%		

(3) 他人の気持ちに関する認識

「自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいるか」について、「ある程度あてはまる」の割合が最も高く 55.3%、次いで「どちらともいえない (32.1%)」となっている。

図表 1-14 他人の気持ちに関する認識



	合計	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	非常にあてはまる	無回答	平均値
住んでいる地域	1,015	5	34	326	561	56	33	3.64
に対する満足度	100.0%	0.5%	3.3%	32.1%	55.3%	5.5%	3.3%	

(4)～(9)については、各見出しに関する指標について、「まったくあてはまらない」～「非常にあてはまる」の5段階で、回答者の考えに最も近いものを選択いただいた。

なお、各指標における結果の説明では、各指標の評価の特徴を説明しています。

(4) 医療・福祉、子育てに関する指標

医療・福祉、子育てに関する指標について、「ある程度あてはまる」の割合が最も高い指標は「医療機関が充実している」「子どもたちがいきいきと暮らせる」「教育環境が整っている」「通学しやすい場所に学校がある」となっている。

「どちらともいえない」の割合が最も高い指標は、「介護・福祉施設のサービスが受けやすい」「子育て支援・補助が手厚い」となっている。

図表 1-15 医療・福祉、子育て等に関する指標の評価

	合計	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	非常にあてはまる	無回答
医療機関が充実している	1015 100.0%	51 5.0%	156 15.4%	194 19.1%	469 46.2%	134 13.2%	11 1.1%
介護・福祉施設のサービスが受けやすい	1015 100.0%	32 3.2%	122 12.0%	513 50.5%	283 27.9%	42 4.1%	23 2.3%
子育て支援・補助が手厚い	1015 100.0%	66 6.5%	179 17.6%	526 51.8%	182 17.9%	21 2.1%	41 4.0%
子どもたちがいきいきと暮らせる	1015 100.0%	33 3.3%	123 12.1%	344 33.9%	423 41.7%	61 6.0%	31 3.1%
教育環境が整っている	1015 100.0%	33 3.3%	106 10.4%	279 27.5%	484 47.7%	89 8.8%	24 2.4%
通学しやすい場所に学校がある	1015 100.0%	41 4.0%	122 12.0%	234 23.1%	463 45.6%	137 13.5%	18 1.8%

(5) 買物、住宅環境に関する指標

買物、住宅環境に関する指標について、「ある程度あてはまる」の割合が最も高い指標は、「日常の買い物に全く不便がない」「飲食を楽しめる場所が充実している」「自宅には、心地のいい居場所がある」「自宅の近辺では、騒音に悩まされていない」「公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる」となっている。

「どちらともいえない」の割合が最も高い指標は、「適度な費用で住居を確保できる」となっており、「あまりあてはまらない」の割合が最も高い指標は、「楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」となっている。

図表 1-16 買物、住宅環境に関する指標の評価

	合計	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	非常にあてはまる	無回答
日常の買い物にまったく不便がない	1015	89	220	140	366	193	7
	100.0%	8.8%	21.7%	13.8%	36.1%	19.0%	0.7%
飲食を楽しめる場所が充実している	1015	142	254	200	297	112	10
	100.0%	14.0%	25.0%	19.7%	29.3%	11.0%	1.0%
自宅には、心地のいい居場所がある	1015	11	45	124	473	352	10
	100.0%	1.1%	4.4%	12.2%	46.6%	34.7%	1.0%
自宅の近辺では、騒音に悩まされていない	1015	53	128	160	339	324	11
	100.0%	5.2%	12.6%	15.8%	33.4%	31.9%	1.1%
適度な費用で住居を確保できる	1015	119	281	419	142	22	32
	100.0%	11.7%	27.7%	41.3%	14.0%	2.2%	3.2%
公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	1015	81	184	173	414	154	9
	100.0%	8.0%	18.1%	17.0%	40.8%	15.2%	0.9%
楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1015	262	360	259	106	9	19
	100.0%	25.8%	35.5%	25.5%	10.4%	0.9%	1.9%

(6) 行政サービス、デジタル化に関する指標

行政サービス、デジタル化に関する指標について、「行政は、地域のことを真剣に考えていると思う」「公共施設は使い勝手がよく便利である」「行政サービスのデジタル化が進んでいる」「仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい」すべての指標で「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

図表 1-17 行政サービス、デジタル化に関する指標の評価

	合計	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	非常にあてはまる	無回答
行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	1015	109	237	435	210	12	12
	100.0%	10.7%	23.3%	42.9%	20.7%	1.2%	1.2%
公共施設は使い勝手がよく便利である	1015	107	277	379	217	20	15
	100.0%	10.5%	27.3%	37.3%	21.4%	2.0%	1.5%
行政サービスのデジタル化が進んでいる	1015	133	261	483	111	7	20
	100.0%	13.1%	25.7%	47.6%	10.9%	0.7%	2.0%
仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	1015	87	286	508	97	12	25
	100.0%	8.6%	28.2%	50.0%	9.6%	1.2%	2.5%

(7) まちなみ、公共空間に関する指標

まちなみ、公共空間に関する指標について、「ある程度あてはまる」の割合が最も高い指標は、「雰囲気は、自分にとって心地よい」「まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある」「自慢できる都市景観がある」「自慢できる自然景観がある」「身近に自然を感じることができる」「空気や水は澄んでいてきれいだと感じる」「歩道や信号が整備されていて安心である」となっている。

「どちらともいえない」の割合が最も高い指標は、「環境への取組みが盛んである」「防災対策がしっかりしている」「防犯対策が整っており、治安がよい」となっている。

図表 1-18 まちなみ、公共空間等に関する指標の評価

	合計	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	非常にあてはまる	無回答
雰囲気は、自分にとって心地よい	1015	14	47	170	585	184	15
	100.0%	1.4%	4.6%	16.7%	57.6%	18.1%	1.5%
まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	1015	45	143	165	474	170	18
	100.0%	4.4%	14.1%	16.3%	46.7%	16.7%	1.8%
自慢できる都市景観がある	1015	75	188	275	313	148	16
	100.0%	7.4%	18.5%	27.1%	30.8%	14.6%	1.6%
自慢できる自然景観がある	1015	37	116	185	416	242	19
	100.0%	3.6%	11.4%	18.2%	41.0%	23.8%	1.9%
身近に自然を感じることができる	1015	13	53	134	467	333	15
	100.0%	1.3%	5.2%	13.2%	46.0%	32.8%	1.5%
空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	1015	28	91	257	456	168	15
	100.0%	2.8%	9.0%	25.3%	44.9%	16.6%	1.5%
環境への取組みが盛んである	1015	33	129	439	319	74	21
	100.0%	3.3%	12.7%	43.3%	31.4%	7.3%	2.1%
防災対策がしっかりしている	1015	44	165	479	279	29	19
	100.0%	4.3%	16.3%	47.2%	27.5%	2.9%	1.9%
防犯対策が整っており、治安がよい	1015	54	196	396	313	40	16
	100.0%	5.3%	19.3%	39.0%	30.8%	3.9%	1.6%
歩道や信号が整備されていて安心である	1015	79	232	284	347	56	17
	100.0%	7.8%	22.9%	28.0%	34.2%	5.5%	1.7%

(8) 地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標

地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標について、「ある程度あてはまる」の割合が最も高い指標は、「同じ町内に住む人たちを信頼している」「町内の人困っていたら手助けをする」「この町内に対して愛着を持っている」となっている。

「どちらともいえない」の割合が最も高い指標は、「地域では、地域活動への市民参加が盛んである」「地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる」「町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある」「見知らぬ他者であっても信頼する」「町内の人自分が自分をどう思っているかが気になる」「地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある」「地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」となっている。

図表 1-19 地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標の評価

	合計	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	非常にあてはまる	無回答
私は、同じ町内に住む人たちを信頼している	1015	37	73	341	482	67	15
	100.0%	3.6%	7.2%	33.6%	47.5%	6.6%	1.5%
地域では、地域活動への市民参加が盛んである	1015	42	168	469	282	35	19
	100.0%	4.1%	16.6%	46.2%	27.8%	3.4%	1.9%
地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	1015	121	253	310	266	43	22
	100.0%	11.9%	24.9%	30.5%	26.2%	4.2%	2.2%
私は、町内の人困っていたら手助けをする	1015	30	71	319	496	80	19
	100.0%	3.0%	7.0%	31.4%	48.9%	7.9%	1.9%
私は、この町内に対して愛着を持っている	1015	37	80	267	481	132	18
	100.0%	3.6%	7.9%	26.3%	47.4%	13.0%	1.8%
町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	1015	61	183	590	142	16	23
	100.0%	6.0%	18.0%	58.1%	14.0%	1.6%	2.3%
私は、見知らぬ他者であっても信頼する	1015	251	306	364	67	8	19
	100.0%	24.7%	30.1%	35.9%	6.6%	0.8%	1.9%
私は、町内の人自分が自分をどう思っているかが気になる	1015	199	350	358	87	5	16
	100.0%	19.6%	34.5%	35.3%	8.6%	0.5%	1.6%
地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	1015	95	202	555	131	9	23
	100.0%	9.4%	19.9%	54.7%	12.9%	0.9%	2.3%
地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	1015	130	280	498	80	5	22
	100.0%	12.8%	27.6%	49.1%	7.9%	0.5%	2.2%

(9) 自分自身の状態や認識に関する指標

自分自身の状態や認識に関する指標について、「ある程度あてはまる」の割合が最も高い指標は、「自分のことを好ましく感じる」「身体的に健康な状態である」「精神的に健康な状態である」「将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」となっている。

「どちらともいえない」の割合が最も高い指標は、「地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」「地域では、学びたいことを学べる機会がある」「地域では、やりたい仕事を見つけやすい」「地域では、適切な収入を得るための機会がある」「地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある」となっている。

図表 1-20 自分自身の状態や認識に関する評価

	合計	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	非常にあてはまる	無回答
自分のことを好ましく感じる	1015	15	59	353	494	79	15
	100.0%	1.5%	5.8%	34.8%	48.7%	7.8%	1.5%
私は、身体的に健康な状態である	1015	28	112	163	544	165	3
	100.0%	2.8%	11.0%	16.1%	53.6%	16.3%	0.3%
私は、精神的に健康な状態である	1015	25	56	172	561	196	5
	100.0%	2.5%	5.5%	16.9%	55.3%	19.3%	0.5%
地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	1015	55	186	408	292	67	7
	100.0%	5.4%	18.3%	40.2%	28.8%	6.6%	0.7%
将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	1015	9	18	119	466	397	6
	100.0%	0.9%	1.8%	11.7%	45.9%	39.1%	0.6%
地域では、学びたいことを学べる機会がある	1015	59	189	463	261	29	14
	100.0%	5.8%	18.6%	45.6%	25.7%	2.9%	1.4%
地域では、やりたい仕事を見つけやすい	1015	158	338	427	70	9	13
	100.0%	15.6%	33.3%	42.1%	6.9%	0.9%	1.3%
地域では、適切な収入を得るための機会がある	1015	155	330	419	85	9	17
	100.0%	15.3%	32.5%	41.3%	8.4%	0.9%	1.7%
地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	1015	133	300	443	113	8	18
	100.0%	13.1%	29.6%	43.6%	11.1%	0.8%	1.8%

III. 各指標の分析

各指標の分析において用いたクロス集計の分析軸の一覧を以下に示す。

図表 1-21 各設問に対するクロス集計の分析軸の一覧

分野	設問内容	クロス集計による分析軸	
幸福度、満足度 【P18～】	現在の幸福度	年齢、居住地域、居住年数、職業、同居家族	
	町内の人々の幸福度	年齢、居住地域、居住年数、職業、現在の幸福度	
	あなたの5年後の幸福度	年齢、居住地域、居住年数、職業、同居家族、現在の幸福度	
	地域への満足度	年齢、居住地域、居住年数、自身の現在の幸福度	
	他人の気持ちに関する認識	年齢、居住地域、居住年数	
地域の生活環境	医療福祉、子育て・教育等 【P36～】	医療機関が充実している	年齢、居住地域、職業、同居家族
		介護・福祉施設のサービスが受けやすい	年齢、居住地域、職業、同居家族
		子育て支援・補助が手厚い	年齢、居住地域、職業、同居家族
		子どもたちがいきいきと暮らせる	年齢、居住地域、同居家族
		教育環境が整っている	年齢、居住地域、職業、同居家族
		通学しやすい場所に学校がある	年齢、居住地域、同居家族
	買い物、住宅環境等 【P58～】	日常の買い物にまったく不便がない	年齢、居住地域、職業、同居家族
		飲食を楽しめる場所が充実している	年齢、居住地域、職業、同居家族
		自宅には、心地のいい居場所がある	年齢、居住地域、同居家族
		自宅の近辺では、騒音に悩まされている	年齢、居住地域、居住年数
		適度な費用で住居を確保できる	年齢、居住地域、職業、同居家族
		公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	年齢、居住地域、同居家族
	行政、行政サービス 【P81～】	楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	年齢、居住地域、職業
		行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	年齢、居住地域、居住年数
		公共施設は使い勝手がよく便利である	年齢、居住地域、居住年数、職業
		行政サービスのデジタル化が進んでいる	年齢、居住地域、居住年数
	まちなみ、公共空間、環境、防災等 【P91～】	仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	年齢、居住地域、職業
		雰囲気は、自分にとって心地よい	年齢、居住地域、居住年数
		まちなみ、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	年齢、居住地域、居住年数、同居家族
		自慢できる都市景観がある	年齢、居住地域、居住年数
		自慢できる自然景観がある	年齢、居住地域、居住年数
		身近に自然を感じることができる	年齢、居住地域、居住年数
		空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	年齢、居住地域、居住年数
		環境への取組みが盛んである	年齢、居住地域、居住年数
防災対策がしっかりしている		年齢、居住地域、居住年数、同居家族	
防犯対策が整っており、治安がよい		年齢、居住地域、居住年数、同居家族	
歩道や信号が整備されていて安心である	年齢、居住地域、居住年数、同居家族		

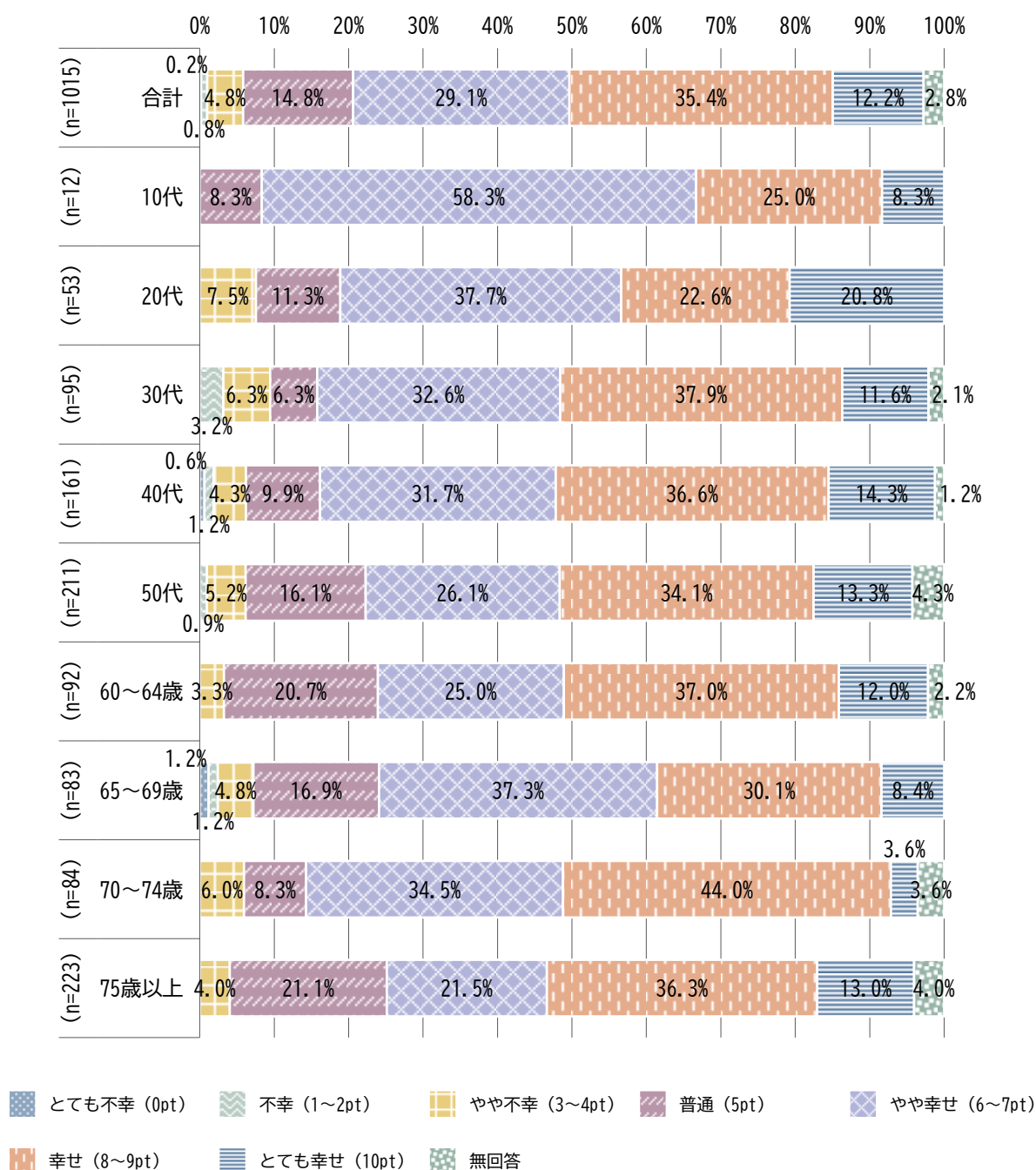
地域の間関係 (地域とのつながりや多様性) 【P115～】	私は、同じ町内に住む人々を信頼している	年齢、居住地域、居住年数
	地域では、地域活動への市民参加が盛んである	年齢、居住地域、居住年数
	地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	年齢、居住地域、居住年数
	私は、町内の人々が困っていたら手助けをする	年齢、居住地域、居住年数
	私は、この町内に対して愛着を持っている	年齢、居住地域、居住年数
	町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	年齢、居住地域、居住年数
	私は、見知らぬ他者であっても信頼する	年齢、居住地域、居住年数
	私は、町内の人々が自分をどう思っているかが気になる	年齢、居住地域、居住年数
	地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	年齢、居住地域、居住年数、性別、職業
	地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	年齢、居住地域、職業、居住年数
自身について (自身の状態や考え) 【P138～】	自分のことを好ましく感じる	年齢、職業
	私は、身体的に健康な状態である	年齢、居住地域
	私は、精神的に健康な状態である	年齢、居住地域
	地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	年齢、居住地域
	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	年齢、居住地域、職業、同居家族
	地域では、学びたいことを学べる機会がある	年齢、居住地域、職業
	地域では、やりたい仕事を見つけやすい	年齢、居住地域、職業
	地域では、適切な収入を得るための機会がある	年齢、居住地域、職業
	地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	年齢、居住地域、職業、同居家族

(1) 幸福度、満足度

①現在の幸福度

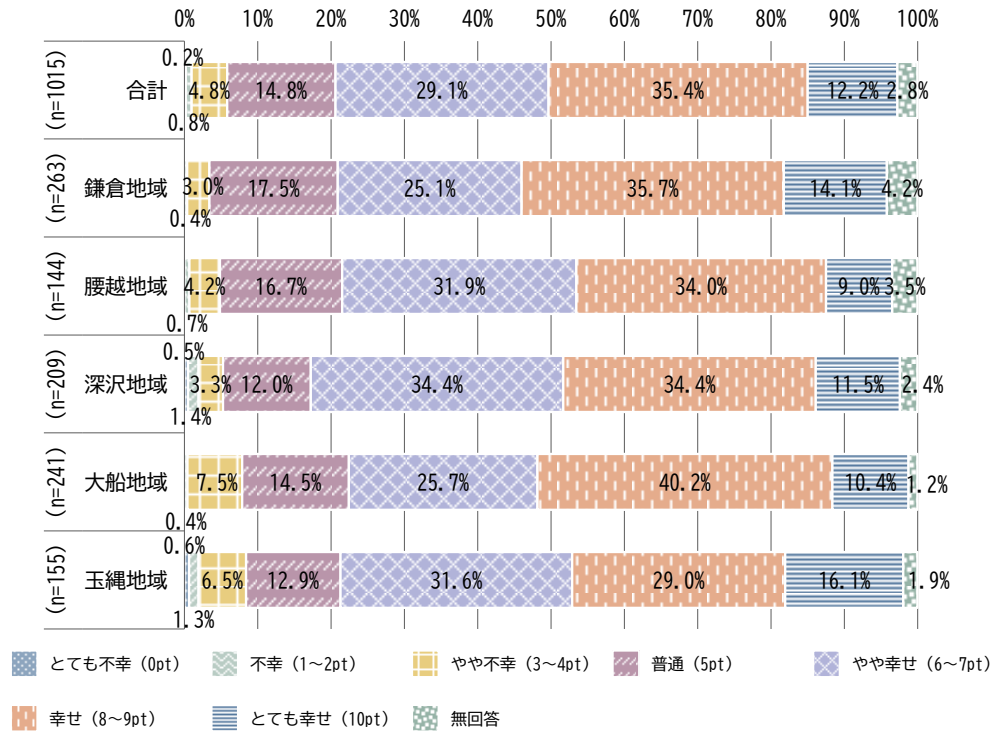
年齢別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は10～20代、65～69歳で低くなっている。

図表 1-22 現在、あなたはどの程度幸せですか（年齢別）



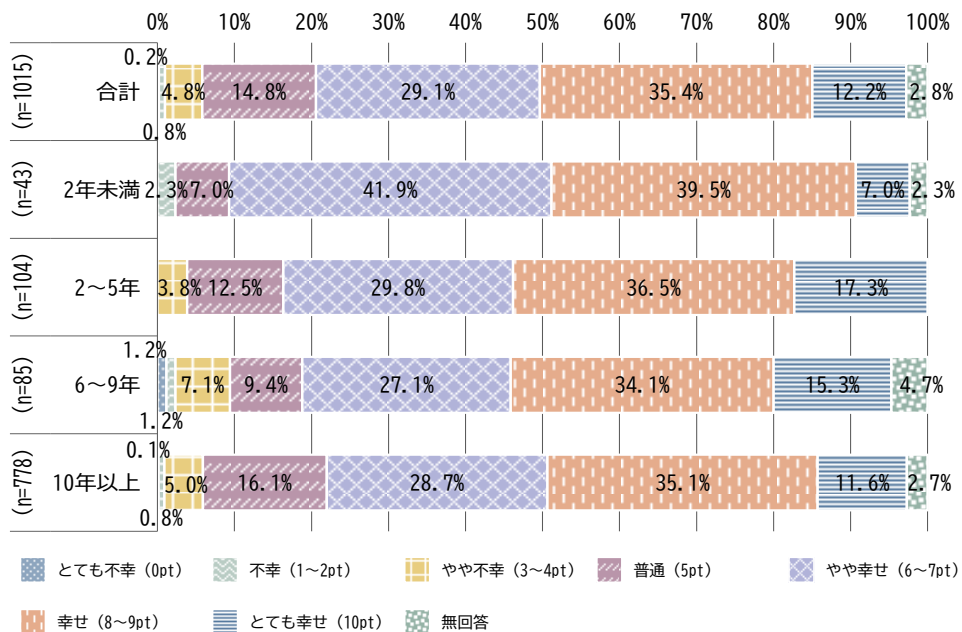
居住地域別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は鎌倉地域と大船地域でやや高くなっているものの、地域間で特段の格差はみられない。

図表 1-23 現在、あなたはどの程度幸せですか（居住地域別）



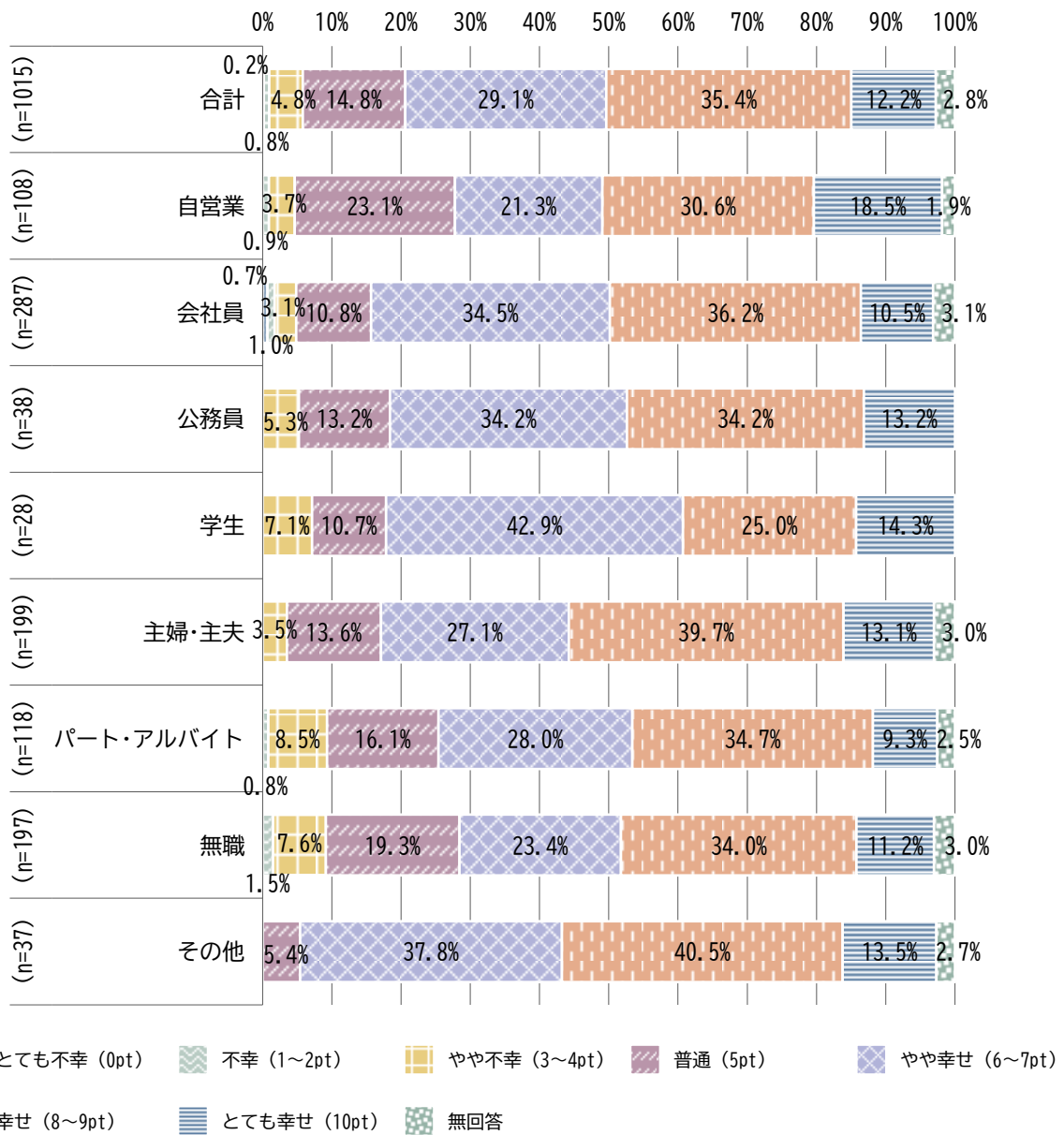
居住年数別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は居住年数2～5年でやや高くなっており、「やや幸せ（6～7pt）」の割合は居住年数2年未満で41.9%と比較的高くなっている。

図表 1-24 現在、あなたはどの程度幸せですか（居住年数別）



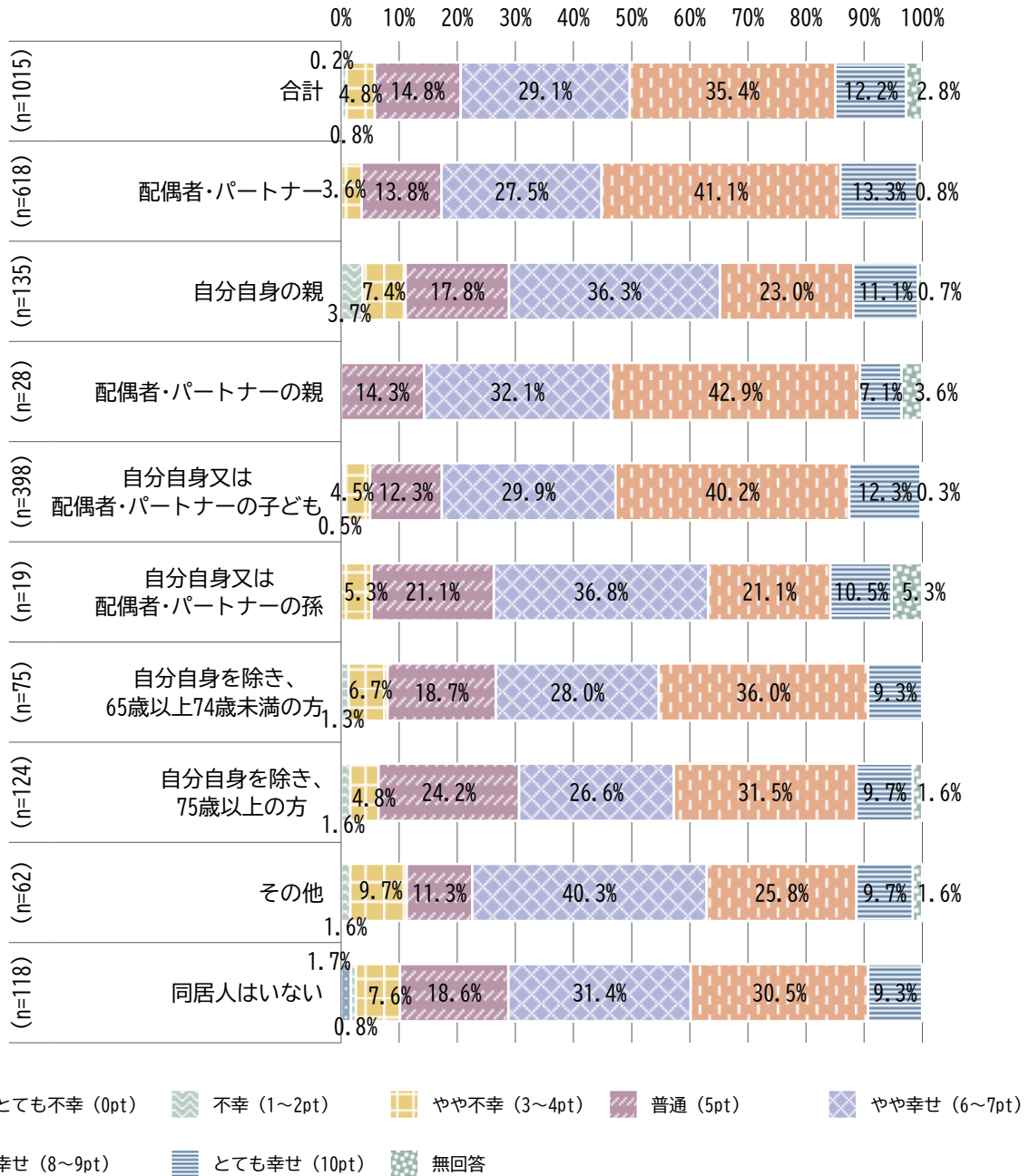
職業別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は主婦・主夫でやや高くなっており、学生で低くなっている。

図表 1-25 現在、あなたはどの程度幸せですか（職業別）



同居家族別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は、自分自身の親、自分自身又は配偶者・パートナーの孫で低くなっている。

図表 1-26 現在、あなたはどの程度幸せですか（同居家族別）

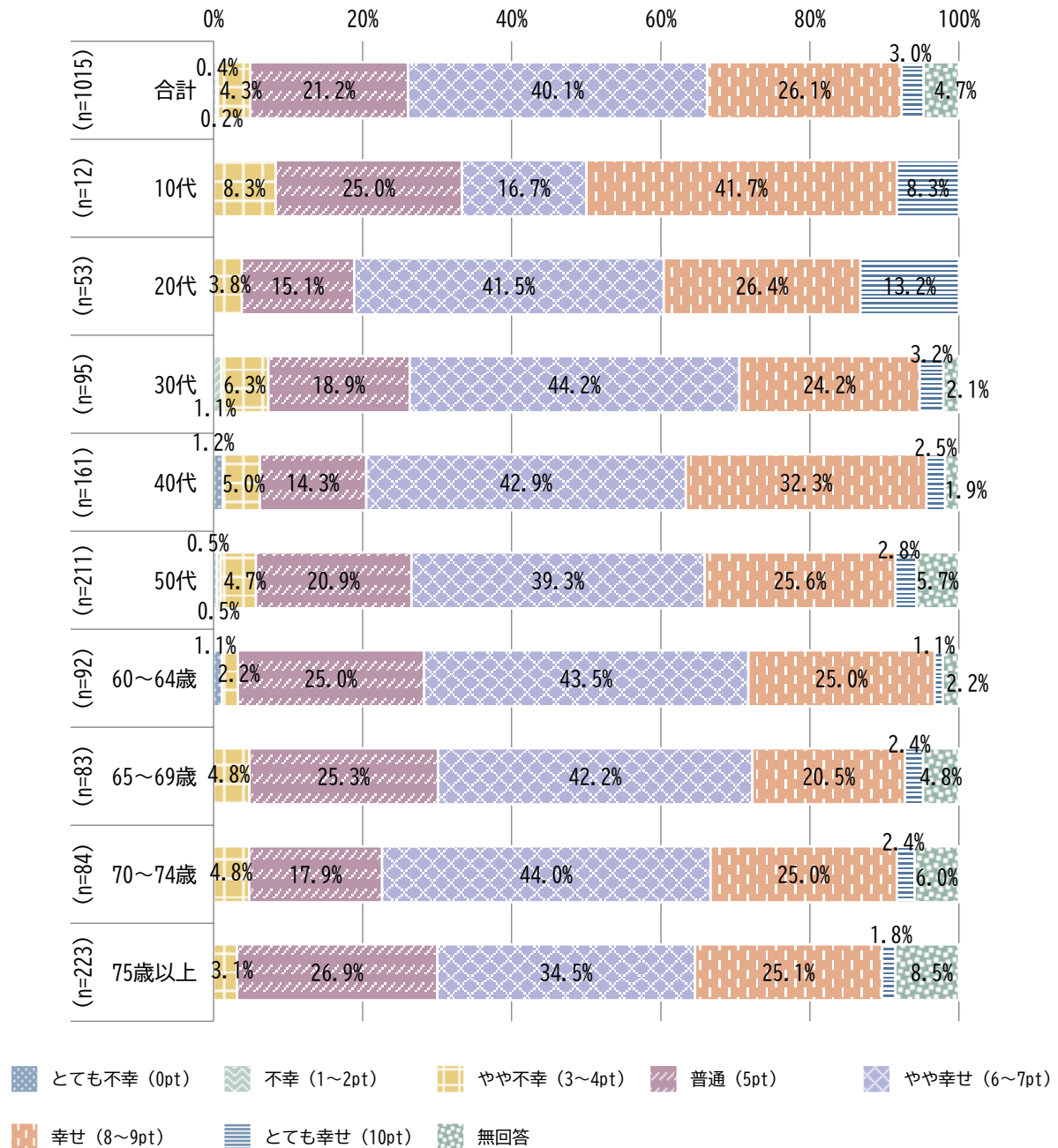


注釈) 「同居人はいない」以外の選択肢は、複数選択されている場合に、複数の軸で重複してカウントされている。(同居家族別のグラフについては以下同様)

②町内の人々の幸福度

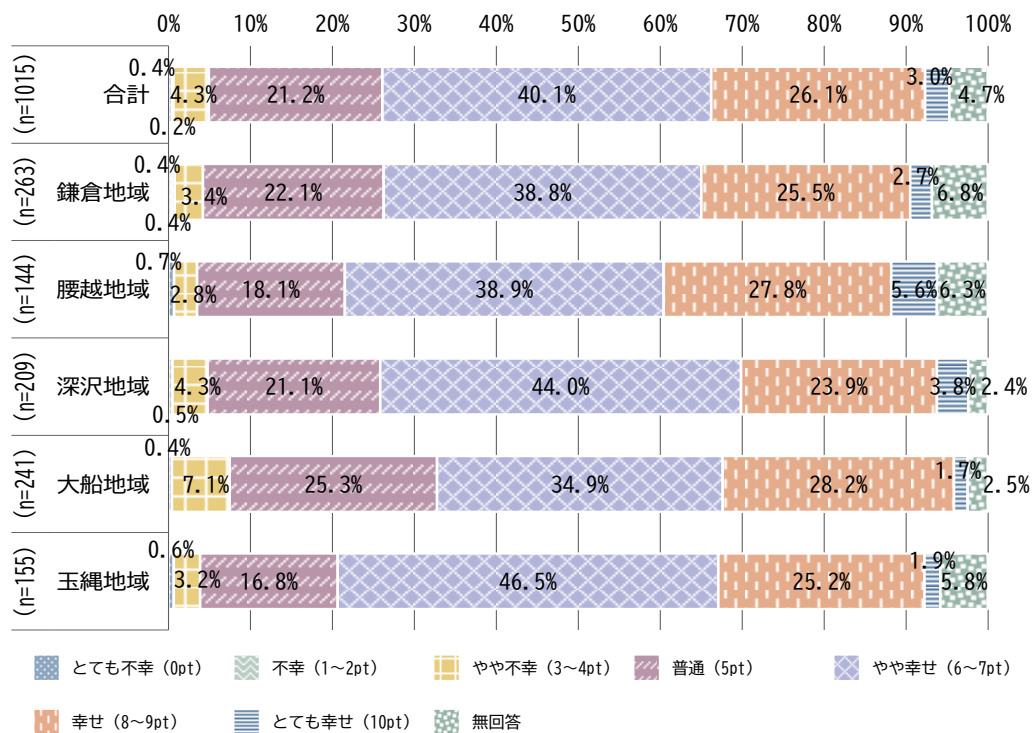
年齢別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は10代と20代、40代で高くなっている。

図表 1-27 あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか（年齢別）



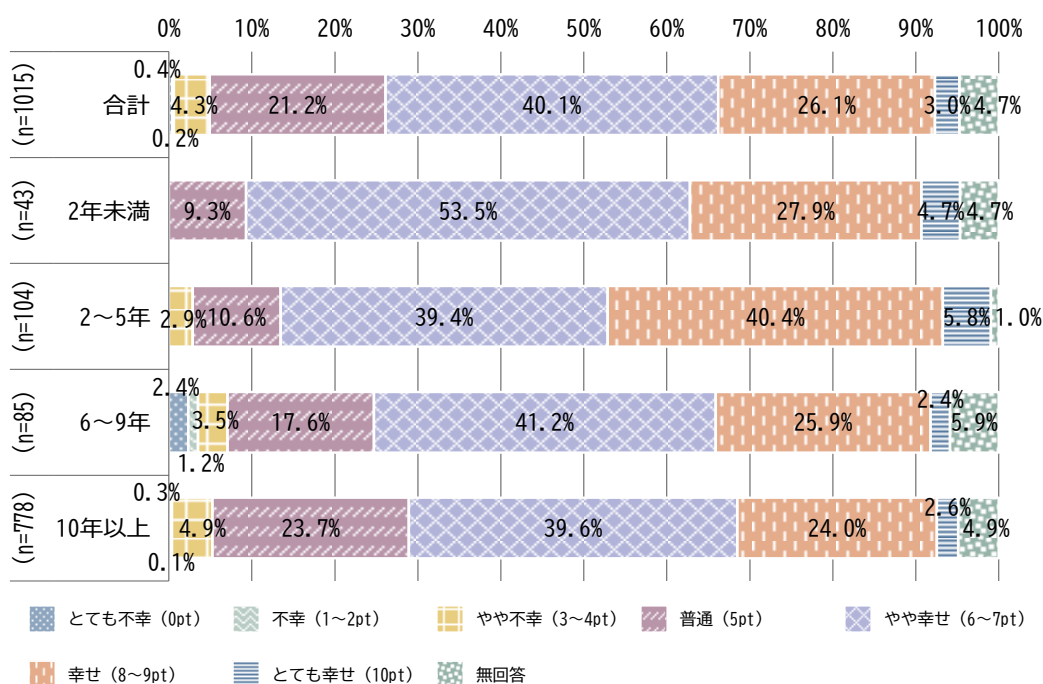
居住地域別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は腰越地域で高くなっている。

図表 1-28 あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか（居住地域別）



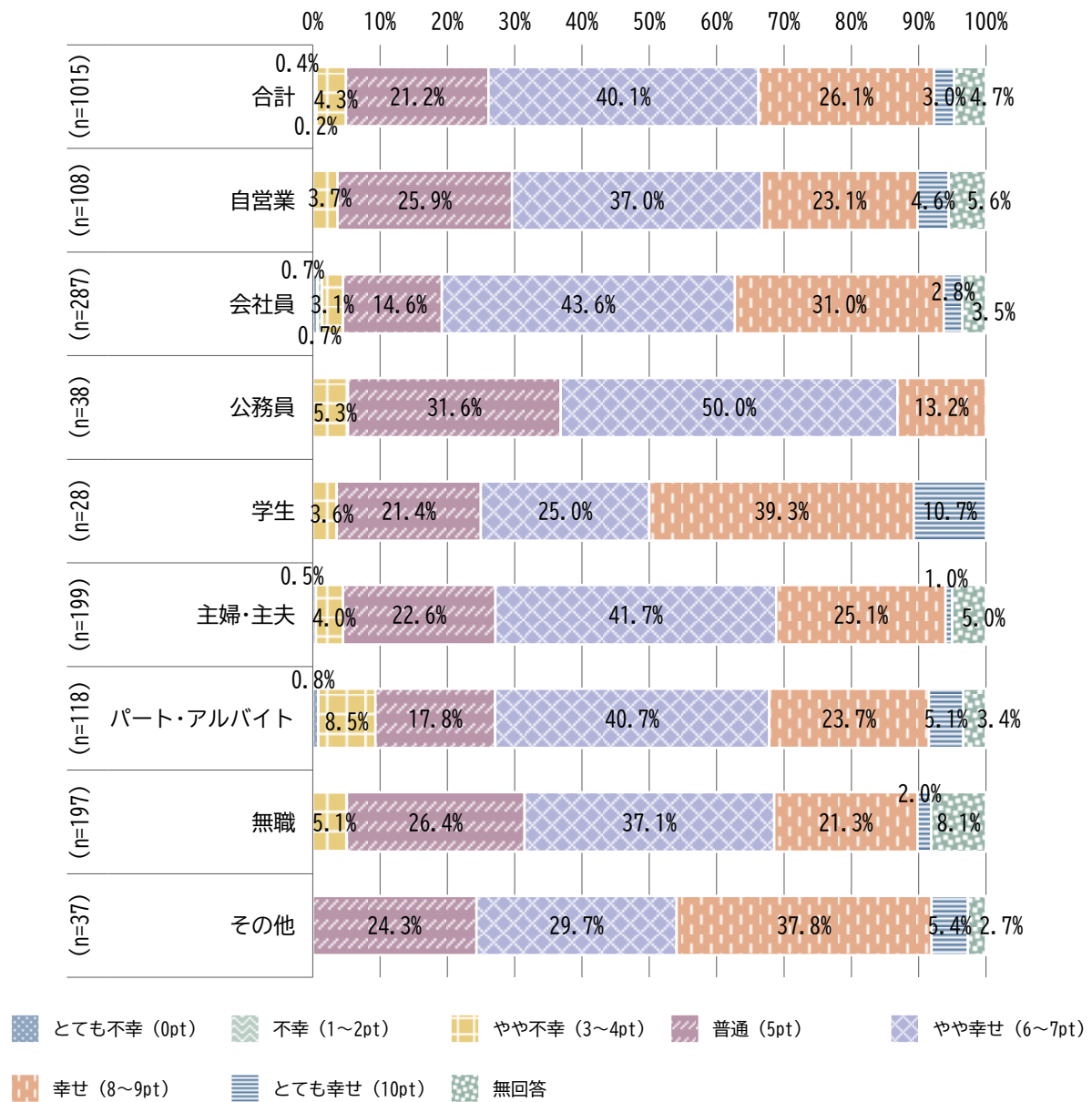
居住年数別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は居住年数2～5年で高くなっており、居住年数10年以上でやや低くなっている。

図表 1-29 あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか（居住年数別）



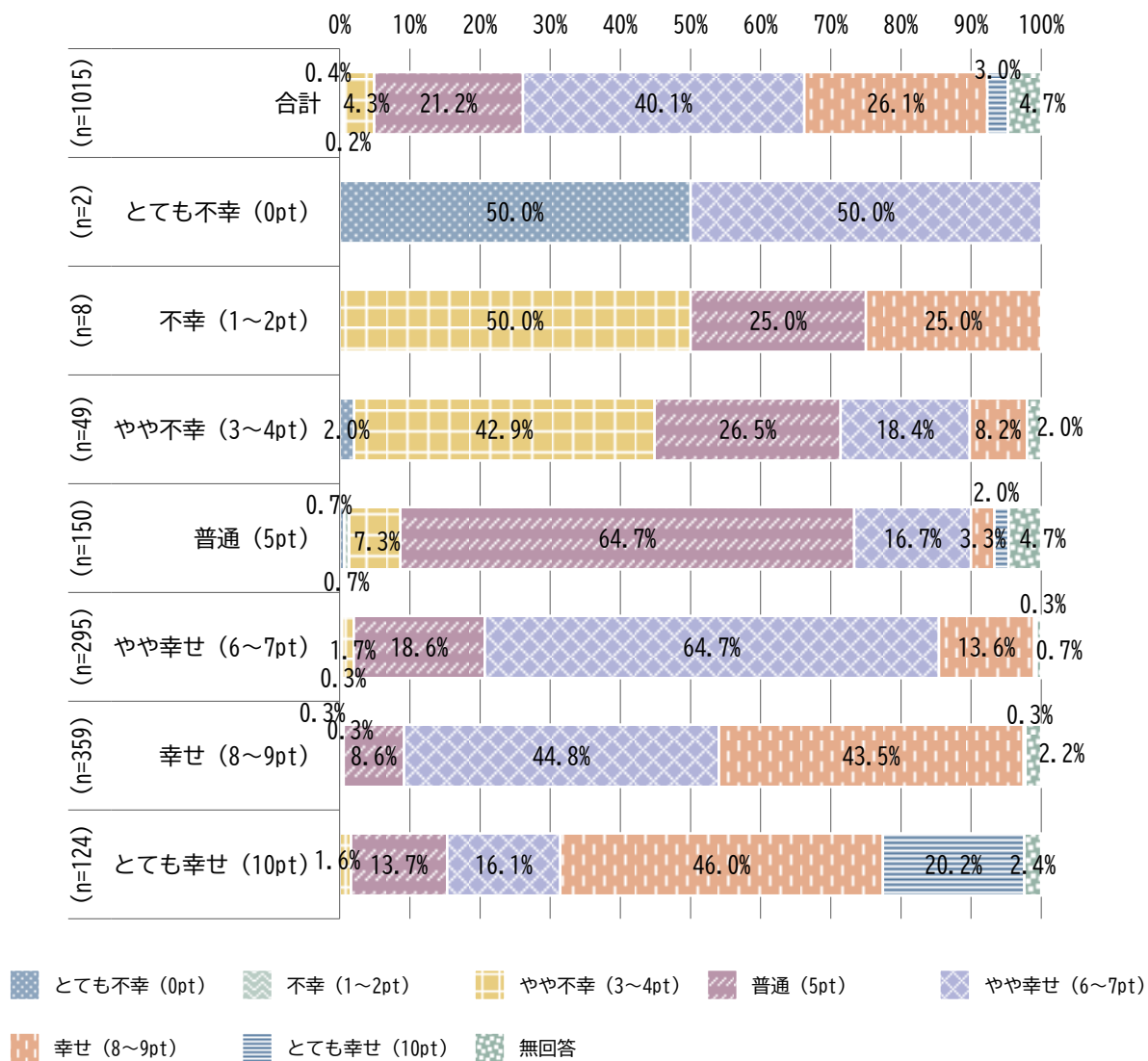
職業別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は学生で高くなっており、公務員で低くなっている。

図表 1-30 あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか（職業別）



自身の幸福度別にみると、自身の幸福度が高いほど、町内の人々の幸福度も高く感じる傾向があることがわかる。

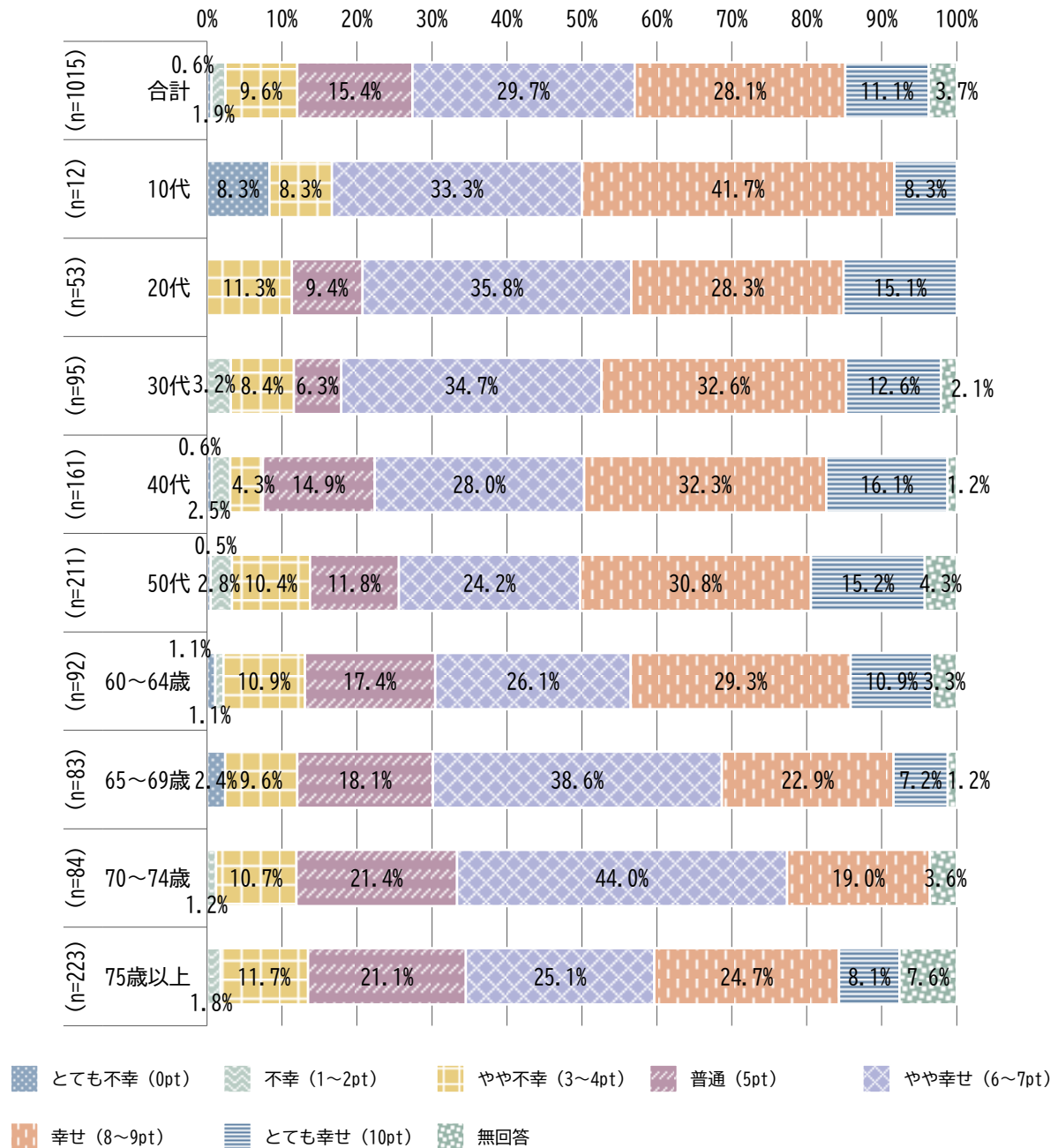
図表 1-31 あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか（自身の幸福度別）



③あなたの5年後の幸福度

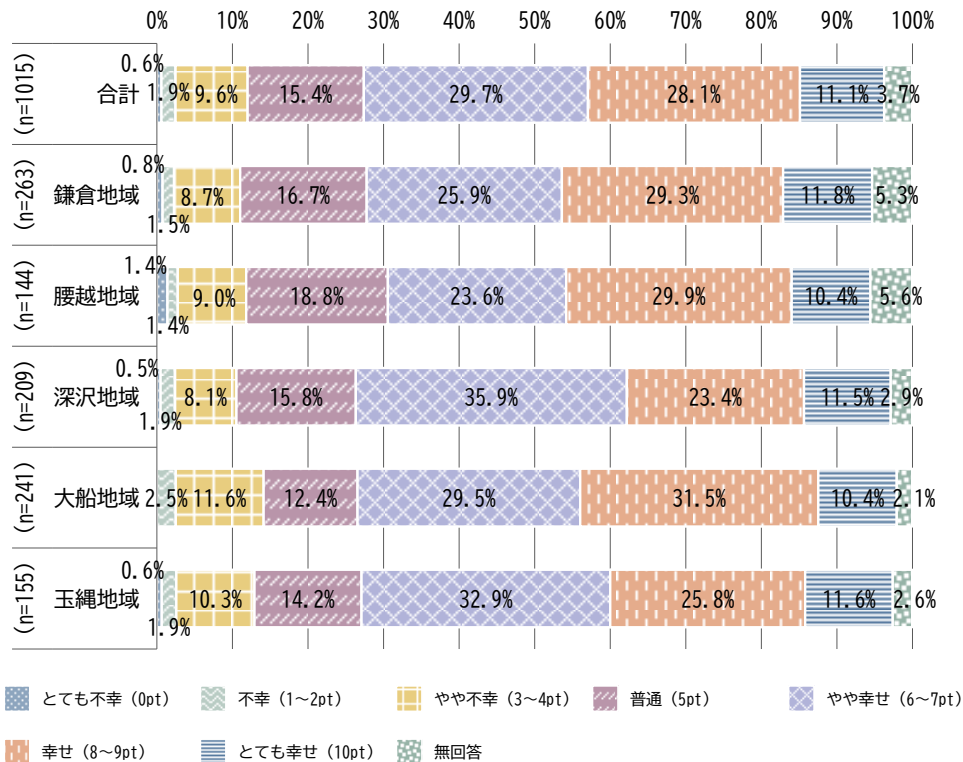
年齢別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計は、20代から年代が上がるにつれて割合が高くなり、40代が最も高くなっている。一方、50代以降は年代が上がるにしたがって割合は低くなり、70～74歳で最も低くなっている。

図表 1-32 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか（年齢別）



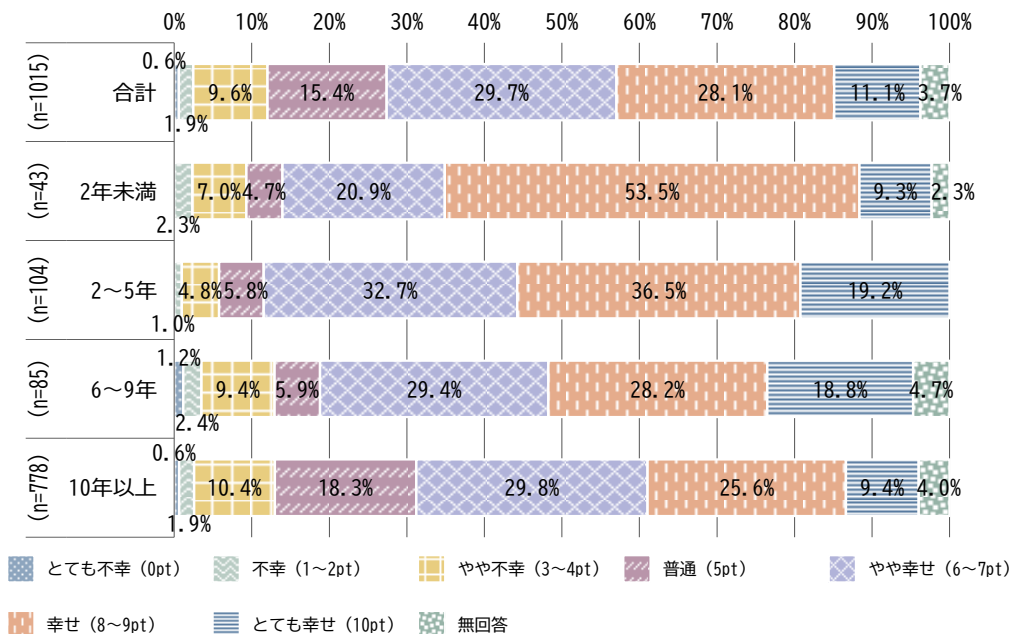
居住地域別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は深沢地域でやや低くなっている。

図表 1-33 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか（居住地域別）



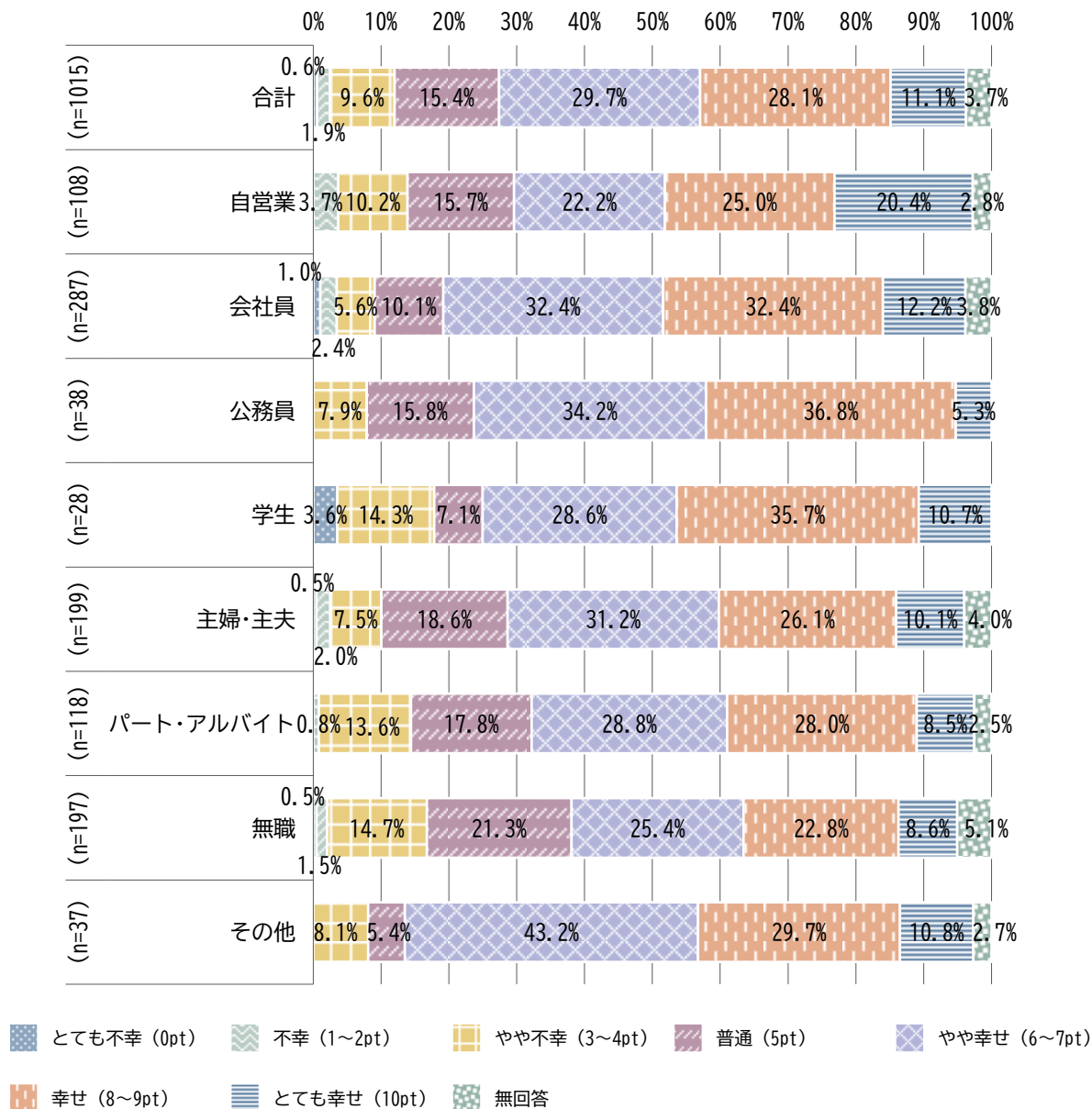
居住年数別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は居住年数2年未満で最も高く、居住年数が長くなるほど割合が低くなっている。

図表 1-34 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか（居住年数別）



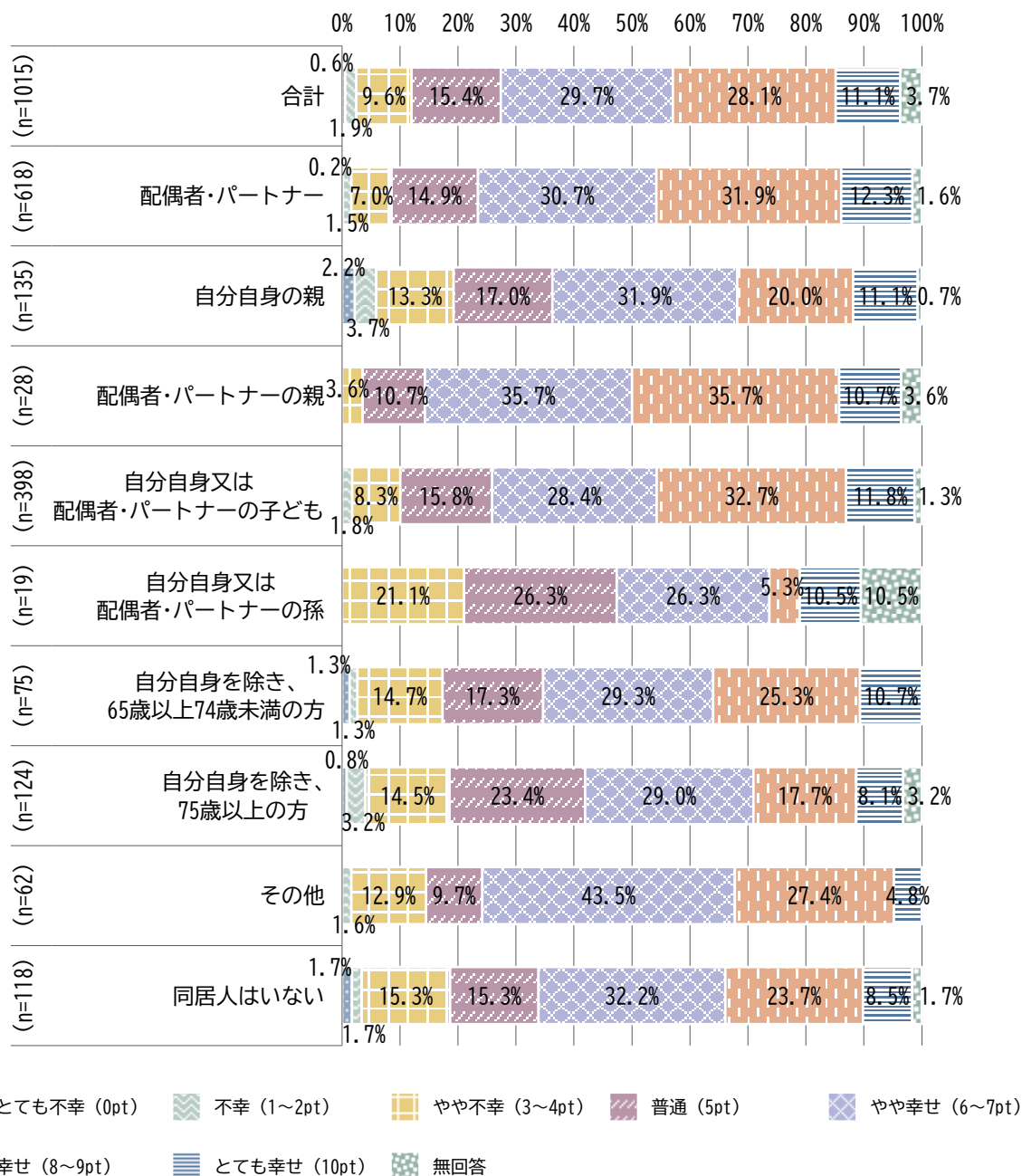
職業別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は主婦・主夫、パート・アルバイト、無職でやや低くなっている。

図表 1-35 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか（職業別）



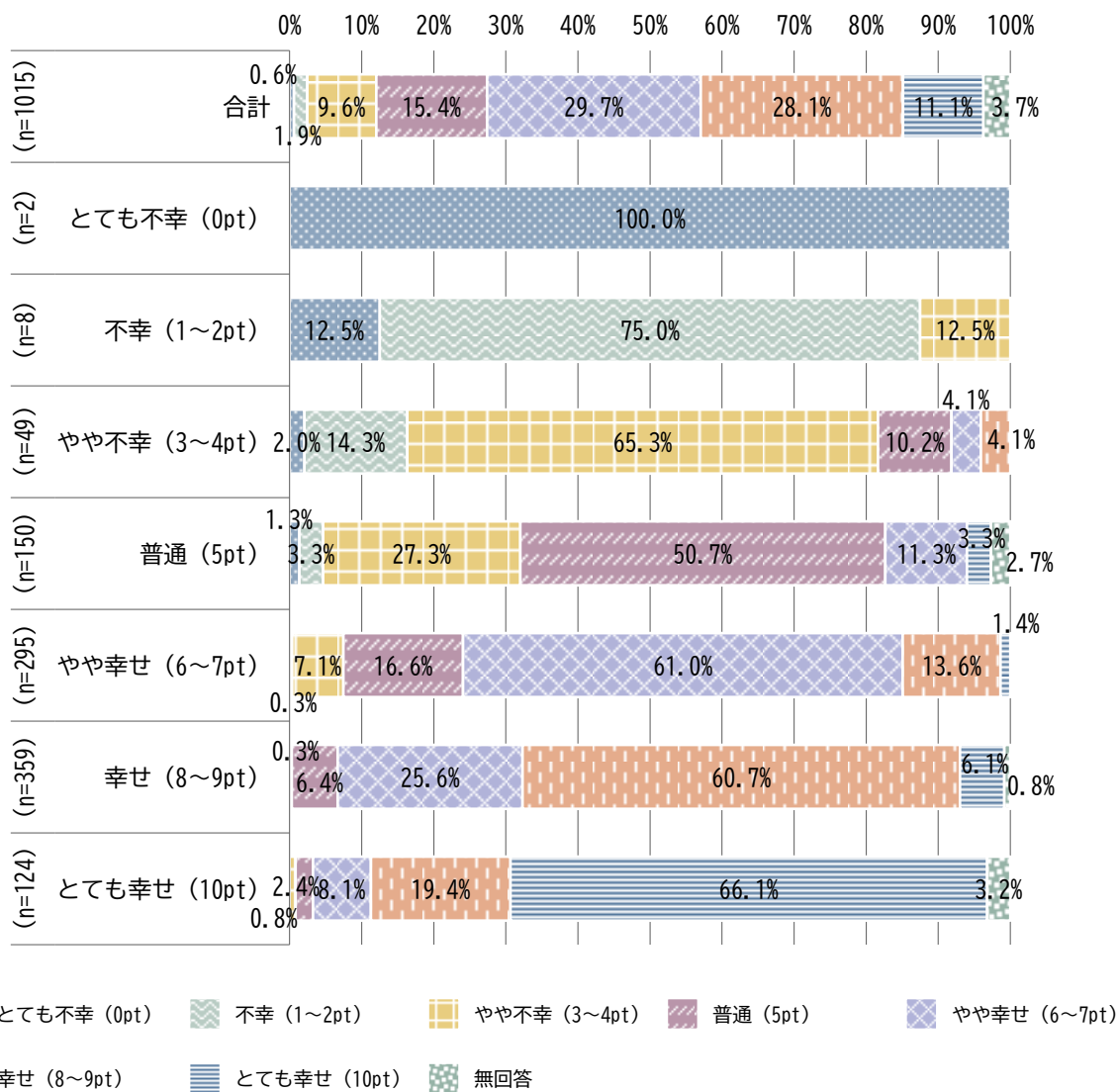
同居家族別にみると、「幸せ（8～9pt）」、「とても幸せ（10pt）」の合計の割合は、自分自身又は配偶者・パートナーの孫で特に低くなっており、自分自身を除く75歳以上の方、自分自身の親でも低くなっている。

図表 1-36 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか（同居家族別）



自身の幸福度別にみると、現在の幸福度が高いほど、5年後の幸福度も高いと考える傾向があることが分かる。

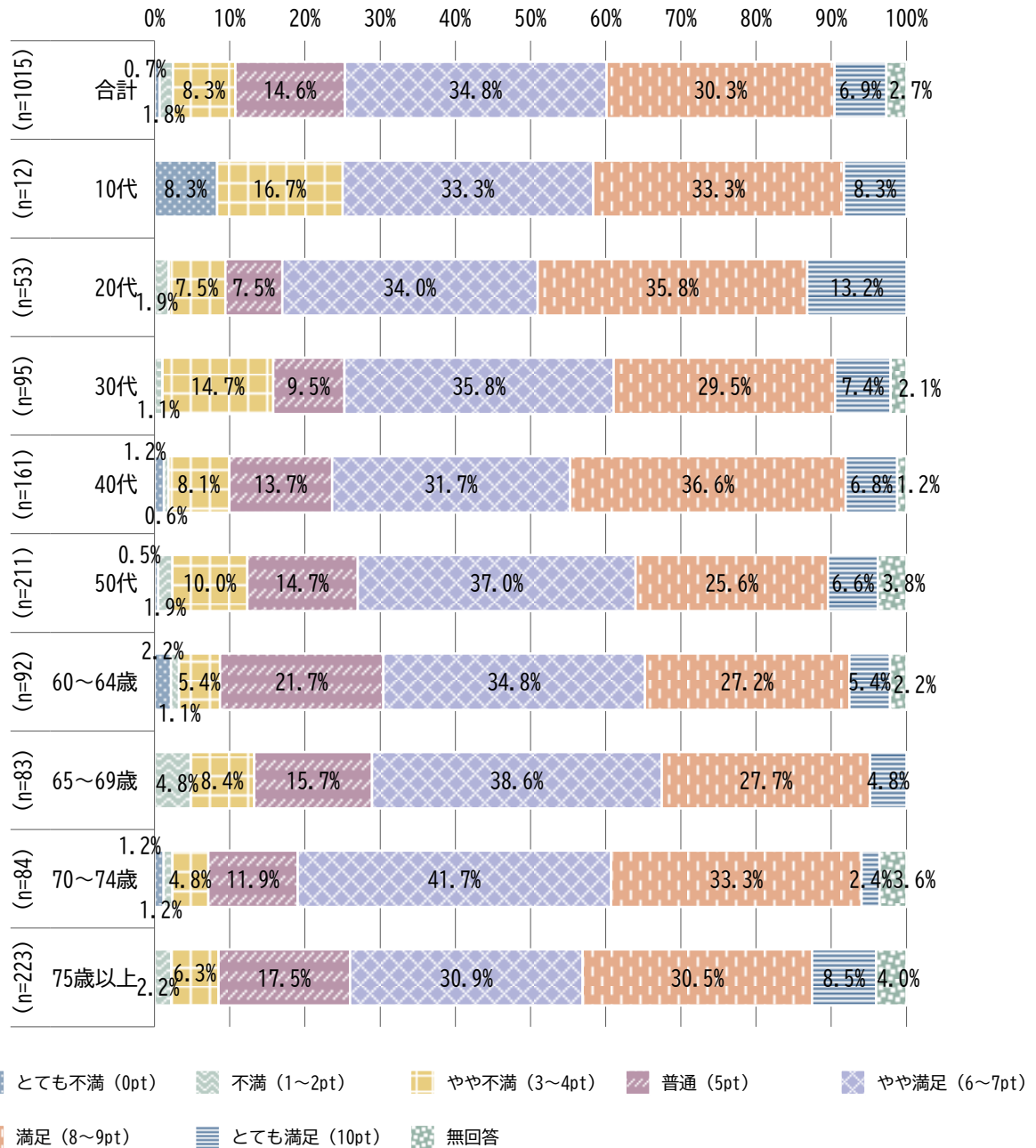
図表 1-37 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか（自身の幸福度別）



④地域への満足度

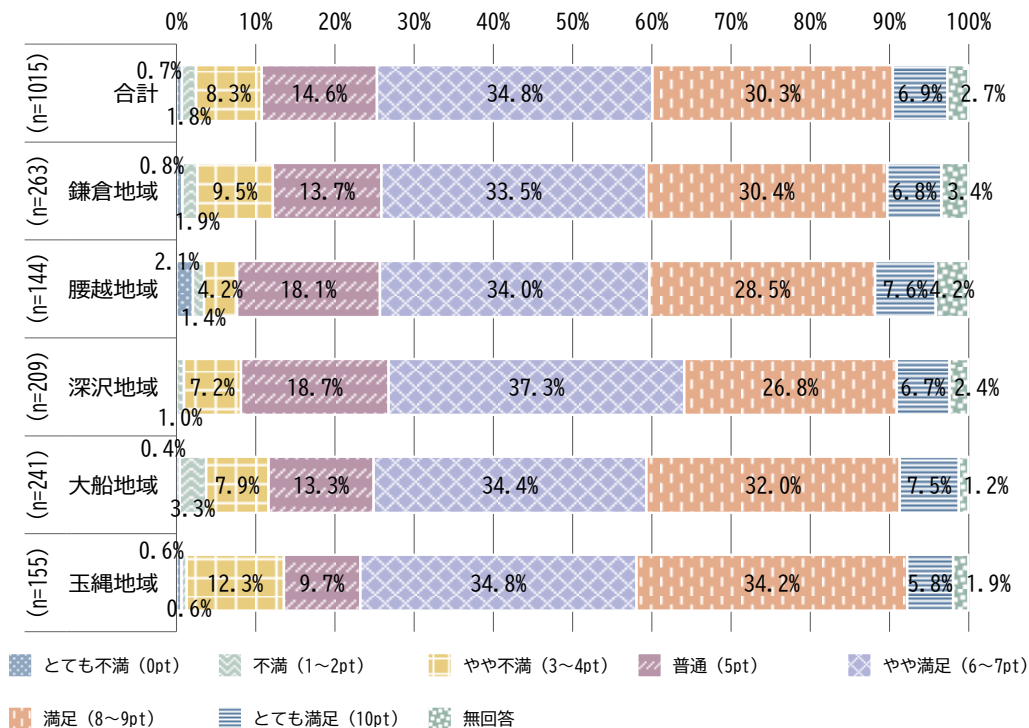
年齢別にみると、「満足（8～9pt）」、「とても満足（10pt）」の合計の割合は10代と20代、40代、75歳以上で高くなっている。

図表 1-38 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしに、どの程度満足していますか（年齢別）



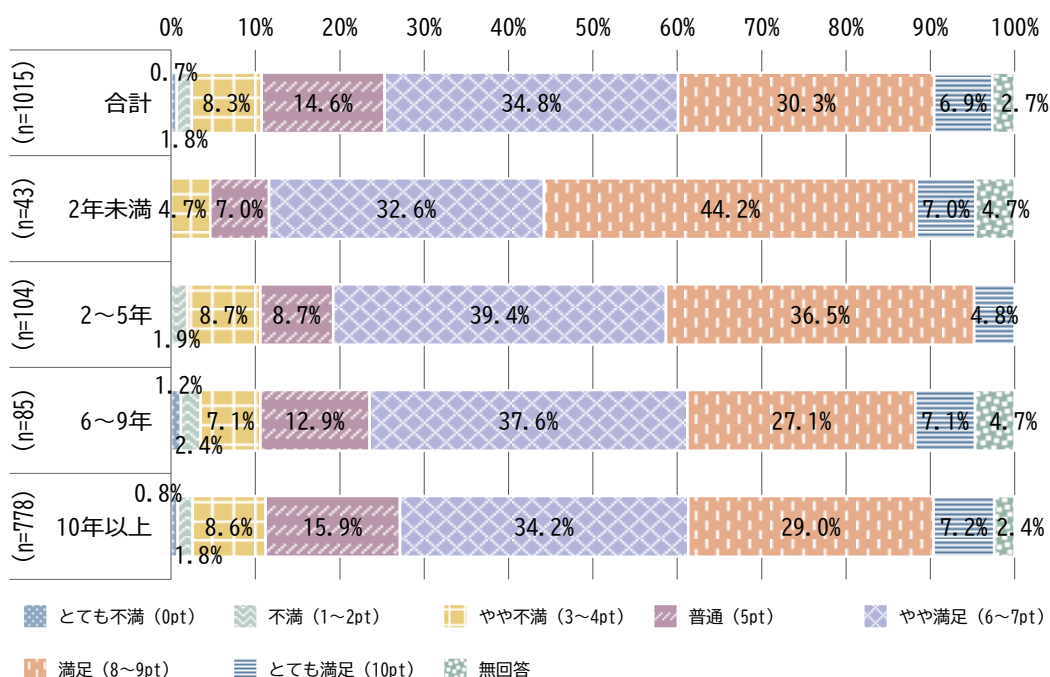
居住地域別にみると、「満足（8～9pt）」、「とても満足（10pt）」の合計の割合は深沢地域でやや低くなっている。

図表 1-39 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしに、どの程度満足していますか（居住地域別）



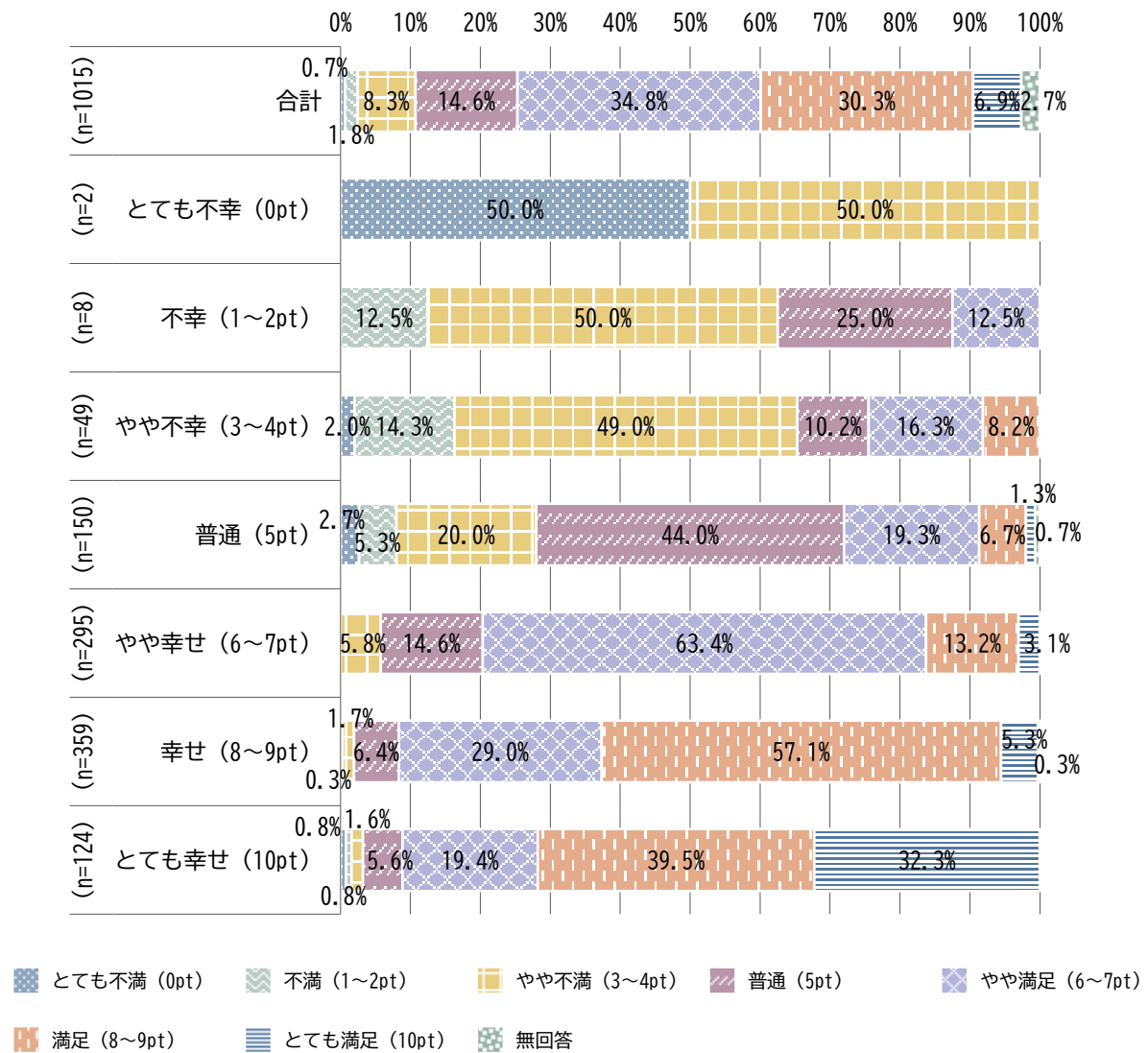
居住年数別でみると、「満足（8～9pt）」、「とても満足（10pt）」の合計の割合は居住年数2年未満で特に高くなっている。

図表 1-40 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしに、どの程度満足していますか（居住年数別）



自身の幸福度別にみると、現在の幸福度が高いほど、地域への満足度も高くなる傾向があることが分かる。

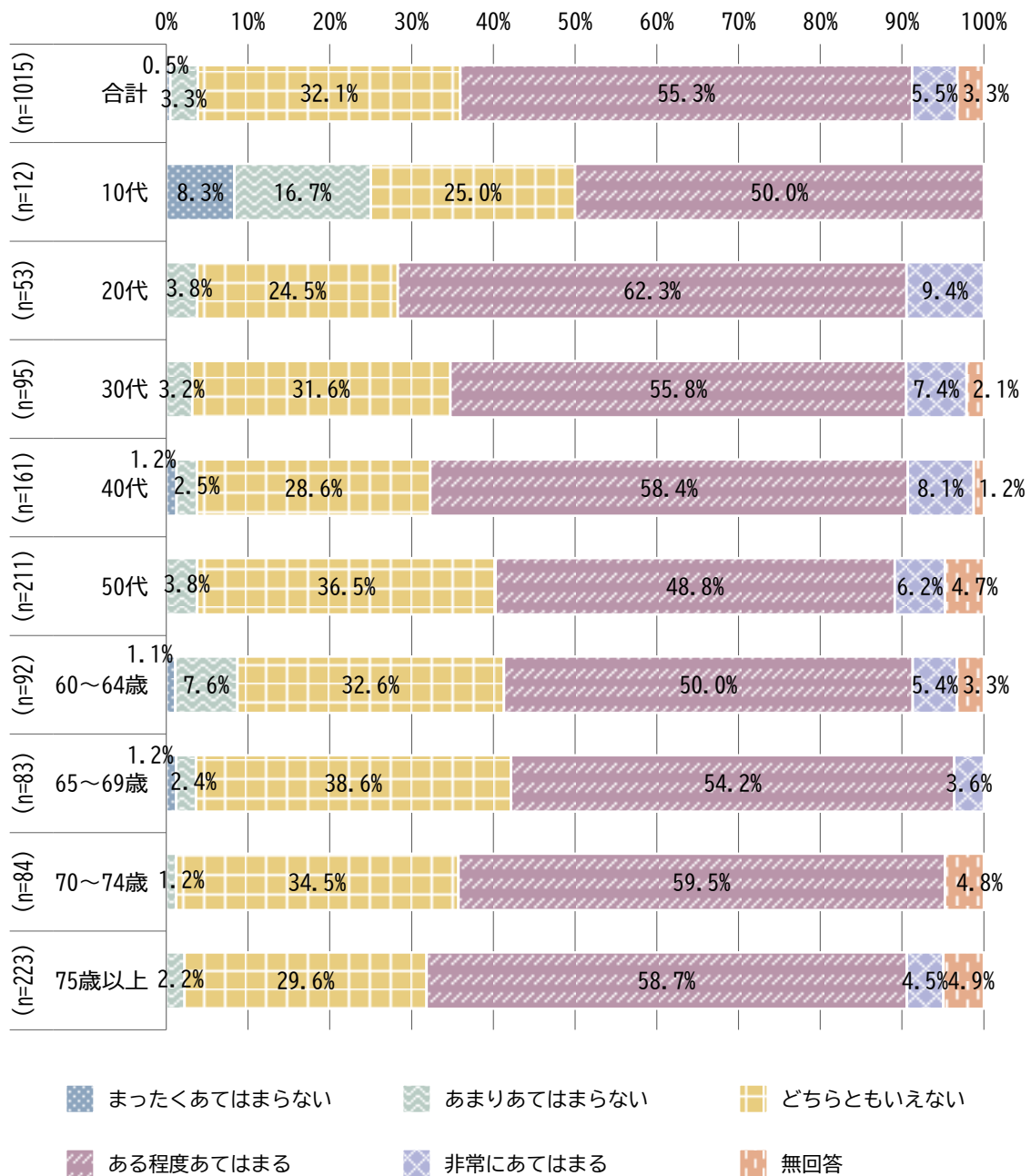
図表 1-41 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしに、どの程度満足していますか（自身の幸福度別）



⑤他人の気持ちに関する認識

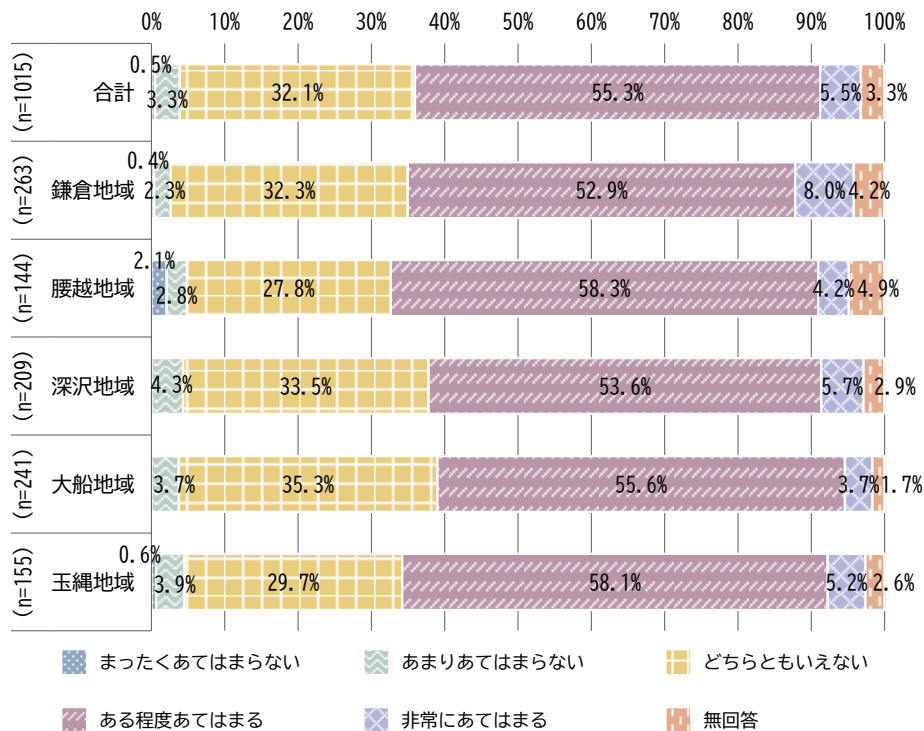
年齢別にみると、「非常に当てはまる」、「ある程度当てはまる」の合計の割合は20～40代と70代以上でやや高くなっている。

図表 1-42 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思いますか（年齢別）



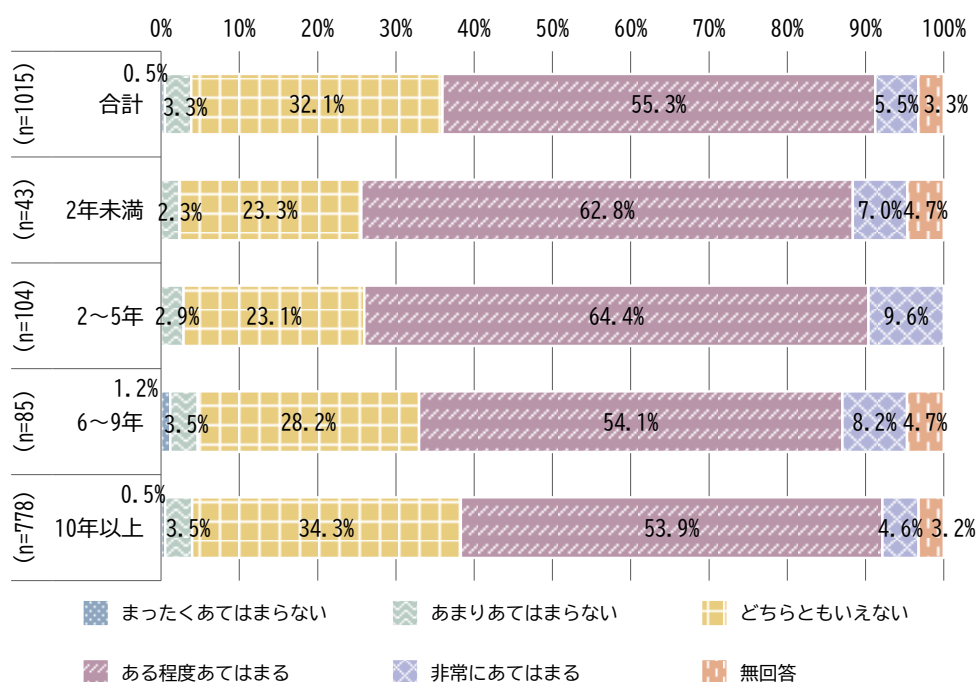
居住地域別にみると、「非常に当てはまる」、「ある程度当てはまる」の合計の割合は腰越地域と玉縄地域でやや高くなっている。

図表 1-43 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちだと思いますか（居住地域別）



居住年数別にみると、「非常に当てはまる」、「ある程度当てはまる」の合計の割合は居住年数2年未満と2～5年で高くなっており、居住年数が長くなるほど割合は低くなっている。

図表 1-44 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちだと思いますか（居住年数別）



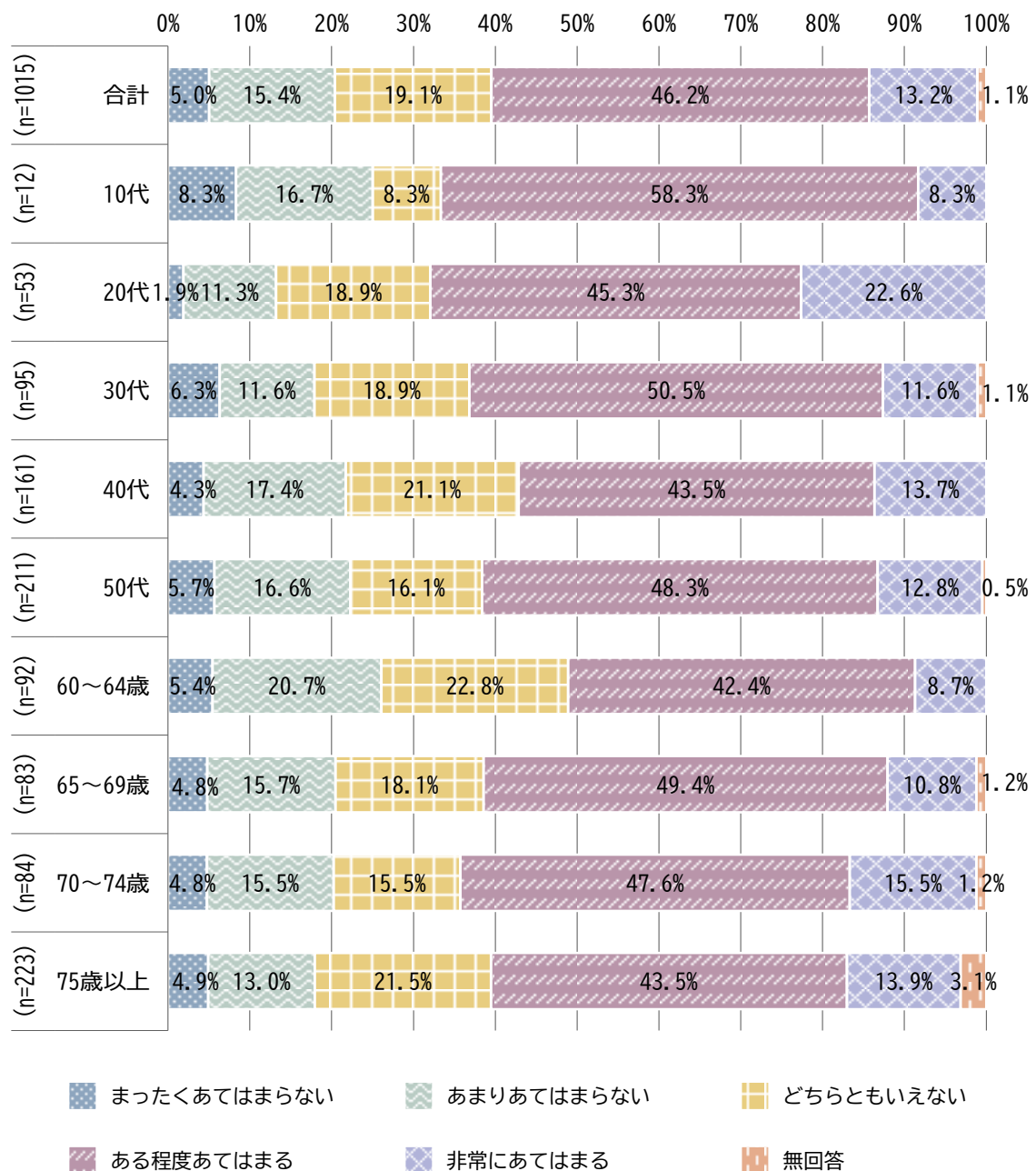
(2) 医療・福祉、子育て等に関する指標

①医療・福祉

Q4-1 医療機関が充実している

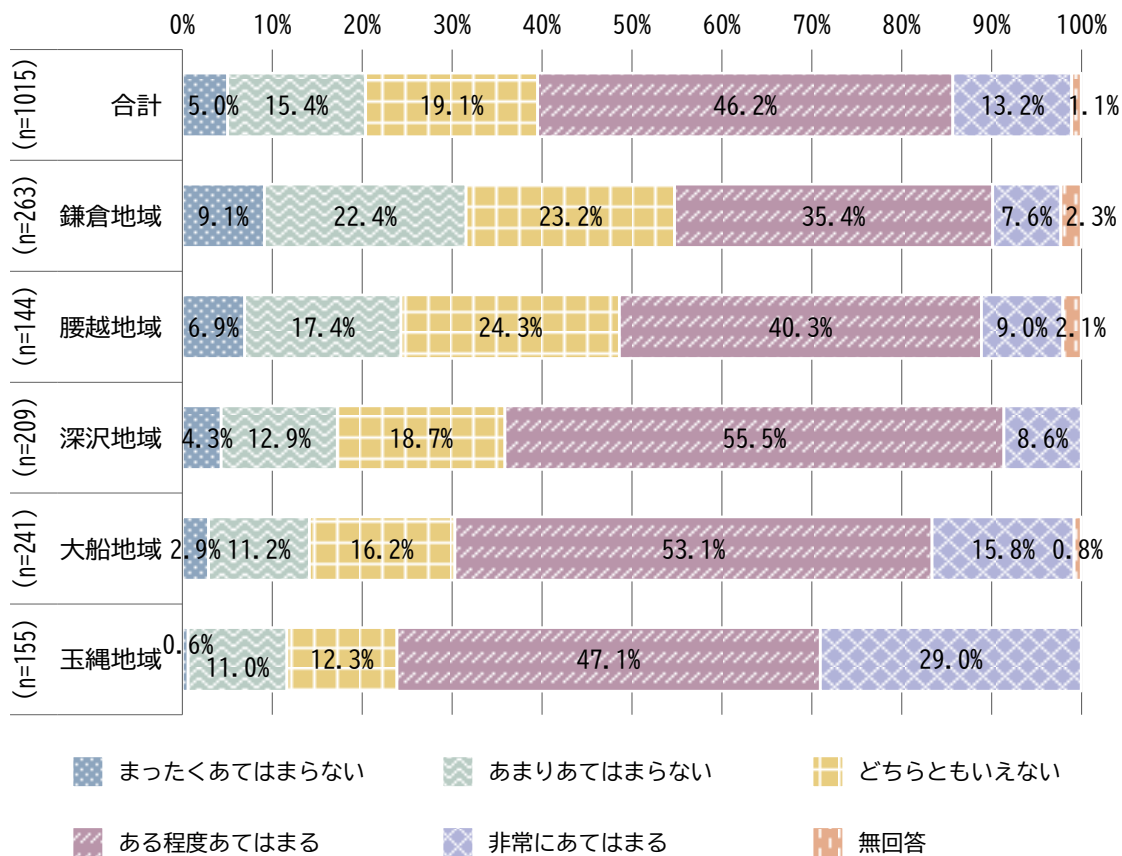
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は、20代でやや高くなっており、60～64歳で低くなっている。

図表 1-45 医療機関が充実している（年齢別）



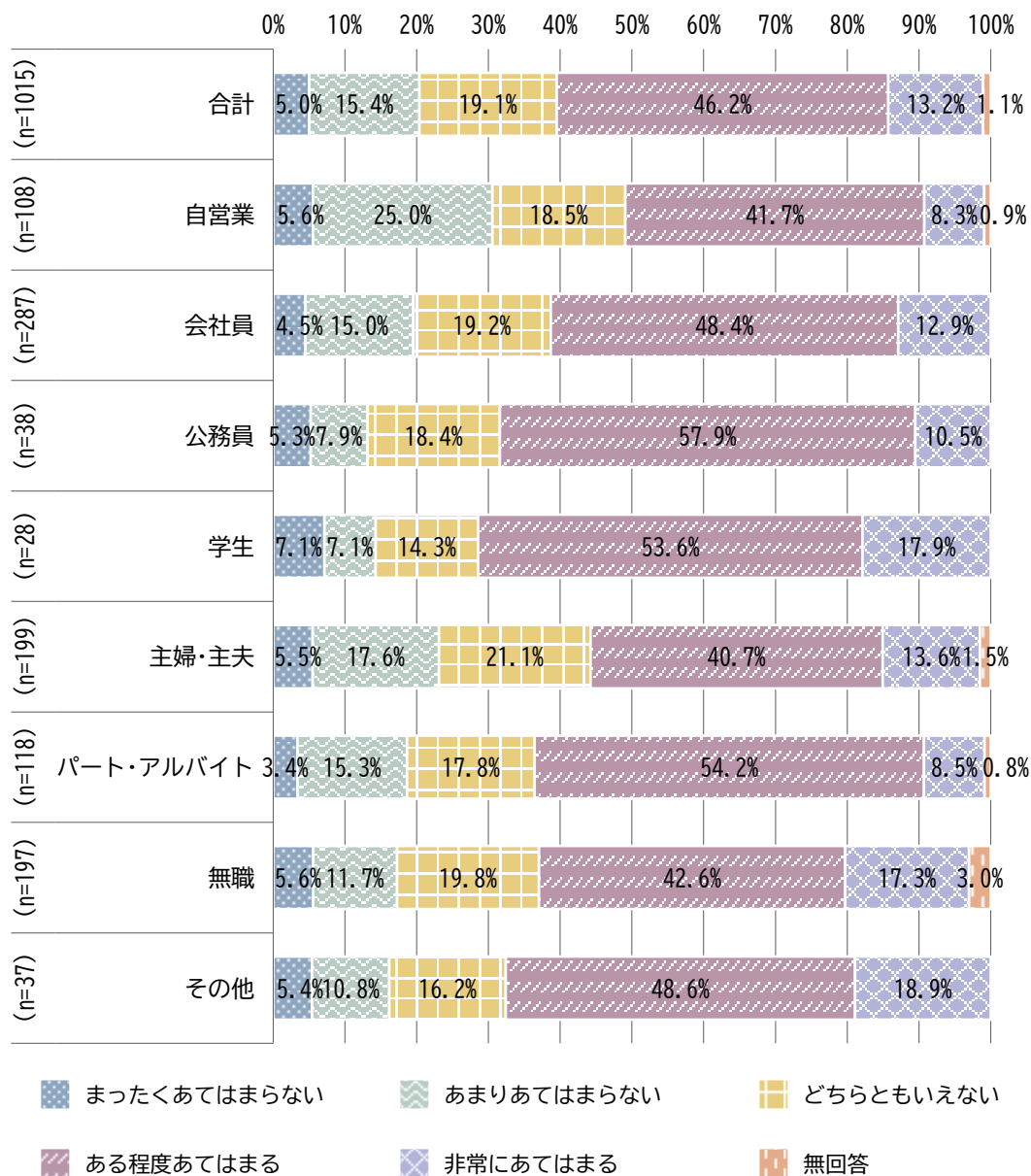
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は玉縄地域で最も高く、次いで大船地域、深沢地域となっている。

図表 1-46 医療機関が充実している（居住地域別）



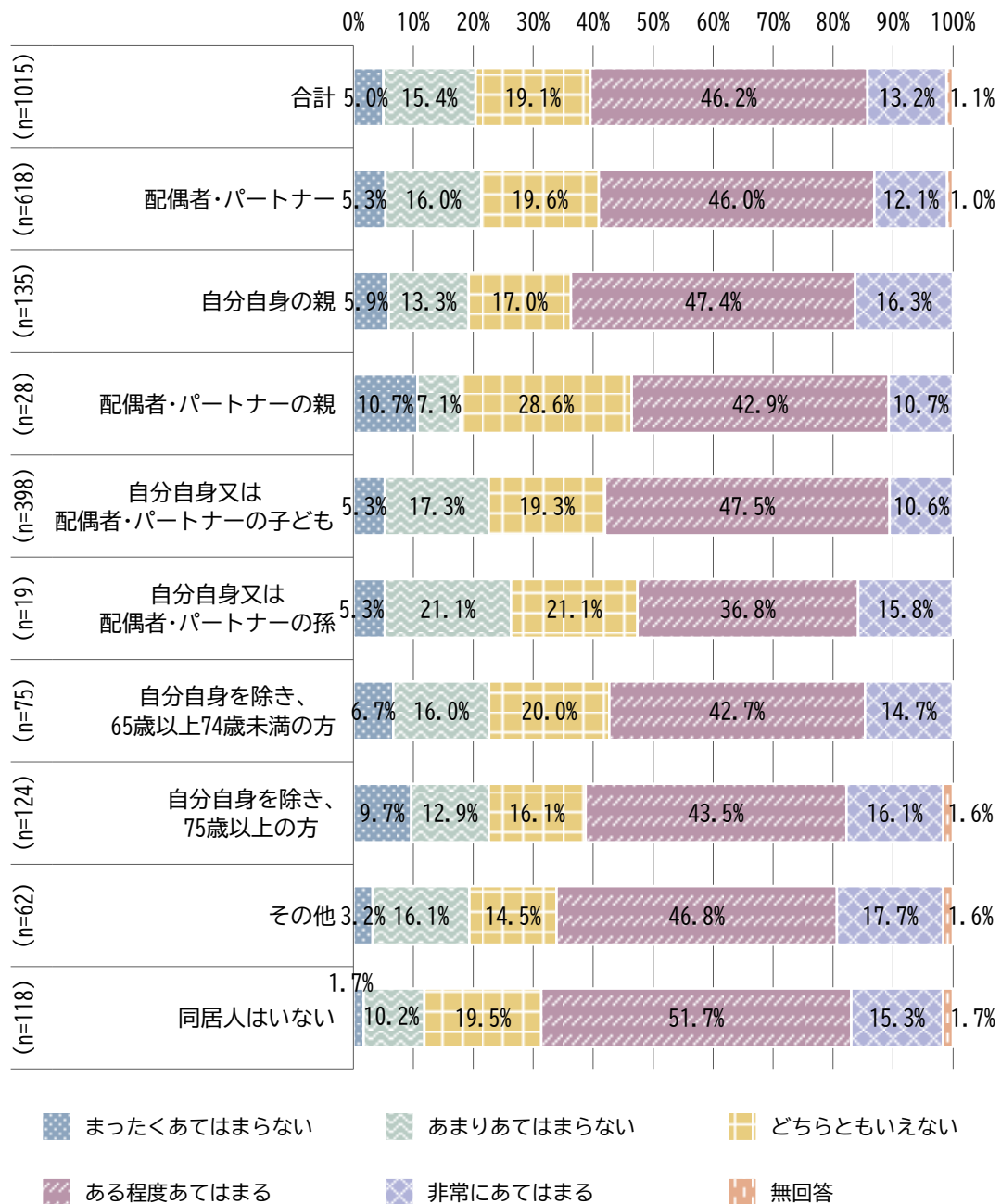
職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は学生で最も高く、次いで公務員となっており、自営業や主婦・主婦では低くなっている。

図表 1-47 医療機関が充実している（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の割合は自分自身の親と同居されている方、同居人がいない方でやや高くなっている。

図表 1-48 医療機関が充実している（同居家族別）

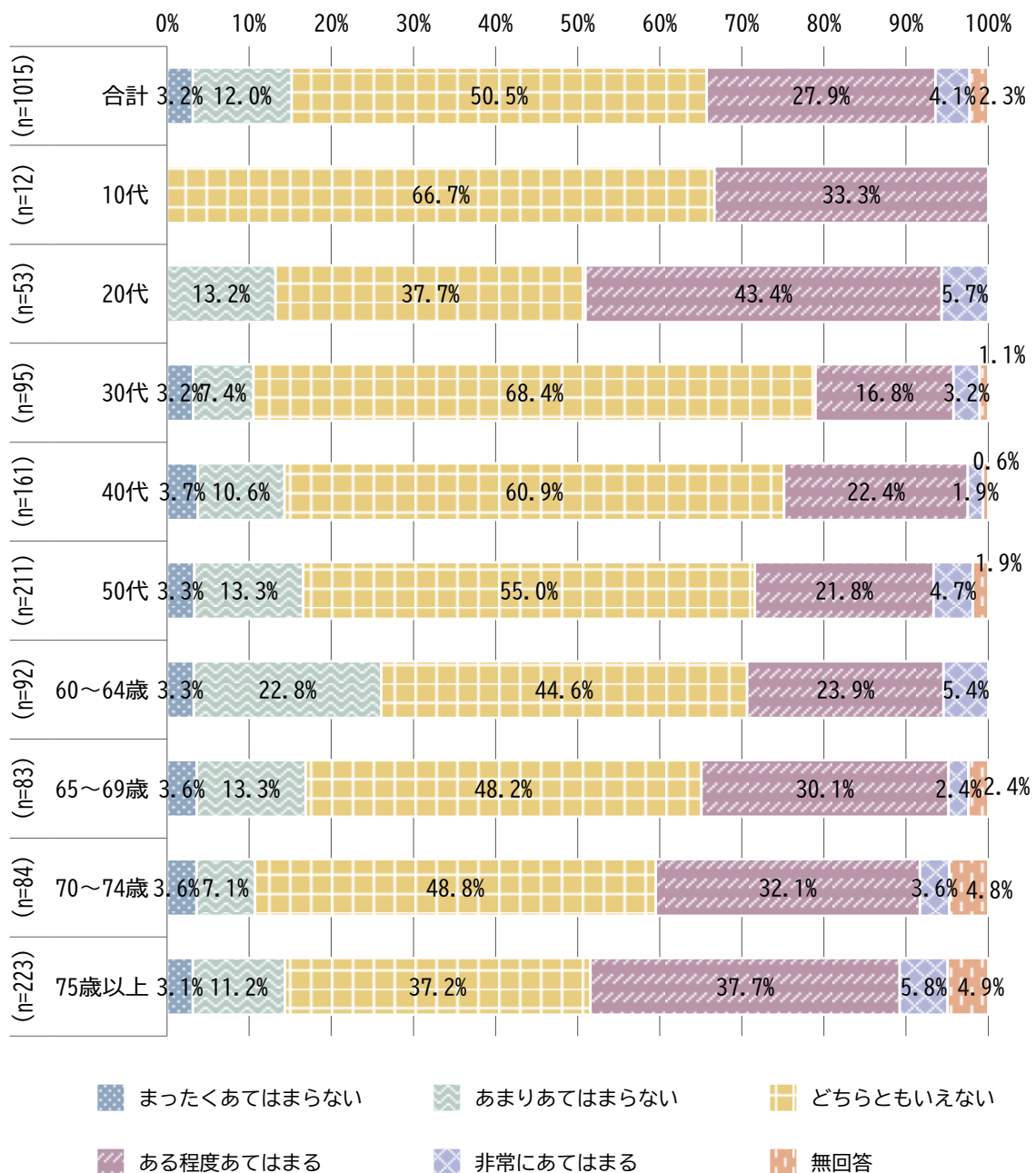


Q4-2 介護・福祉施設のサービスが受けやすい

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で最も高くなっており、30代で最も低くなっている。30代以降は、年代が上がるにしたがって高くなっていく。

一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合では、60～64歳が最も高くなっている。

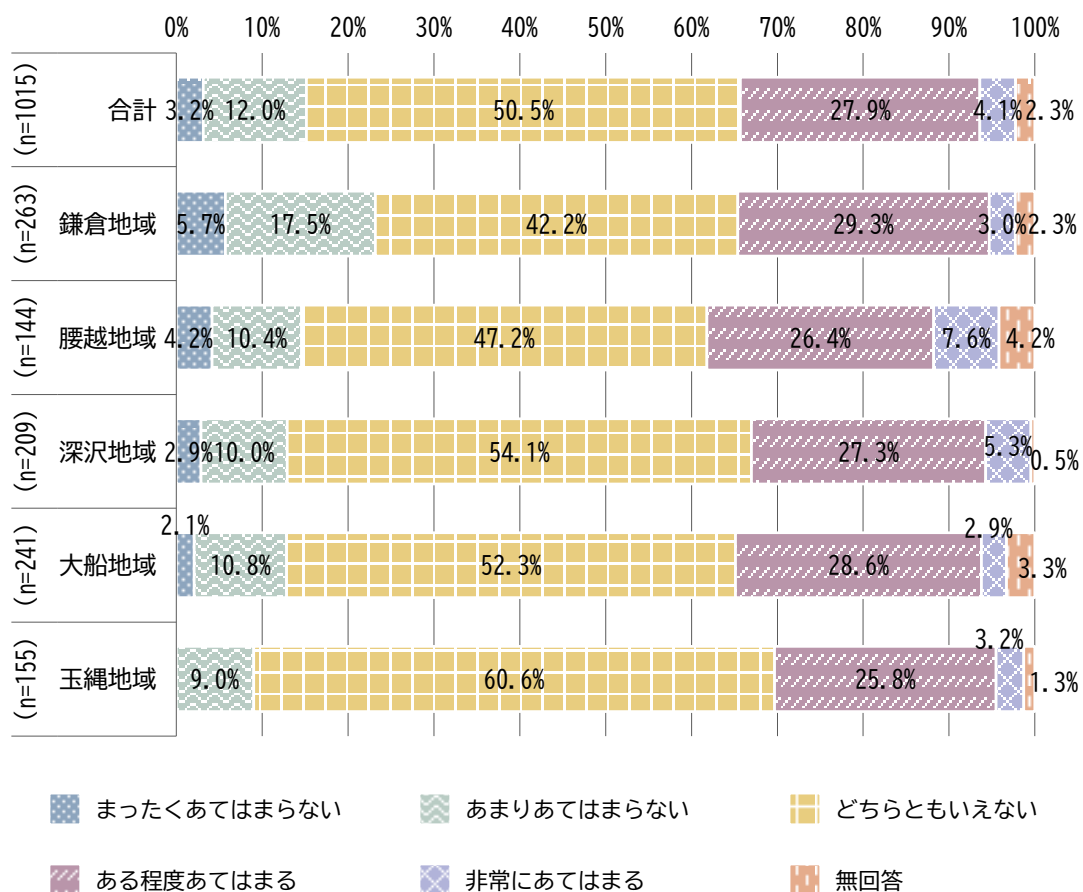
図表 1-49 介護・福祉施設のサービスが受けやすい（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域でやや高くなっている。

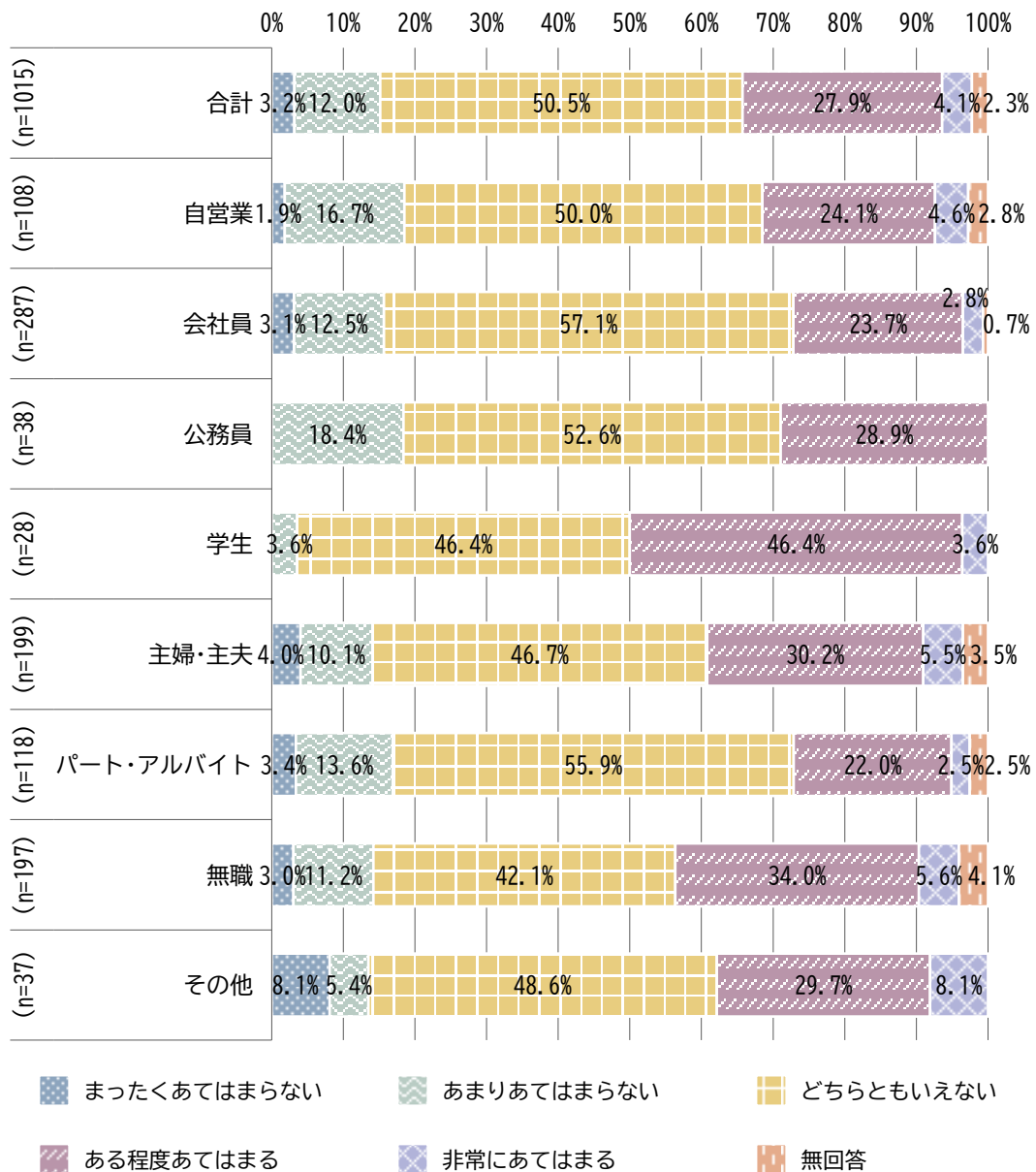
一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合では鎌倉地域が最も高くなっている。

図表 1-50 介護・福祉施設のサービスが受けやすい（居住地域別）



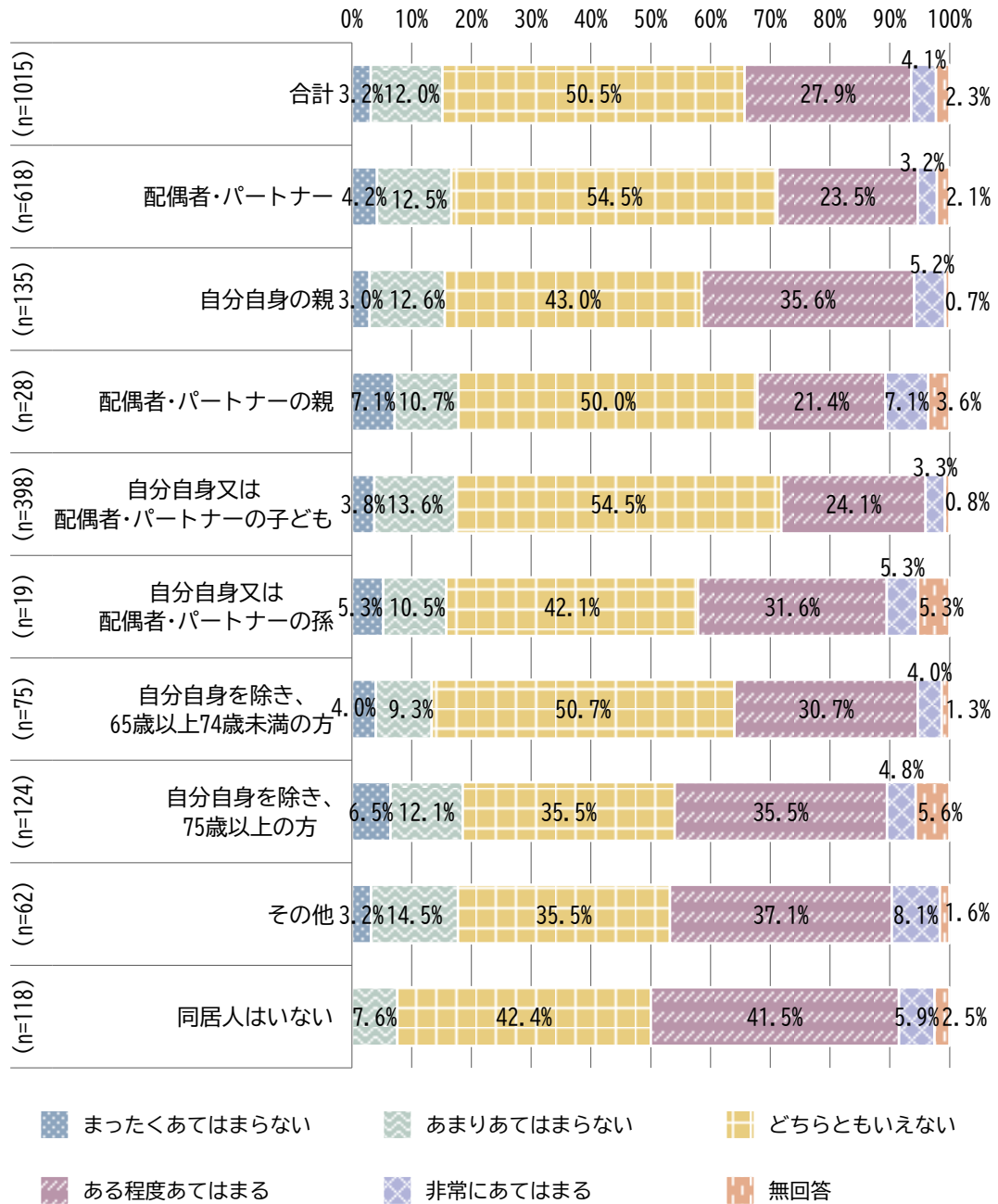
職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は学生や主婦・主夫、無職で高くなっており、会社員、パート・アルバイトで低くなっている。

図表 1-51 介護・福祉施設のサービスが受けやすい（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身の親と同居している方や、同居人はいない方でやや高くなっている。

図表 1-52 介護・福祉施設のサービスが受けやすい（同居家族別）

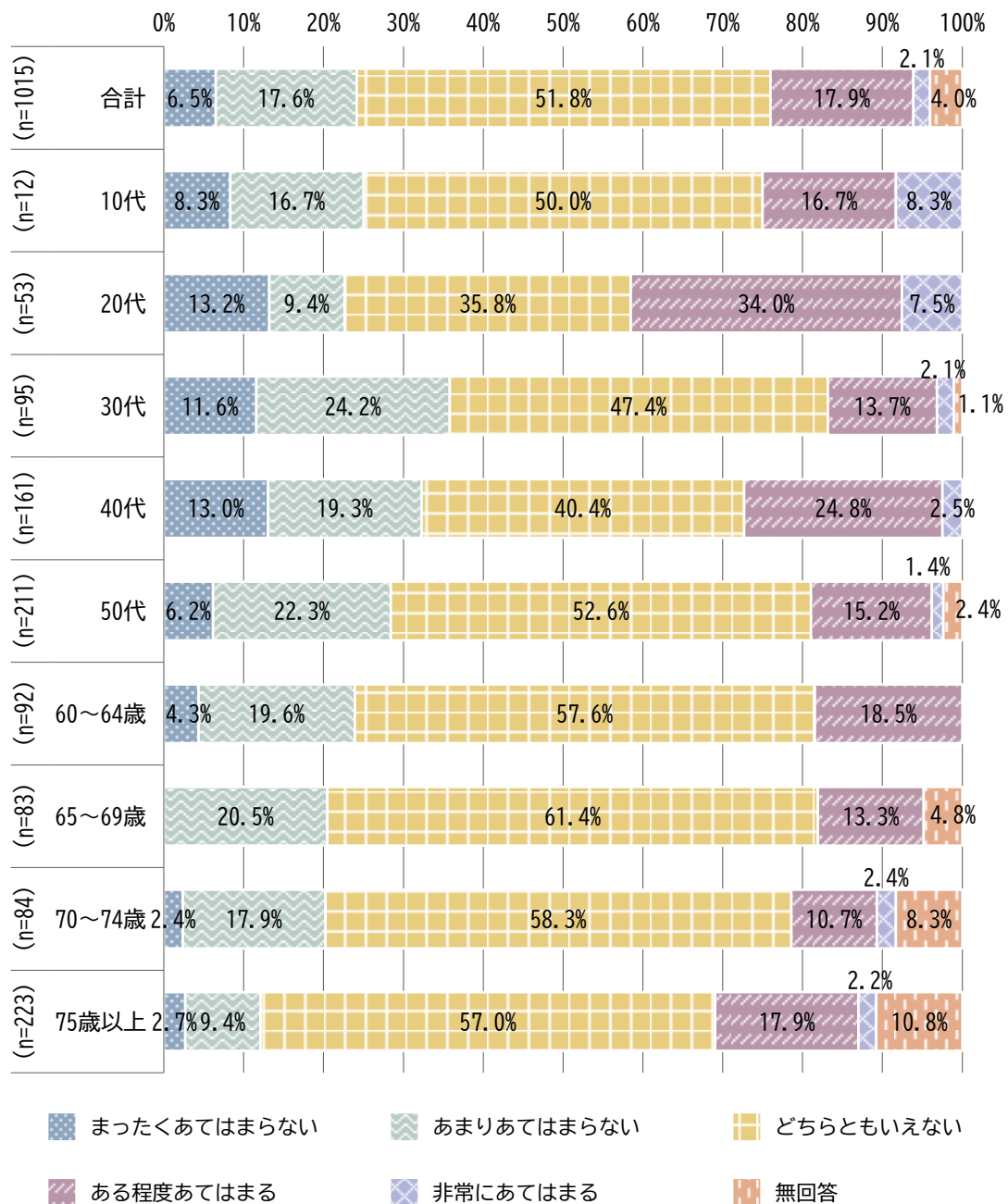


②子育て

Q4-3 子育て支援・補助が手厚い

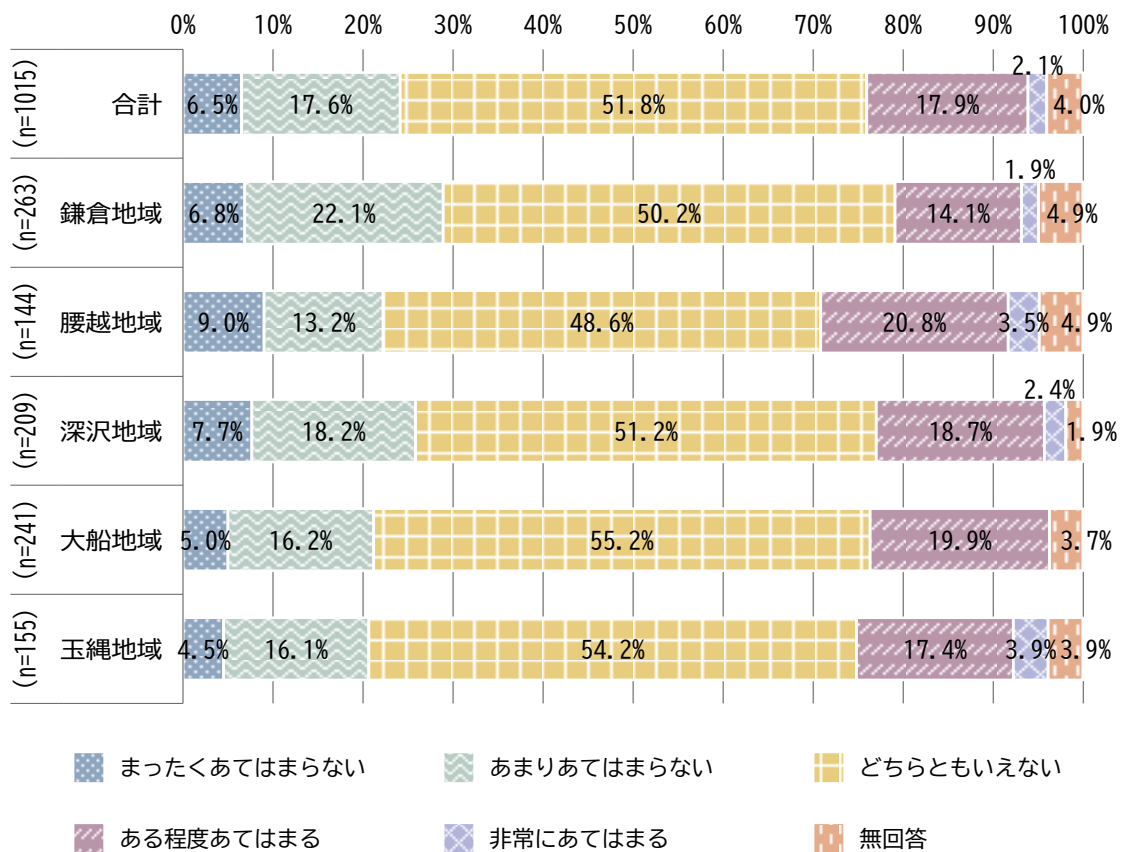
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で最も高く、次いで40代となっており、30代ではやや低くなっている。

図表 1-53 子育て支援・補助が手厚い（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域でやや高くなっている。

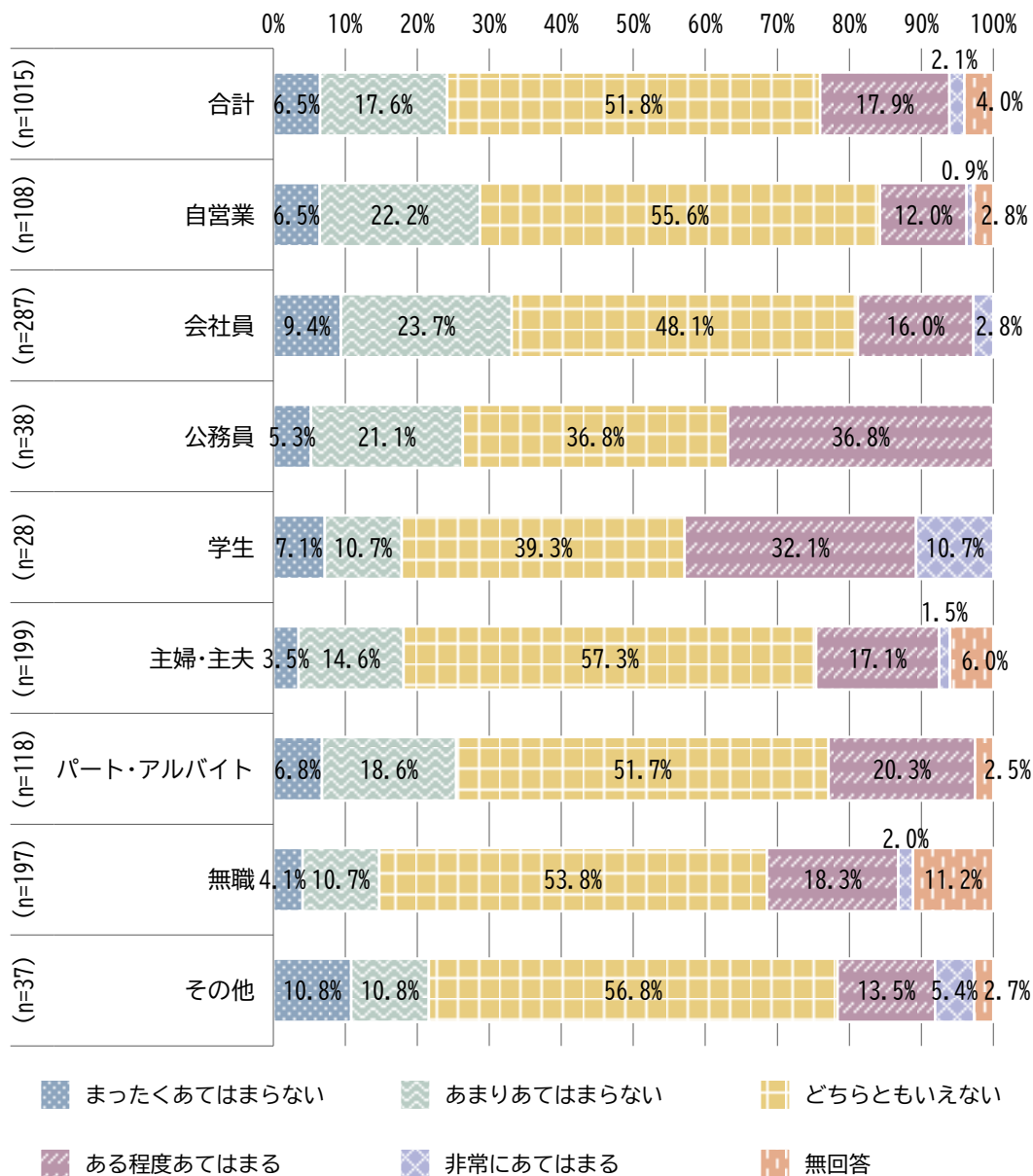
図表 1-54 子育て支援・補助が手厚い（居住地域別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は公務員と学生で高くなっており、自営業で低くなっている。

一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合は会社員で高くなっている。

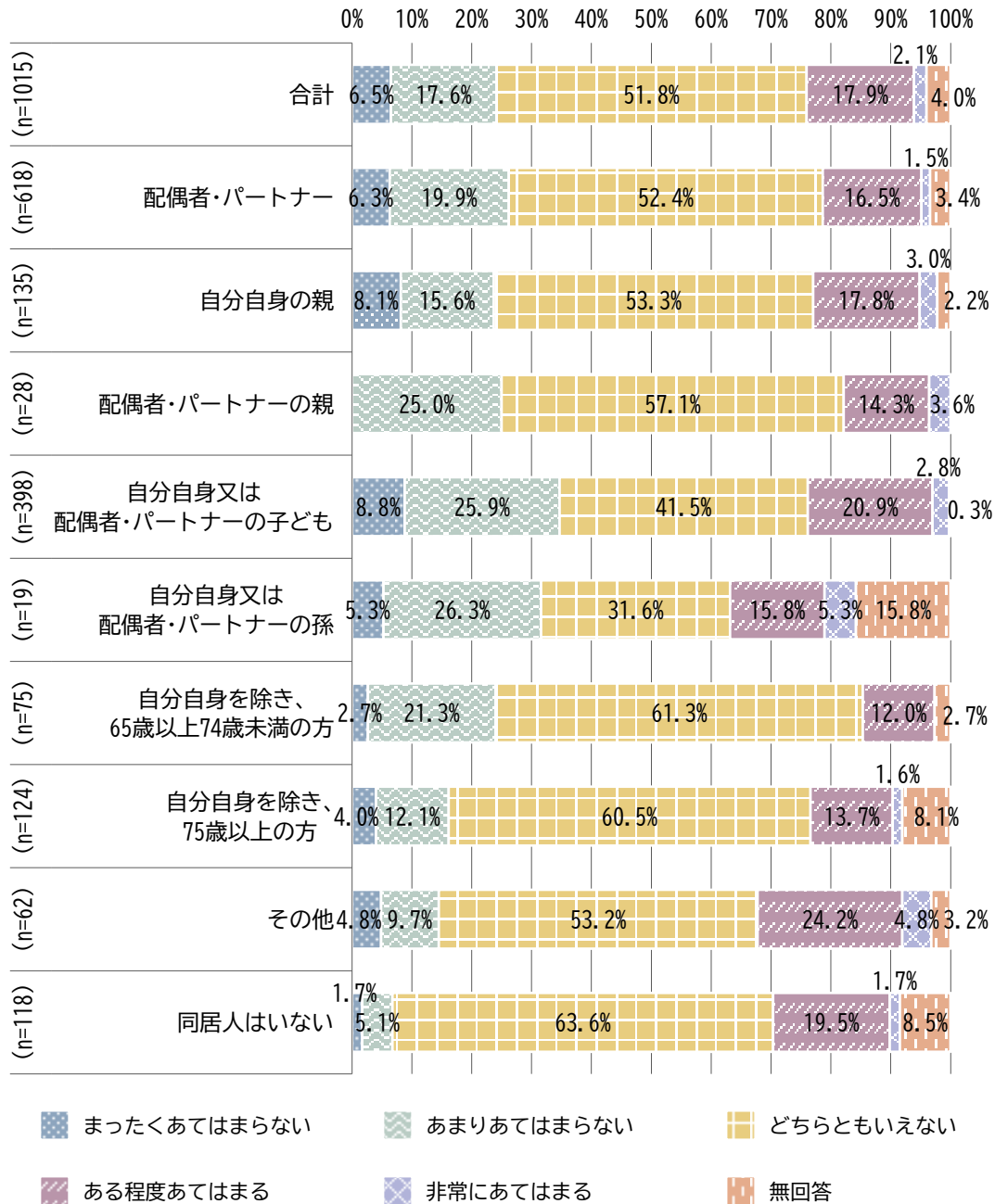
図表 1-55 子育て支援・補助が手厚い（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身又は配偶者・パートナーの子どもと同居している方でやや高くなっている。

一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合でも、自分自身又は配偶者・パートナーの子どもと同居している方で最も高くなっている。

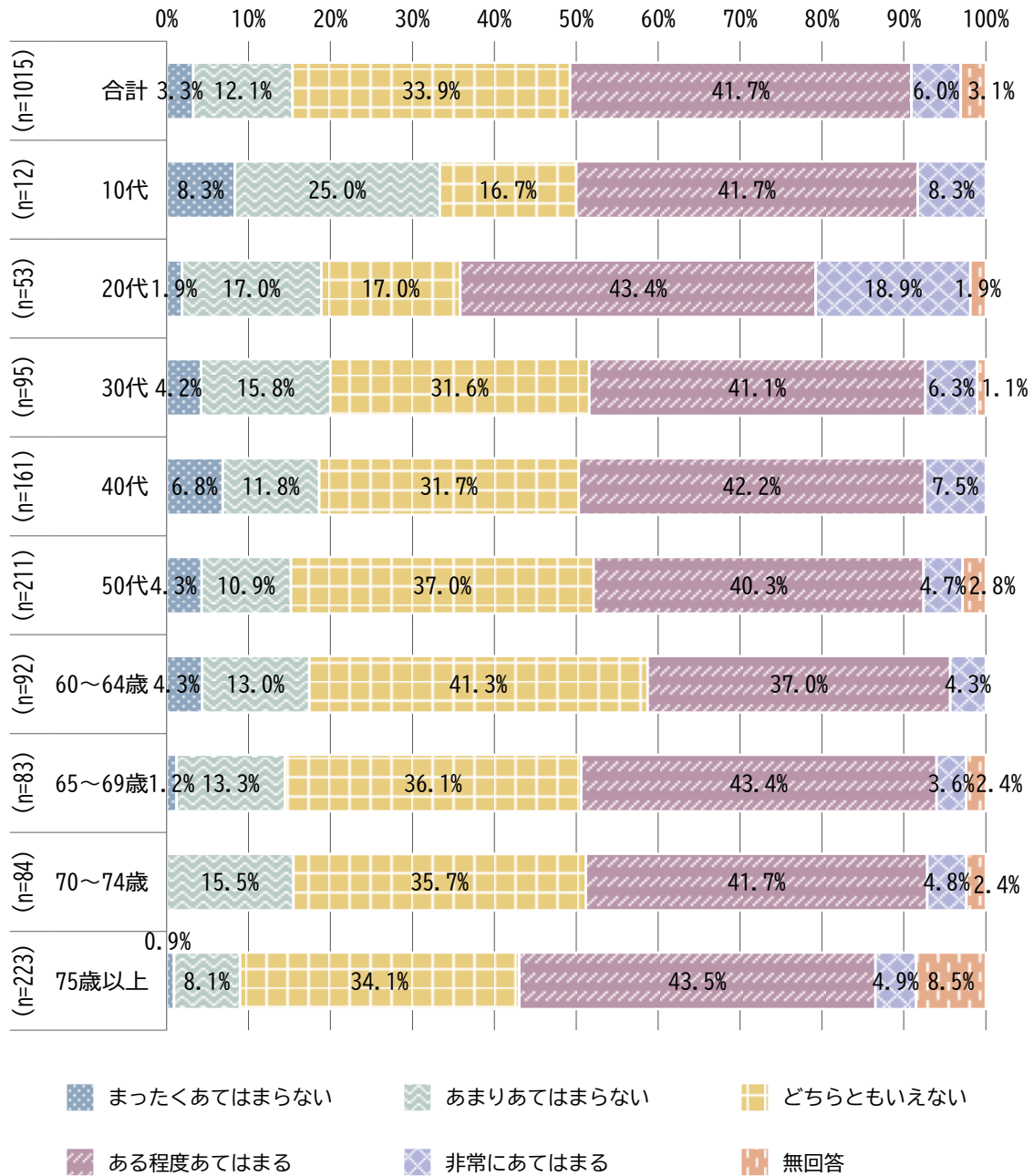
図表 1-56 子育て支援・補助が手厚い（同居家族別）



Q4-4 子どもたちがいきいきと暮らせる

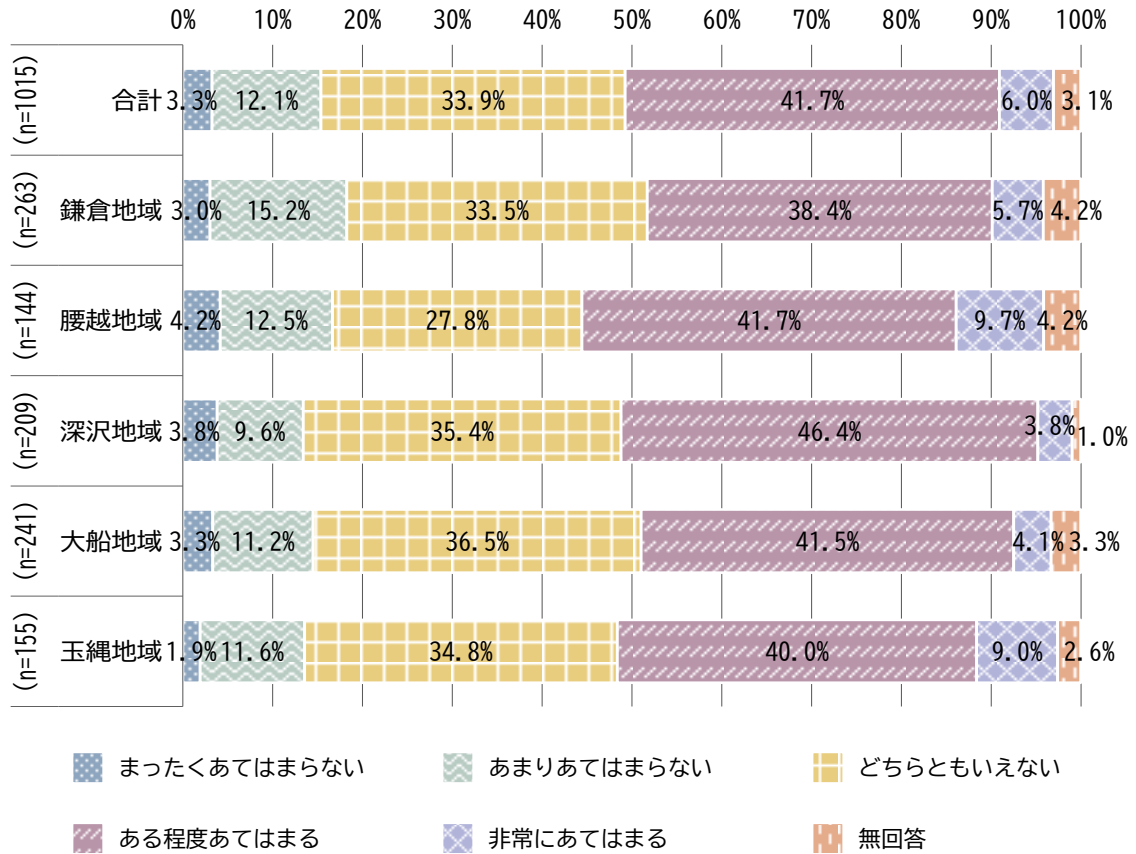
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の割合は20代で特に高くなっている。

図表 1-57 子どもたちがいきいきと暮らせる（年齢別）



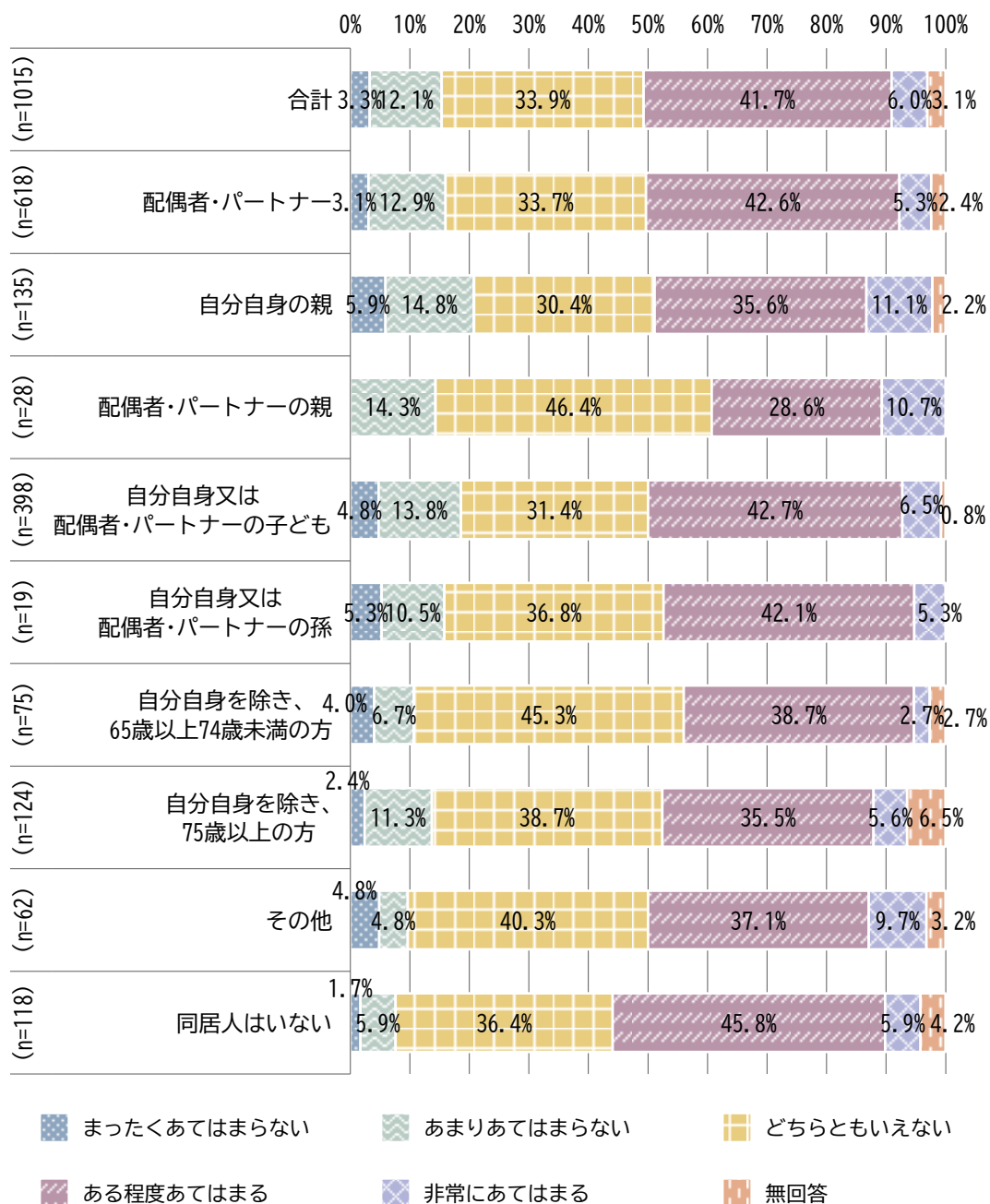
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域でやや高くなっている。

図表 1-58 子どもたちがいきいきと暮らせる（居住地域別）



同居家族別にみると、自分自身の親、自分自身又は配偶者・パートナーの子どもと同居しているケースでは、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の回答の割合が比較的高くなっている。

図表 1-59 子どもたちがいきいきと暮らせる（同居家族別）

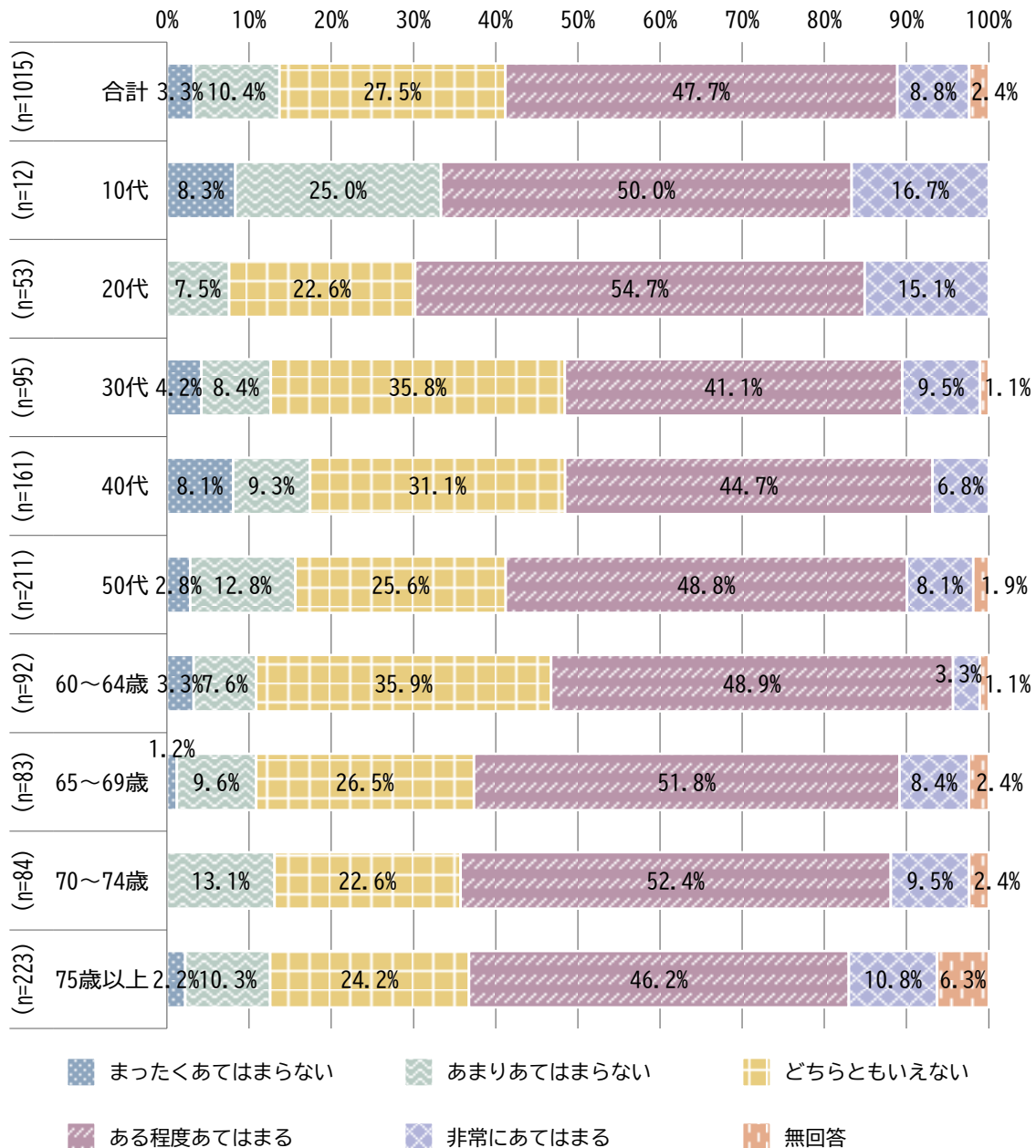


③初等・中等教育

Q4-5 教育環境(小中高校)が整っている

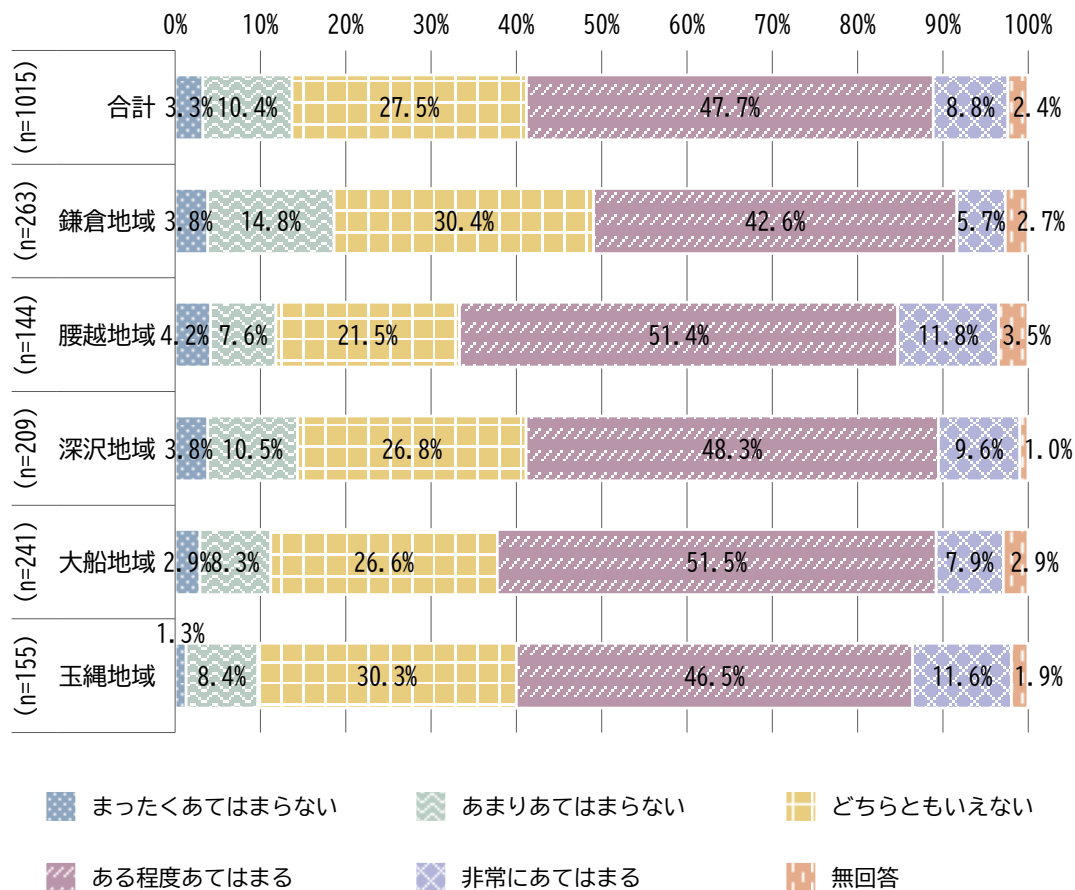
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代、20代で高くなっている一方、30代、40代ではやや低くなっている。

図表 1-60 教育環境(小中高校)が整っている(年齢別)



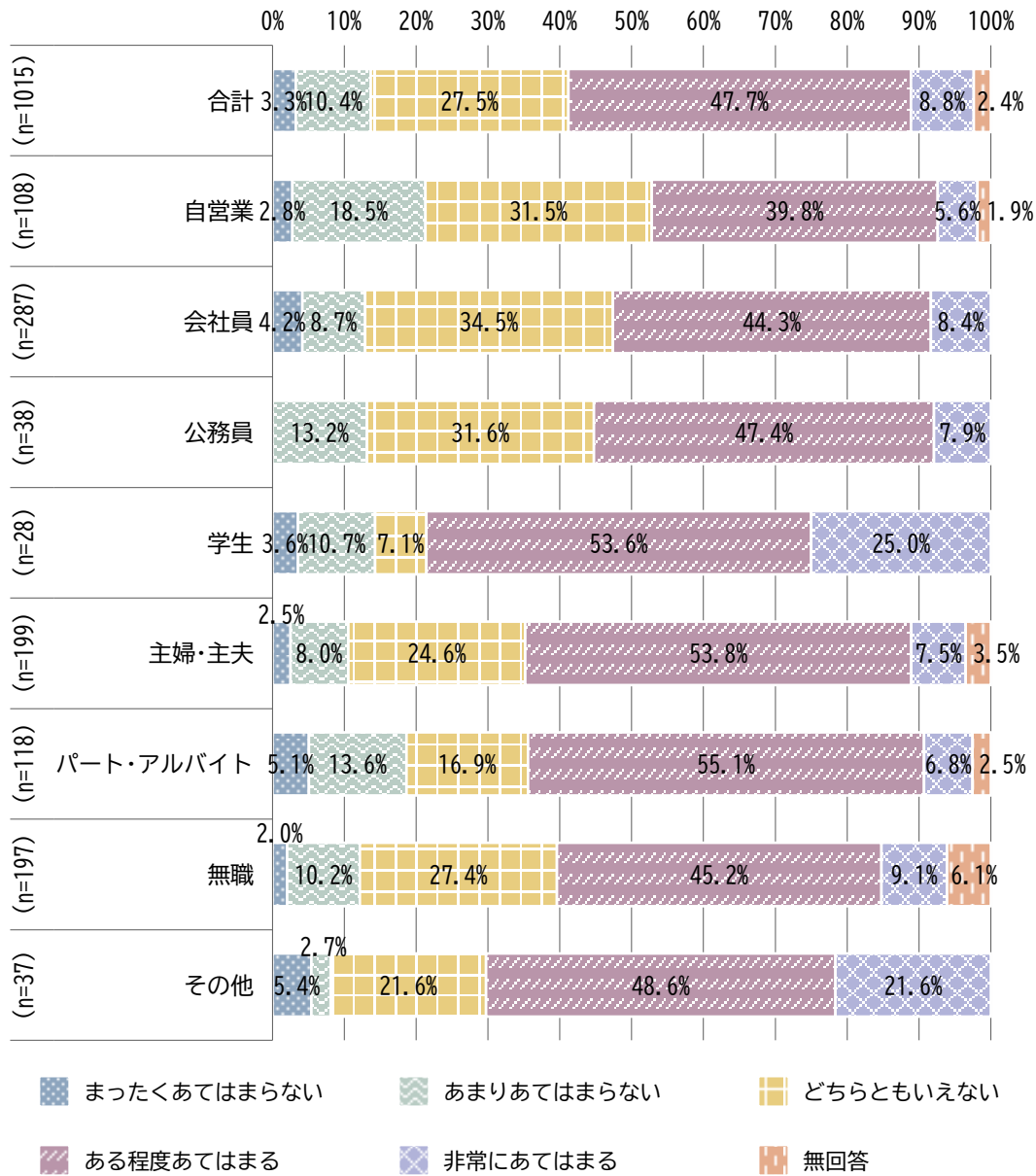
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域で高くなっており、鎌倉地域では低くなっている。

図表 1-61 教育環境（小中高校）が整っている（居住地域別）



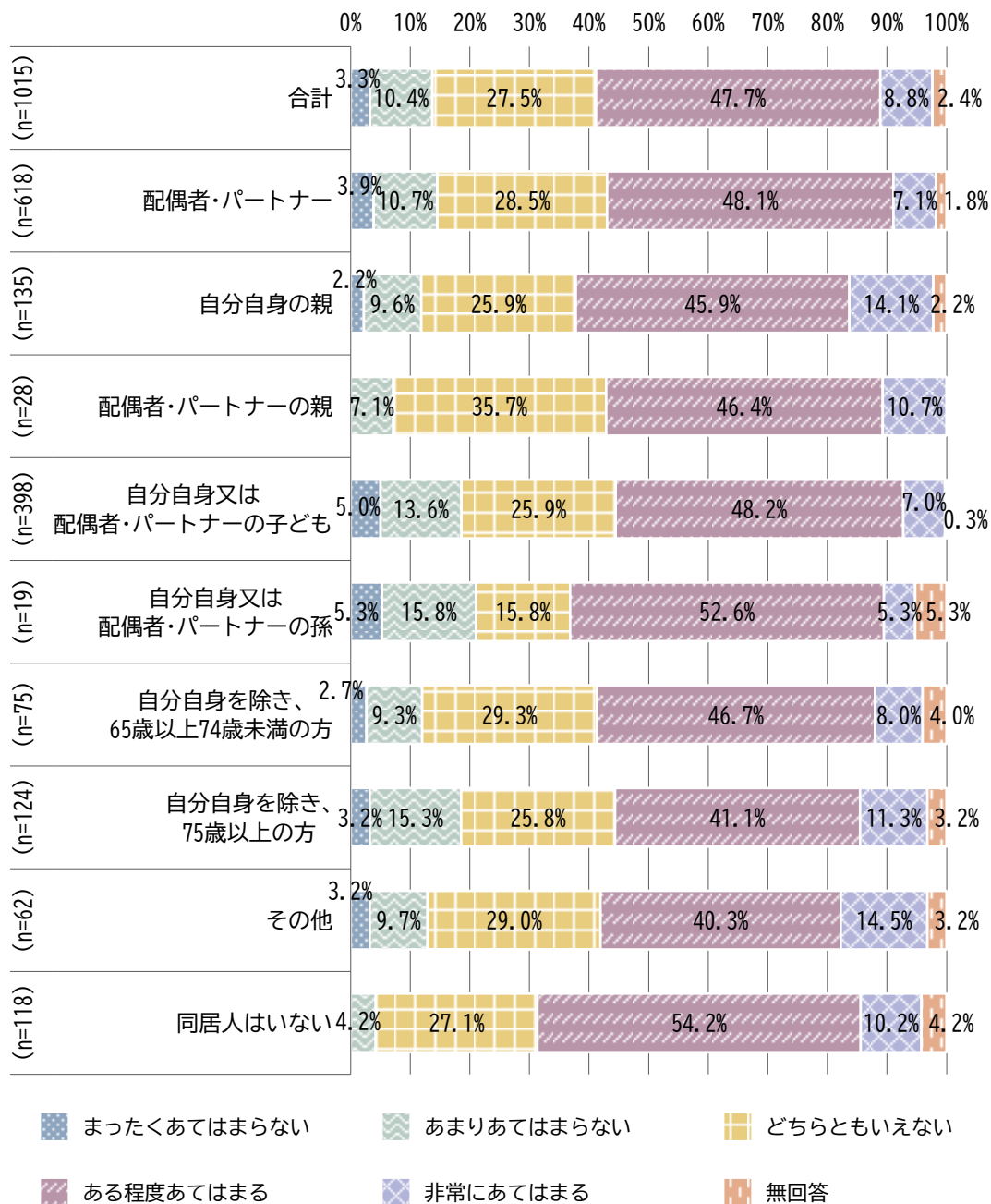
職業別にみると、「非常にあてはまる」、「ある程度あてはまる」の合計の割合は自営業で最も低く、ついで会社員、公務員でもやや低くなっている。

図表 1-62 教育環境（小中高校）が整っている（職業別）



同居家族別にみると、自分自身又は配偶者・パートナーの子ども、および孫と同居しているケースでは、「まったくあてはまらない」、「あてはまらない」の回答の割合がやや高くなっている。

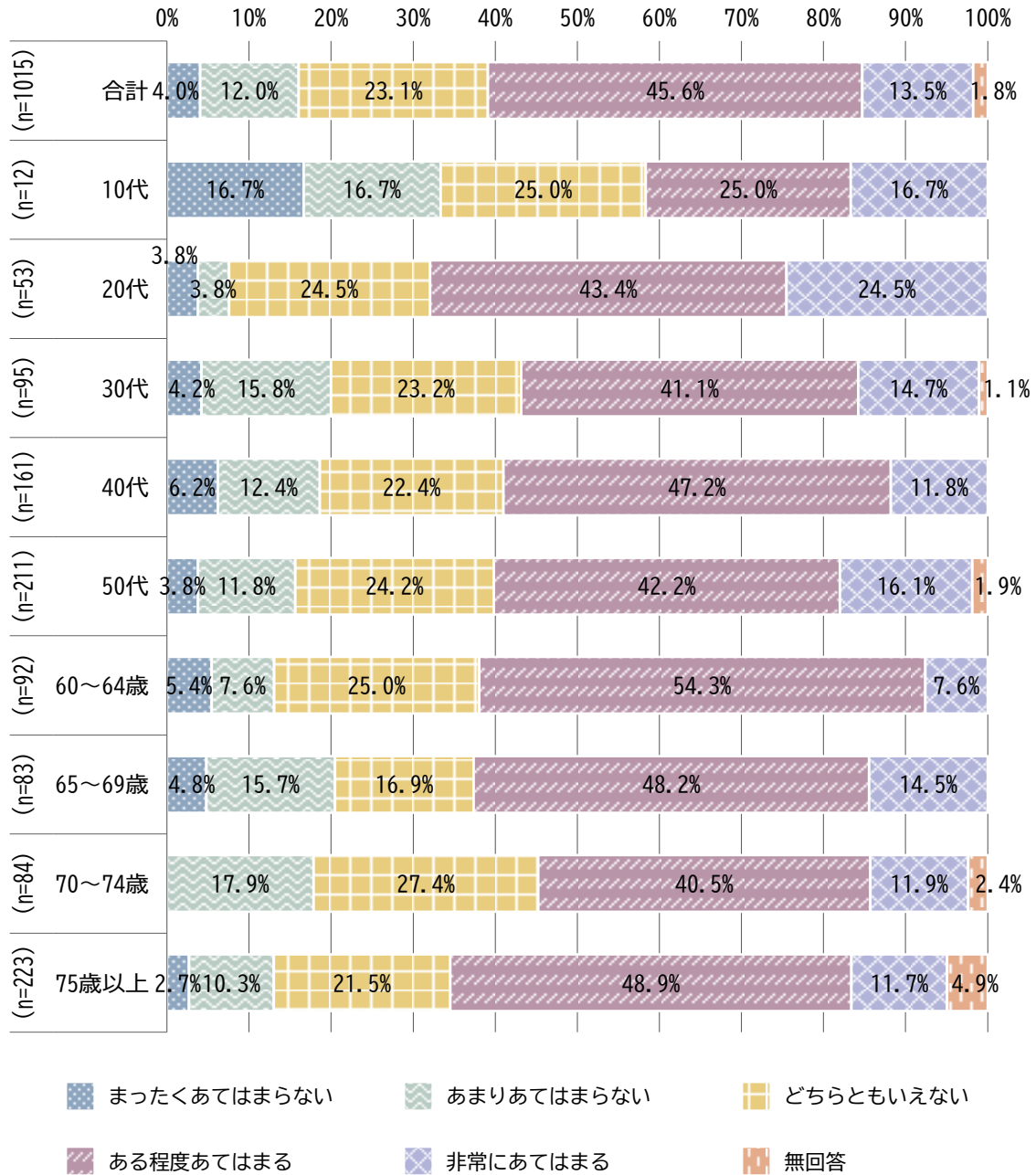
図表 1-63 教育環境（小中高校）が整っている（同居家族別）



Q4-6 通学しやすい場所に学校がある

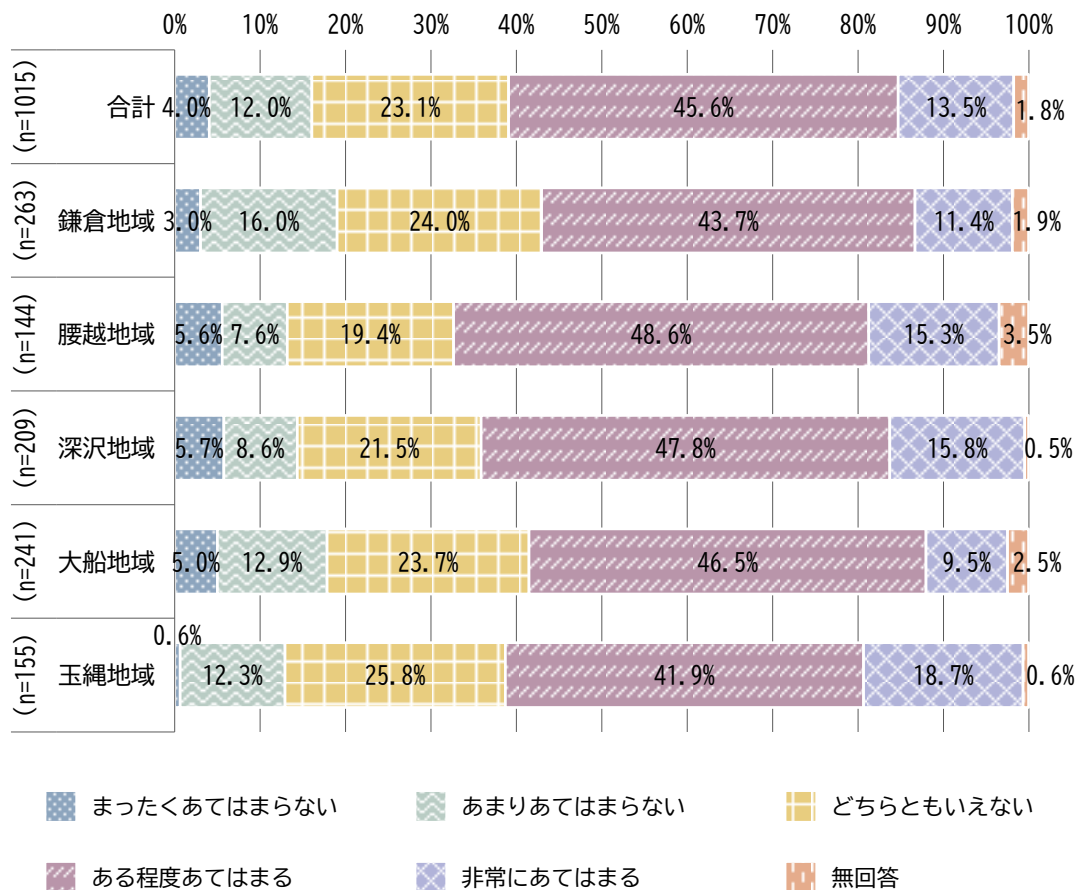
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代でやや高くなっている。

図表 1-64 通学しやすい場所に学校がある（年齢別）



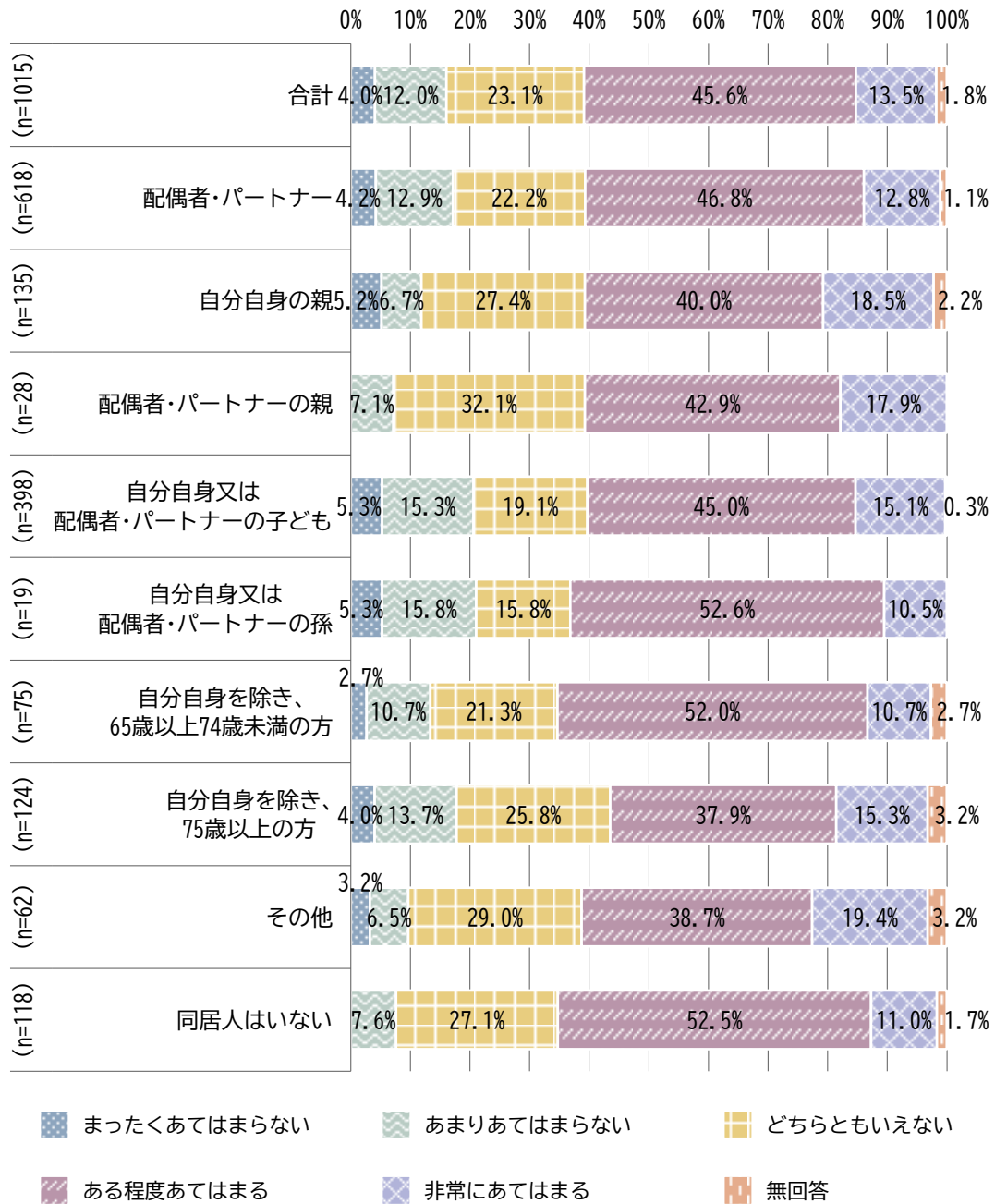
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域と深沢地域でやや高くなっている。

図表 1-65 通学しやすい場所に学校がある（居住地域別）



同居家族別にみると、自分自身又は配偶者・パートナーの子どもや孫と同居しているケースで、「まったくあてはまらない」、「あてはまらない」の回答の割合がやや高くなっている。

図表 1-66 通学しやすい場所に学校がある（同居家族別）



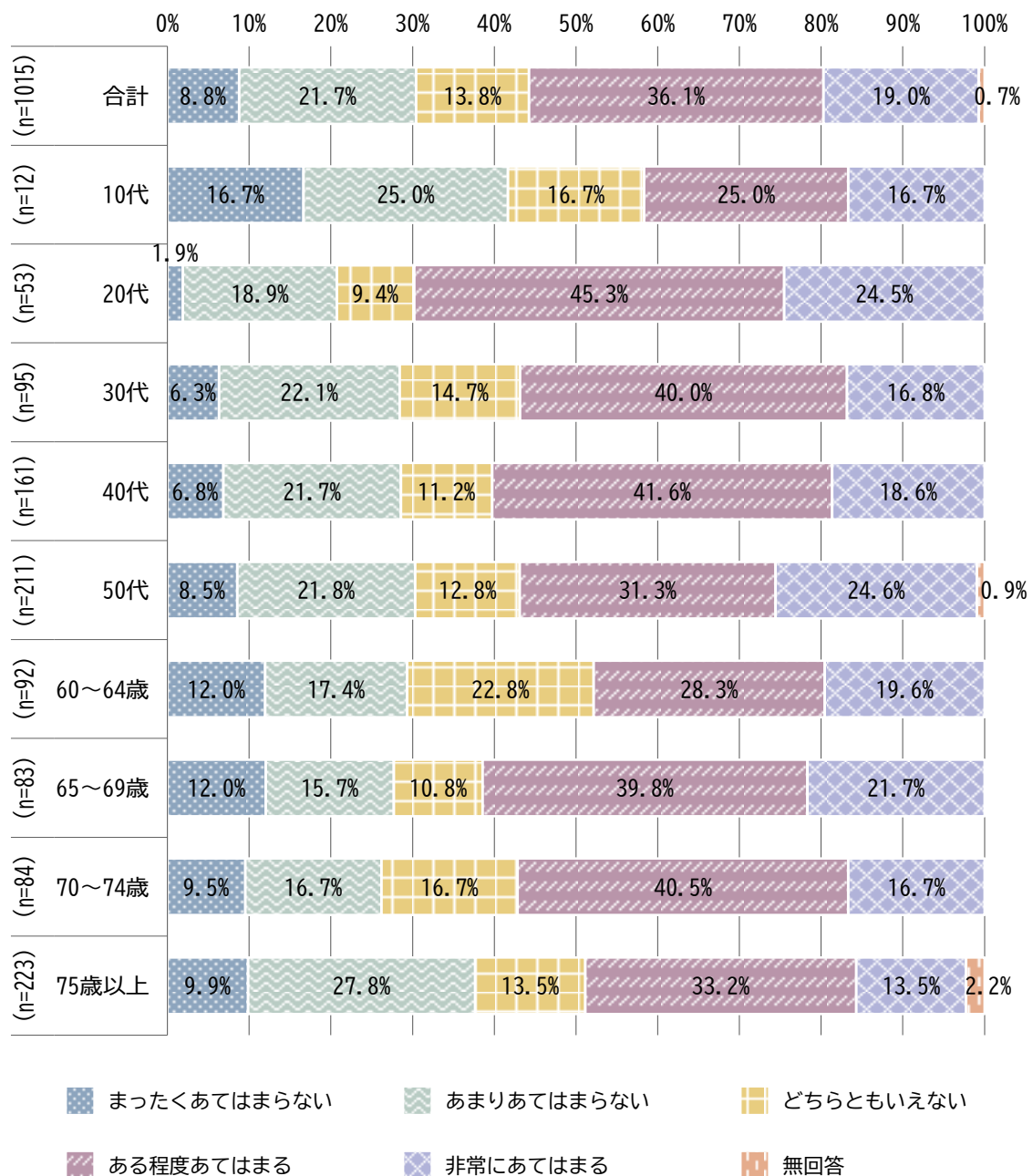
(3) 買物、住宅環境等に関する指標

①買物・飲食

Q5-1 日常の買い物にまったく不便がない

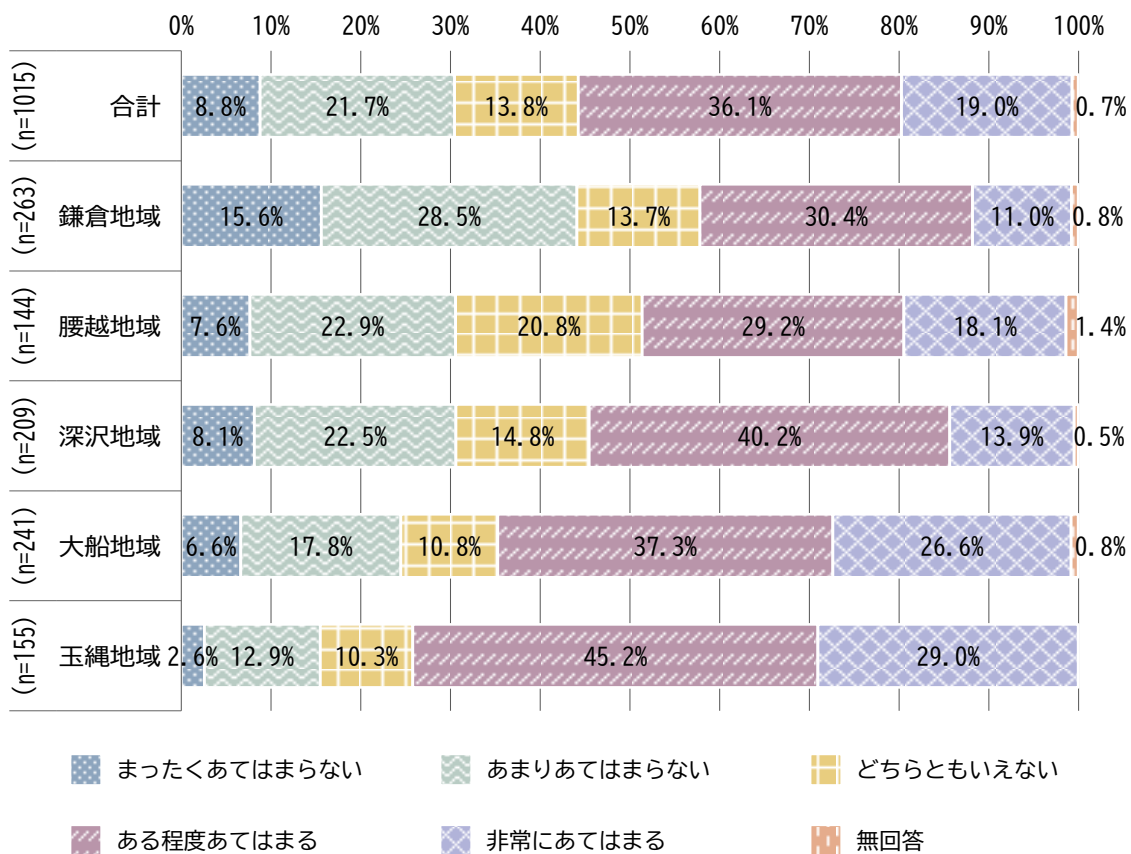
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で高くなっており、10代、60～64歳、75歳以上で低くなっている。

図表 1-67 日常の買い物にまったく不便がない（年齢別）



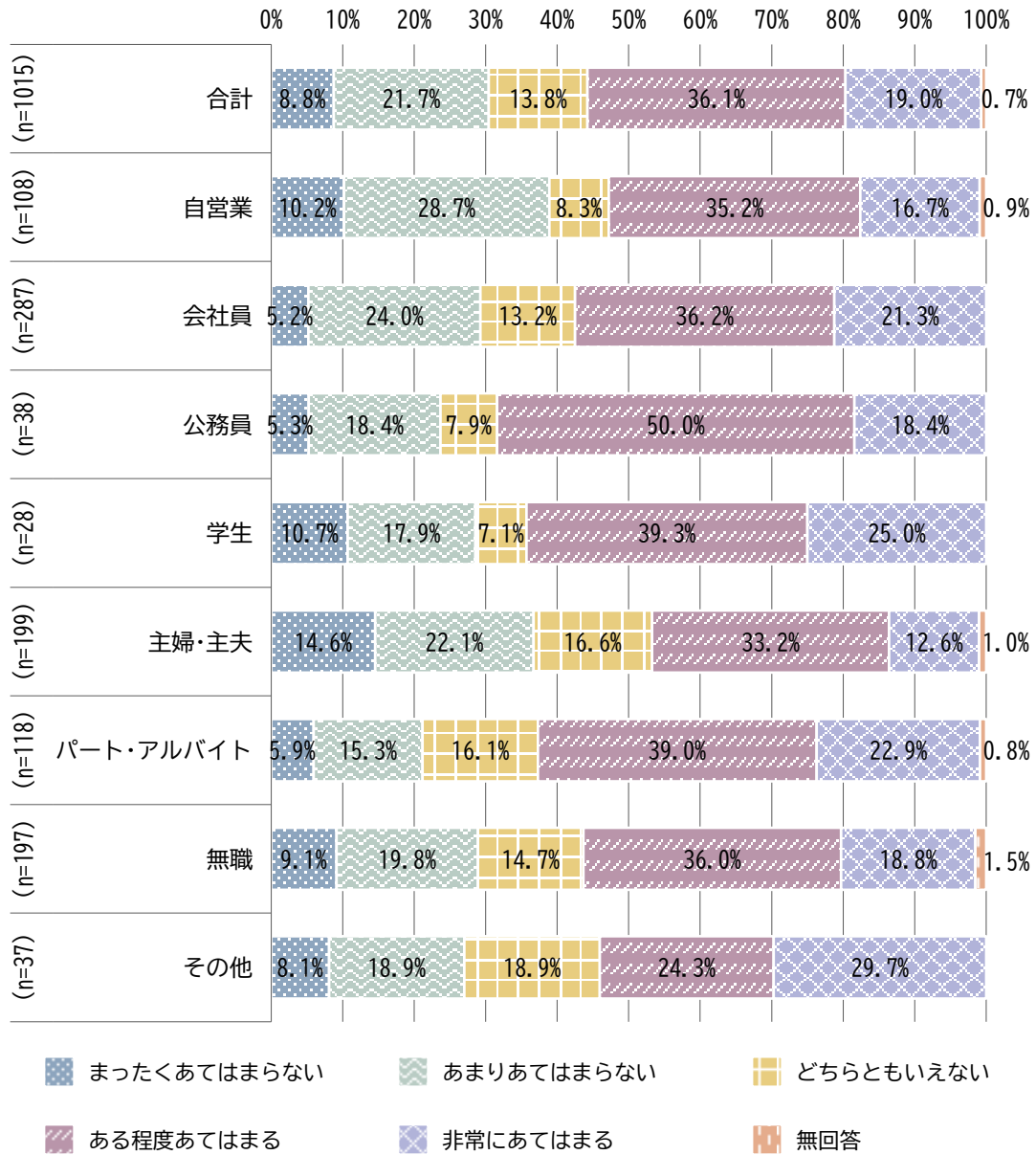
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は玉縄地域で特に高く、次いで大船地域でも高くなっており、鎌倉地域で最も低くなっている。

図表 1-68 日常の買い物にまったく不便がない（居住地域別）



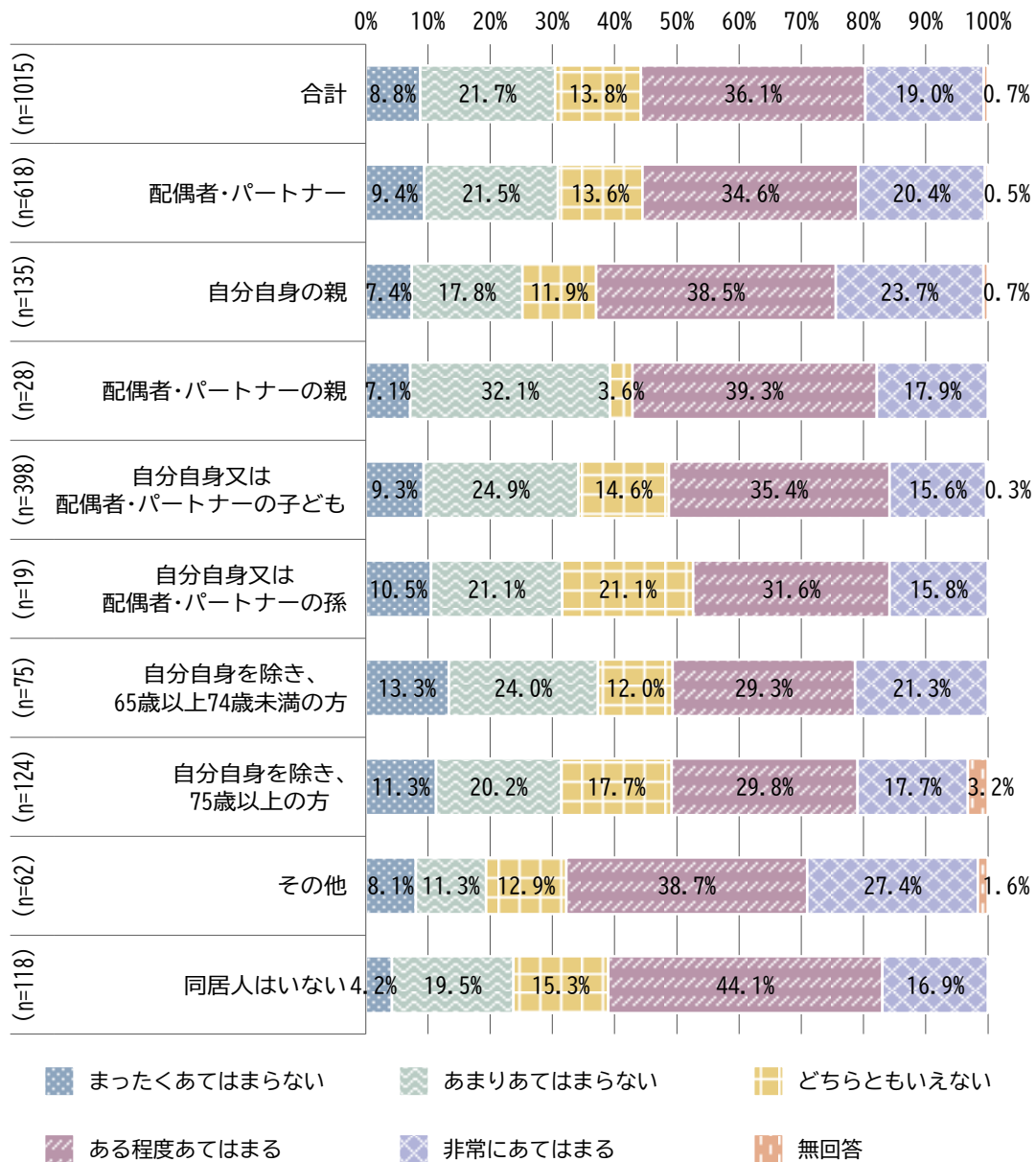
職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は公務員や学生、パート・アルバイトで高く、自営業、主婦・主夫で低くなっている。

図表 1-69 日常の買い物にまったく不便がない（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身の親と同居しているケースでやや高くなっており、自分自身又は配偶者・パートナーの子どもや孫、65歳以上74歳未満の方や75歳以上の方と同居しているケースでやや低くなっている。

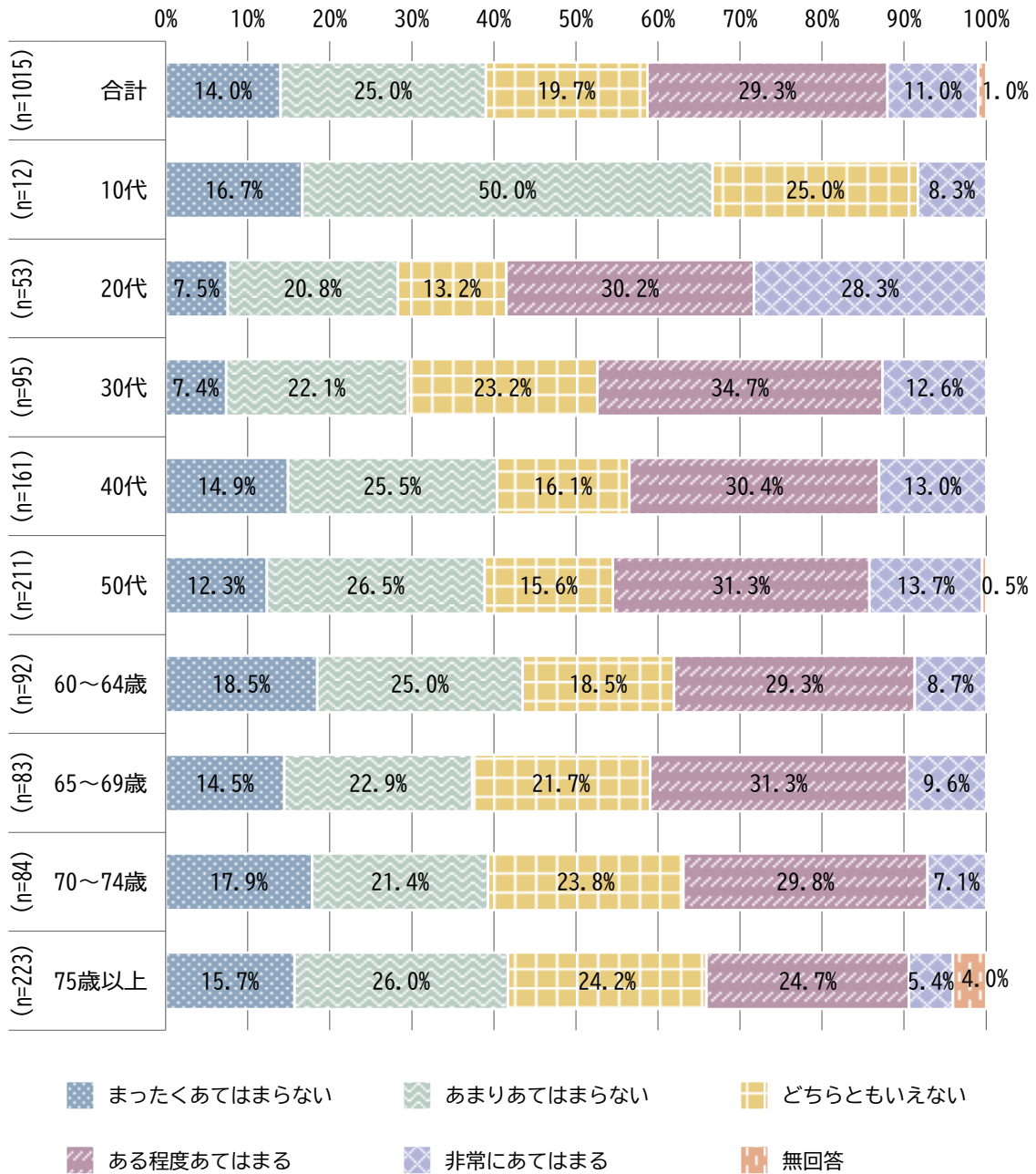
図表 1-70 日常の買い物にまったく不便がない（同居家族別）



Q5-2 飲食を楽しめる場所が充実している

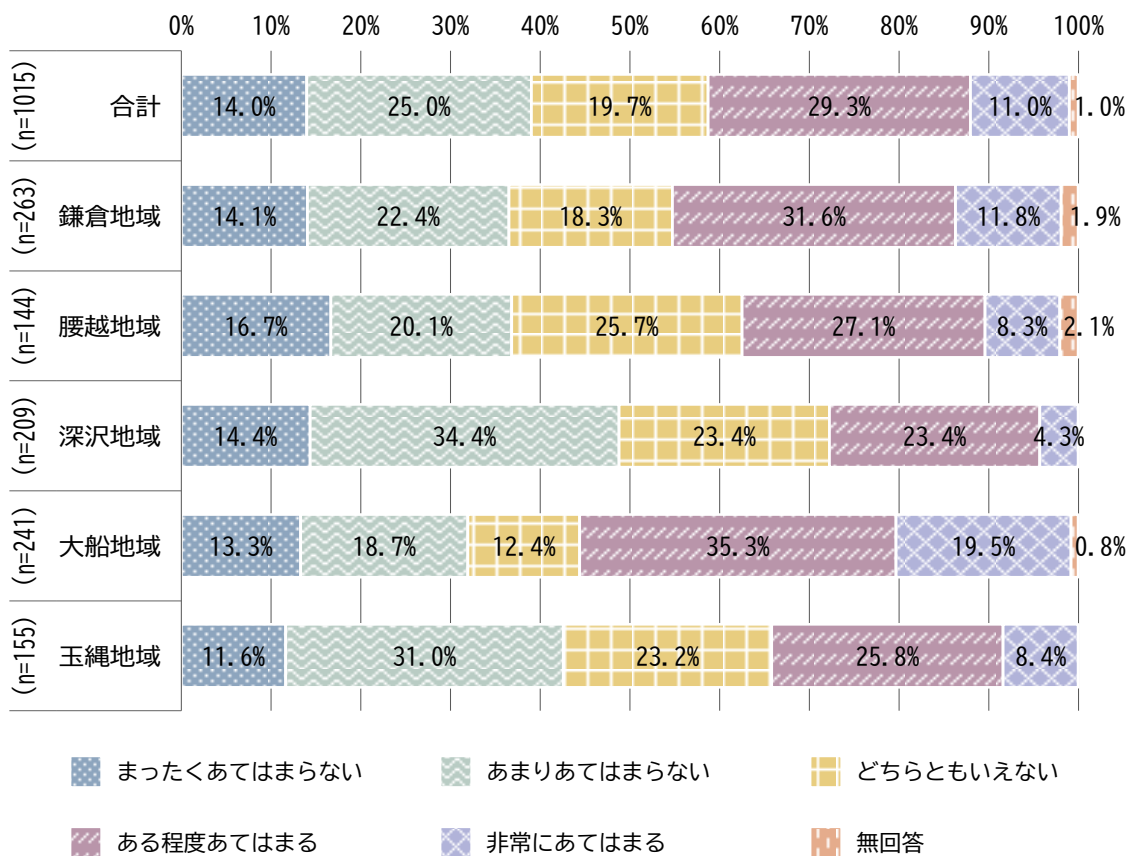
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で最も高く、年代が上がるにしたがって低くなる傾向がある。

図表 1-71 飲食を楽しめる場所が充実している（年齢別）



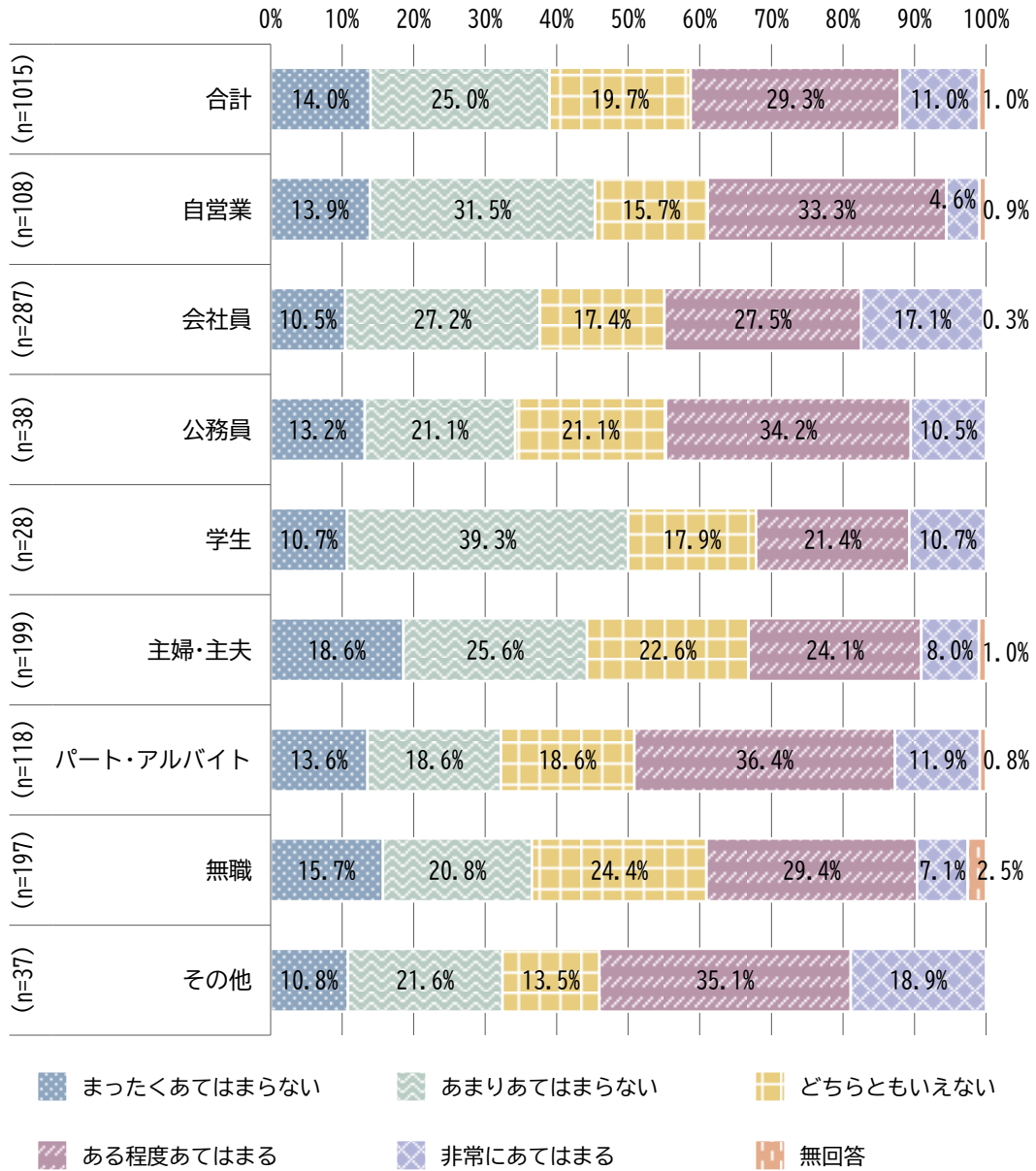
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域で最も高く、次いで鎌倉地域となっており、深沢地域で最も低くなっている。

図表 1-72 飲食を楽しめる場所が充実している（居住地域別）



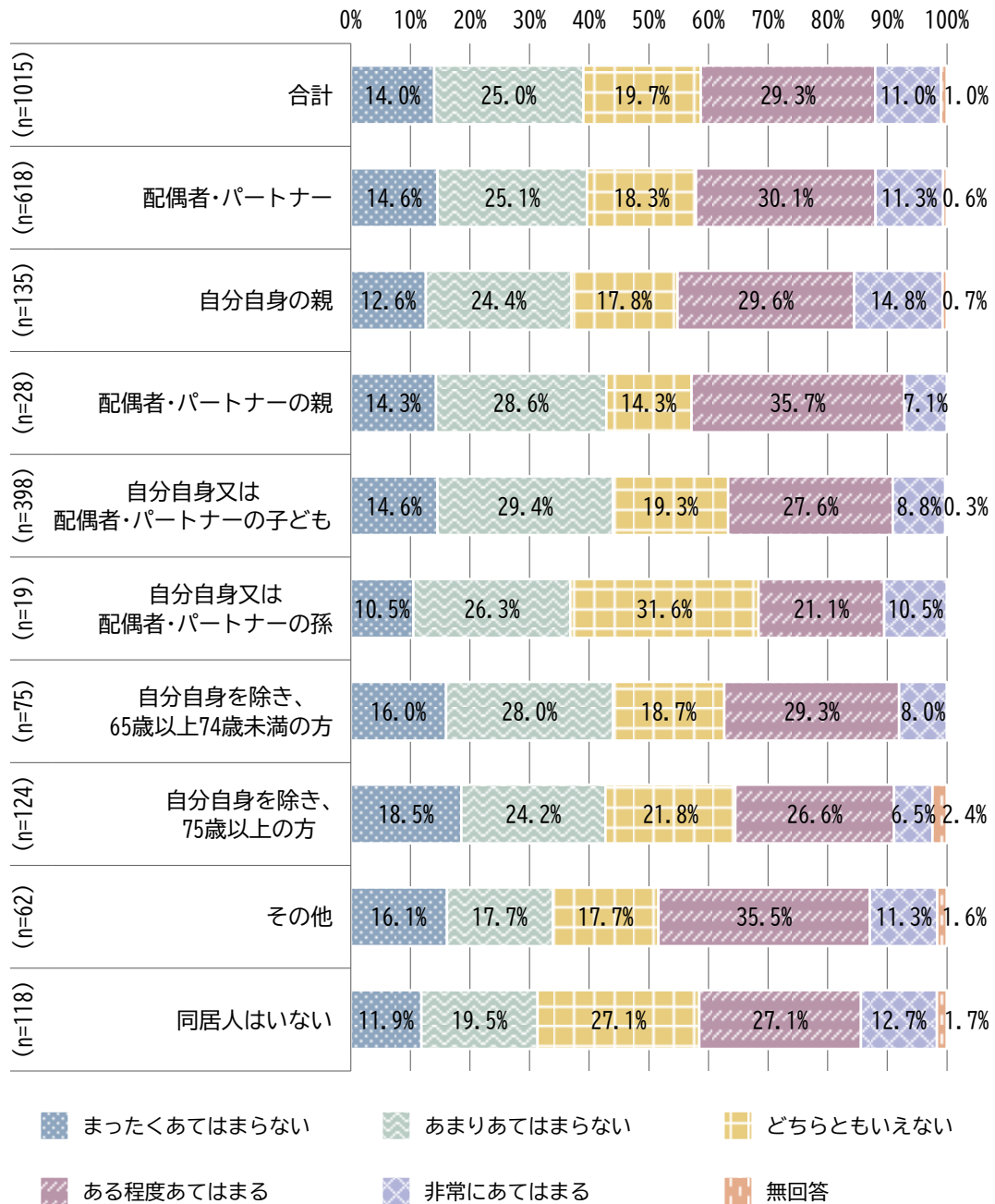
職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は会社員や公務員、パート・アルバイトでやや高くなっており、学生、主婦・主夫では低くなっている。

図表 1-73 飲食を楽しめる場所が充実している（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身又は配偶者・パートナーの子どもや孫、65歳以上74歳未満の方や75歳以上の方と同居しているケースでやや低くなっている。

図表 1-74 飲食を楽しめる場所が充実している（同居家族別）

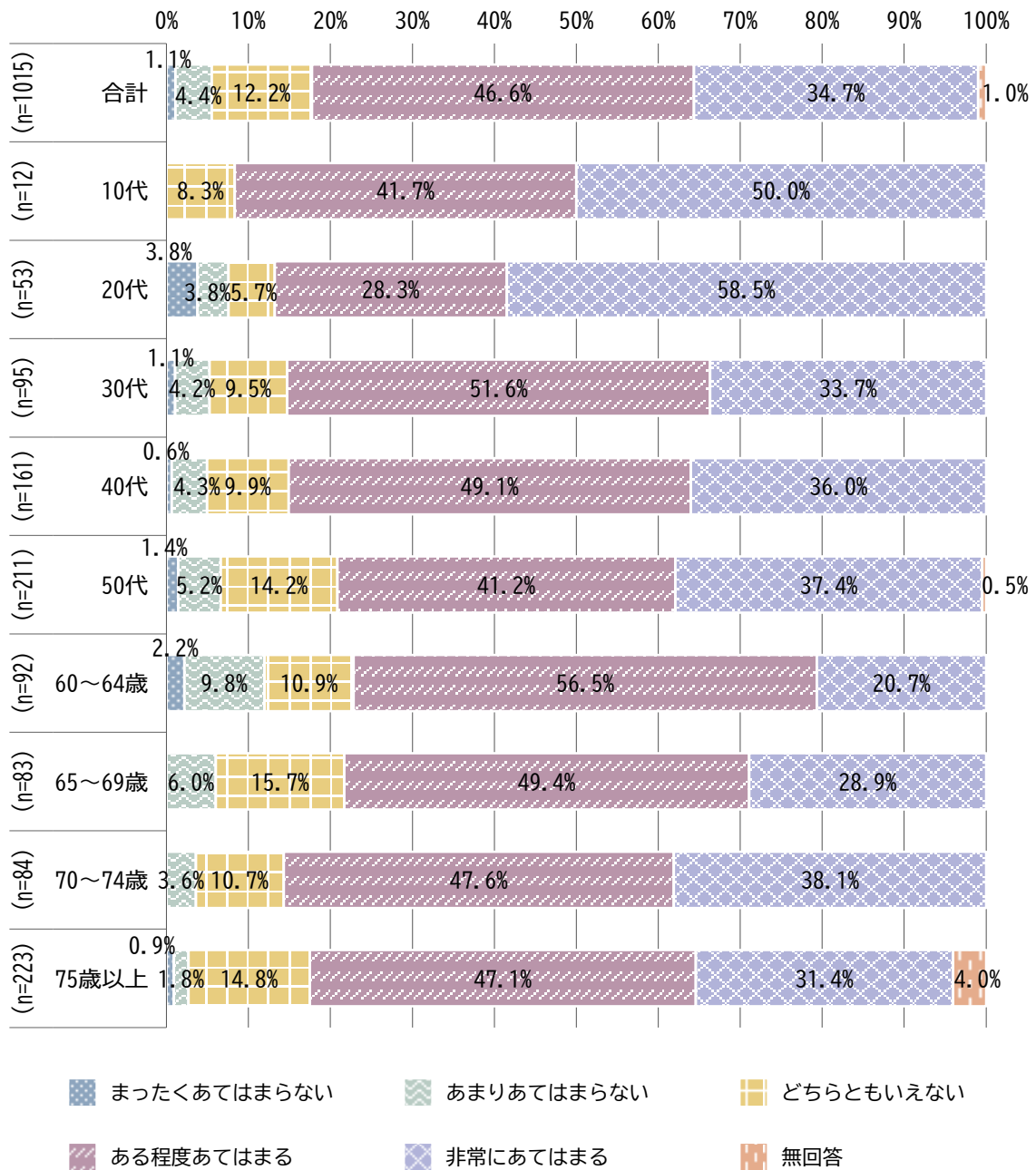


②住宅環境

Q5-3 自宅には、心地のいい居場所がある

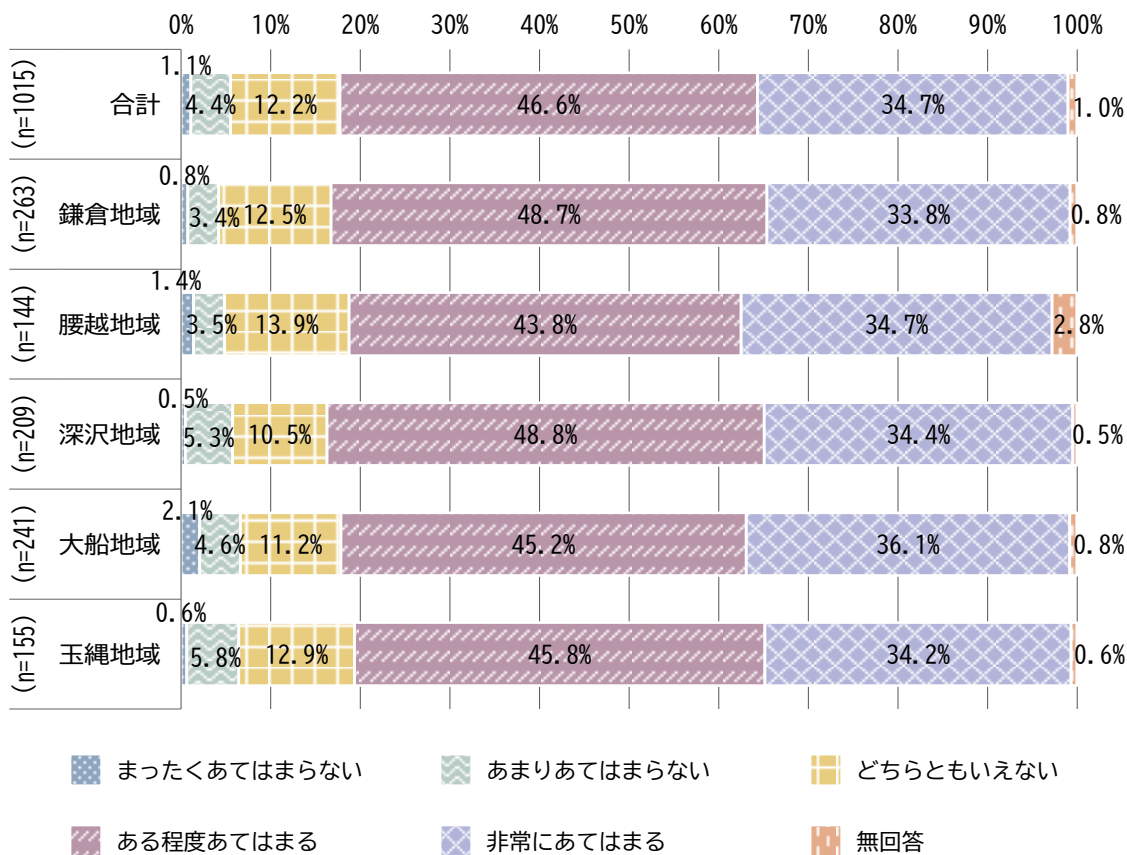
年齢別にみると、「非常にあてはまる」の割合は10代～20代で高くなっており、60代は低くなっている。

図表 1-75 自宅には、心地のいい居場所がある（年齢別）



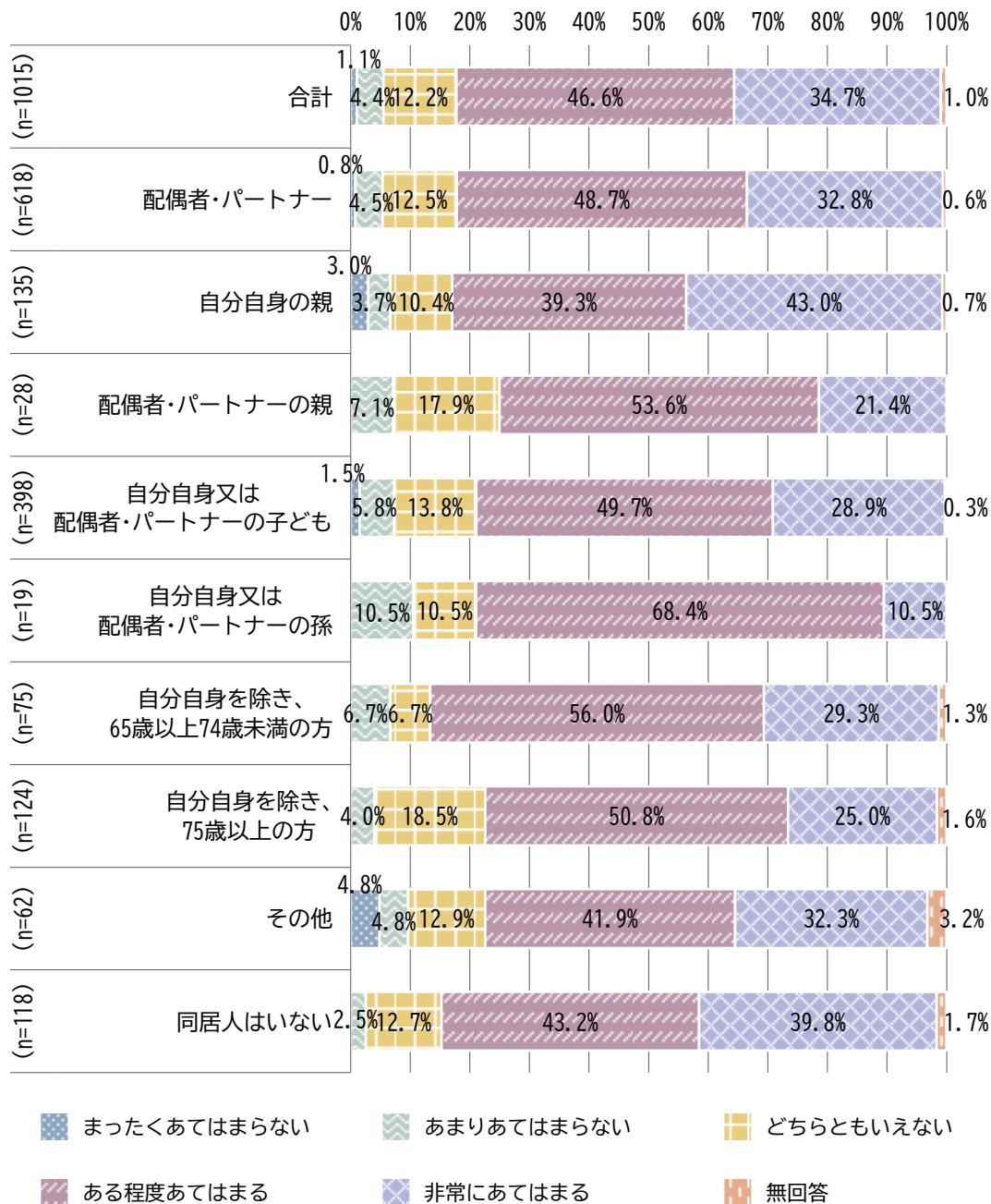
居住地域別にみると、地域間で特段の較差はみられない。

図表 1-76 自宅には、心地のいい居場所がある（居住地域別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は配偶者・パートナーの親や75歳以上の方と同居しているケースでやや低くなっている。

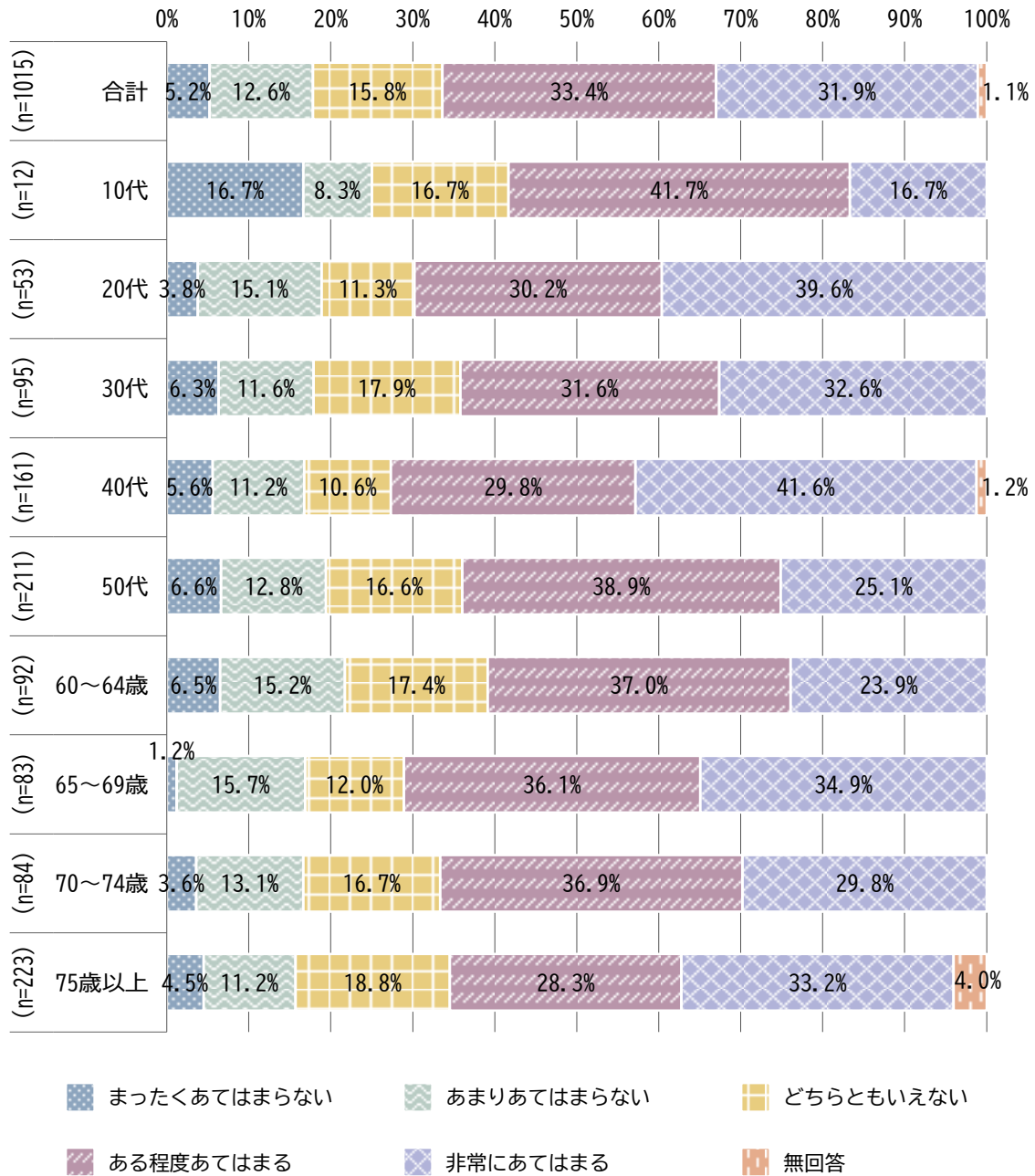
図表 1-77 自宅には、心地のいい居場所がある（同居家族別）



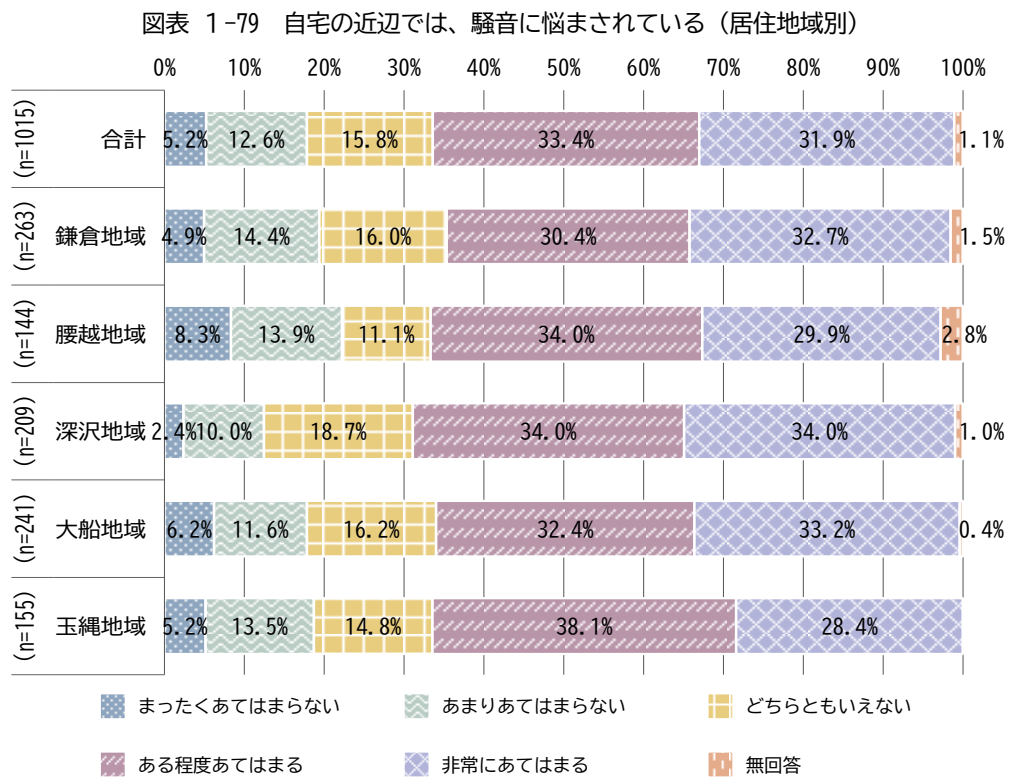
Q5-4 自宅の近辺では、騒音に悩まされている

年齢別にみると、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の合計の割合は40代と65～69歳でやや高くなっている。

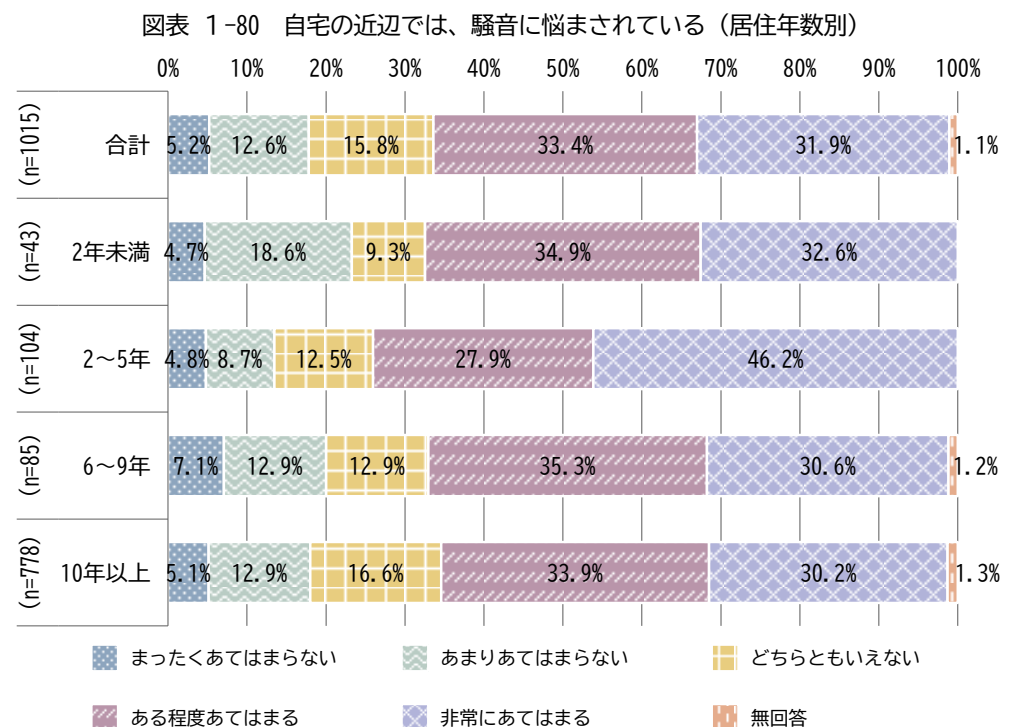
図表 1-78 自宅の近辺では、騒音に悩まされている（年齢別）



居住地域別にみると、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の合計の割合は深沢地域でやや高くなっているものの、地域間で特段の較差はみられない。



居住年数別にみると、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の合計の割合は居住年数2～5年で高くなっている。

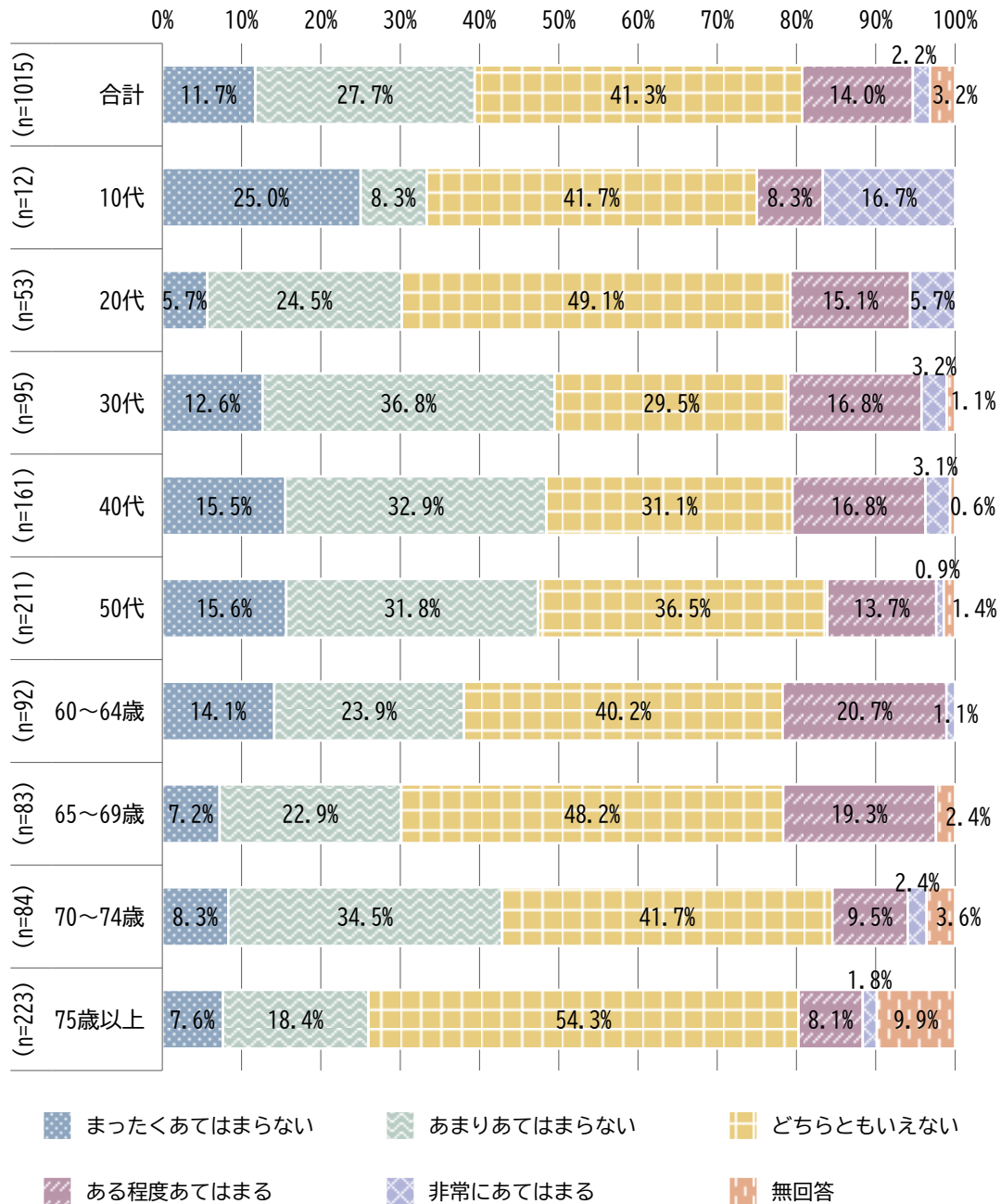


Q5-5 適度な費用で住居を確保できる

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の割合は50代と70代で低くなっている。

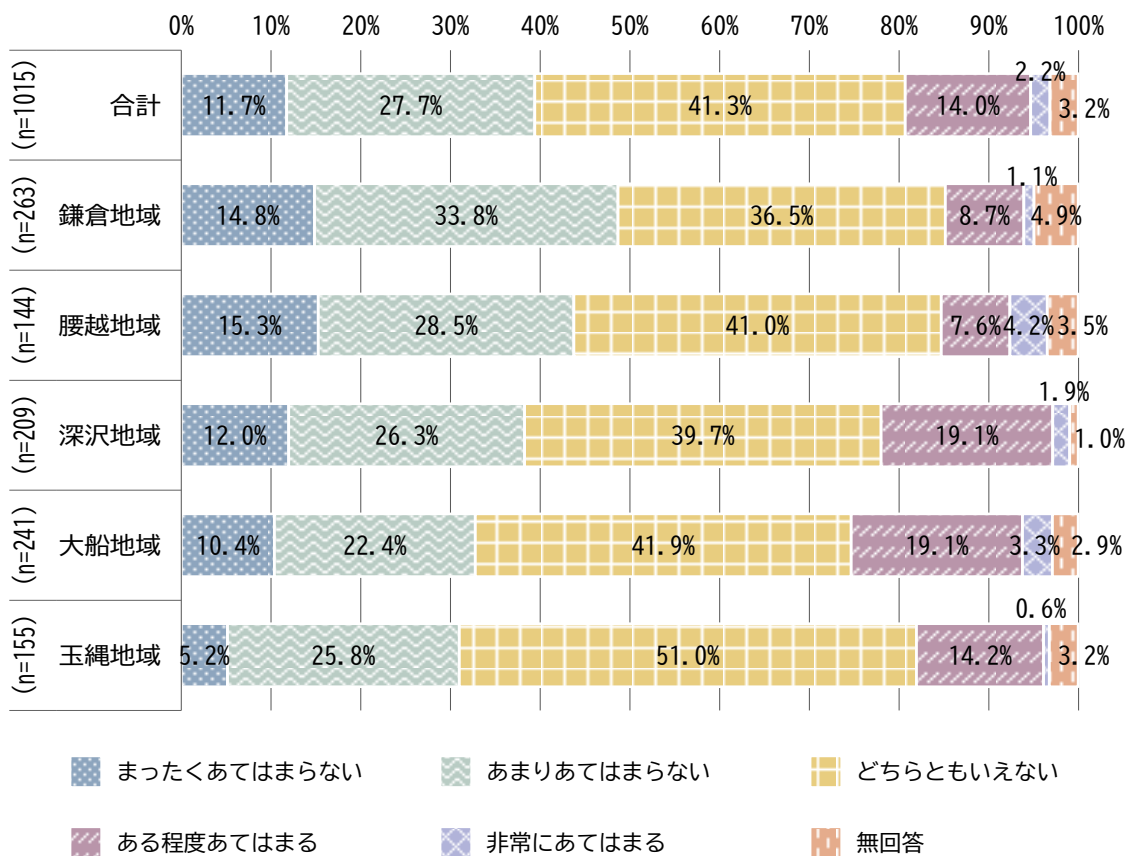
一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の割合は30～50代で高くなっている。

図表 1-81 適度な費用で住居を確保できる（年齢別）



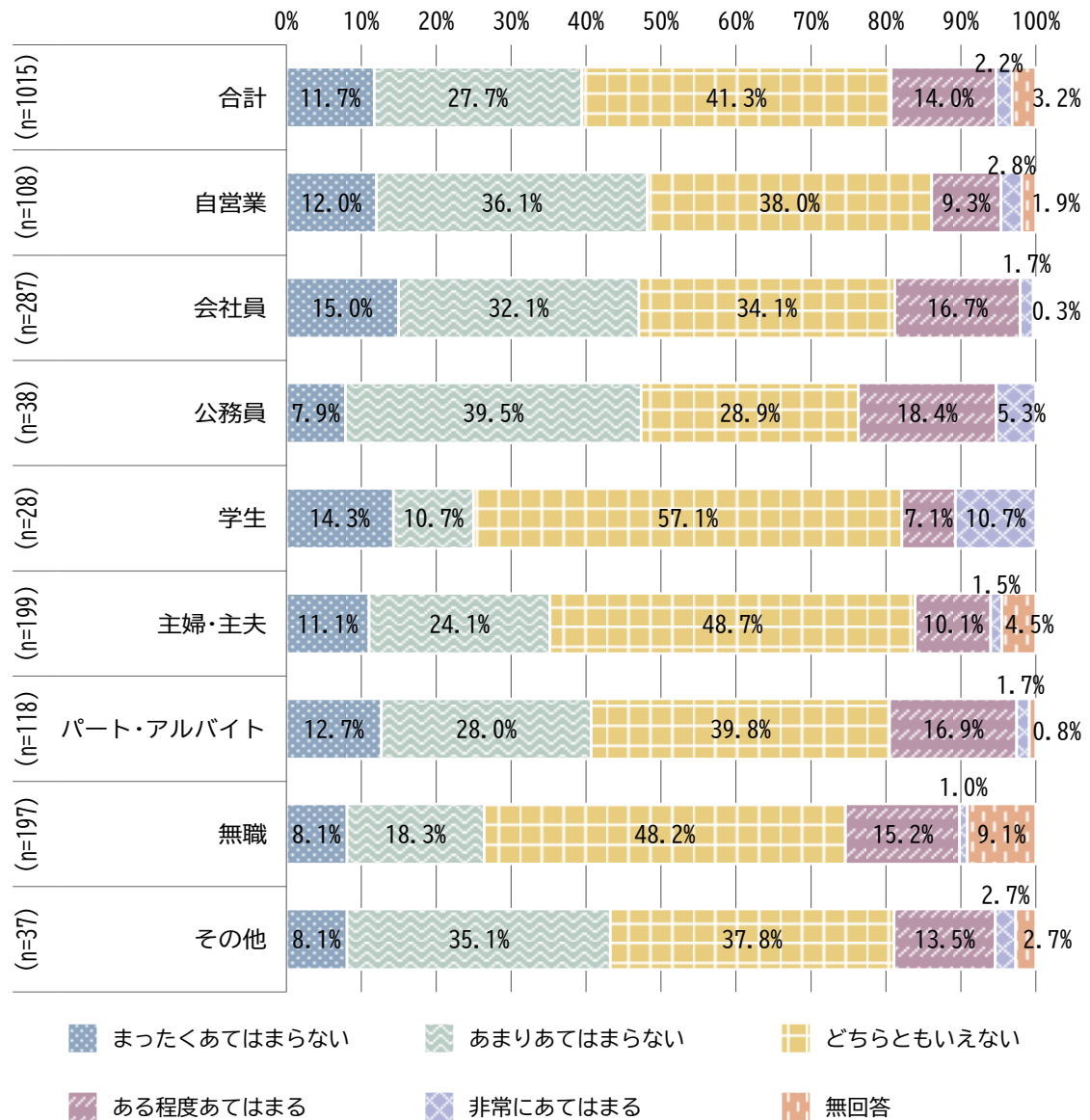
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域が最も高く、次いで深沢地域となっており、鎌倉地域と腰越地域で低くなっている。

図表 1-82 適度な費用で住居を確保できる（居住地域別）



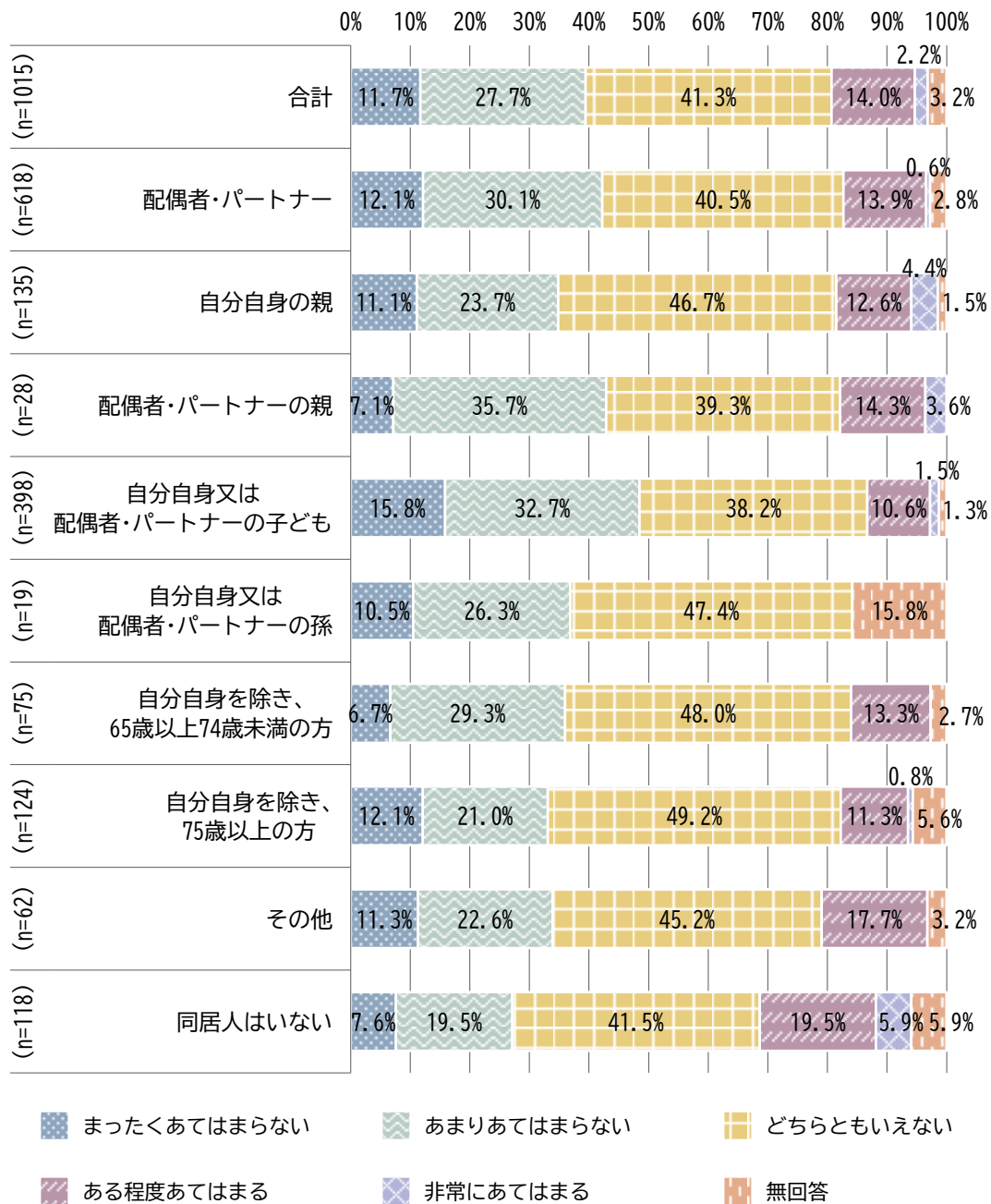
職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は公務員で高くなっており、自営業、主婦・主夫で低くなっている。

図表 1-83 適度な費用で住居を確保できる（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は同居人がいない方で高くなっており、自分自身又は配偶者・パートナーの子どもや孫と同居しているケースでやや低くなっている。

図表 1-84 適度な費用で住居を確保できる（同居家族別）

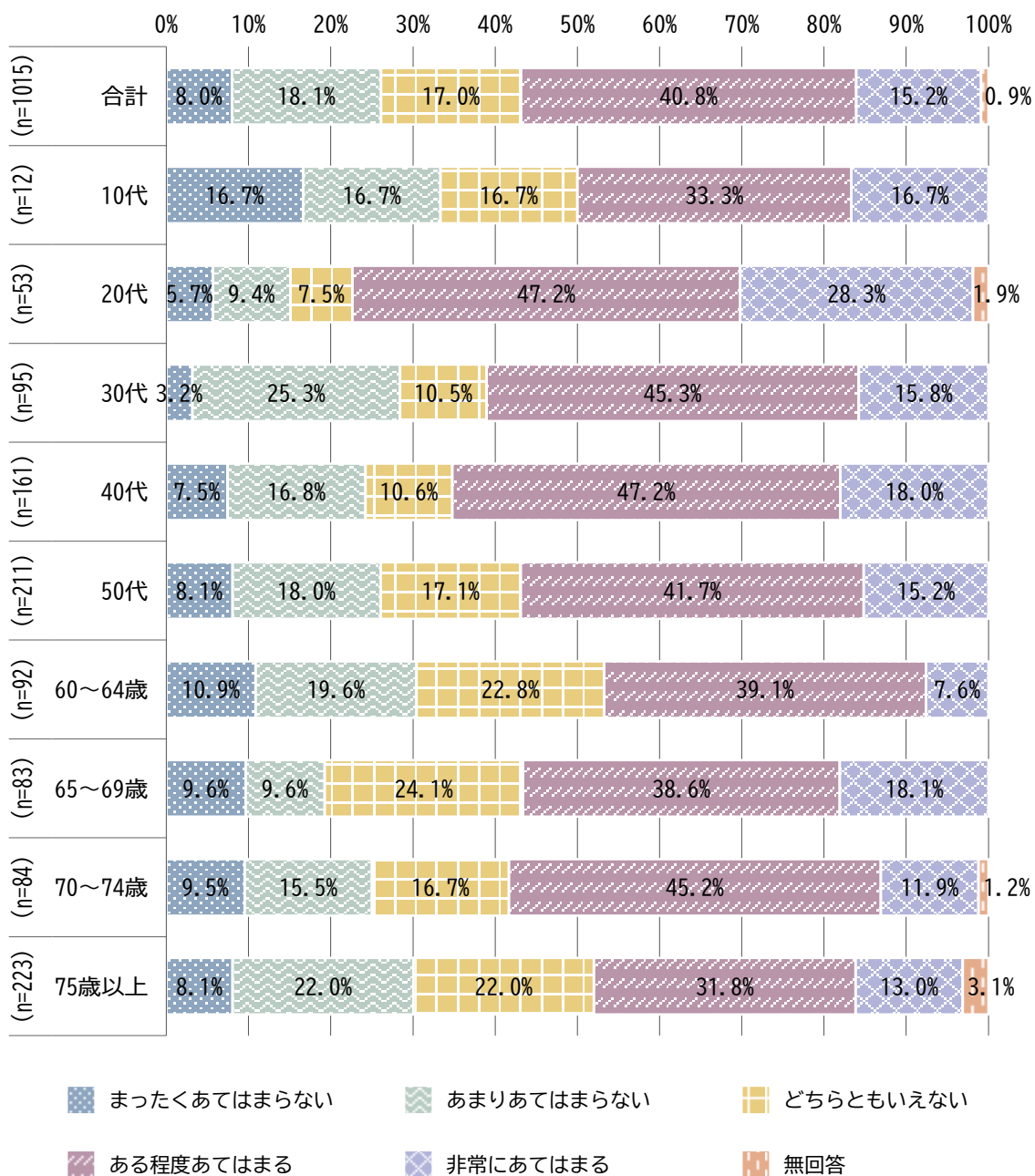


③移動・交通

Q5-6 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる

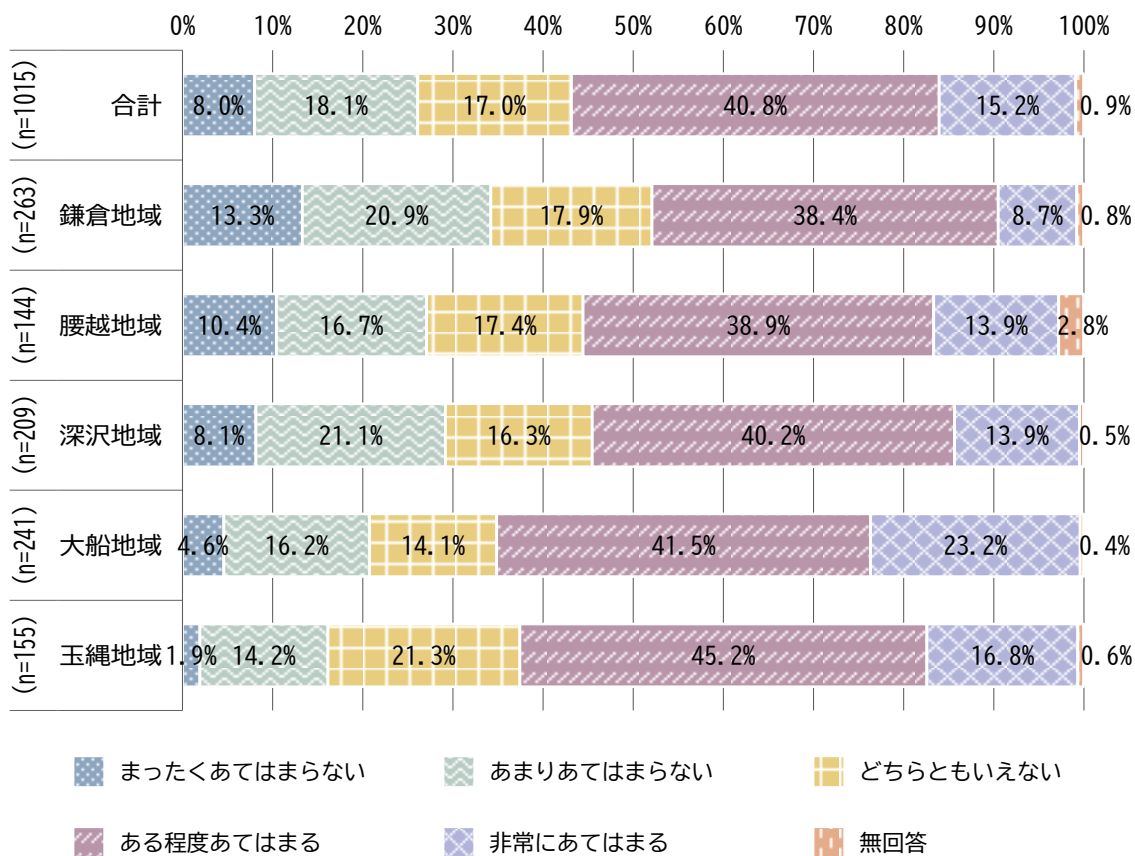
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で高く
なっており、60～64歳と75歳以上で低くなっている。

図表 1-85 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる（年齢別）



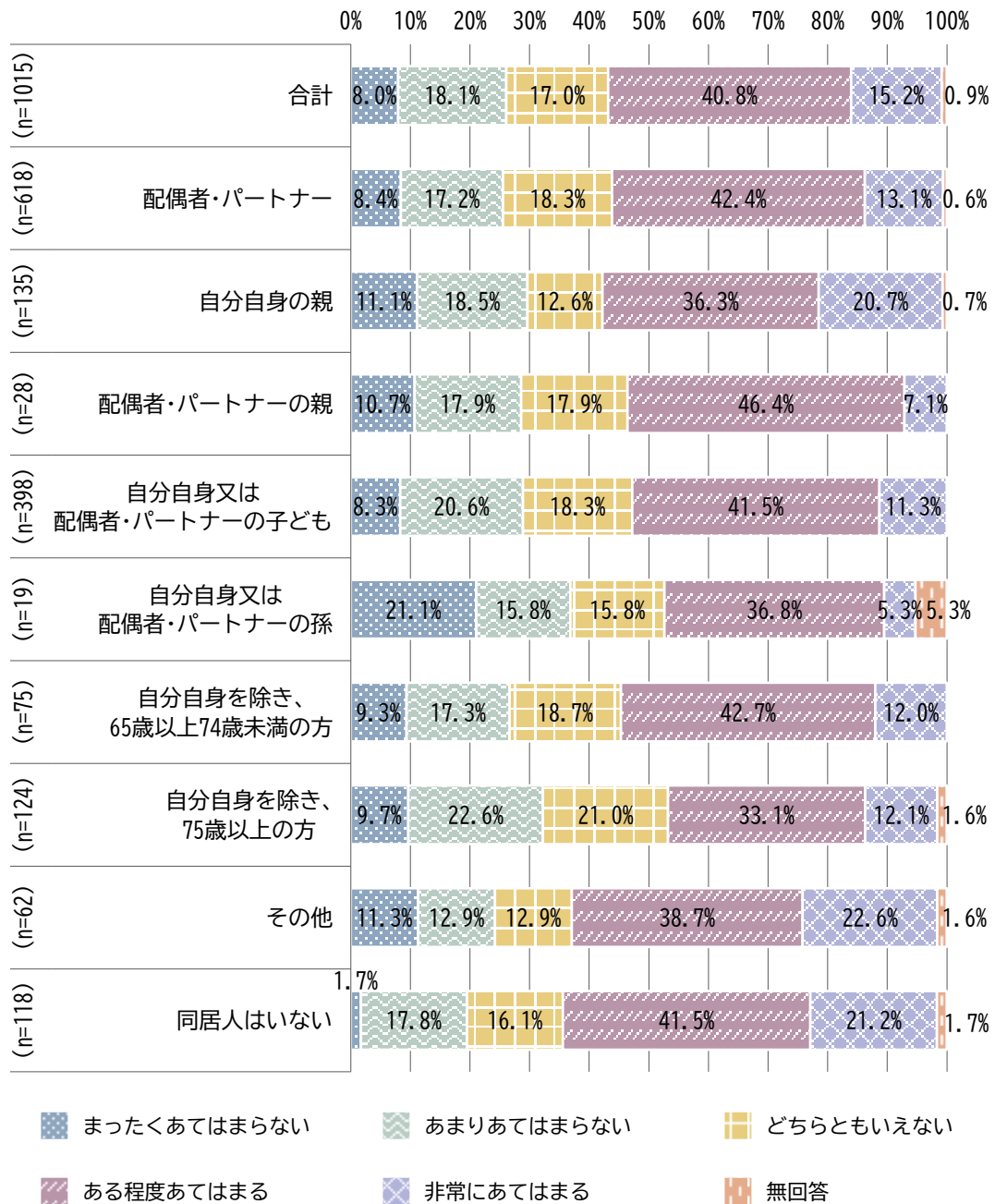
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域と玉縄地域で高くなっているおり、鎌倉地域で低くなっている。

図表 1-86 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる（居住地域別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は、自分自身の親と同居しているケースや同居人はいないケースでやや高くなっており、自分自身又は配偶者・パートナーの孫や75歳以上の方と同居されているケースでやや低くなっている。

図表 1-87 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる（同居家族別）

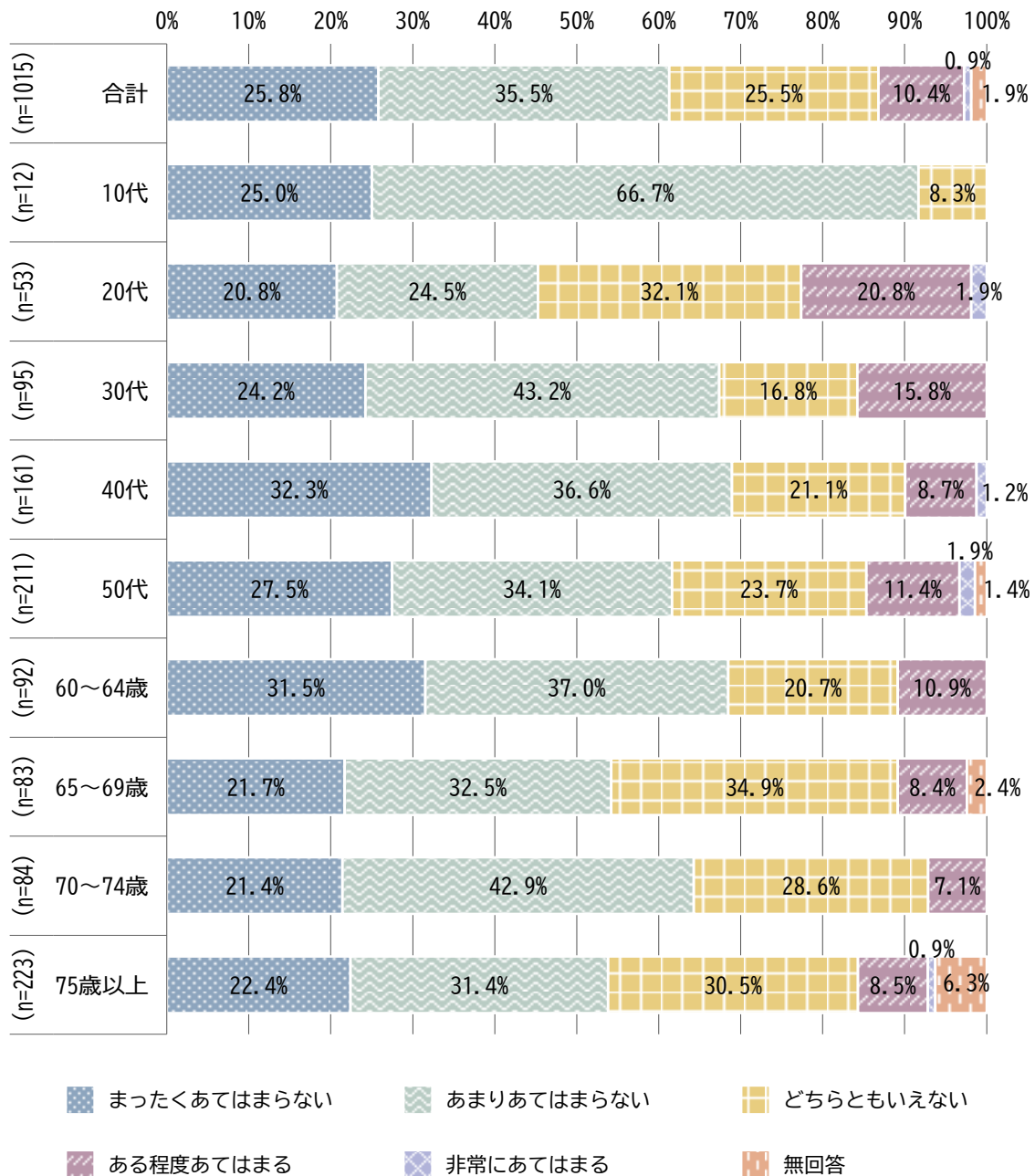


④遊び・娯楽

Q5-7 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

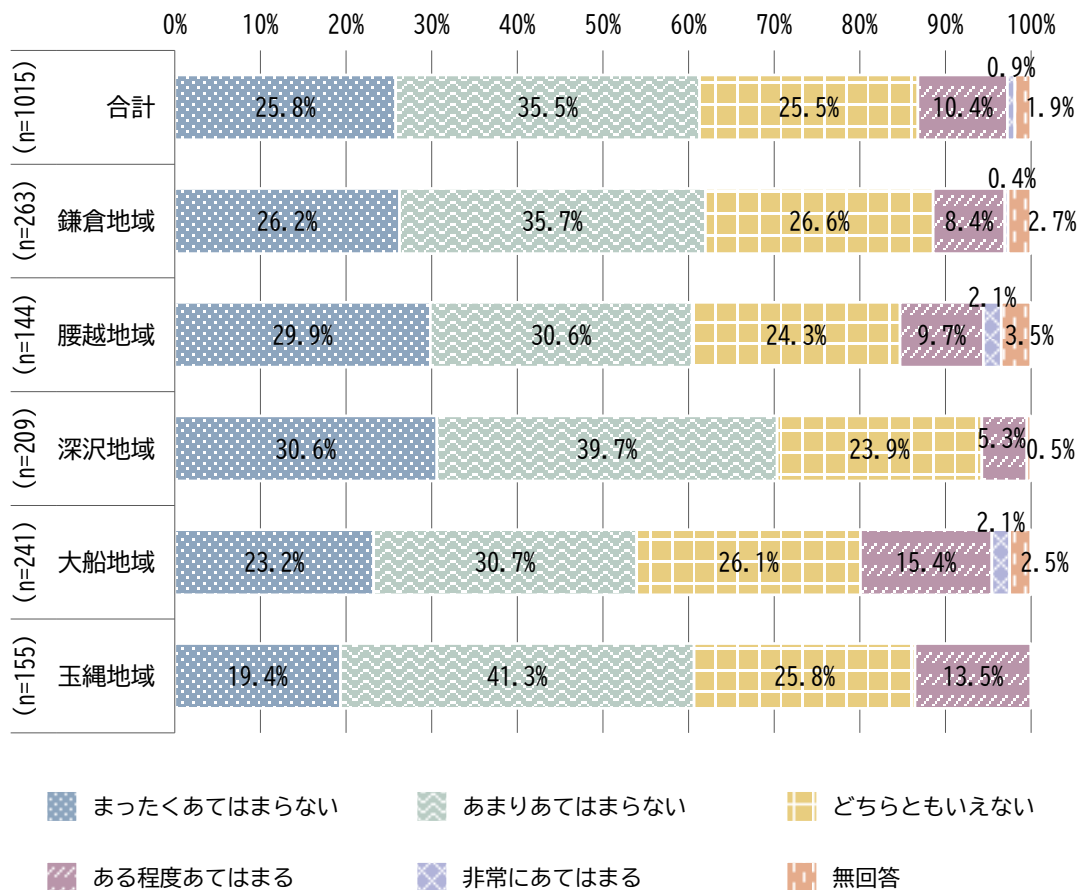
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代と30代で高くなっており、10代と70～74歳で低くなっている。

図表 1-88 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある（年齢別）



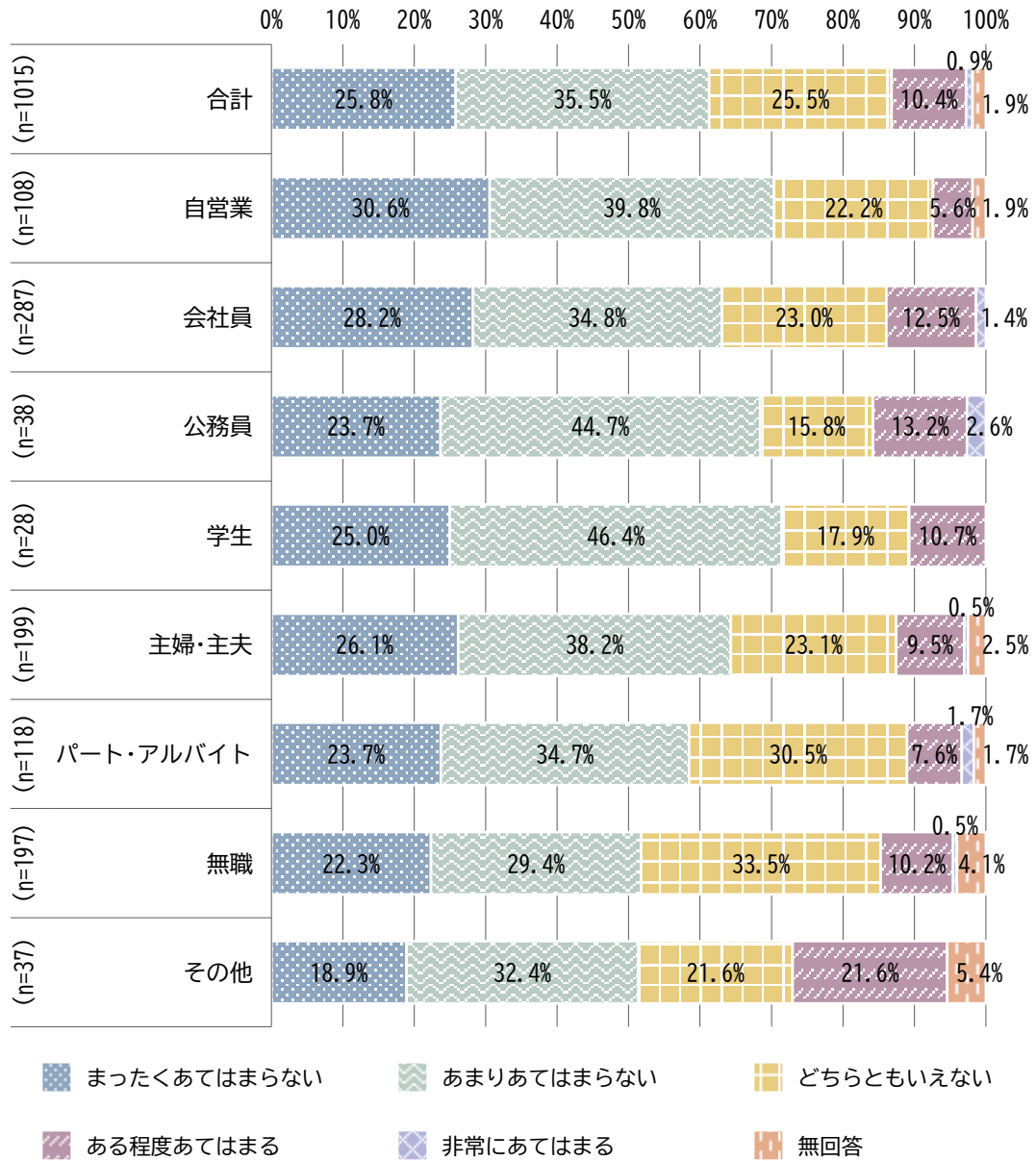
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域で高くなっており、深沢地域で特に低くなっている。

図表 1-89 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある（居住地域別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自営業やパート・アルバイト、主婦・主夫で低くなっている。

図表 1-90 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある（職業別）



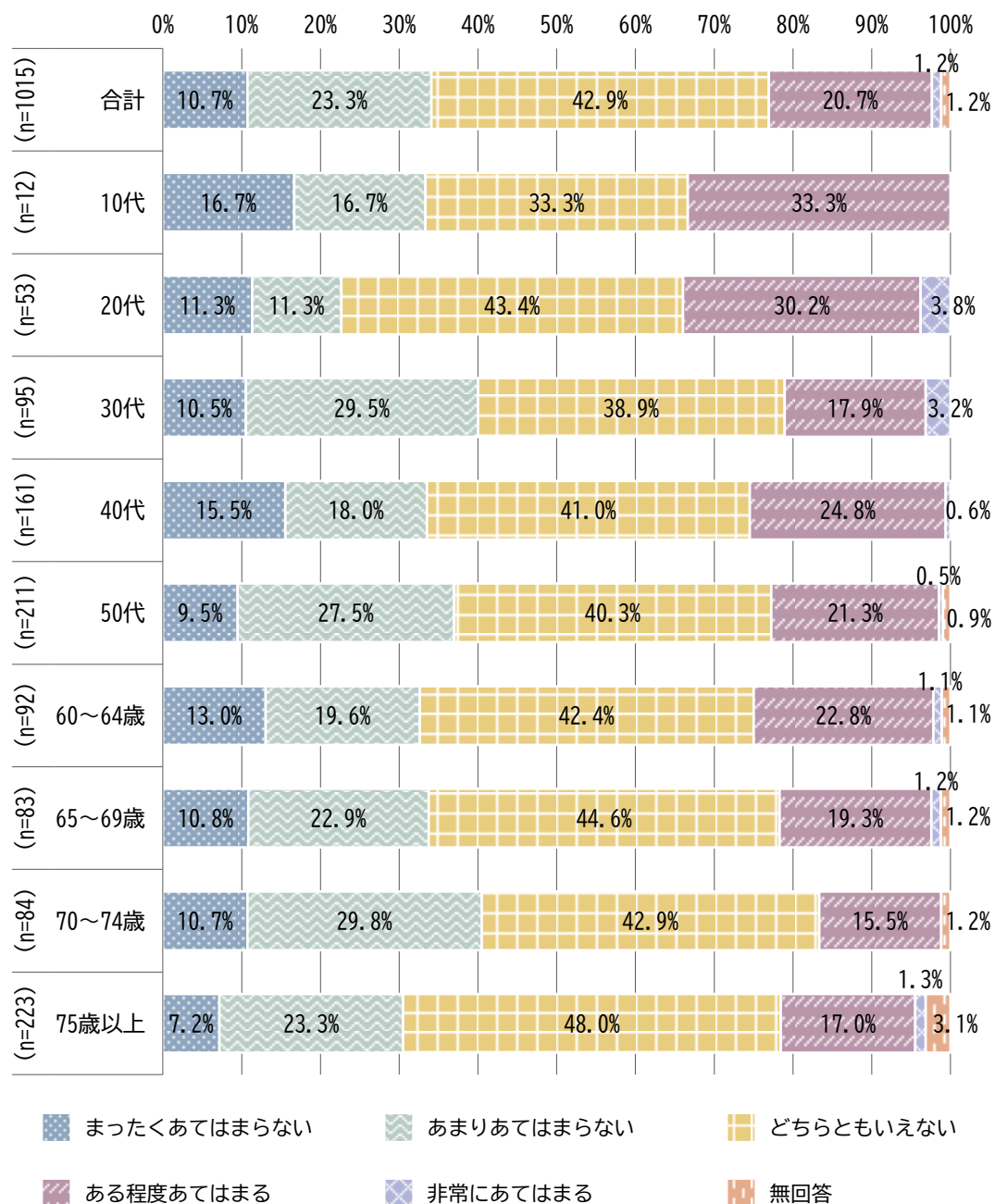
(4) 行政サービス、デジタル化に関する指標

①地域行政

Q6-1 行政は、地域のことを真剣に考えていると思う

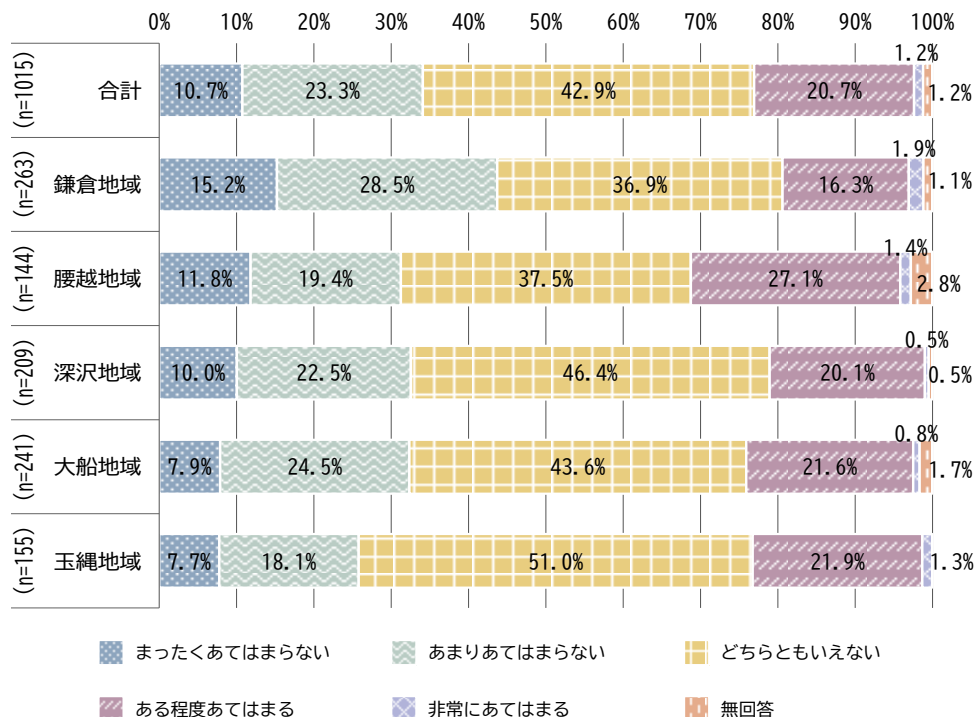
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代で高くなっており、70～74歳、75歳以上で低くなっている。

図表 1-91 行政は、地域のことを真剣に考えていると思う（年齢別）



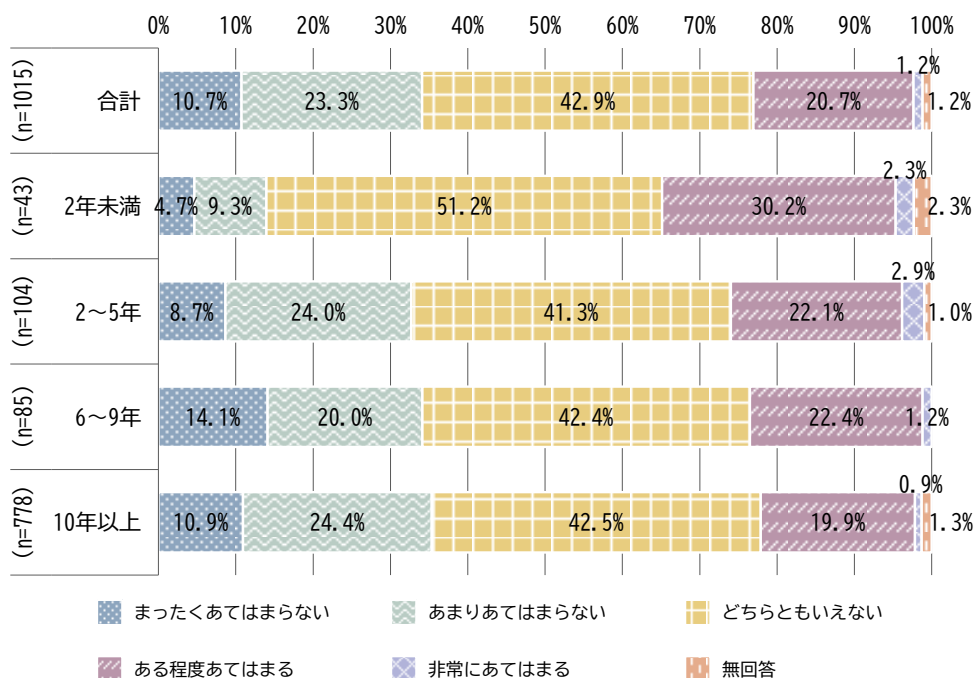
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域で高くなっている。

図表 1-92 行政は、地域のことを真剣に考えていると思う（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で高くなっている。

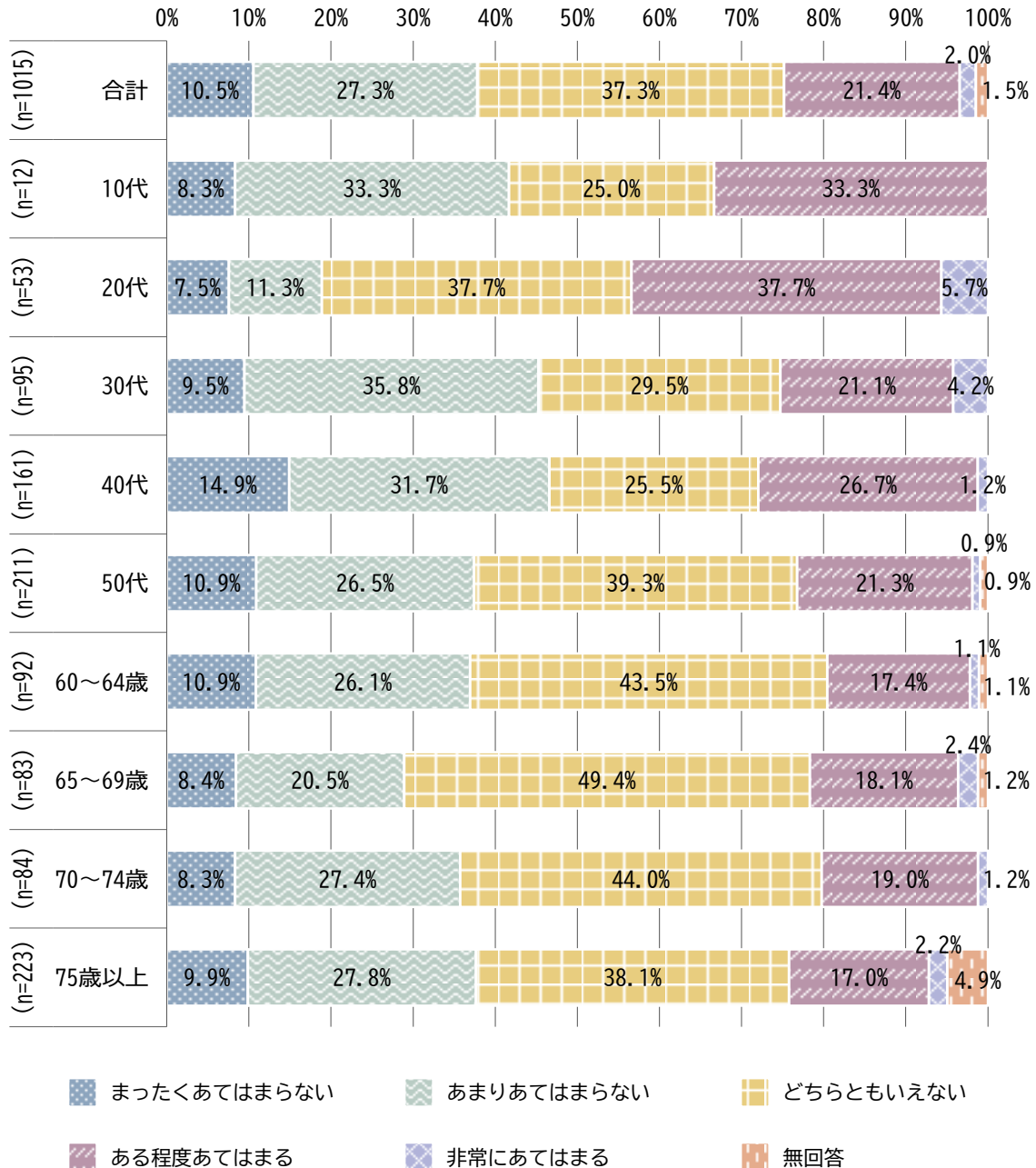
図表 1-93 行政は、地域のことを真剣に考えていると思う（居住年数別）



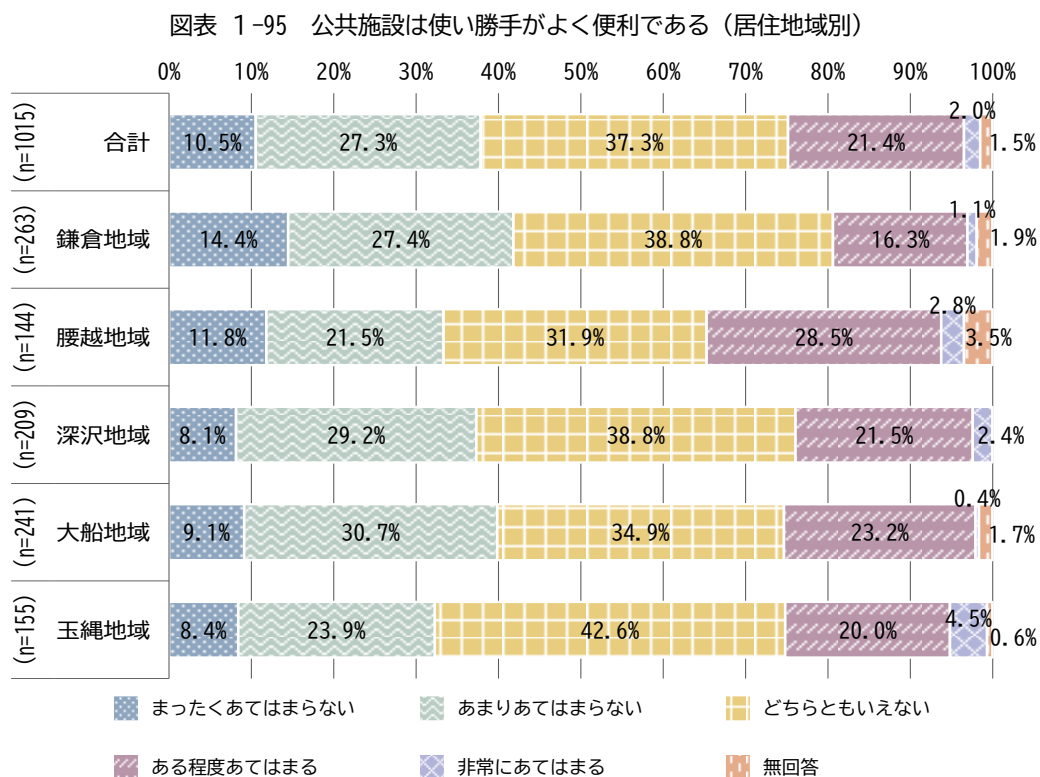
Q6-2 公共施設は使い勝手がよく便利である

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代で高くなっており、60代～75歳以上で低くなっている。

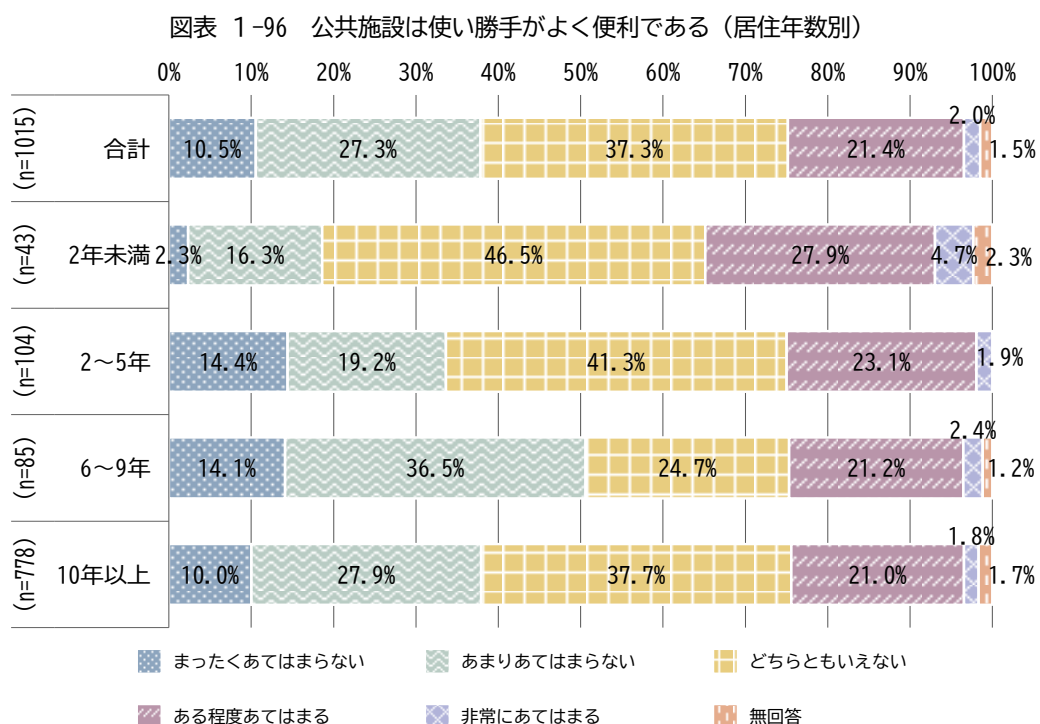
図表 1-94 公共施設は使い勝手がよく便利である（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域で高くなっており、鎌倉地域で低くなっている。

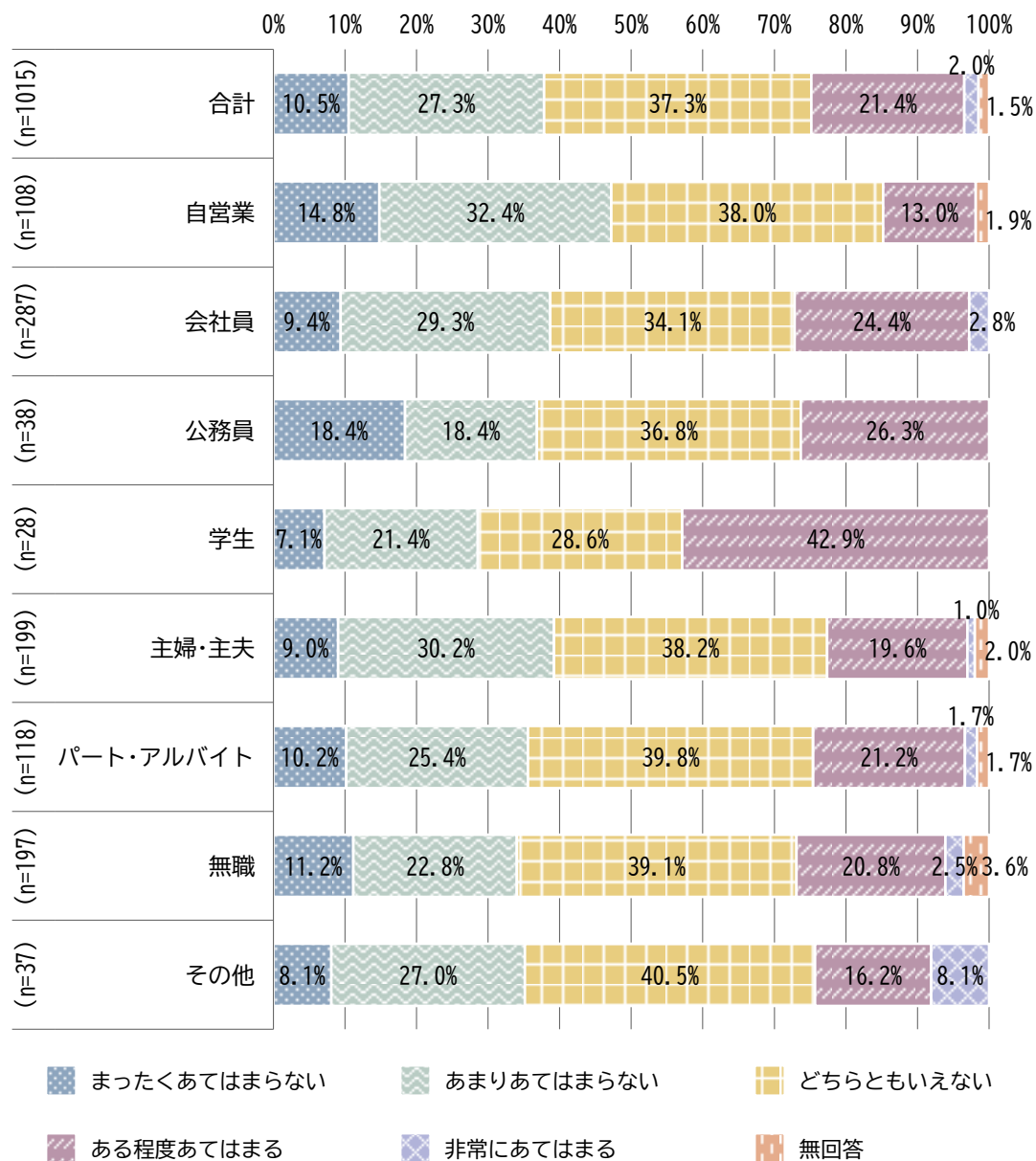


居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で高くなっており、居住年数が長くなるほど割合がゆるやかに低くなっている。



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は学生で高くなっており、自営業で低くなっている。

図表 1-97 公共施設は使い勝手がよく便利である（職業別）

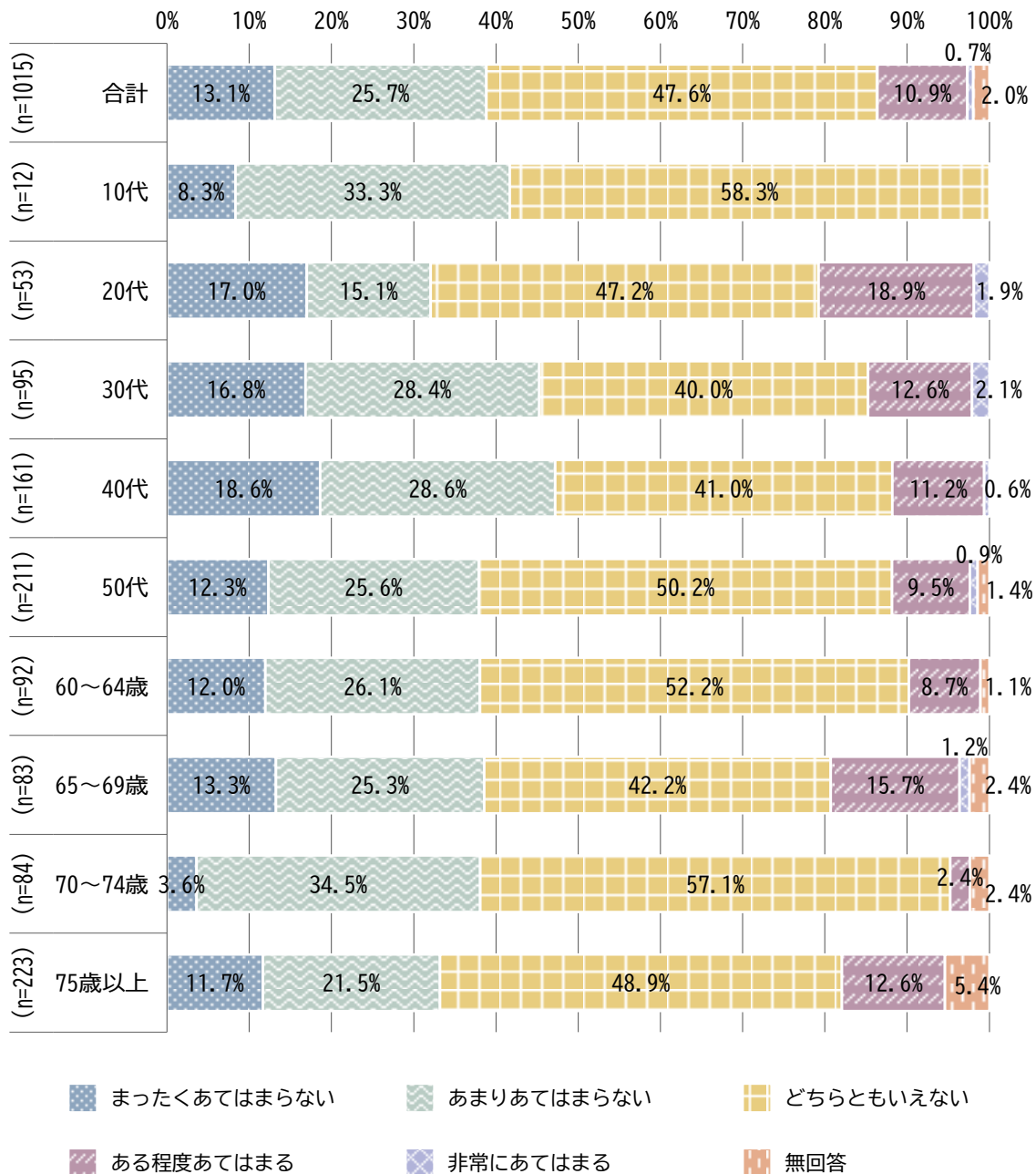


②デジタル生活

Q6-3 行政サービスのデジタル化が進んでいる

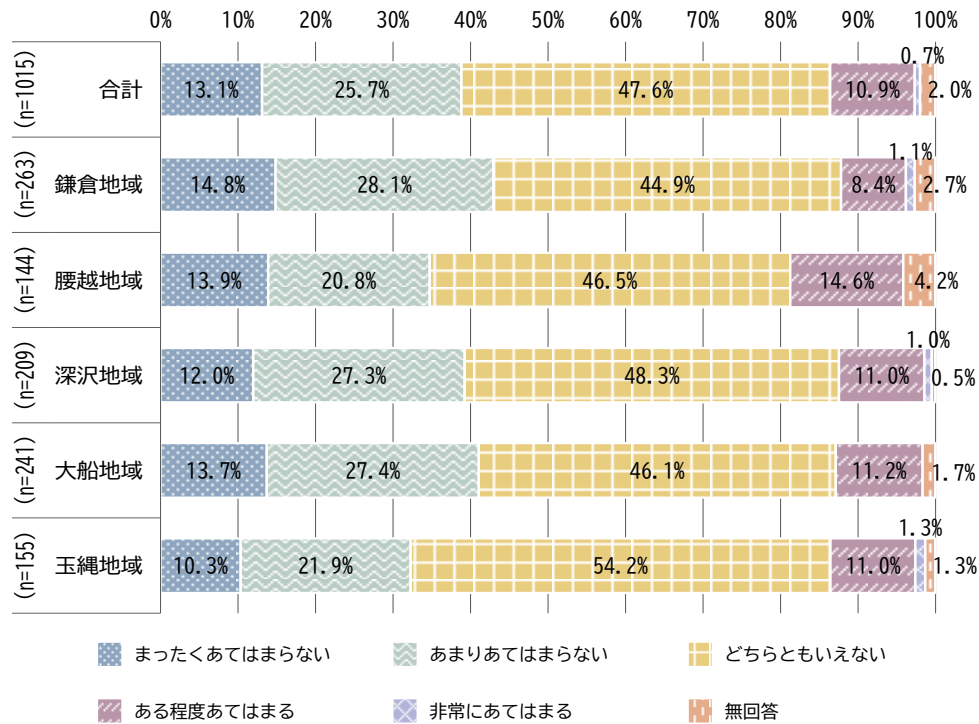
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で高く
なっており、10代と70～74歳で低くなっている。

図表 1-98 行政サービスのデジタル化が進んでいる（年齢別）



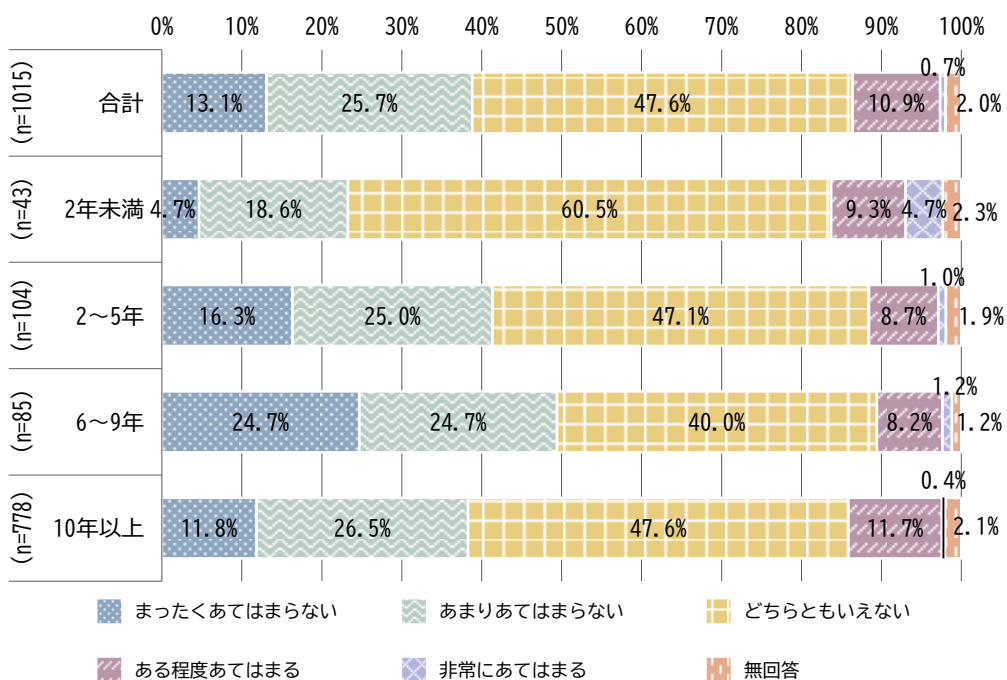
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は、腰越地域で高くなっている。

図表 1-99 行政サービスのデジタル化が進んでいる（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で高くなっており、6～9年で低くなっている。

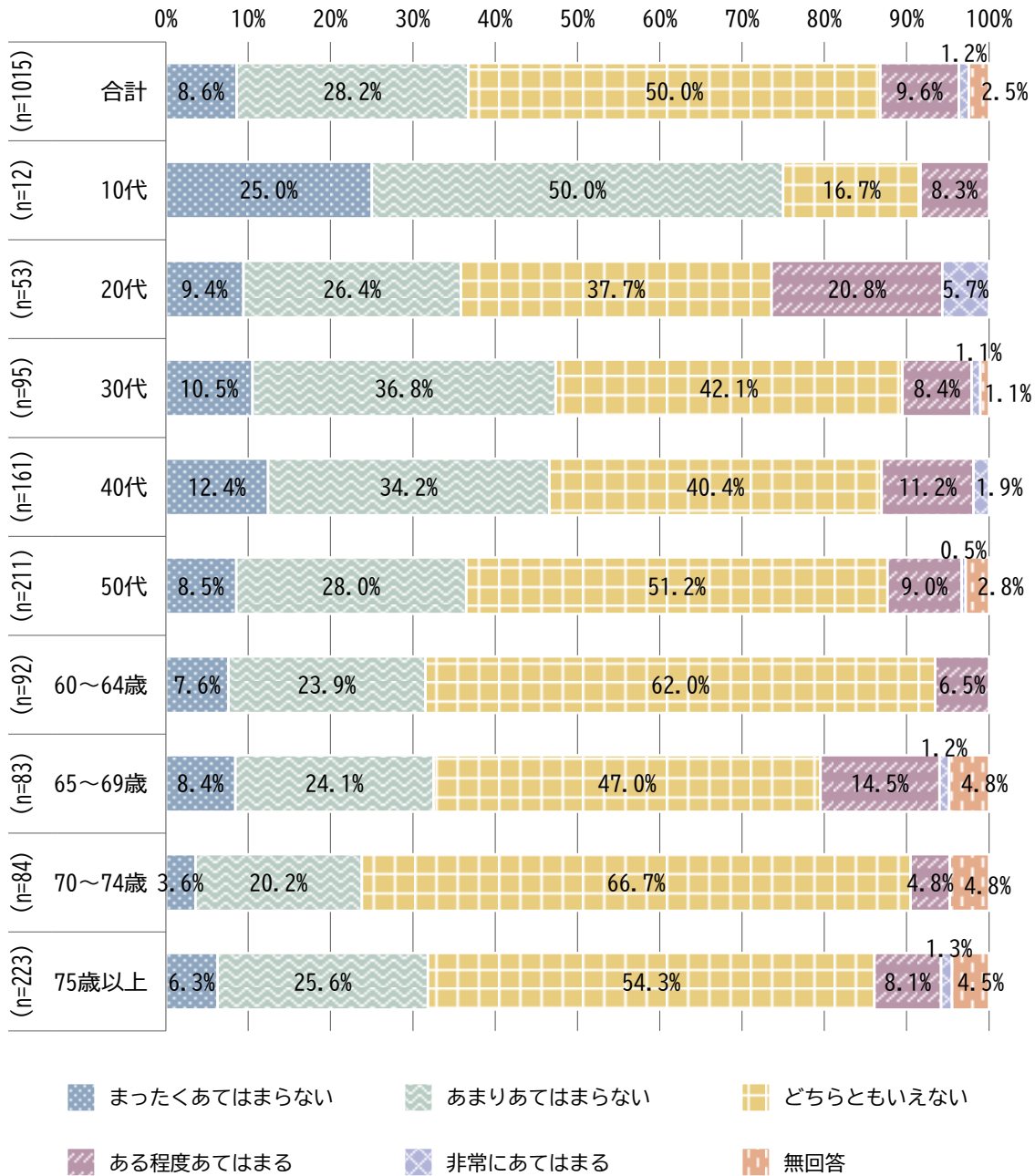
図表 1-100 行政サービスのデジタル化が進んでいる（居住年数別）



Q7-11 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

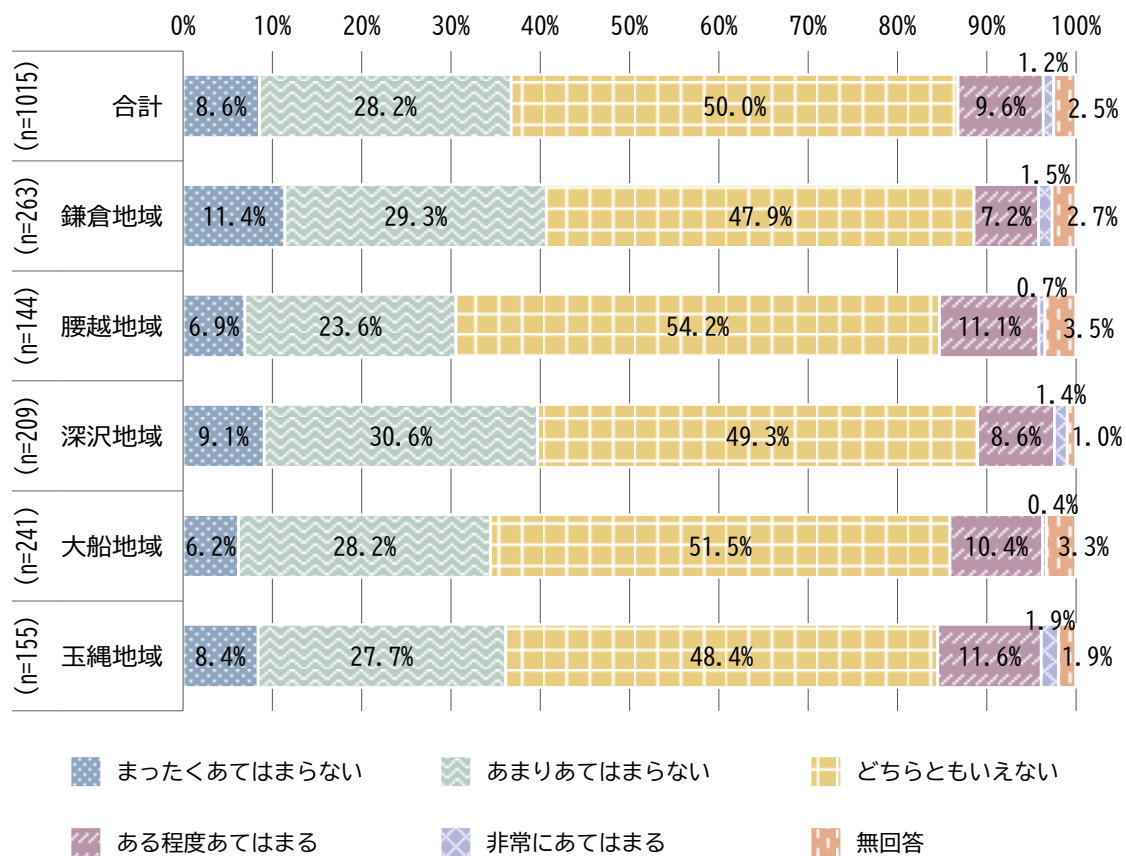
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代が最も高く、次いで65～69歳が高くなっている。

図表 1-101 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい（年齢別）



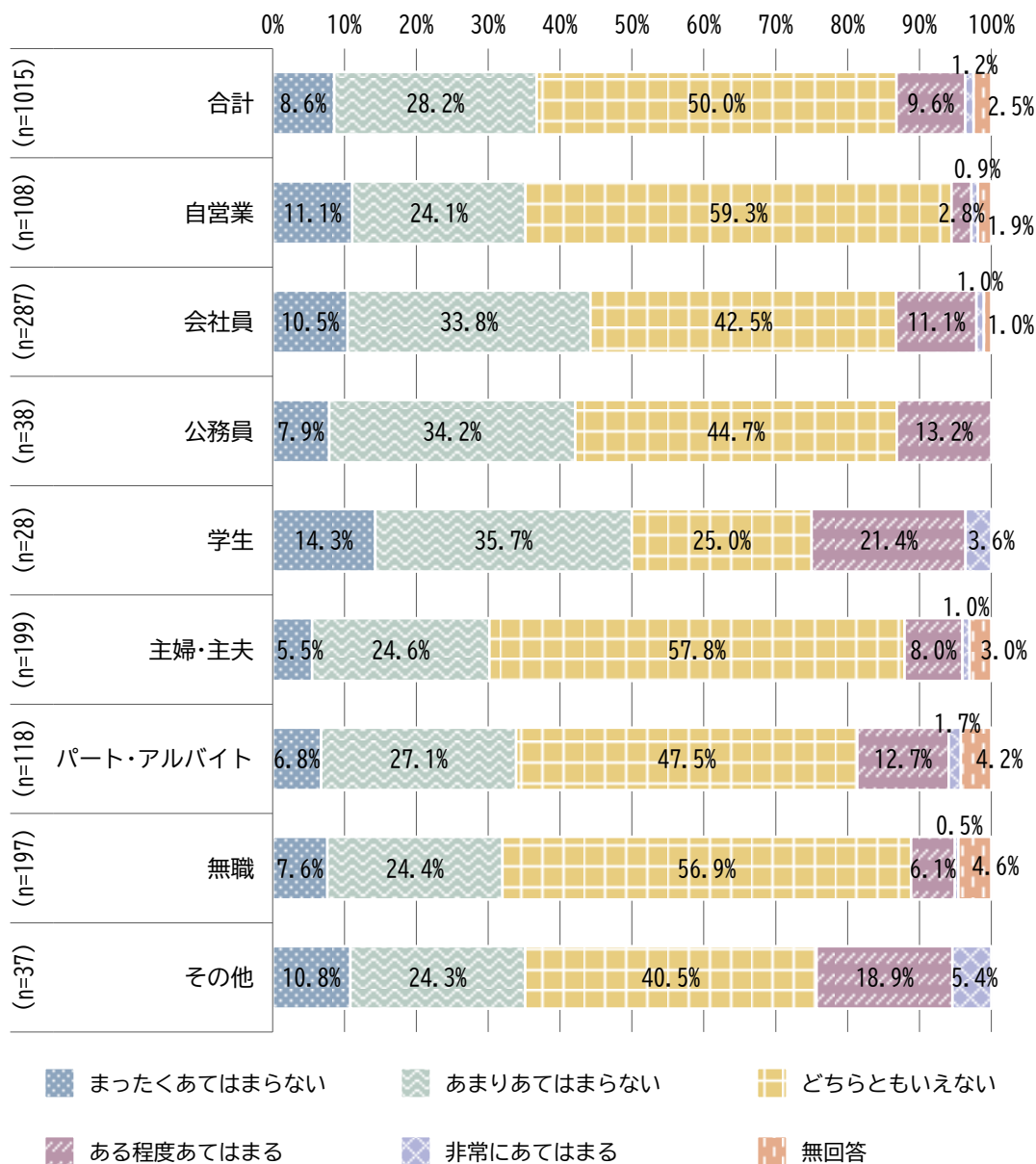
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は玉縄地域でやや高くなっている。

図表 1-102 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい（居住地域別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は学生で高くなっており、自営業で低くなっている。

図表 1-103 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい（職業別）



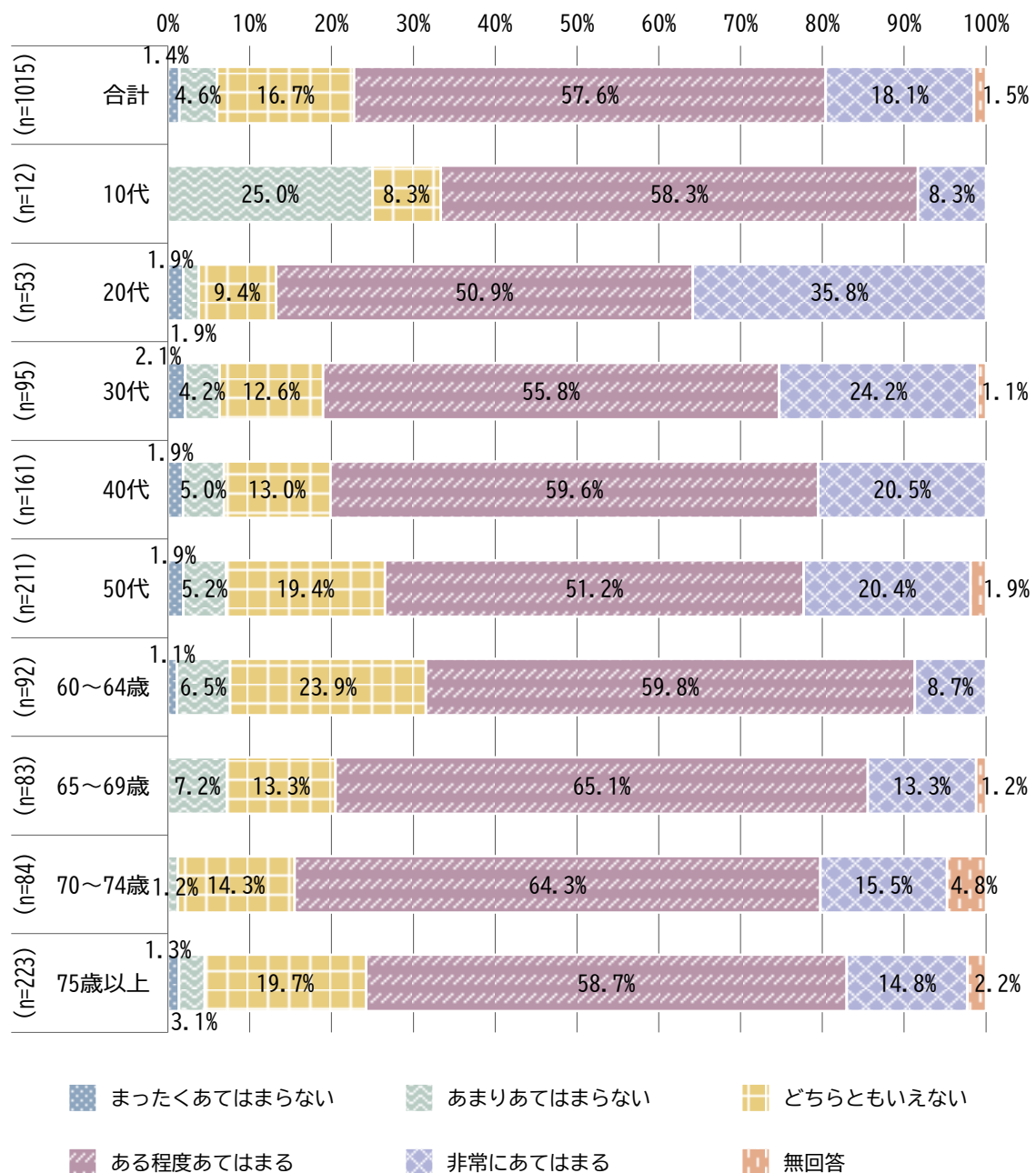
(5) まちなみ、公共空間に関する指標

①公共空間

Q7-1 雰囲気は、自分にとって心地よい

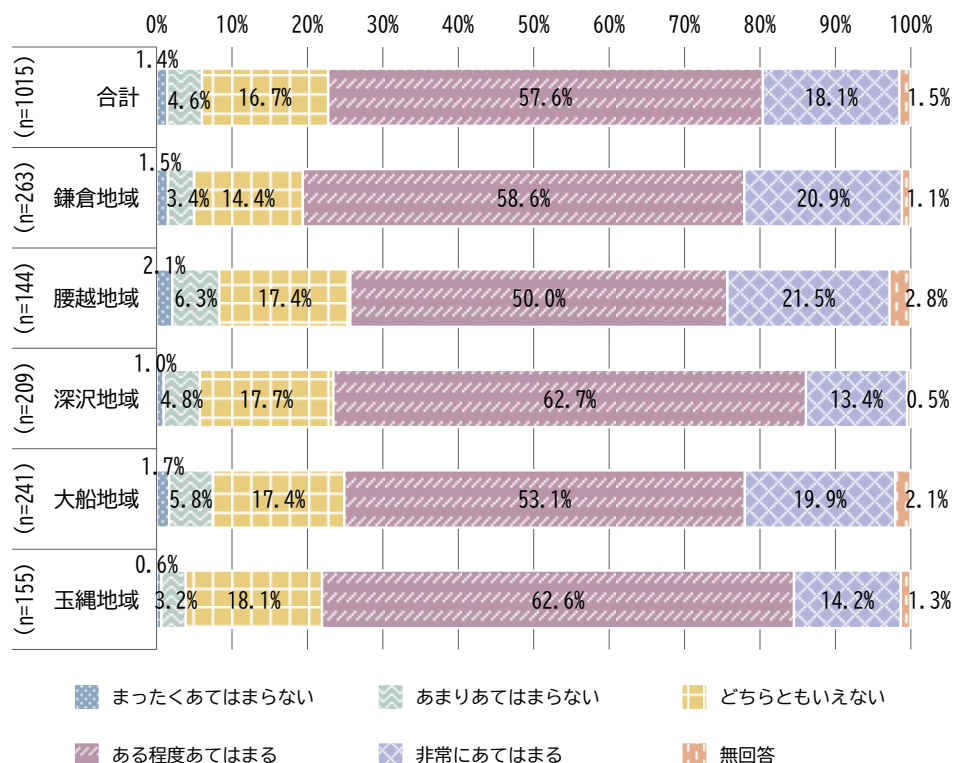
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で高くなっており、10代と50代、60～64歳で低くなっている。

図表 1-104 雰囲気は、自分にとって心地よい（年齢別）



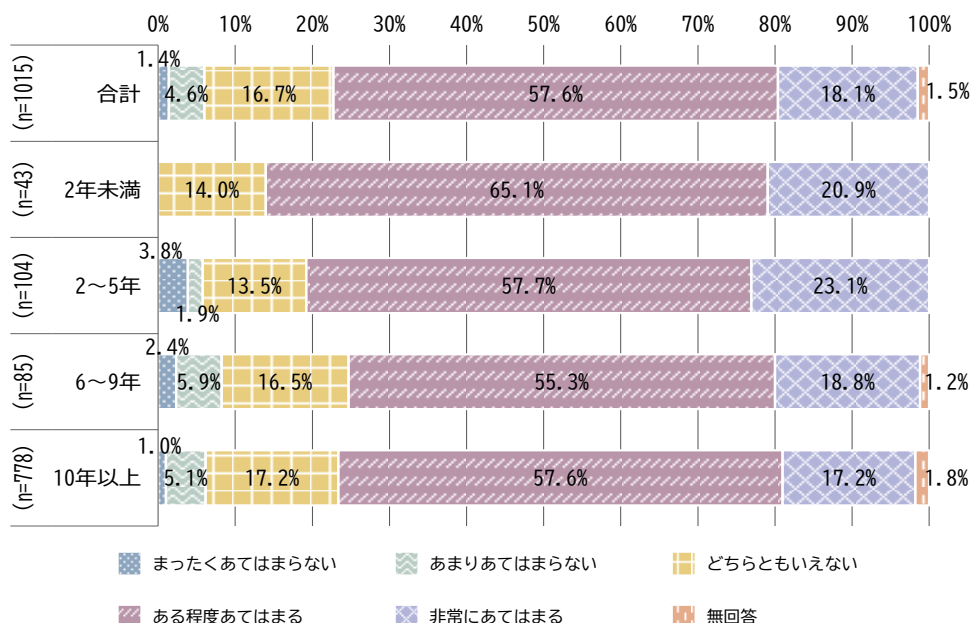
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域でやや高くなっている。

図表 1-105 雰囲気は、自分にとって心地よい（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満が最も高く、次いで2～5年となっている。

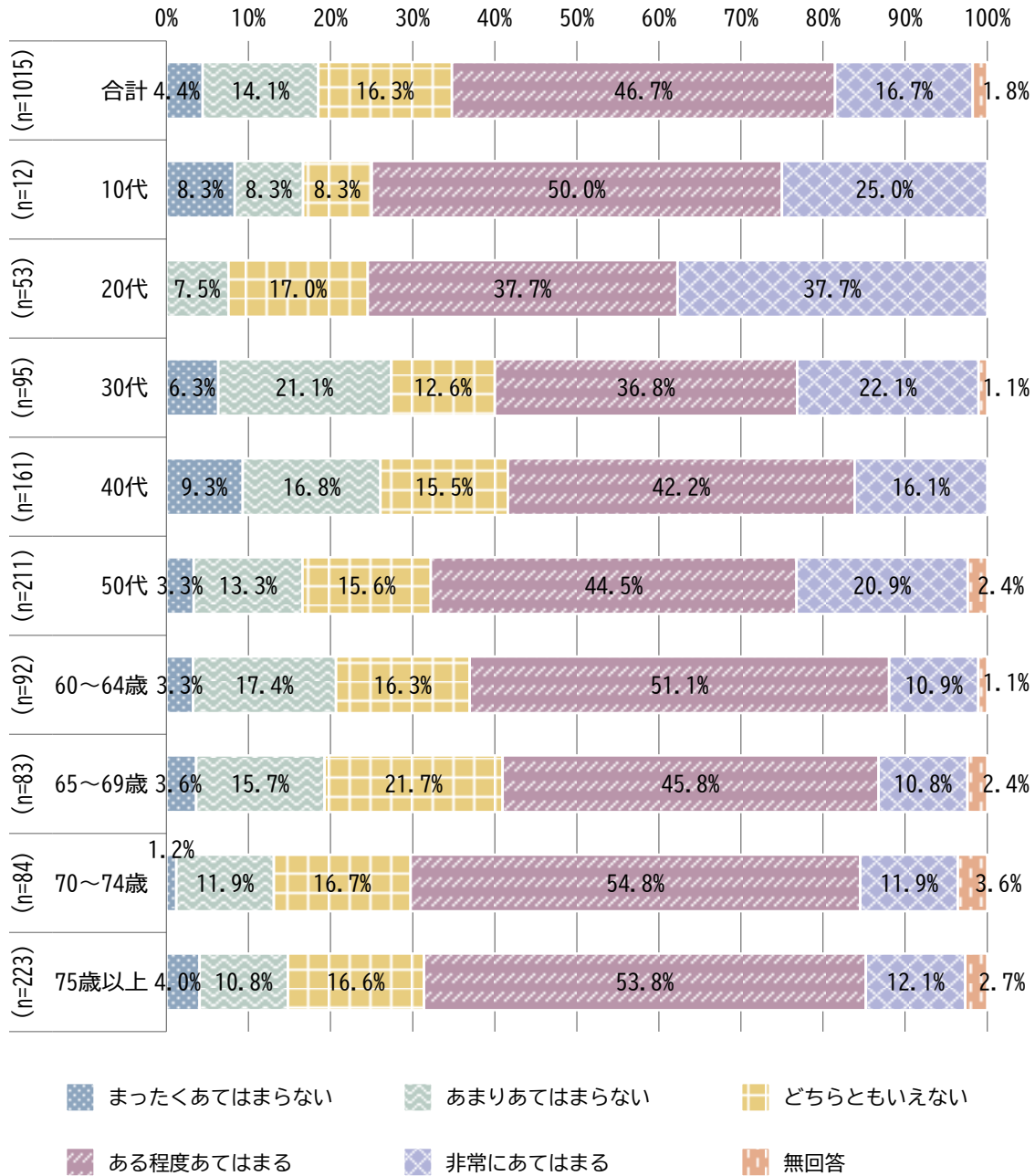
図表 1-106 雰囲気は、自分にとって心地よい（居住年数別）



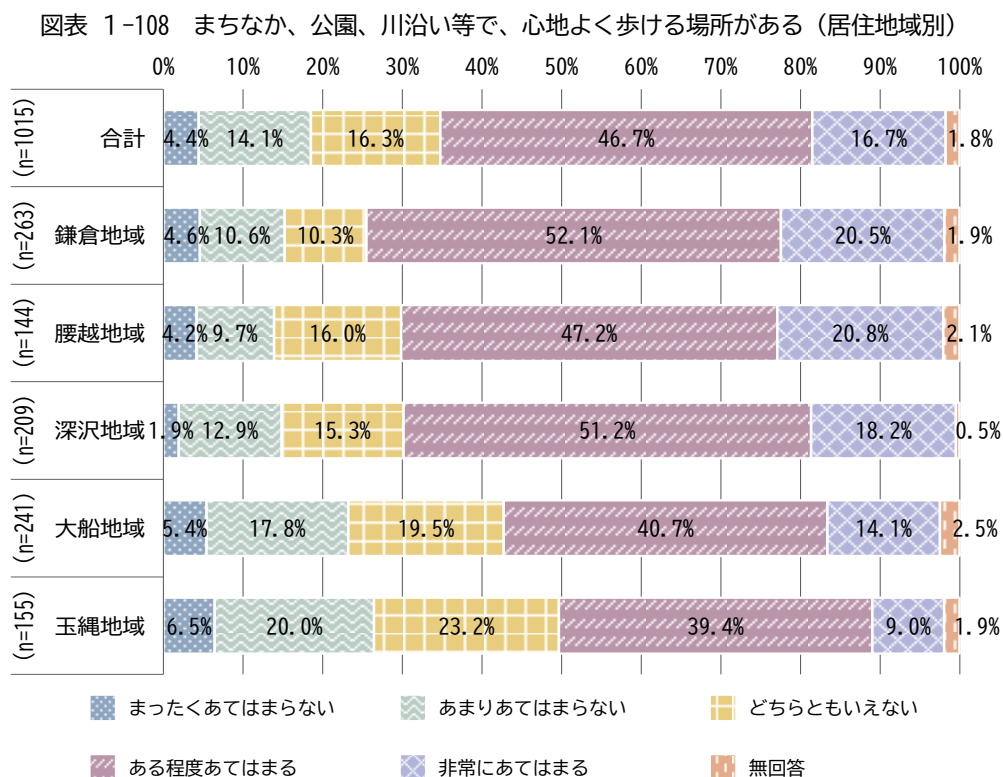
Q7-2 まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代で高くなっており、30～40代と65～69歳で低くなっている。

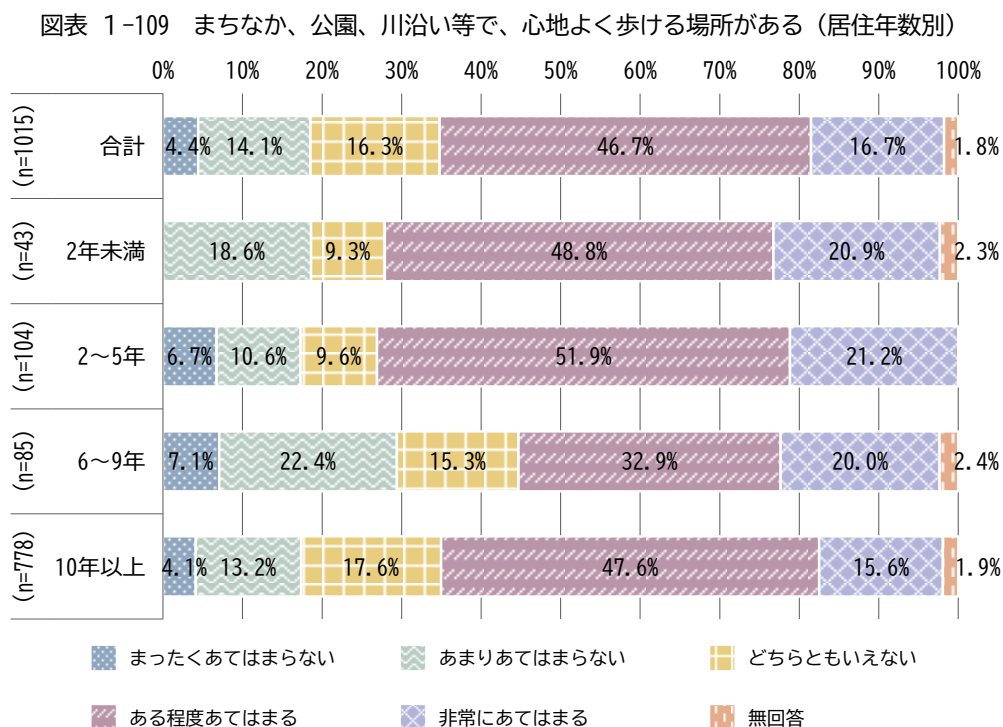
図表 1-107 まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域で高くなっており、大船地域、玉縄地域で低くなっている。

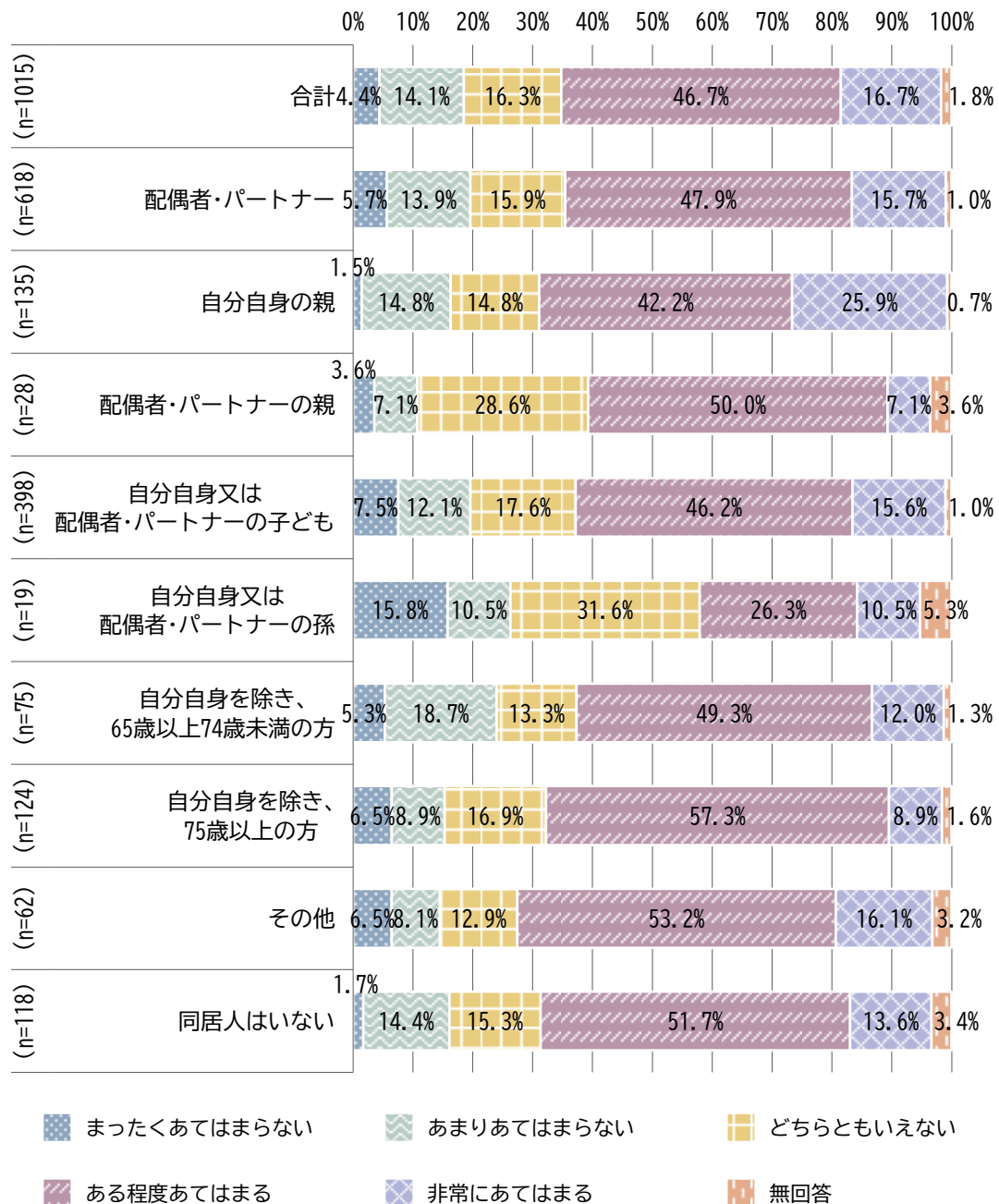


居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満と2～5年で高くなっており、6～9年で低くなっている。



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身の親と同居しているケースでやや高く、自分自身又は配偶者・パートナーの孫と同居しているケースで低くなっている。

図表 1-110 まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある（同居家族別）

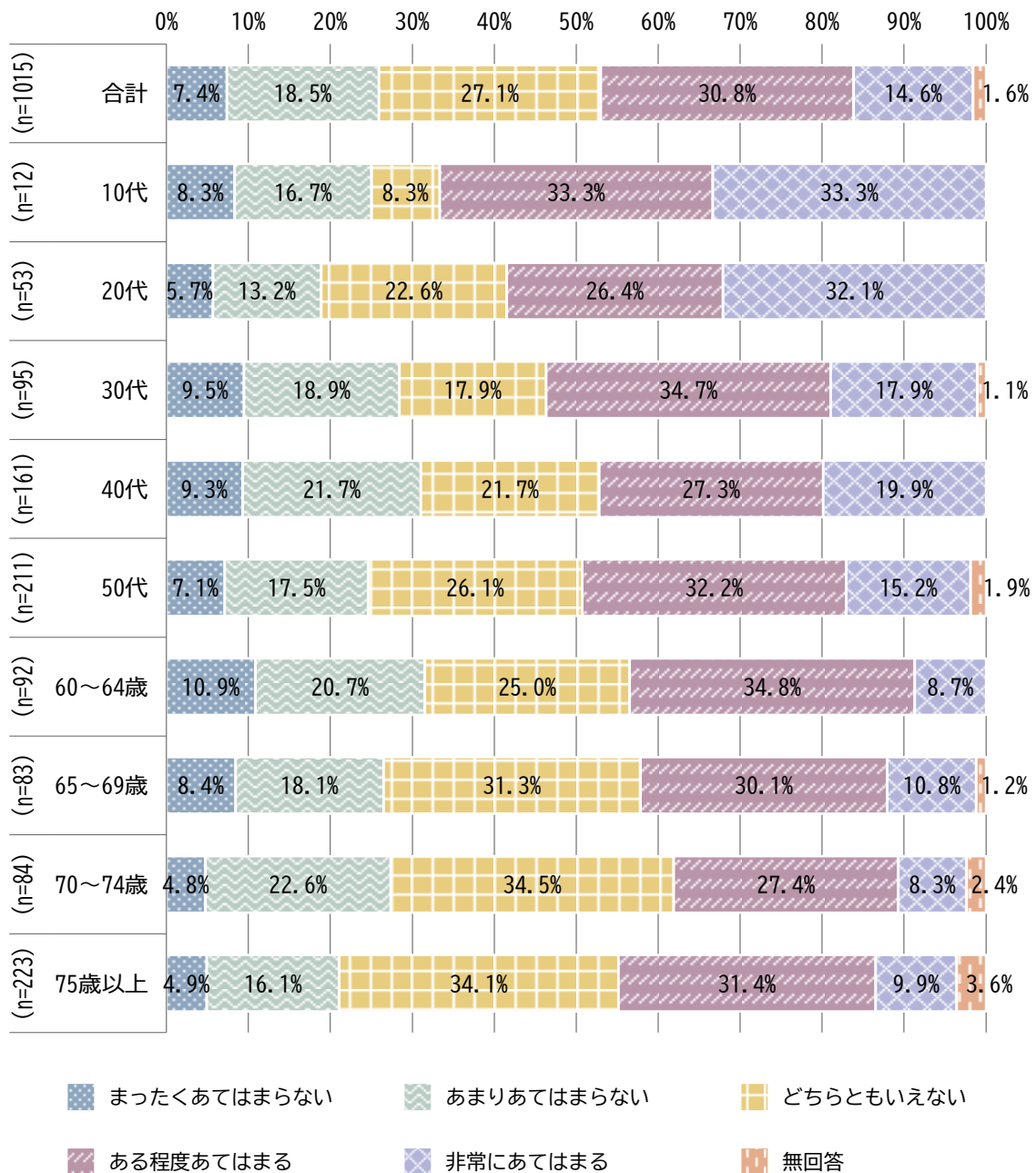


②都市景観

Q7-3 自慢できる都市景観がある

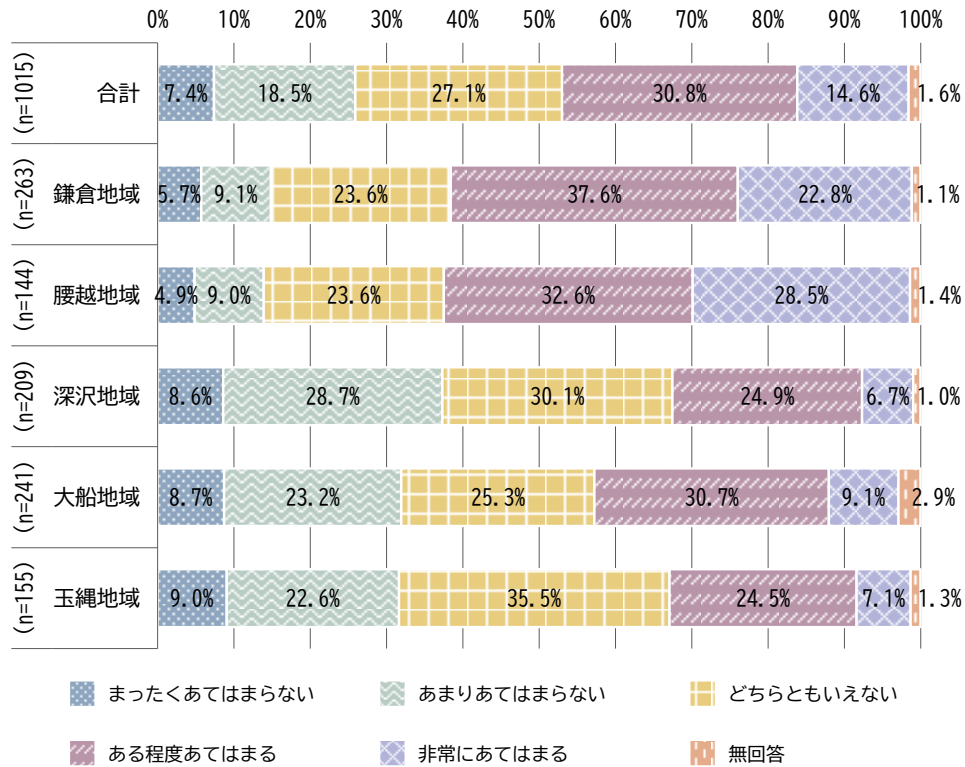
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の割合は10～20代で最も高くなっており、年代が上がるにしたがって低くなる傾向がある。

図表 1-111 自慢できる都市景観がある（年齢別）



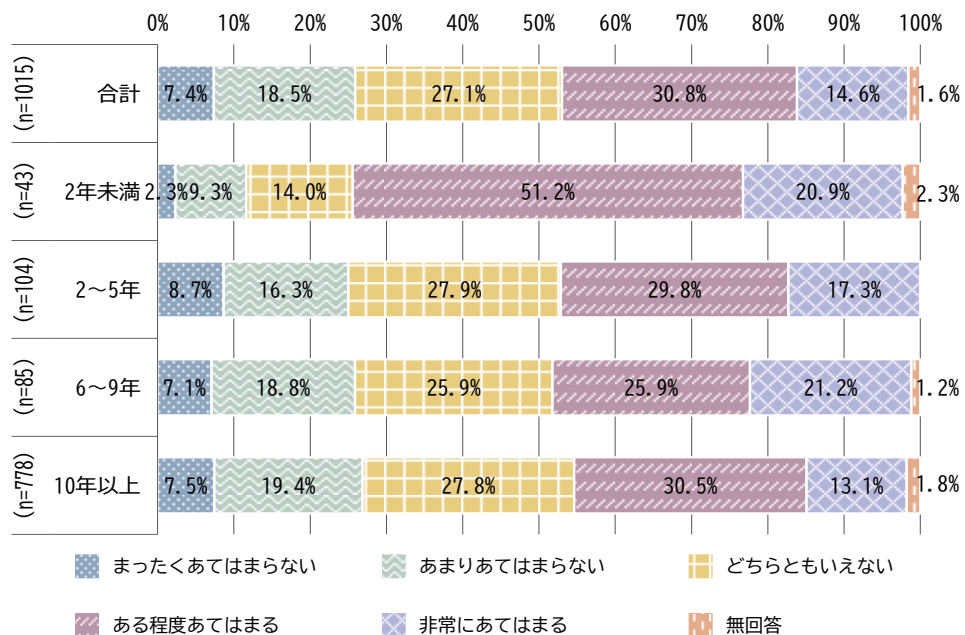
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の割合は鎌倉地域と腰越地域で高くなっており、深沢地域、玉縄地域で低くなっている。

図表 1-112 自慢できる都市景観がある（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で特に高くなっている。

図表 1-113 自慢できる都市景観がある（居住年数別）

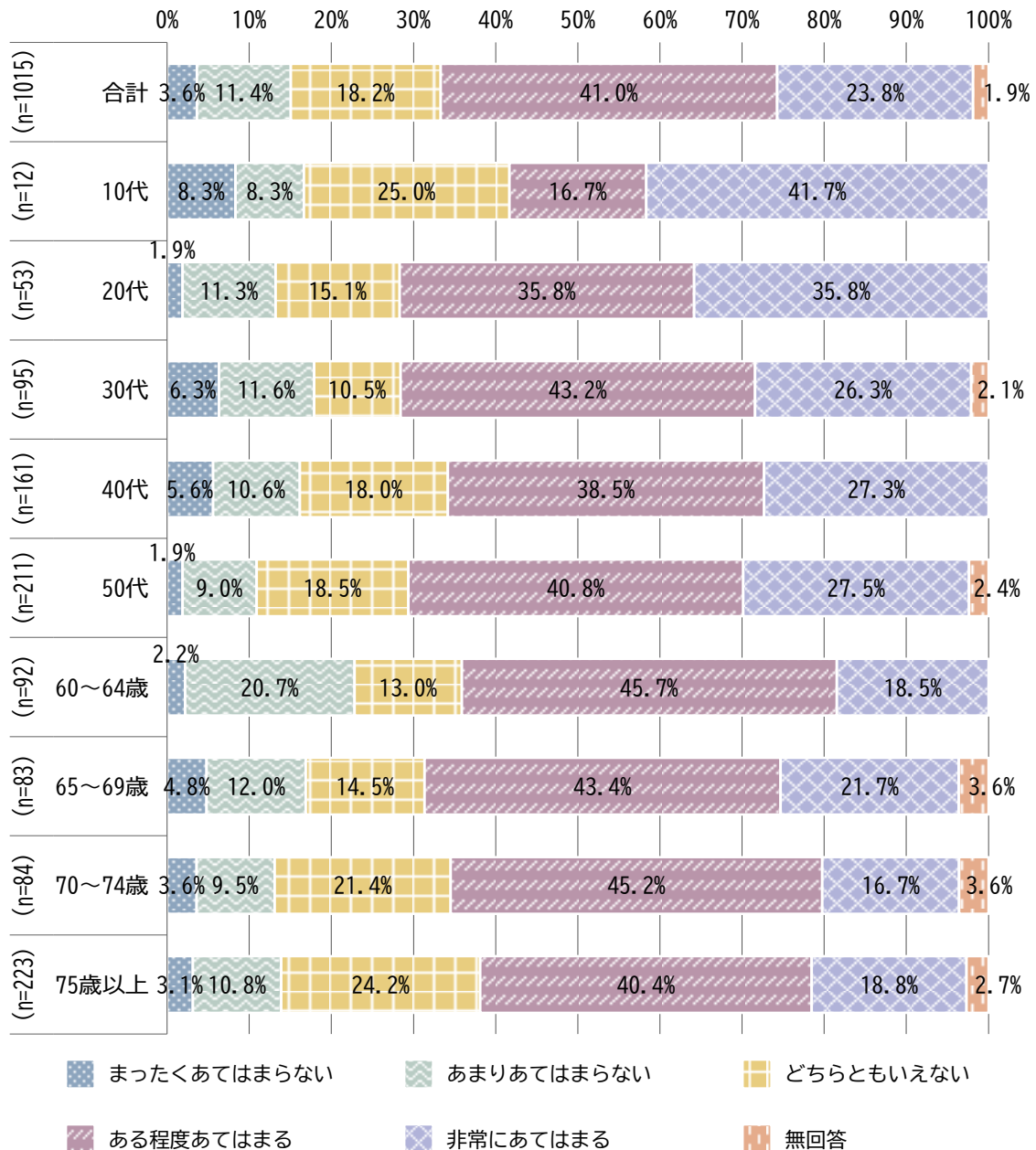


③自然景観

Q7-4 自慢できる自然景観がある

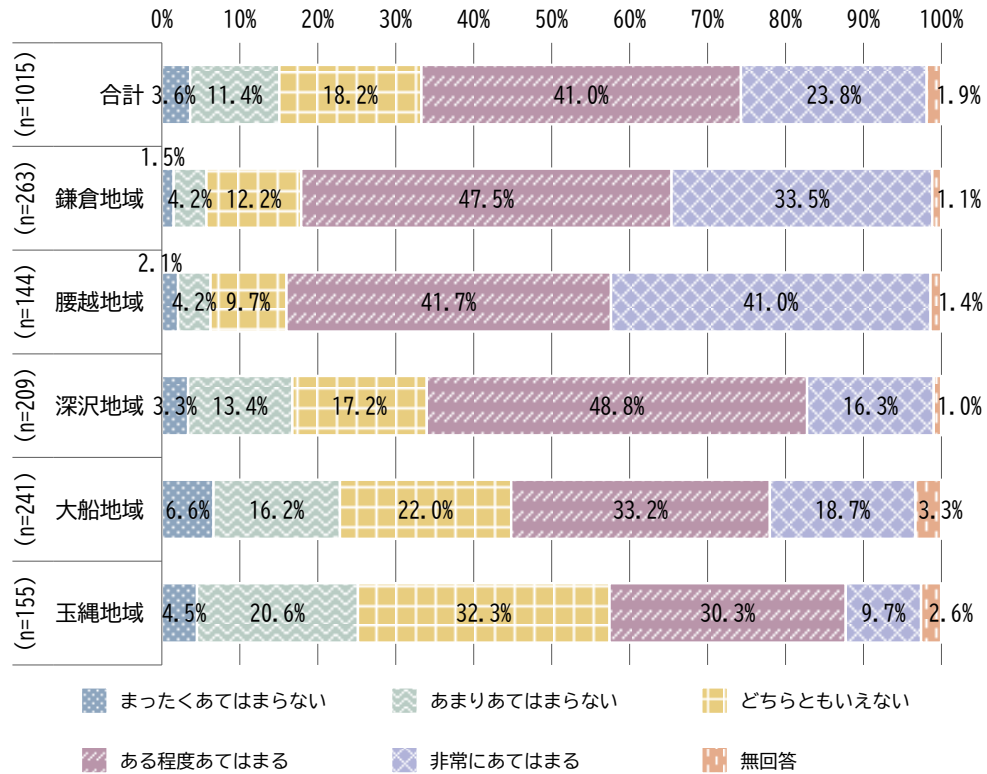
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代と75歳以上でやや低くなっている。

図表 1-114 自慢できる自然景観がある（年齢別）



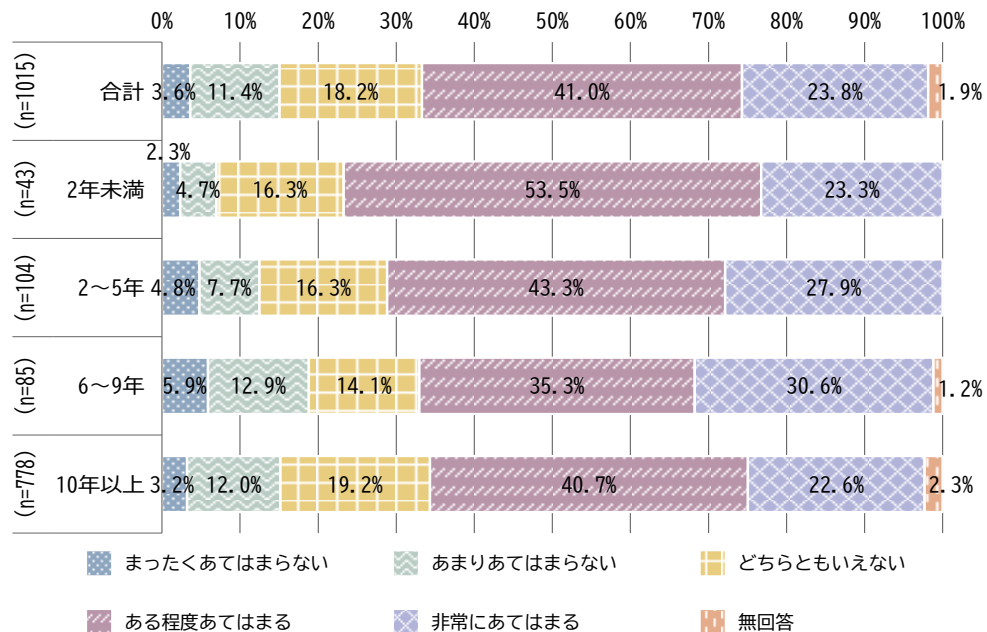
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域、腰越地域で高くなっており、大船地域、玉縄地域で低くなっている。

図表 1-115 自慢できる自然景観がある（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で最も高くなっており、居住年数が長くなるほど割合が低くなっている。

図表 1-116 自慢できる自然景観がある（居住年数別）

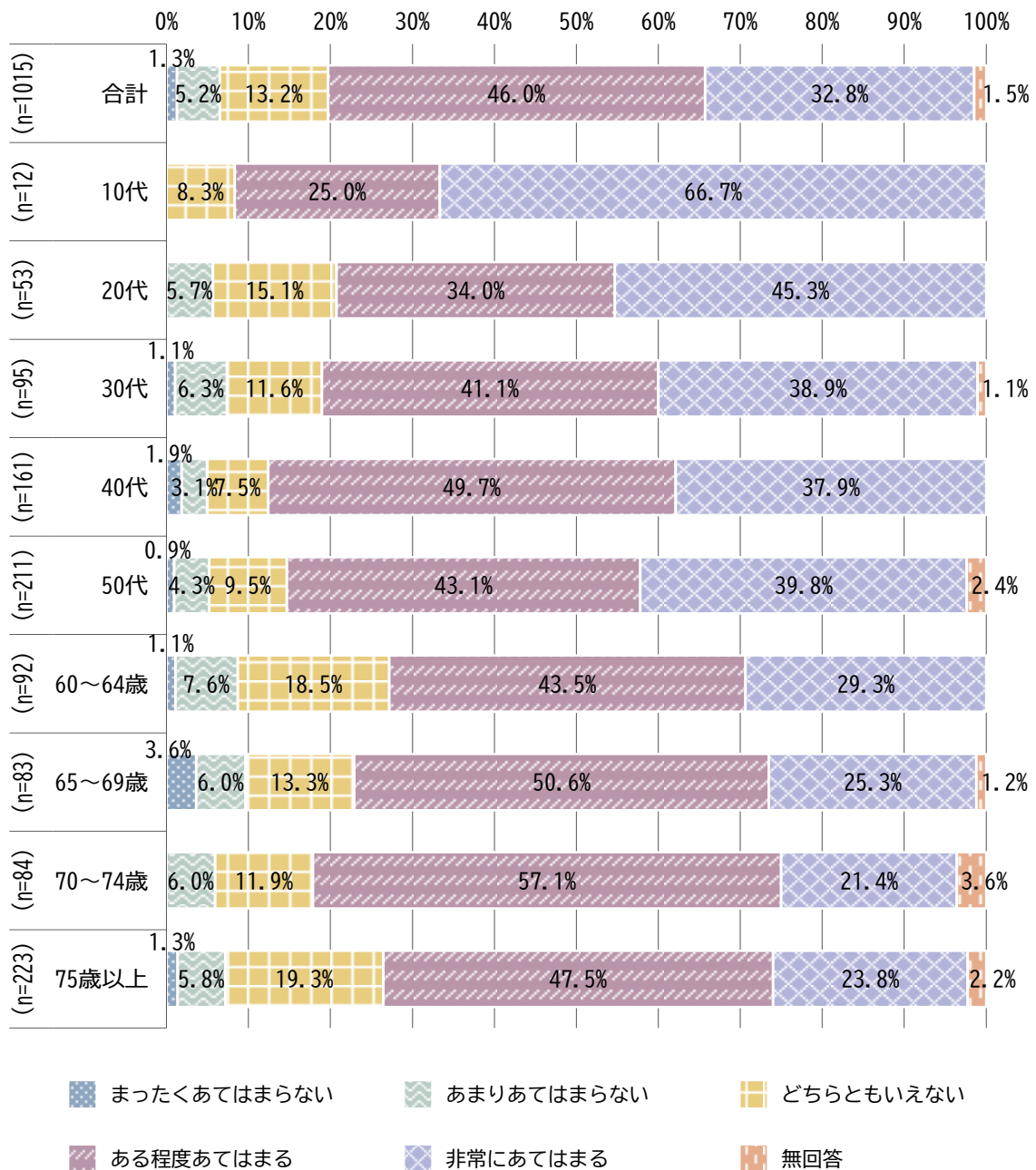


④自然の恵み

Q7-5 身近に自然を感じることができる

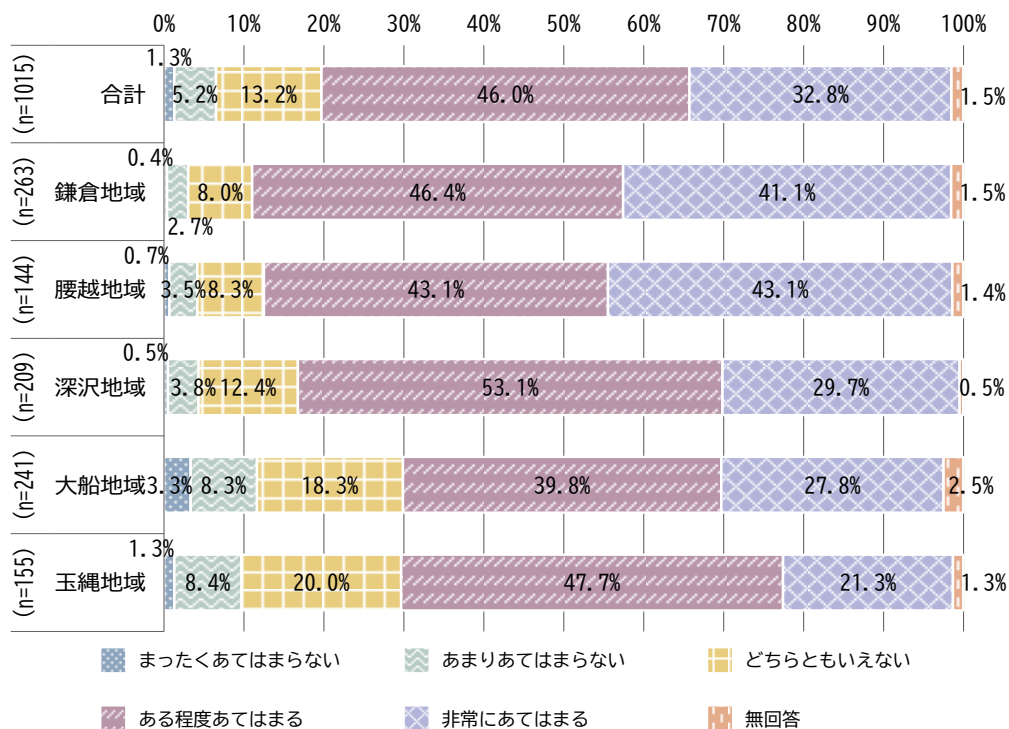
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代と40代、50代で高くなっている。

図表 1-117 身近に自然を感じることができる（年齢別）



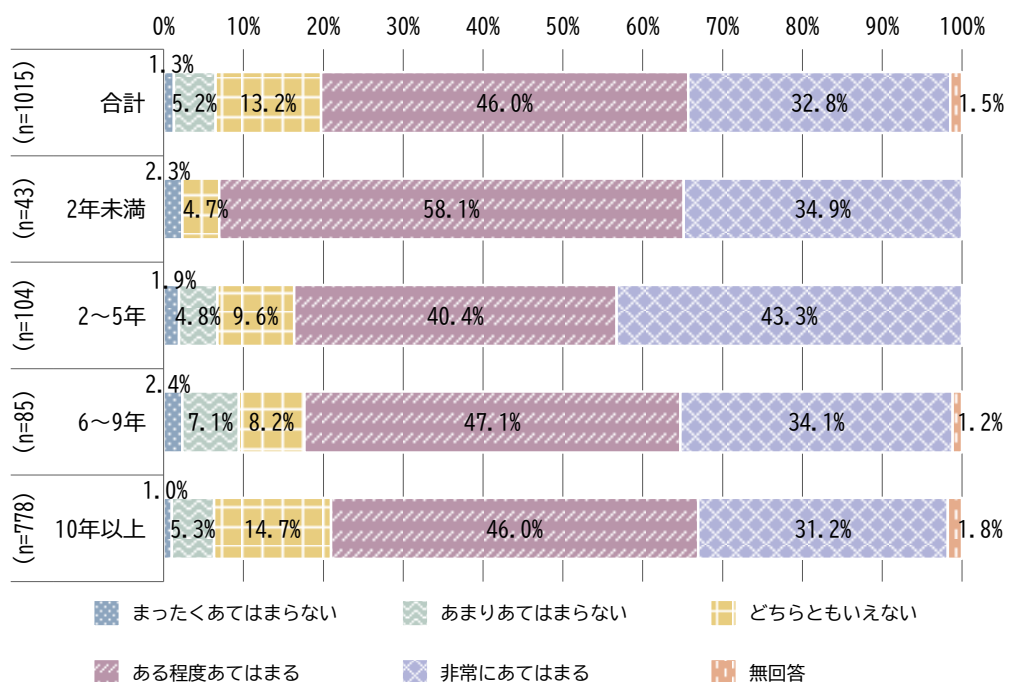
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域と腰越地域で高くなっており、大船地域と玉縄地域で低くなっている。

図表 1-118 身近に自然を感じることができる（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で高くなっている。

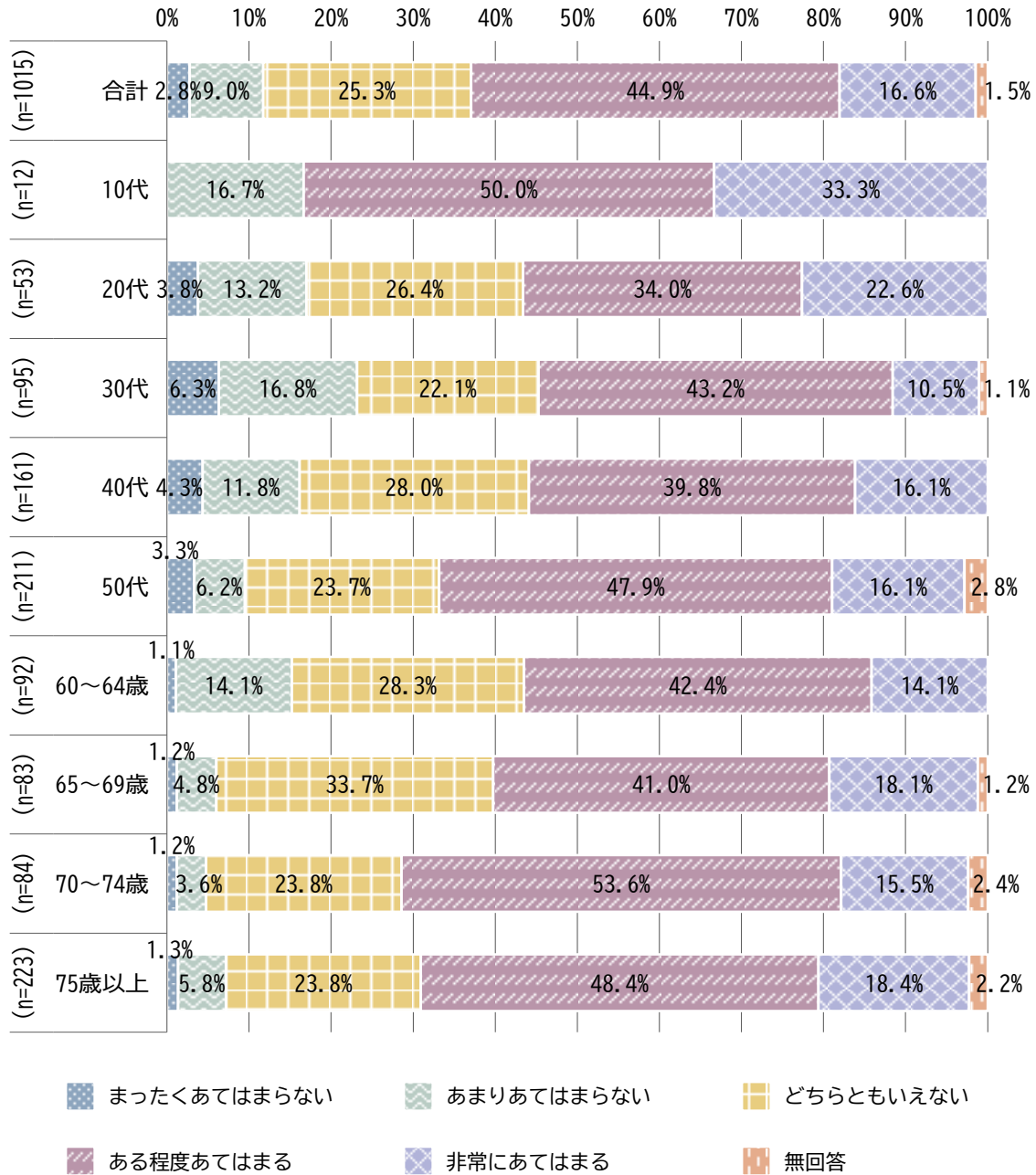
図表 1-119 身近に自然を感じることができる（居住年数別）



Q7-6 空気や水は澄んでいてきれいだと感じる

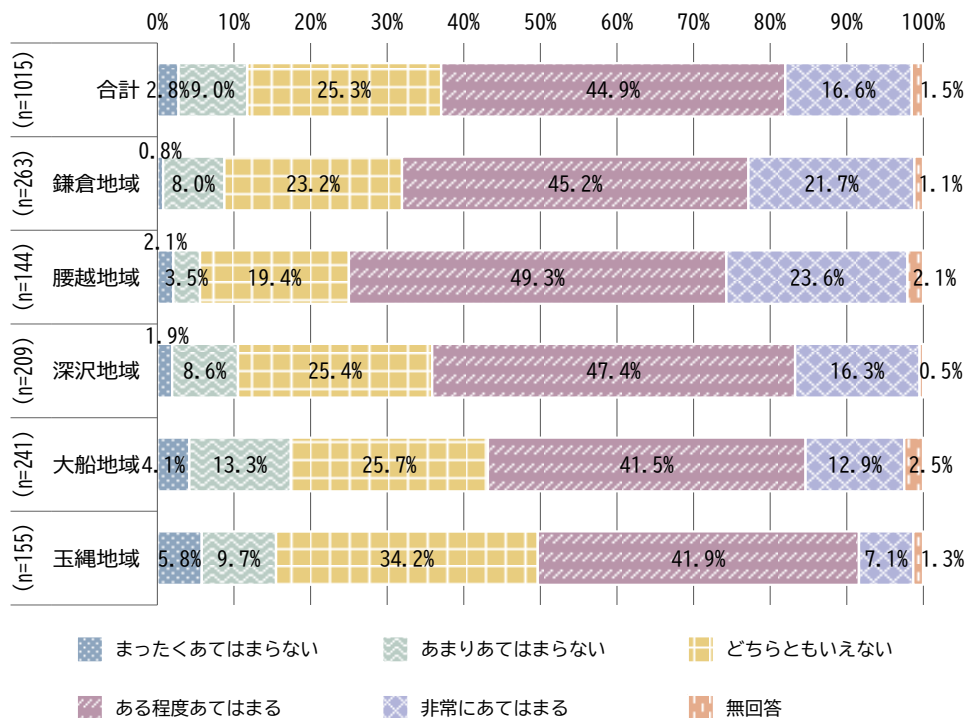
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代で最も高く、次いで70～74歳、75歳以上となっている。

図表 1-120 空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（年齢別）



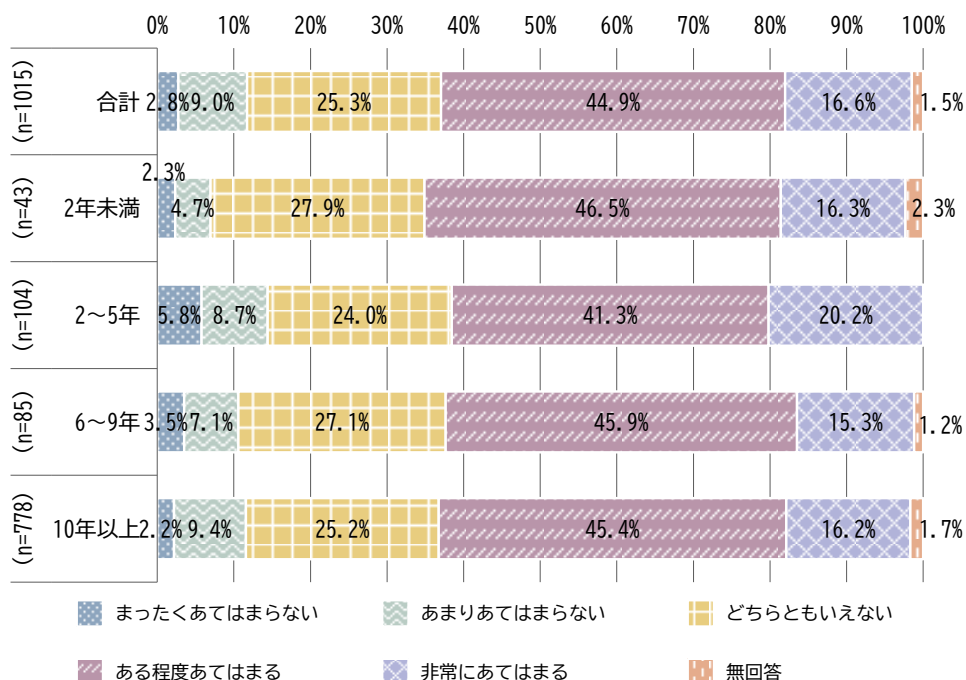
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域で高くなっており、大船地域と玉縄地域で低くなっている。

図表 1-121 空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数の長さによって特段の較差はみられない。

図表 1-122 空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（居住年数別）

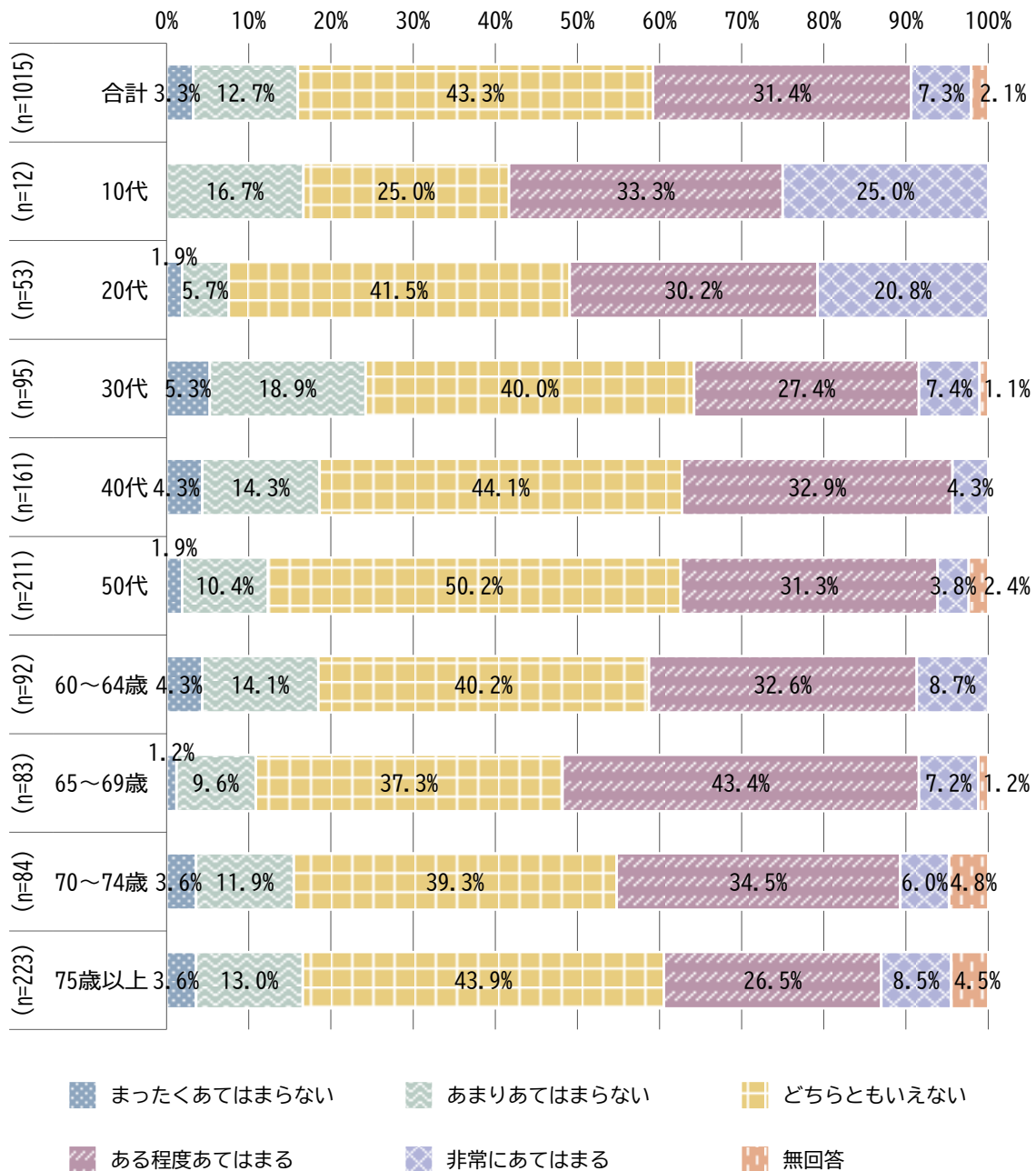


⑤環境共生

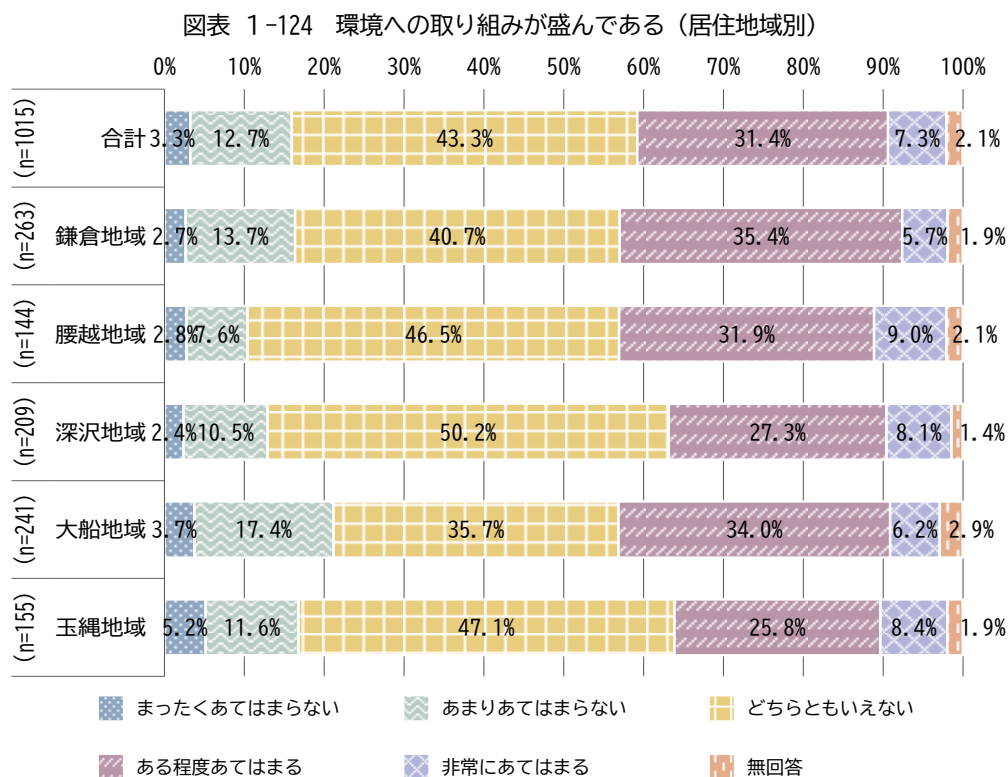
Q7-7 環境への取り組みが盛んである

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代と65～69歳で高くなっている。

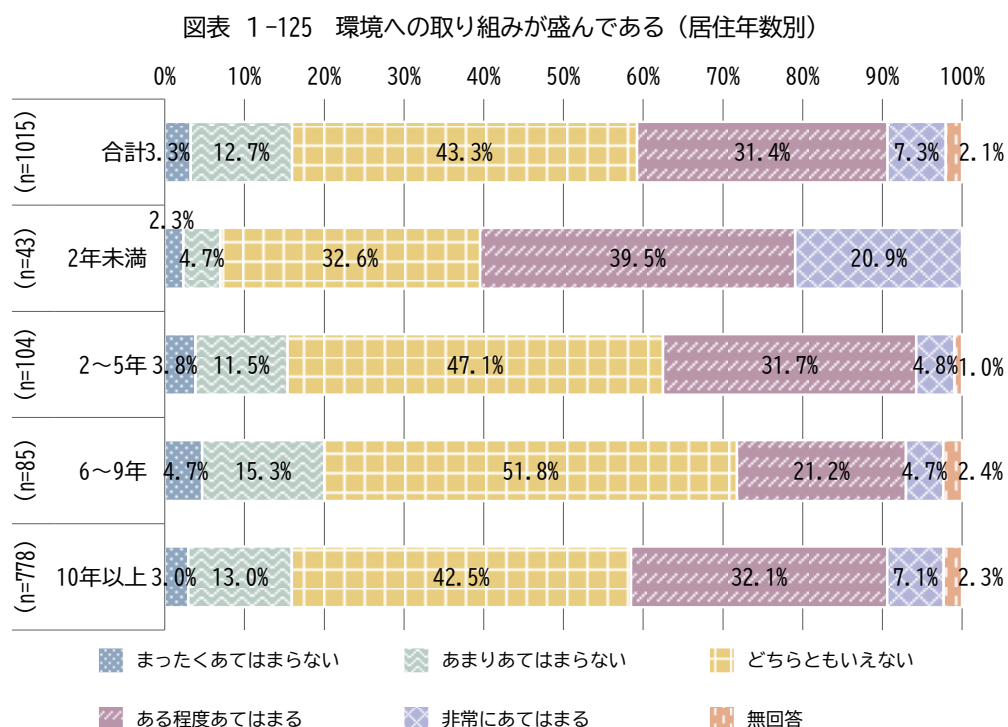
図表 1-123 環境への取り組みが盛んである（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は深沢地域と玉縄地域でやや低くなっているものの、地域間で特段の較差はみられない。



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で高く、6～9年で低くなっている。

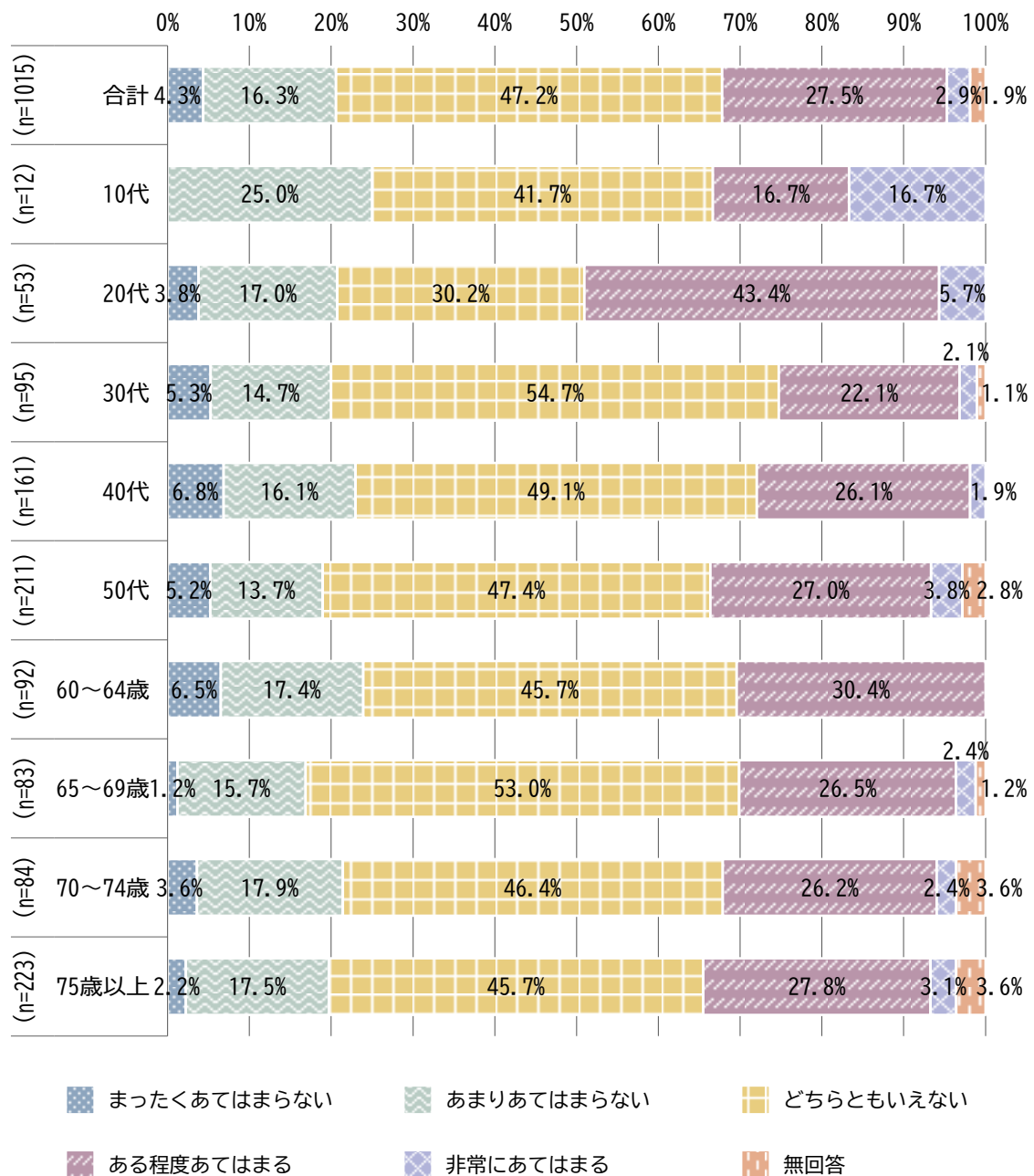


⑥自然災害

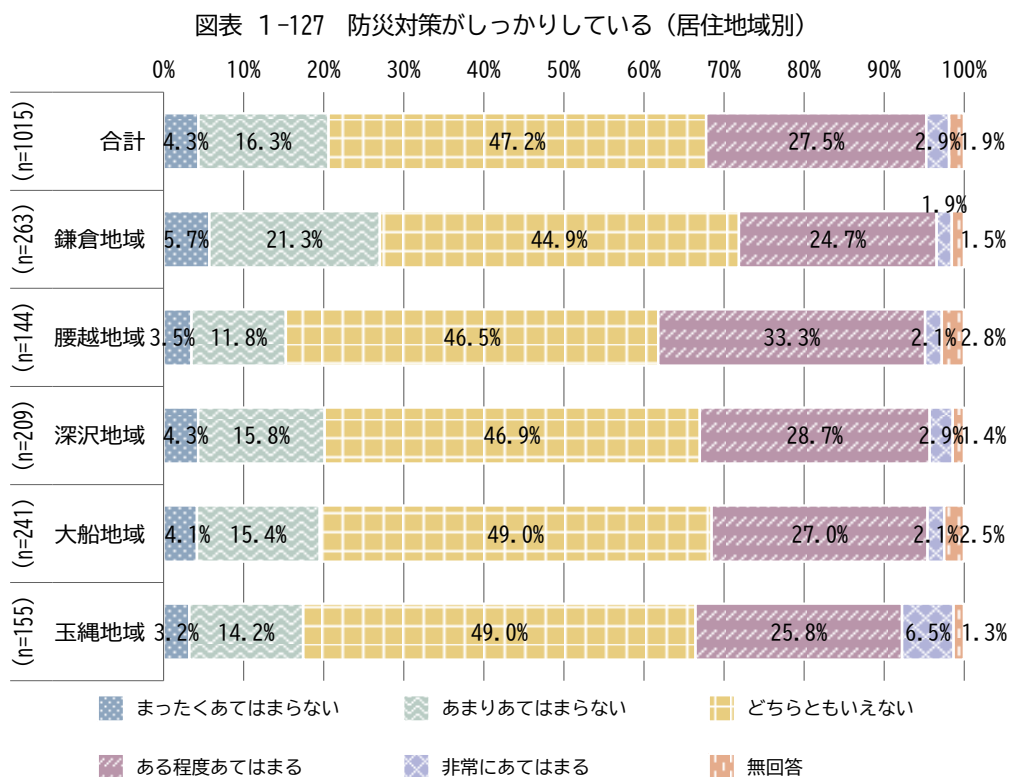
Q7-8 防災対策がしっかりしている

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で特に高くなっている。

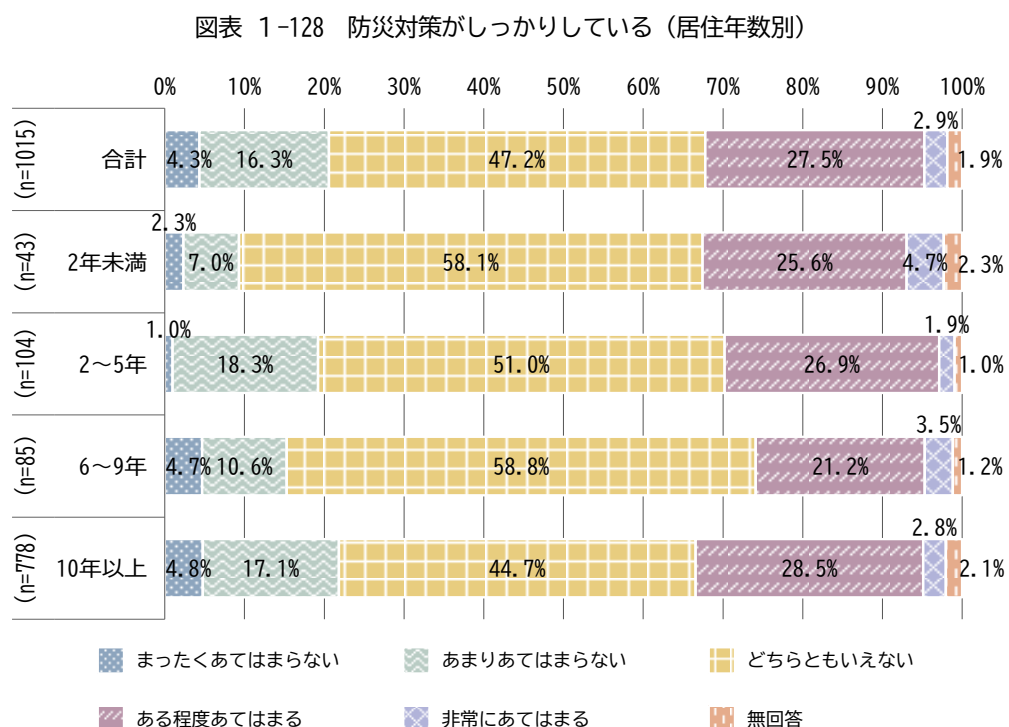
図表 1-126 防災対策がしっかりしている（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域でやや高くなっている。

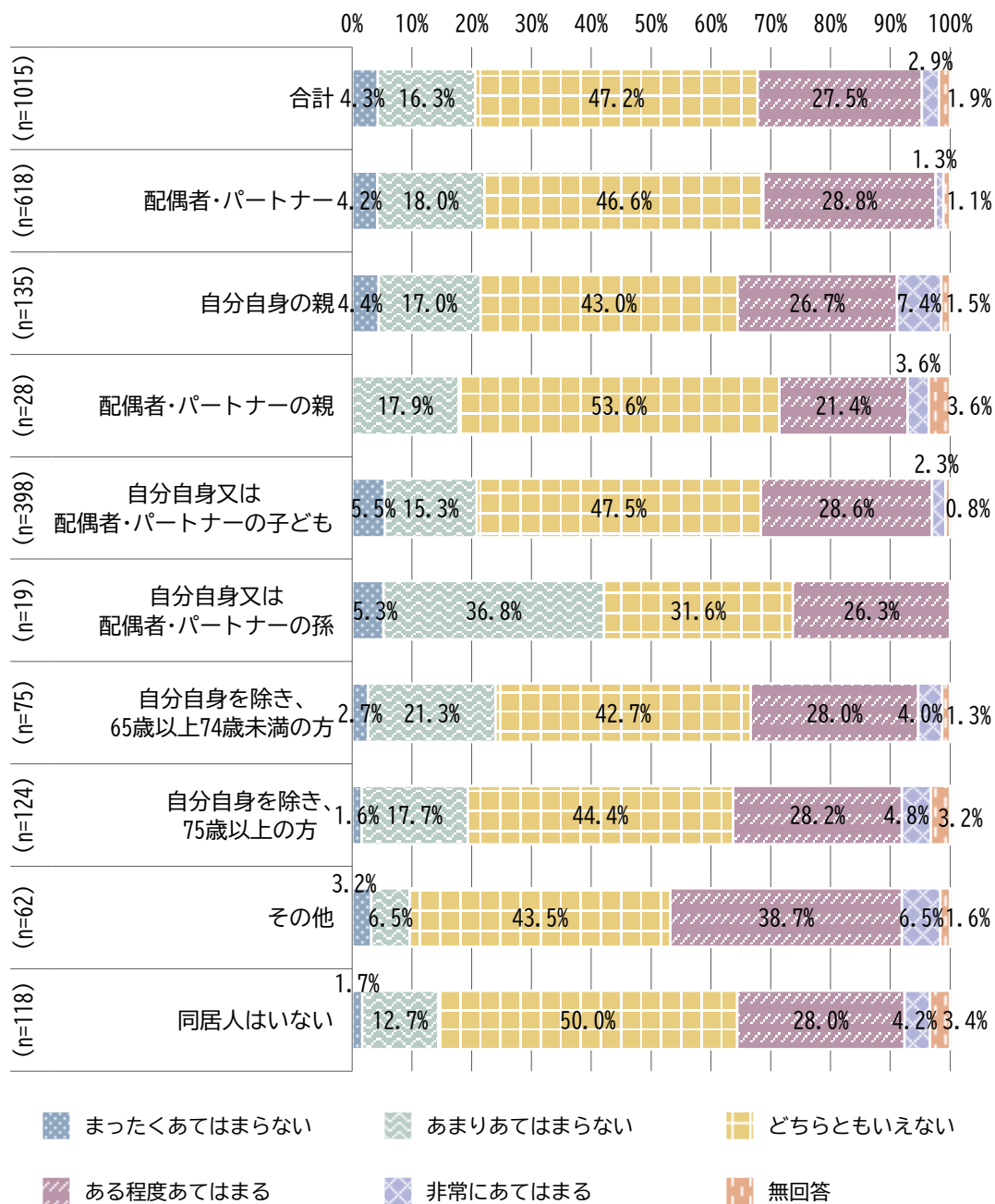


居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数6～9年でやや低くなっている。



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は配偶者・パートナーの親、自分自身又は配偶者・パートナーの孫と同居しているケースで低くなっているものの、同居家族によって特段の格差はみられない。

図表 1-129 防災対策がしっかりしている（同居家族別）

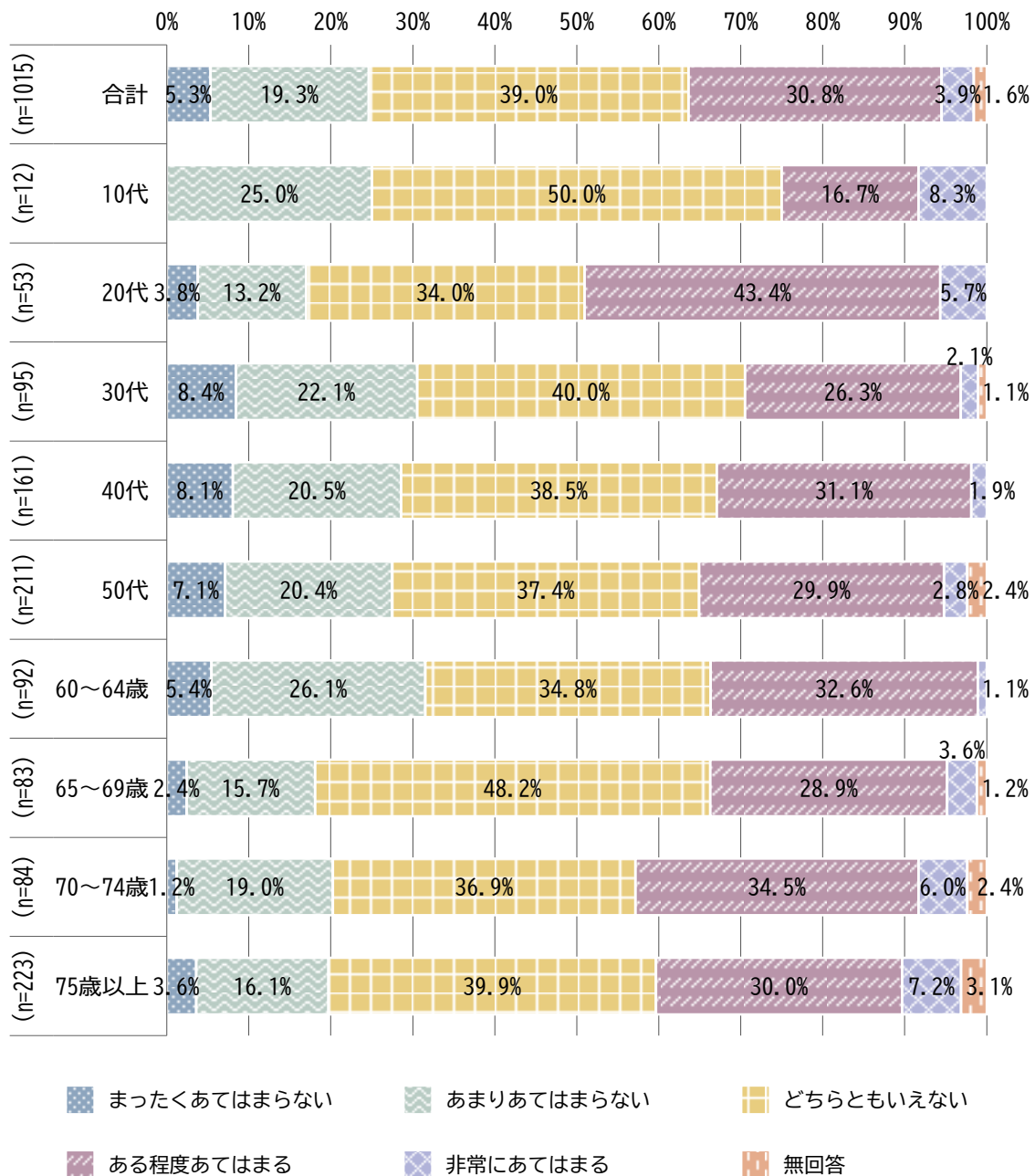


⑦事故・犯罪

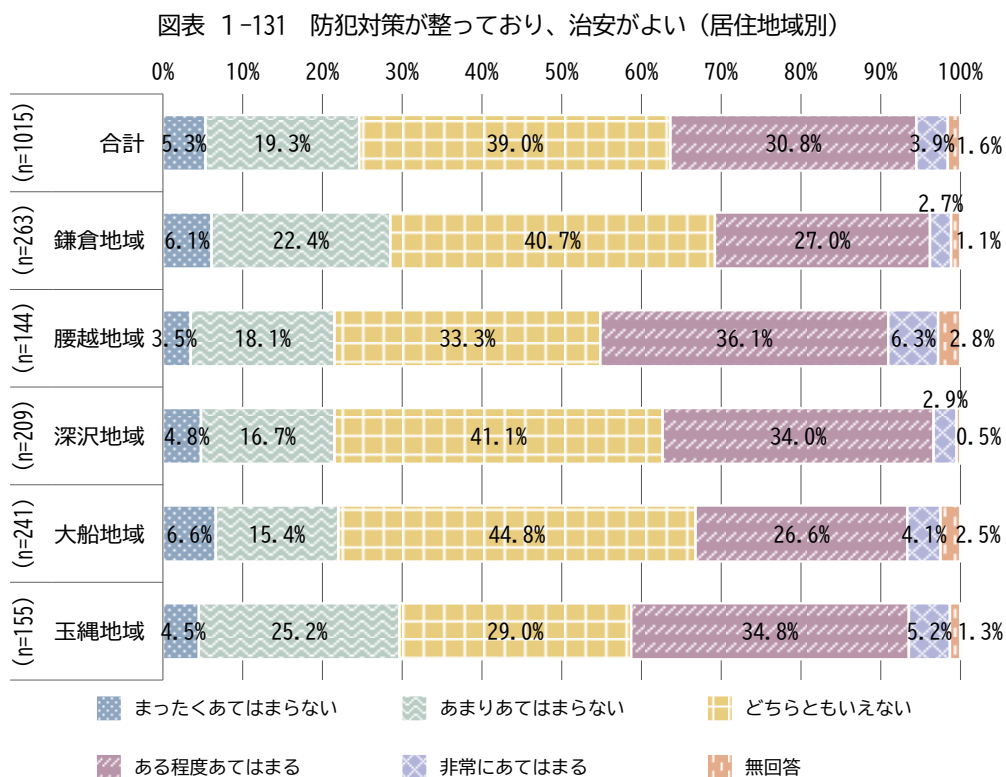
Q7-9 防犯対策が整っており、治安がよい

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で高くなっている。

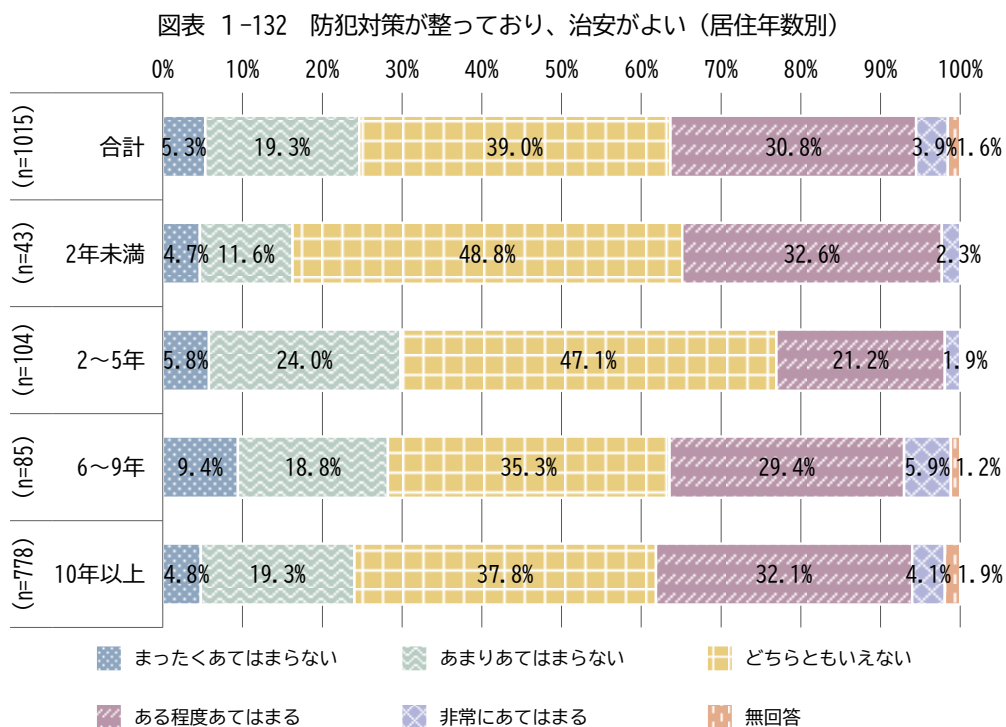
図表 1-130 防犯対策が整っており、治安がよい（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域で最も高く、次いで玉縄地域となっている。

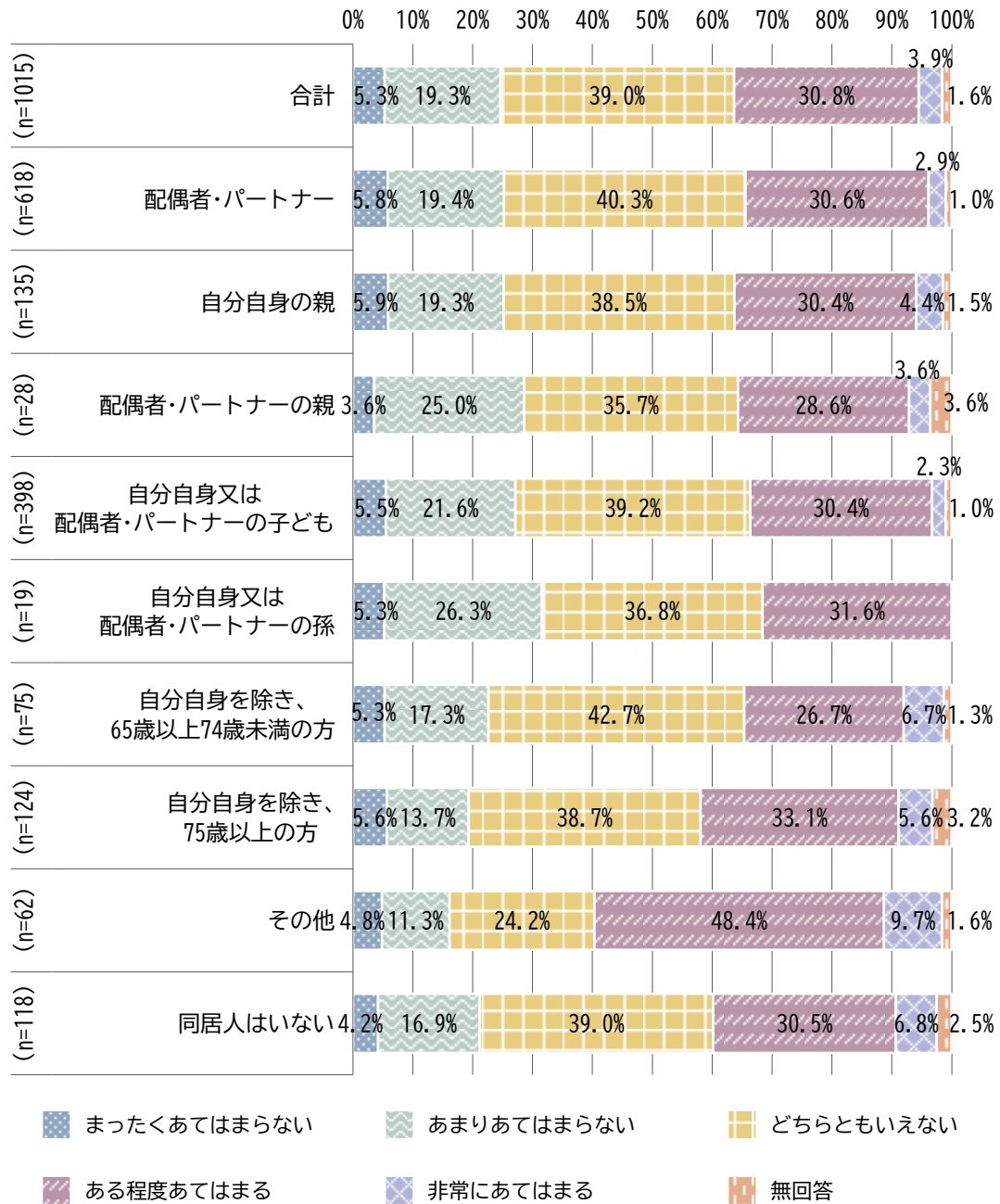


居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2～5年で低くなっている。



同居家族別にみると、75歳以上の方と同居しているケースでやや高くなっているものの、同居家族によって特段の格差はみられない。

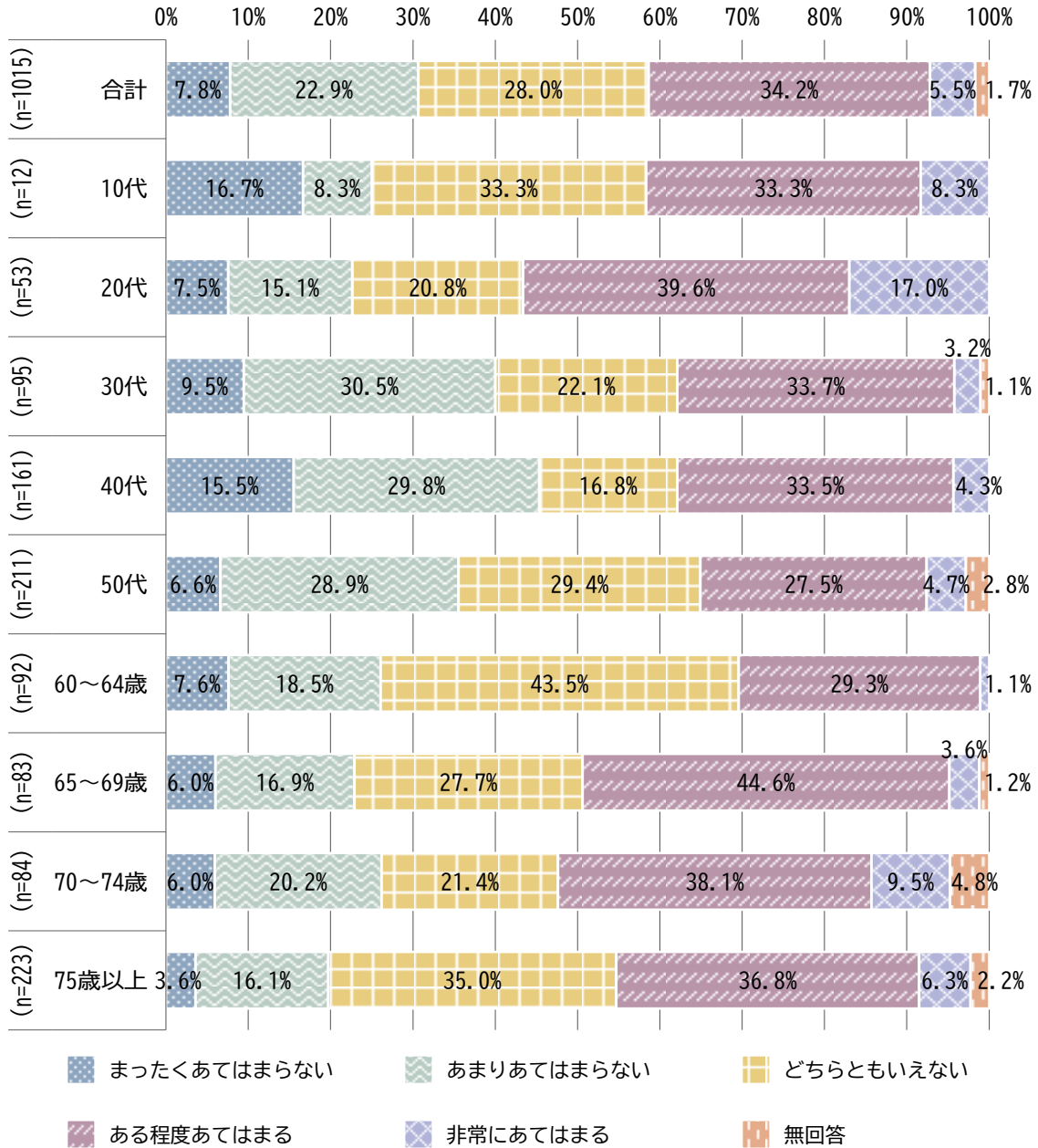
図表 1-133 防犯対策が整っており、治安がよい（同居家族別）



Q7-10 歩道や信号が整備されていて安心である

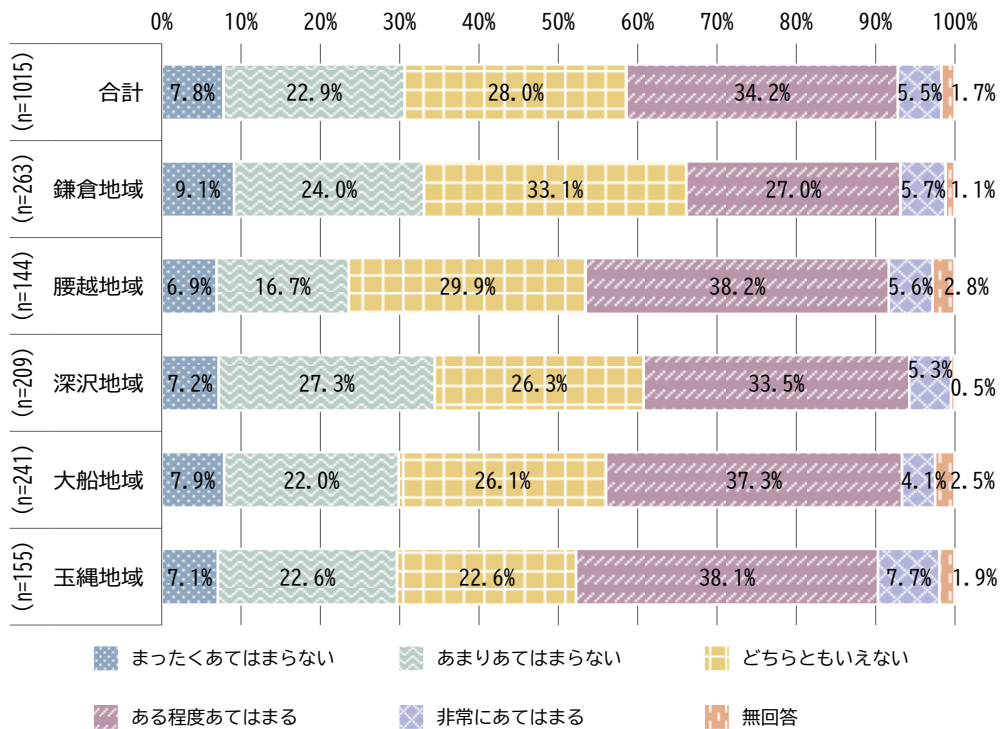
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代が最も高く、次いで65～69歳、70～74歳となっている一方で、60～64歳で最も低くなっている。

図表 1-134 歩道や信号が整備されていて安心である（年齢別）



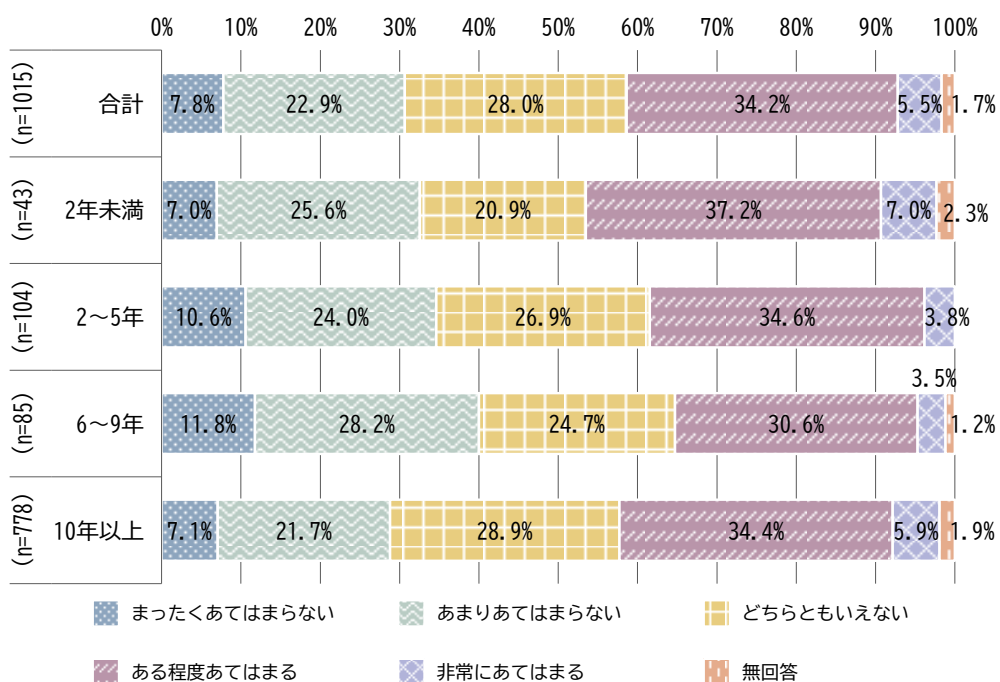
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は玉縄地域、腰越地域でやや高く、鎌倉地域でやや低くなっている。

図表 1-135 歩道や信号が整備されていて安心である（居住地域別）



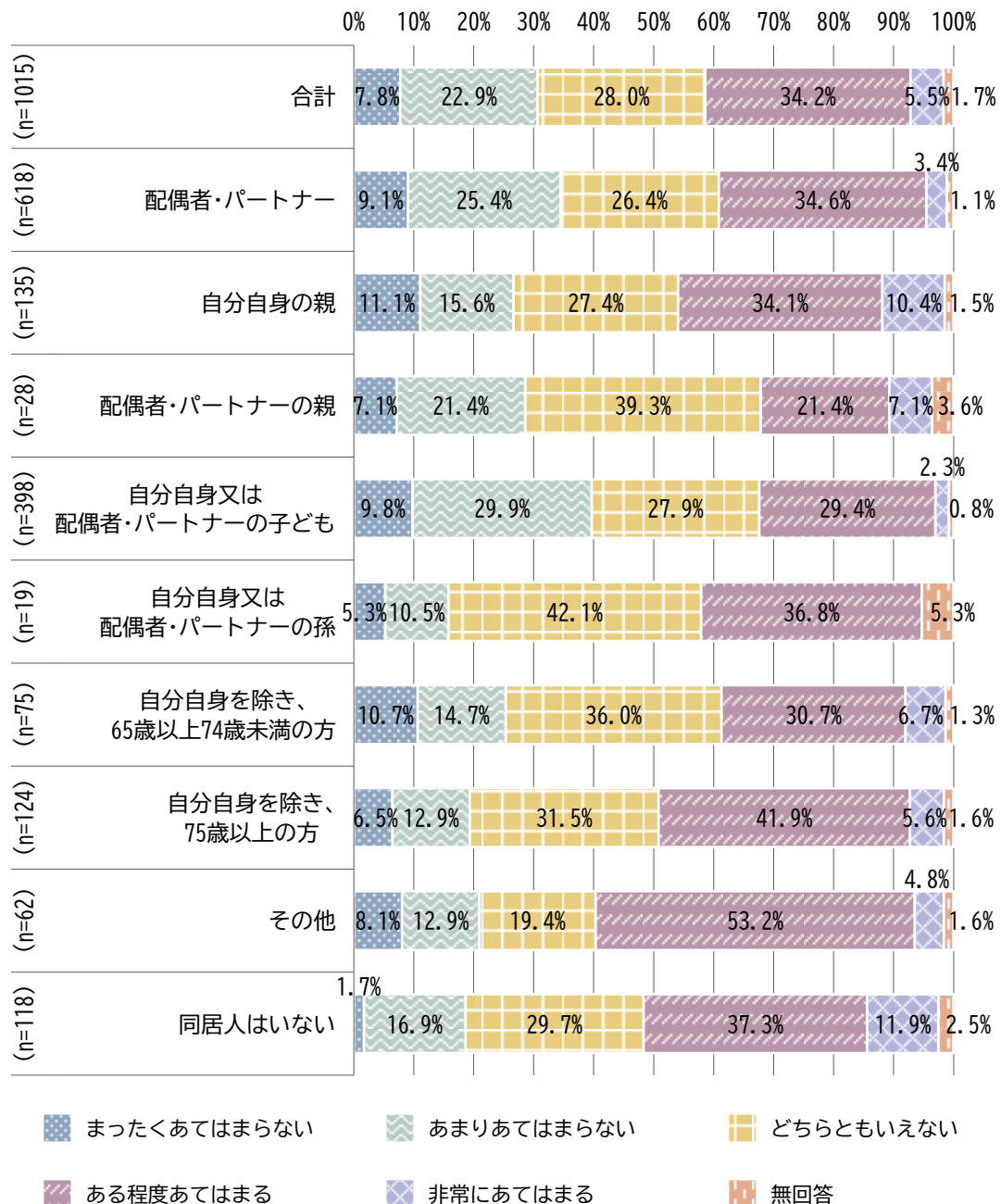
居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満でやや高くなっており、6～9年でやや低くなっている。

図表 1-136 歩道や信号が整備されていて安心である（居住年数別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身の親や 75 歳以上の方と同居されているケースや、同居人はいない方でやや高くなっており、配偶者・パートナーの親や自分自身又は配偶者・パートナーの子どもと同居しているケースでやや低くなっている。

図表 1-137 歩道や信号が整備されていて安心である（同居家族別）



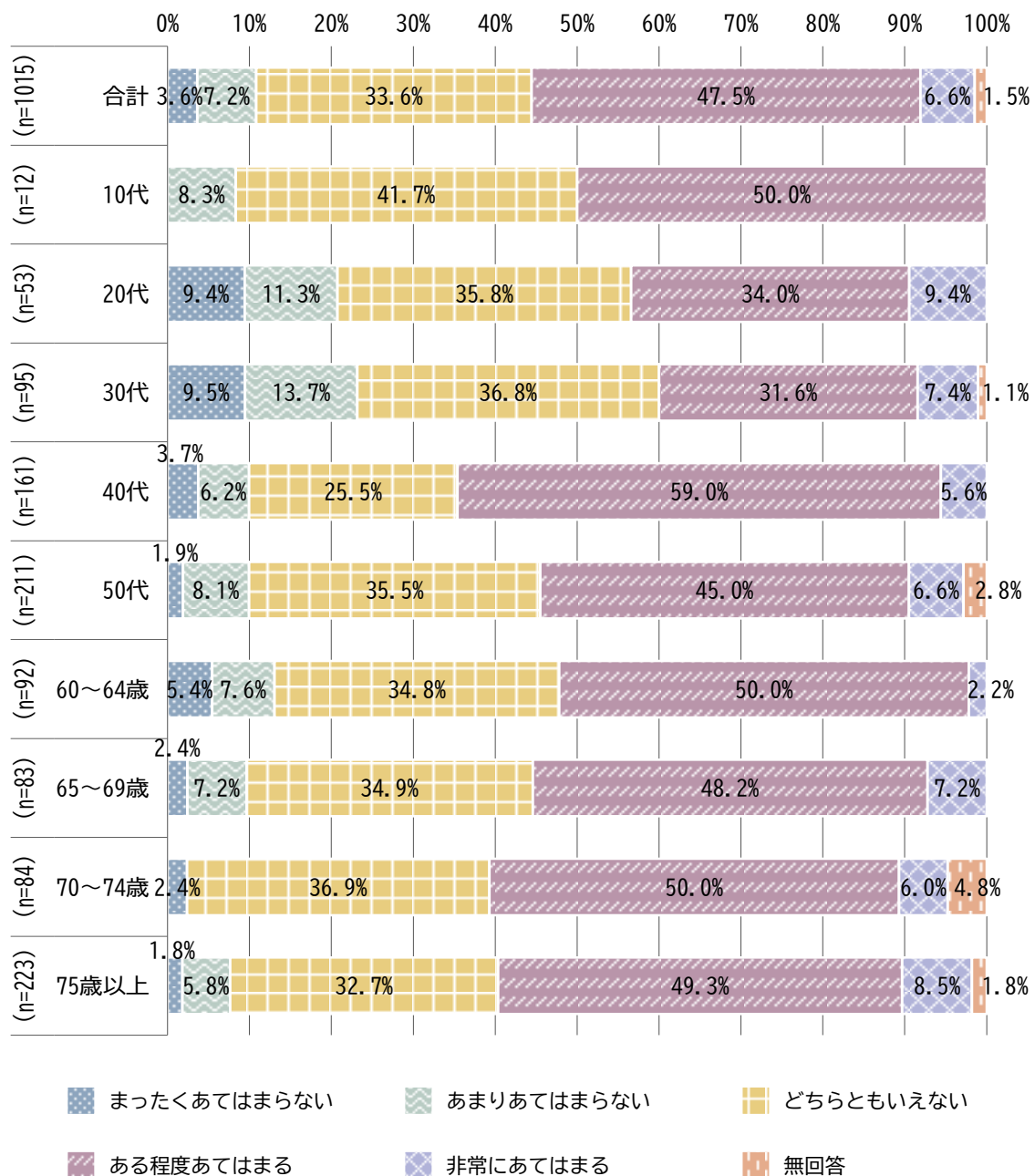
(6) 地域とのつながりや地域の雰囲気等に関する指標

①地域とのつながり

Q8-1 私は、同じ町内に住む人たちを信頼している

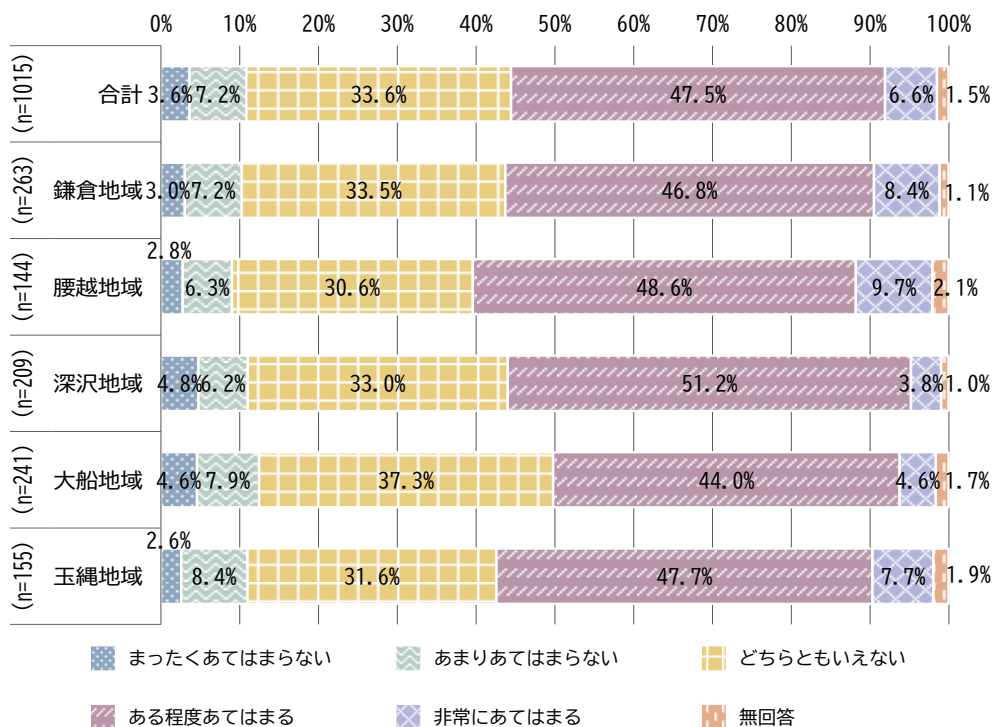
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は、40代で最も高くなっている一方、20代、30代では低くなっている。

図表 1-138 私は、同じ町内に住む人たちを信頼している（年齢別）



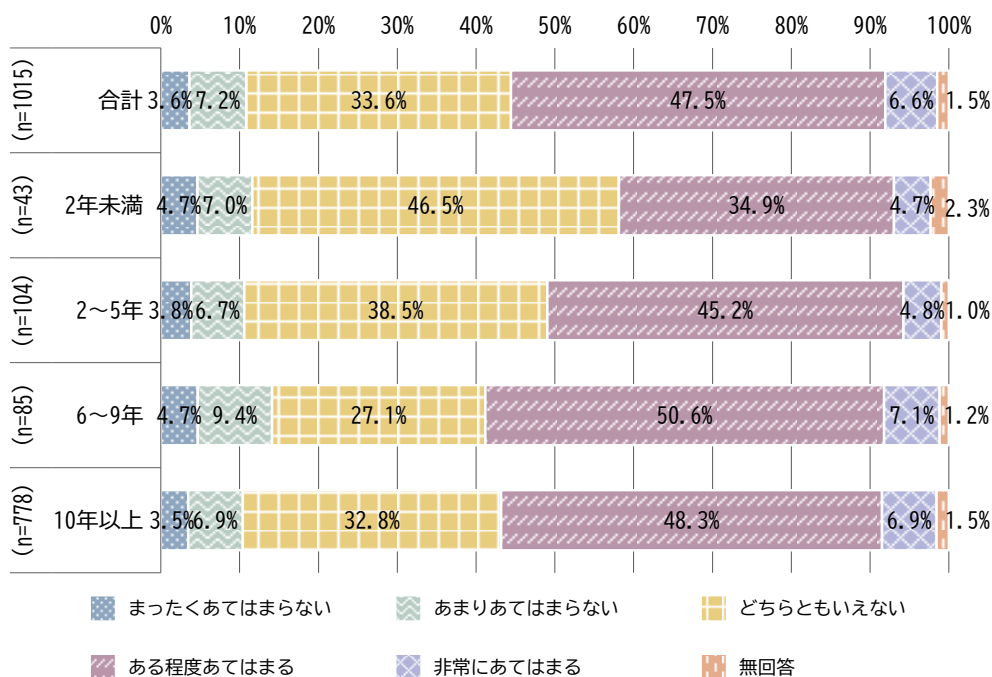
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域でやや低くなっているが、地域間で特段の較差はみられない。

図表 1-139 私は、同じ町内に住む人たちを信頼している（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で低くなっている。

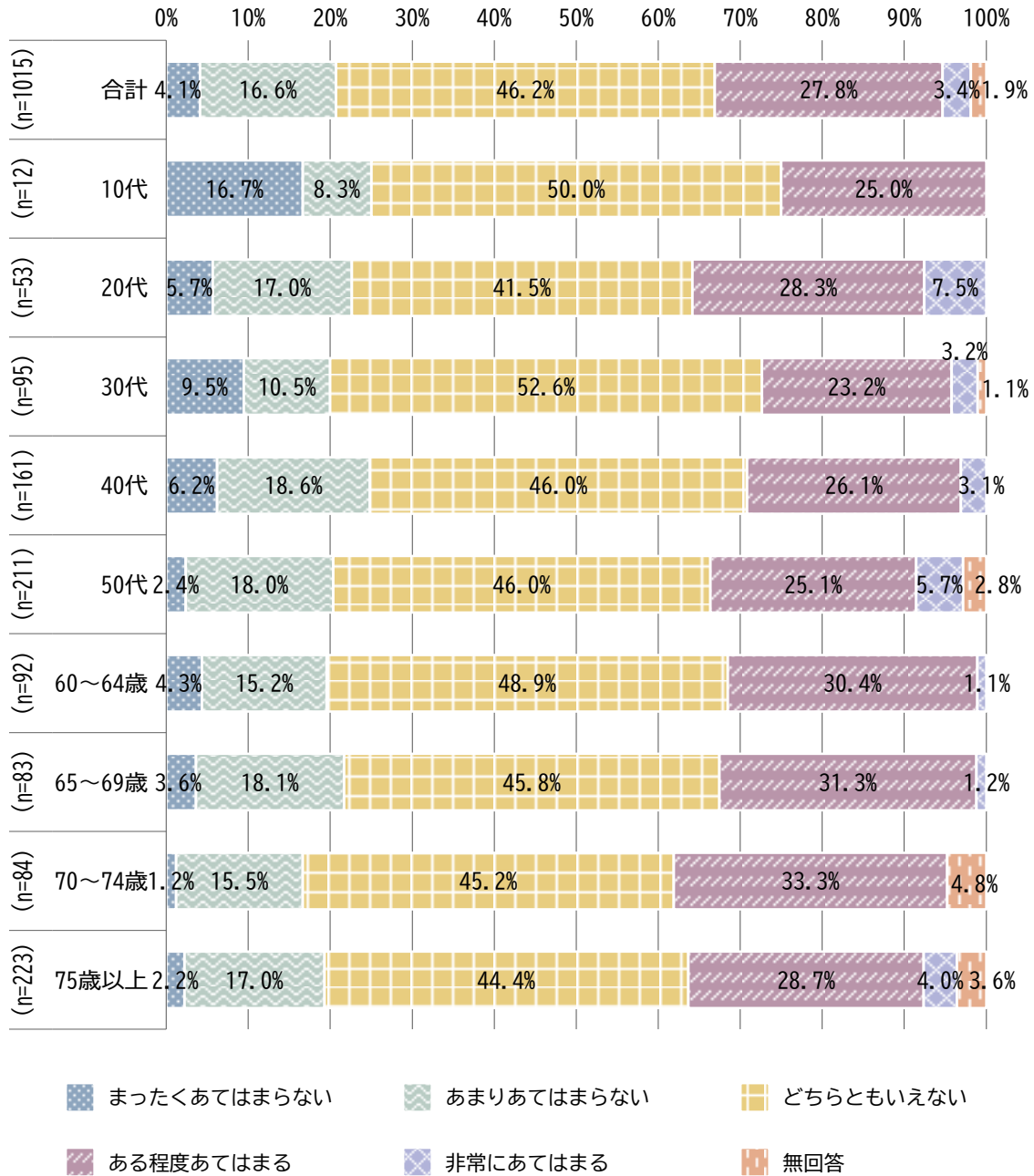
図表 1-140 私は、同じ町内に住む人たちを信頼している（居住年数別）



Q8-2 地域では、地域活動への市民参加が盛んである

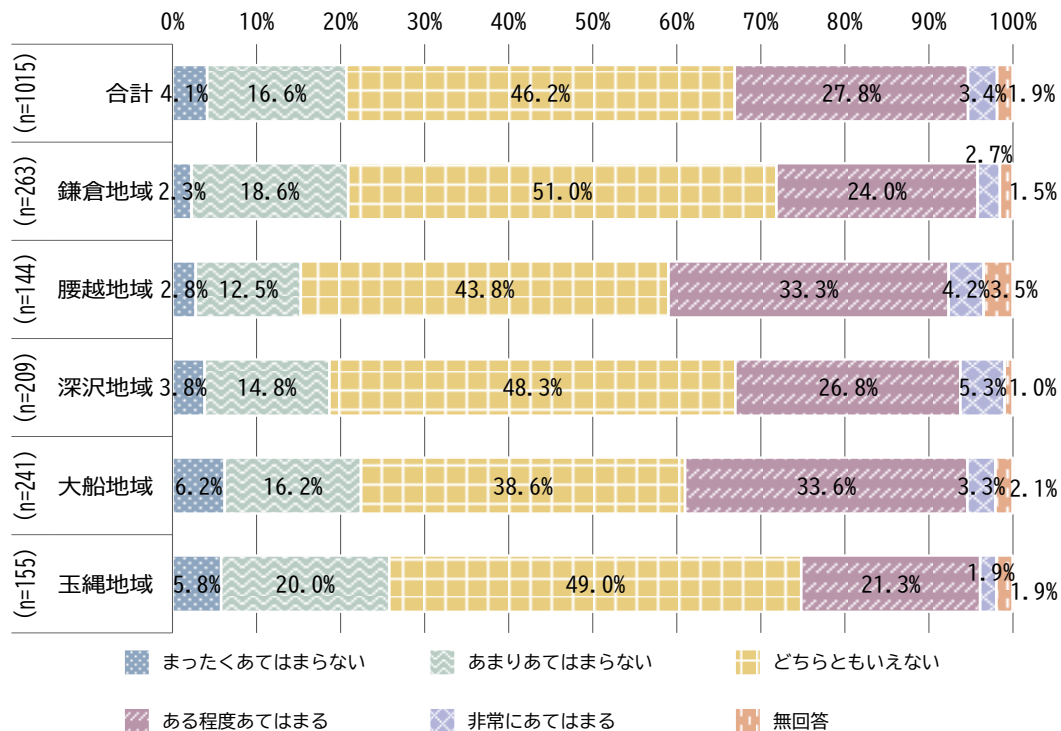
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代でやや高くなっている。

図表 1-141 地域では、地域活動への市民参加が盛んである（年齢別）



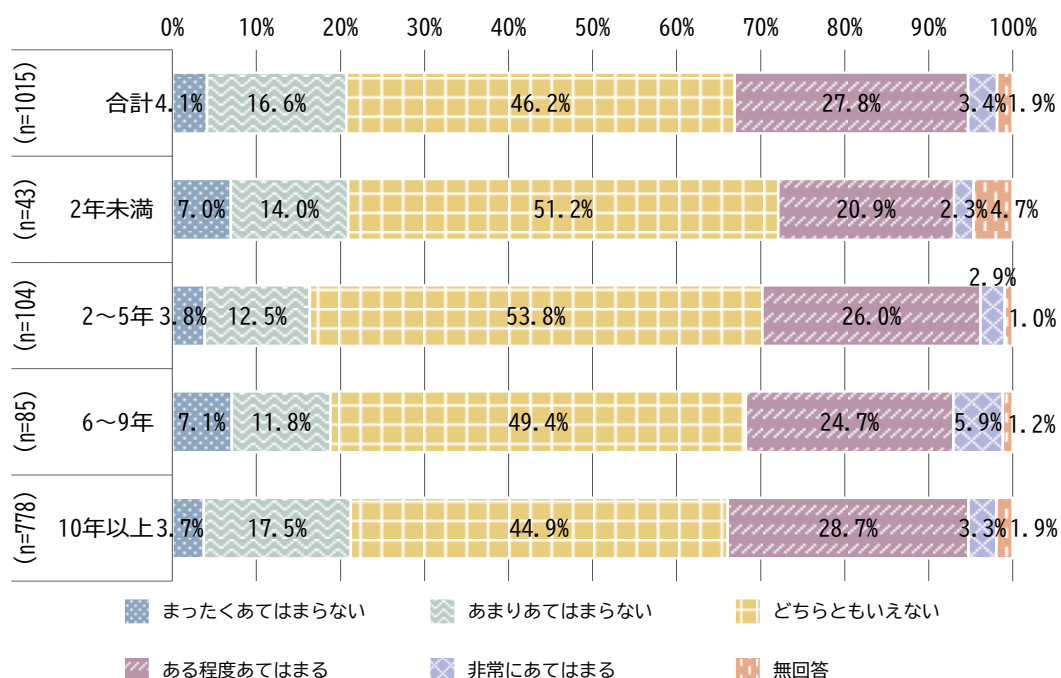
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域と大船地域で高くなっており、鎌倉地域と玉縄地域で低くなっている。

図表 1-142 地域では、地域活動への市民参加が盛んである（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で最も低く、居住年数が長くなるにしたがって割合がゆるやかに高くなっている。

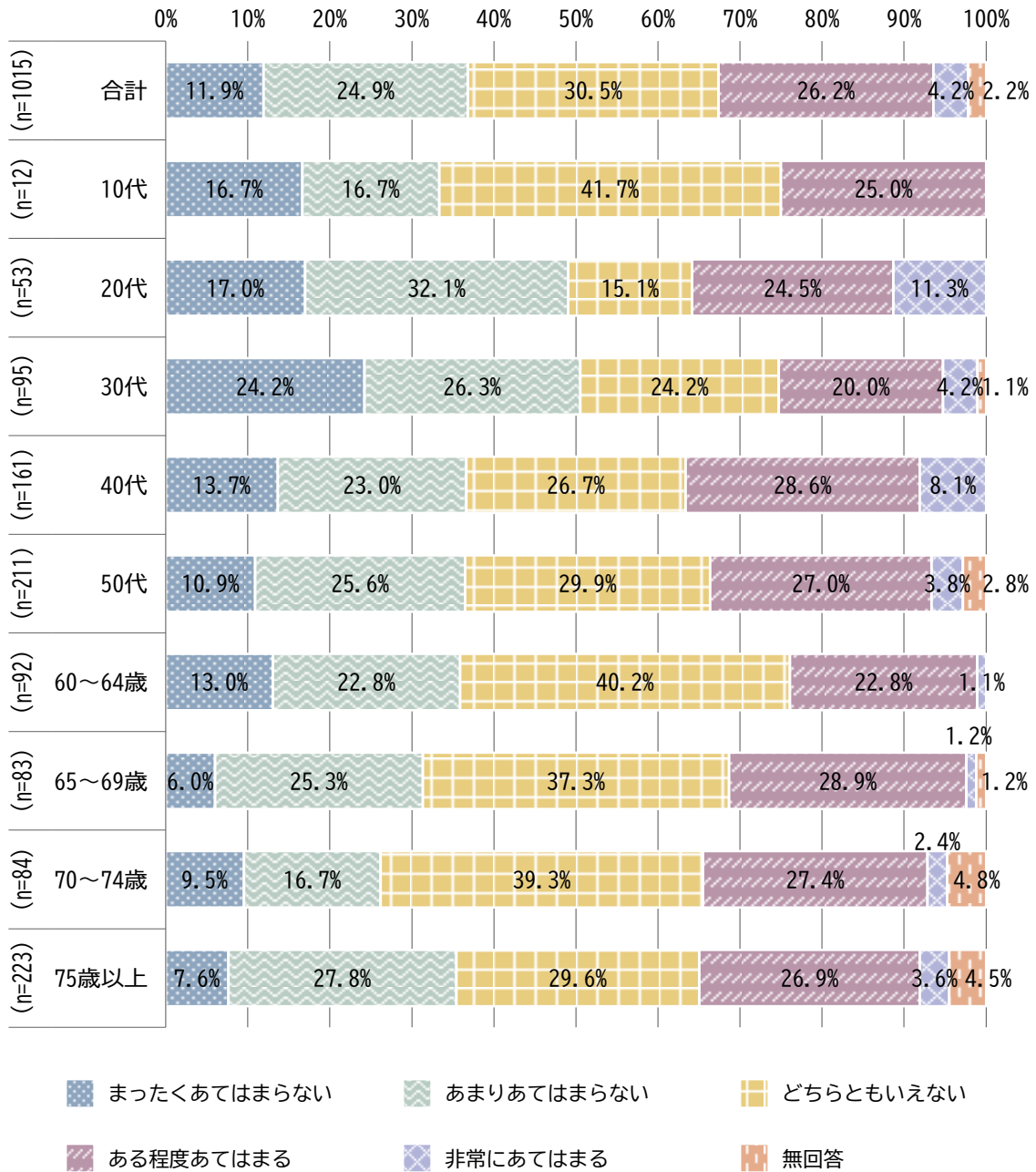
図表 1-143 地域では、地域活動への市民参加が盛んである（居住年数別）



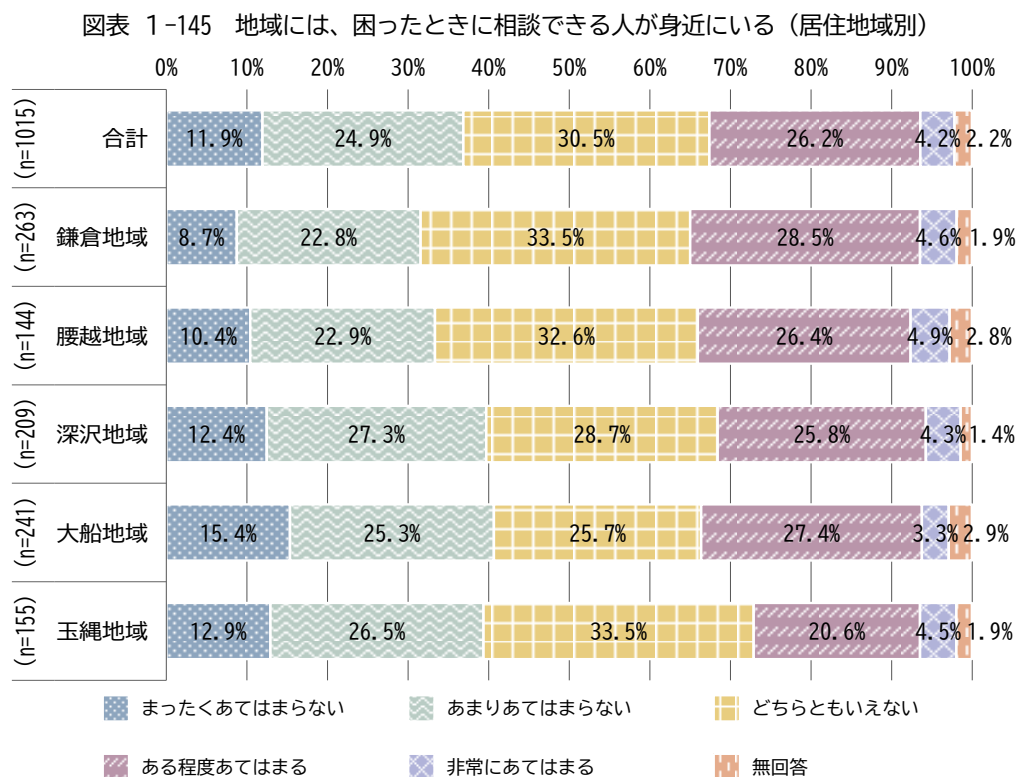
Q8-3 地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代、30代、60～64歳でやや低くなっている。

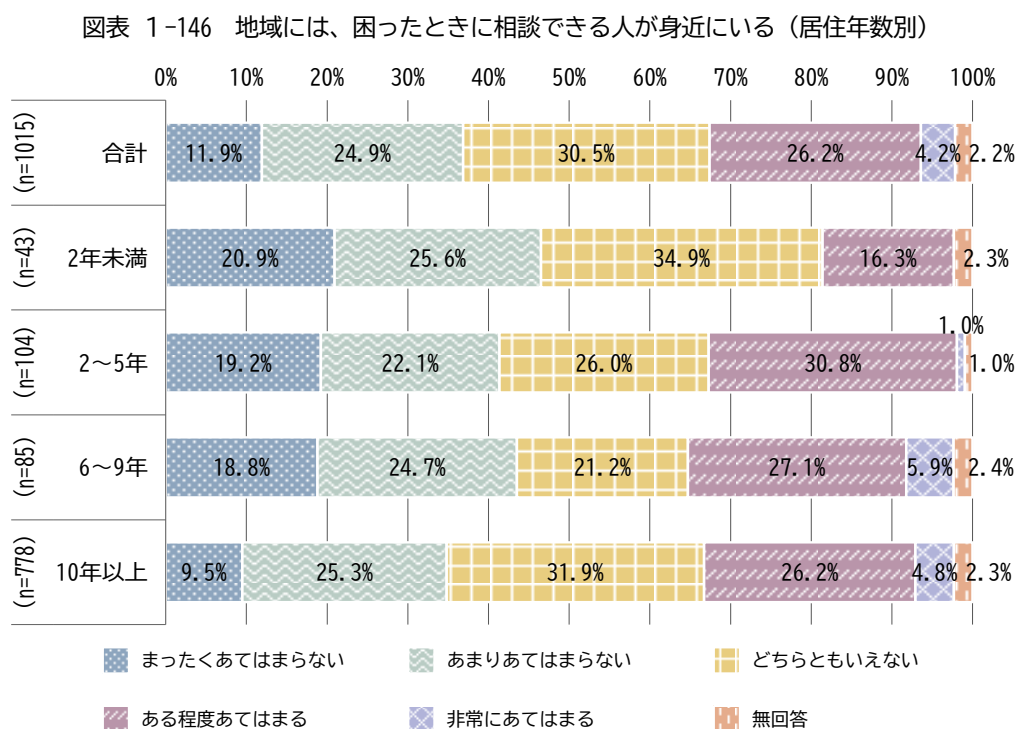
図表 1-144 地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は玉縄地域でやや低くなっている。



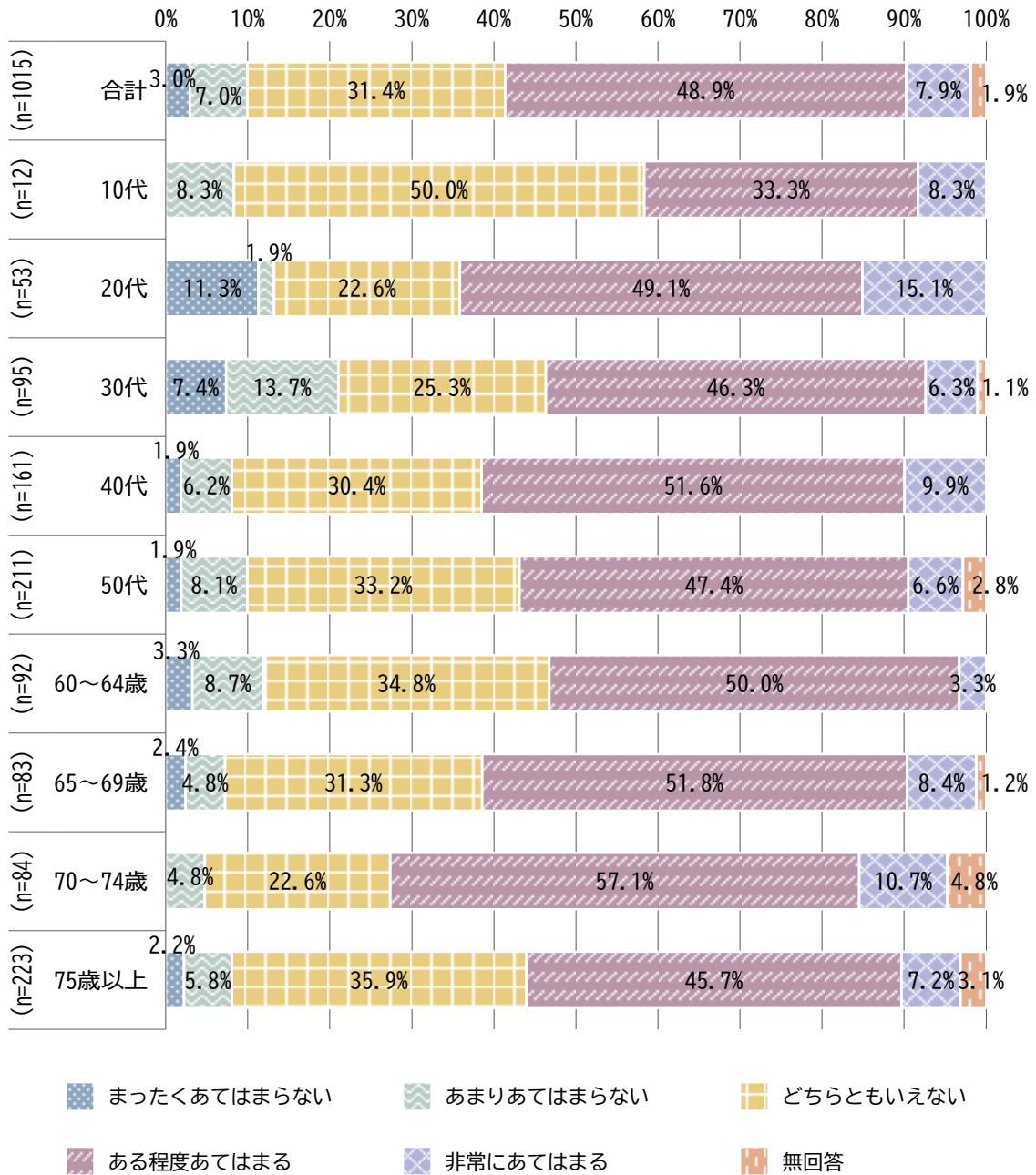
居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で低くなっている。



Q8-4 私は、町内の人が困っていたら手助けをする

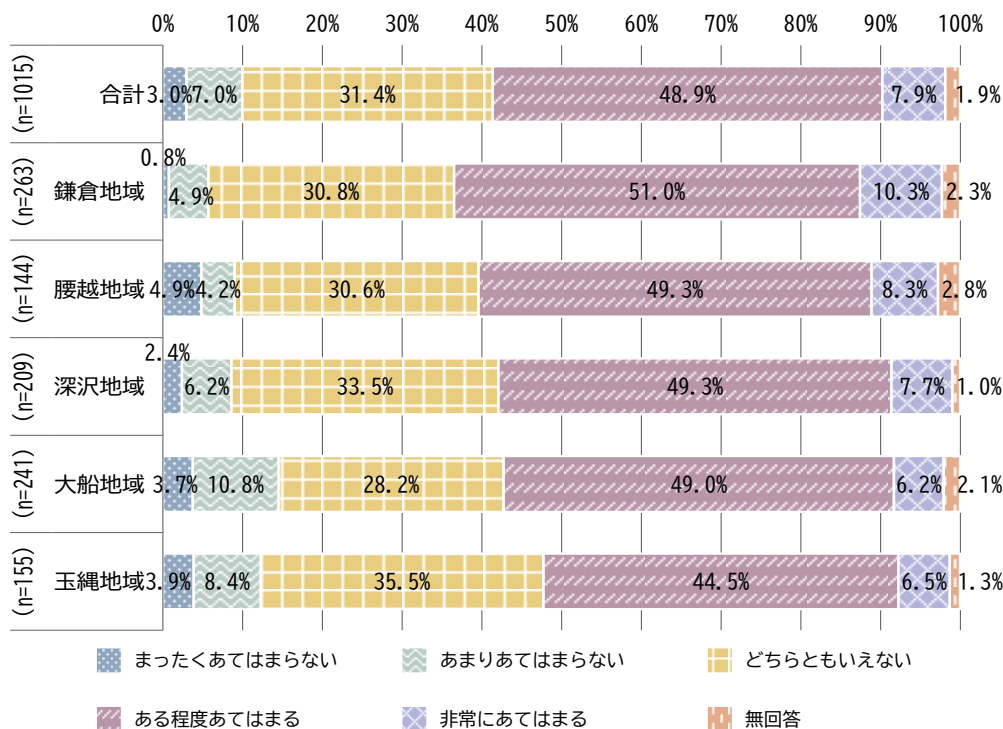
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は70～74歳で最も高く、次いで20代で高くなっている一方で、10代で最も低くなっている。

図表 1-147 私は、町内の人が困っていたら手助けをする（年齢別）



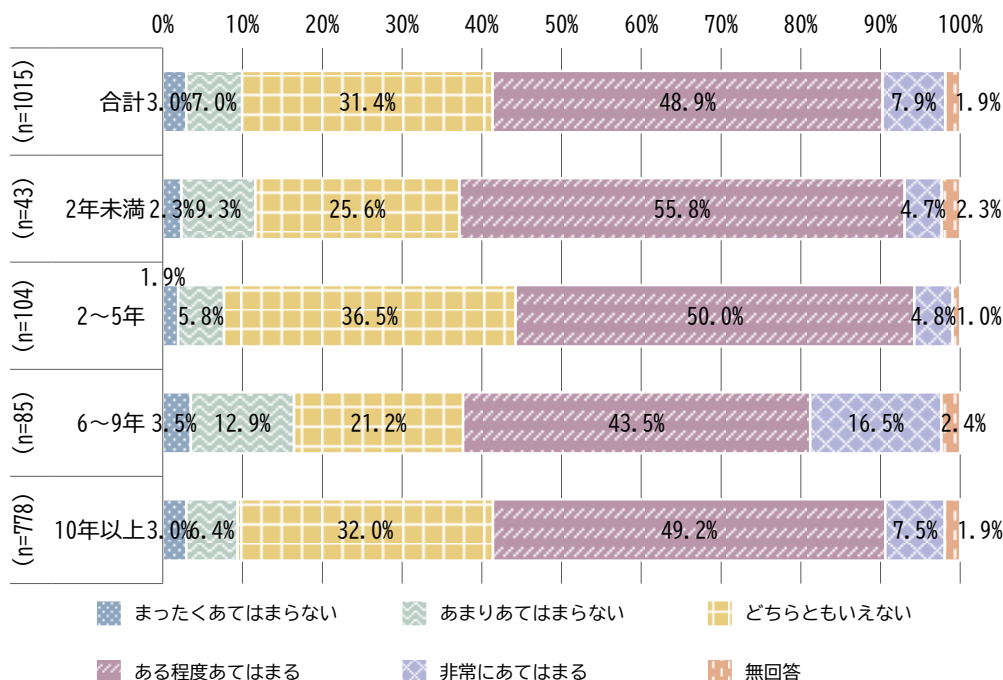
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域でやや高くなっており、玉縄地域でやや低くなっている。

図表 1-148 私は、町内の人が困っていたら手助けをする（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2～5年でやや低くなっているものの、居住年数間で特段の格差はみられない。

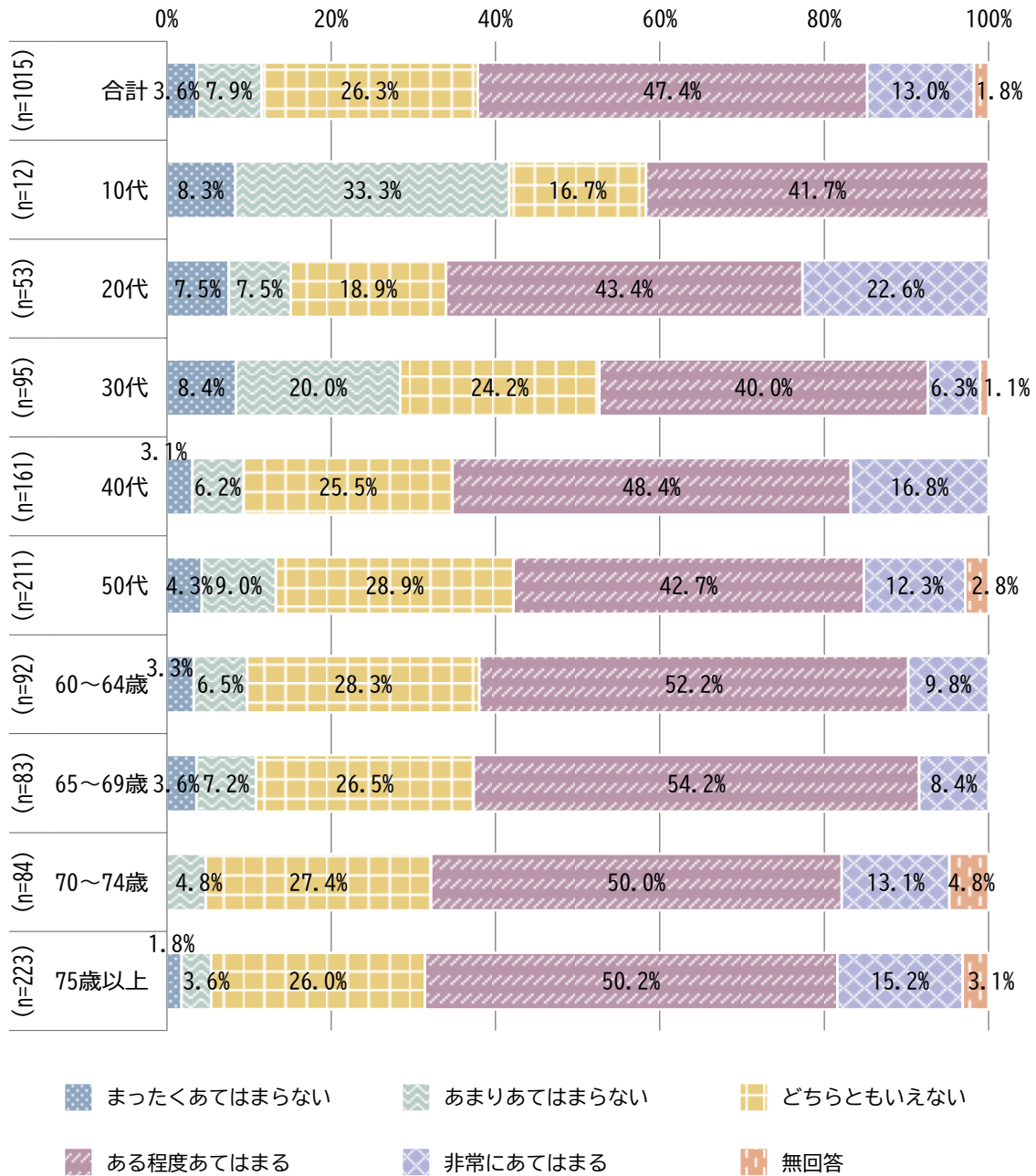
図表 1-149 私は、町内の人が困っていたら手助けをする（居住年数別）



Q8-5 私は、この町内に対して愛着を持っている

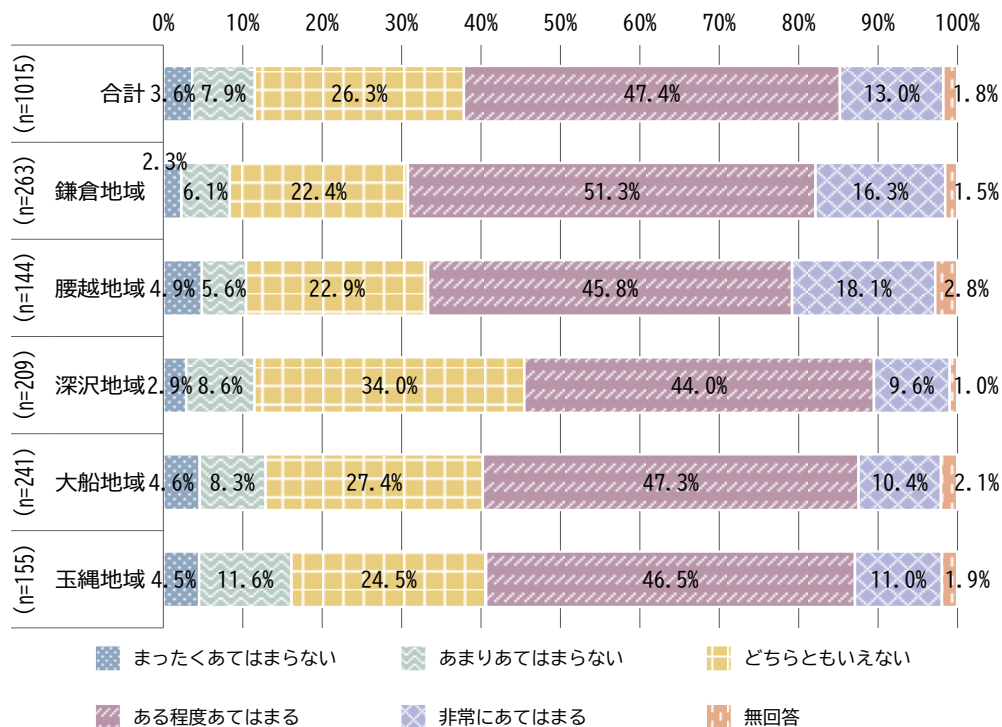
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代と30代で低くなっている。

図表 1-150 私は、この町内に対して愛着を持っている（年齢別）



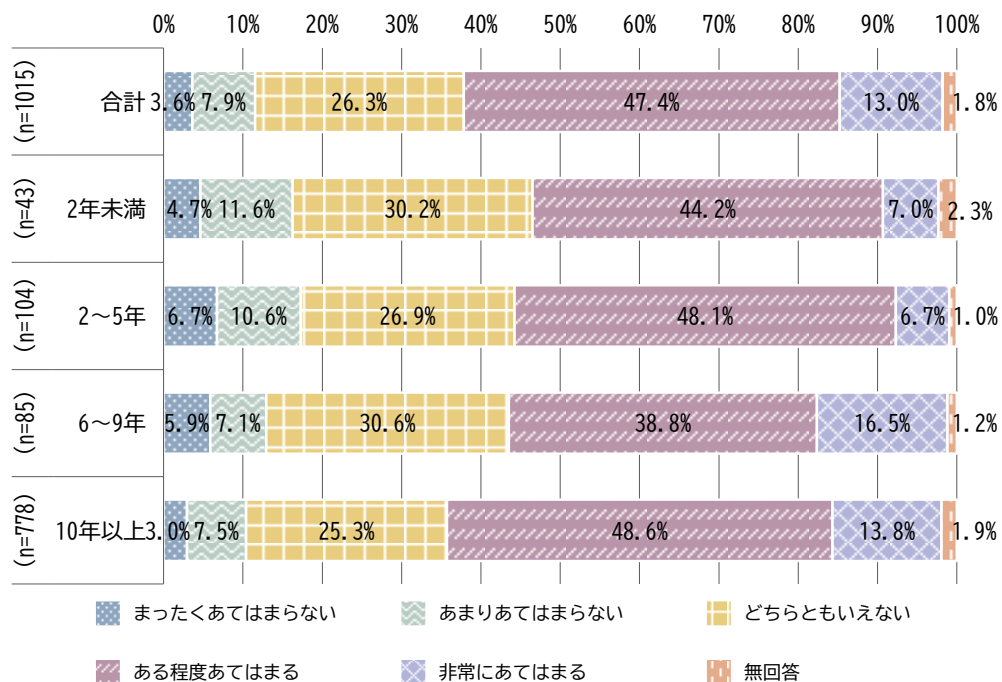
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域でやや高くなっており、深沢地域でやや低くなっている。

図表 1-151 私は、この町内に対して愛着を持っている（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で最も低く、居住年数が長くなるにしたがって割合は高くなっている。

図表 1-152 私は、この町内に対して愛着を持っている（居住年数別）

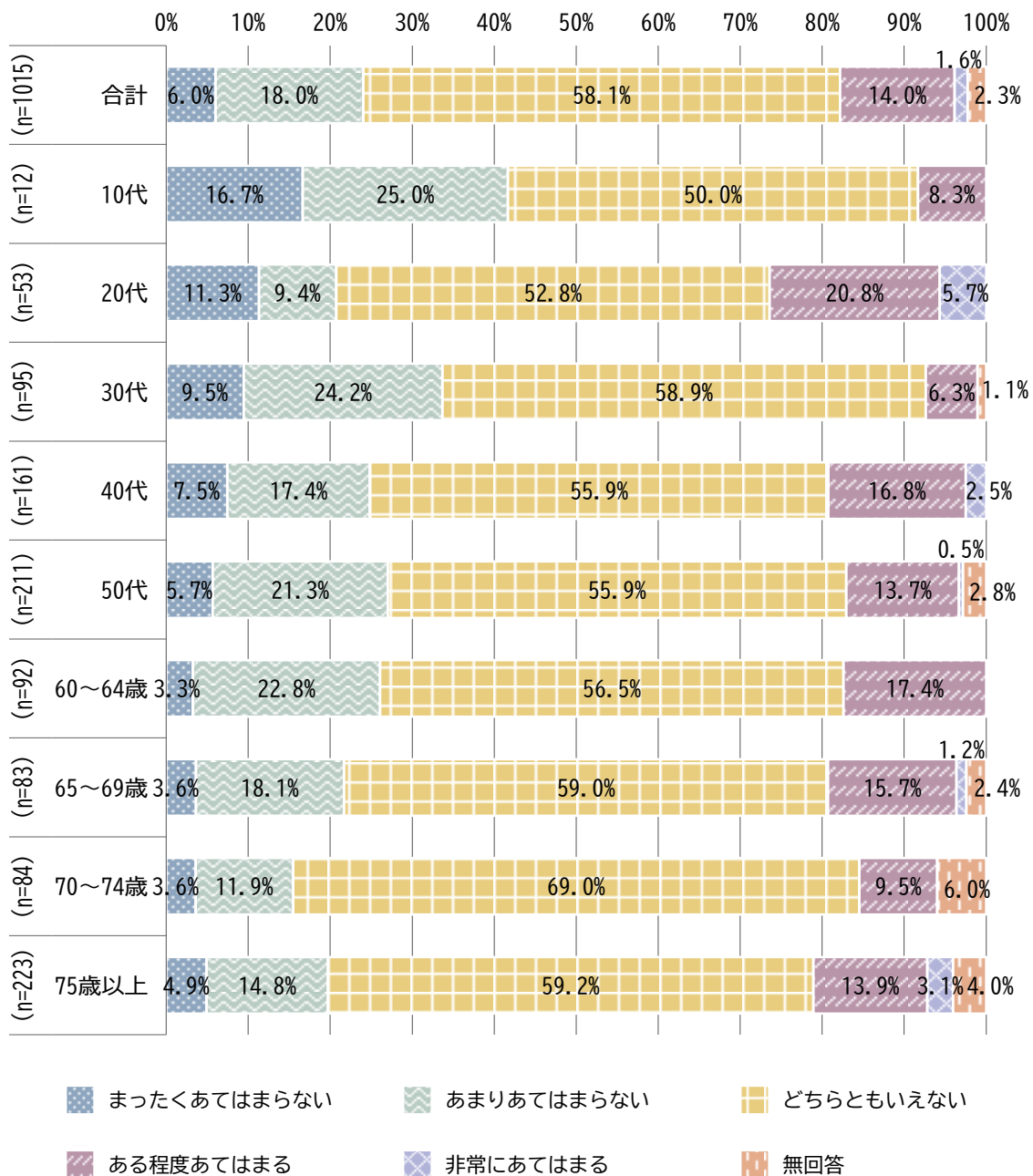


②多様性と寛容性

Q8-6 町内には、どんな人の意見も受け入れる雰囲気がある

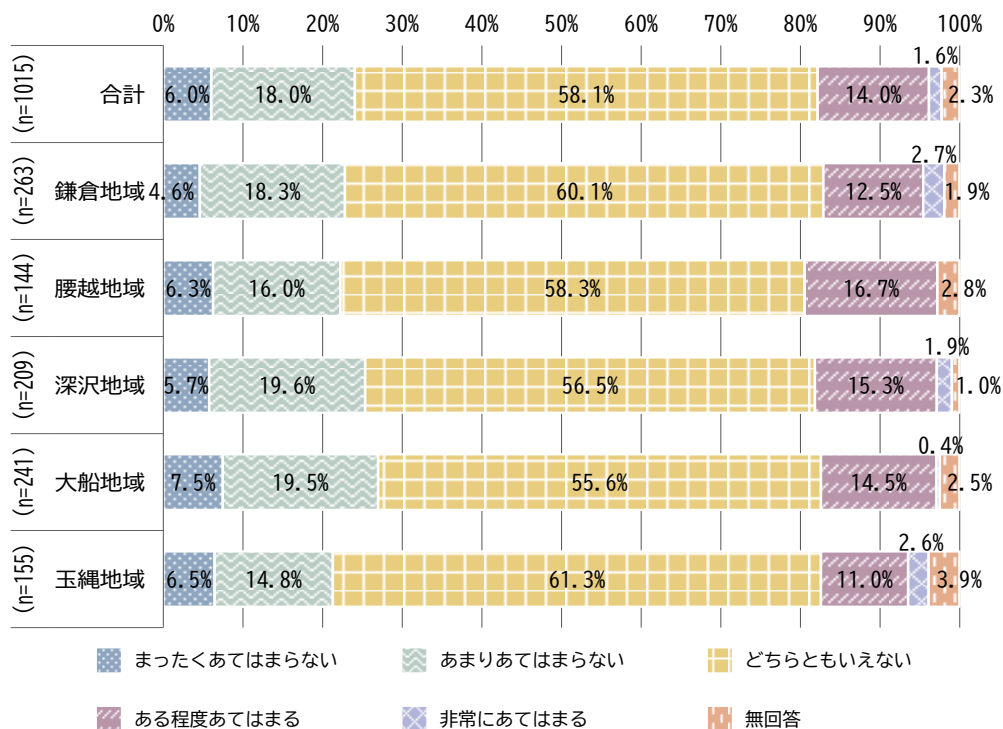
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で高く
なっており、10代と30代、70～74歳で低くなっている。

図表 1-153 町内には、どんな人の意見も受け入れる雰囲気がある（年齢別）



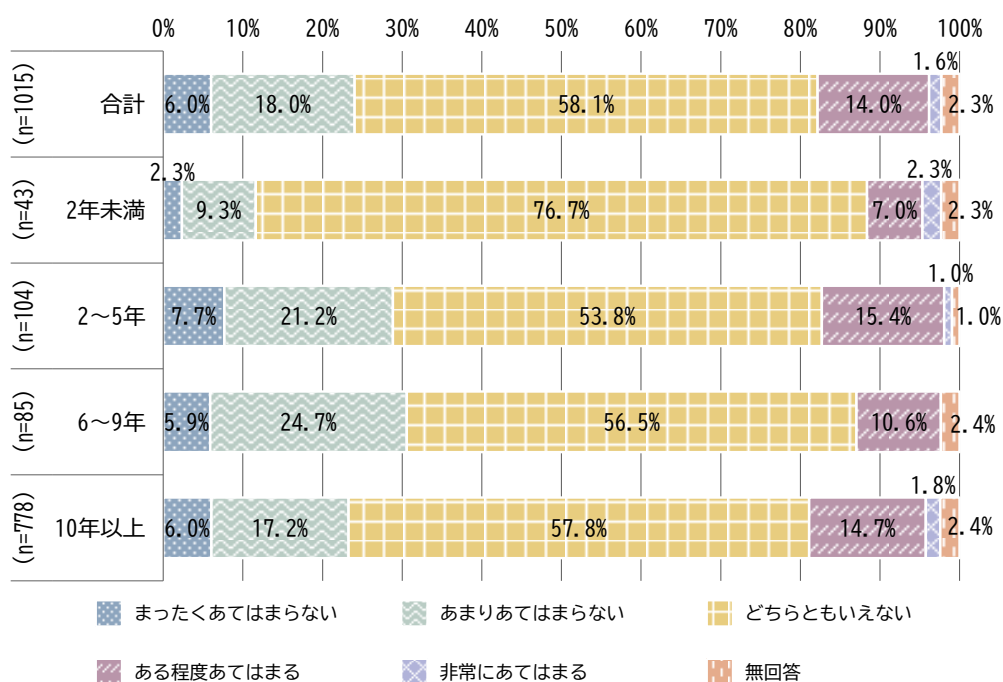
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は玉縄地域でやや低くなっているものの、地域間で特段の格差はみられなかった。

図表 1-154 町内には、どんな人の意見も受け入れる雰囲気がある（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で低くなっている。

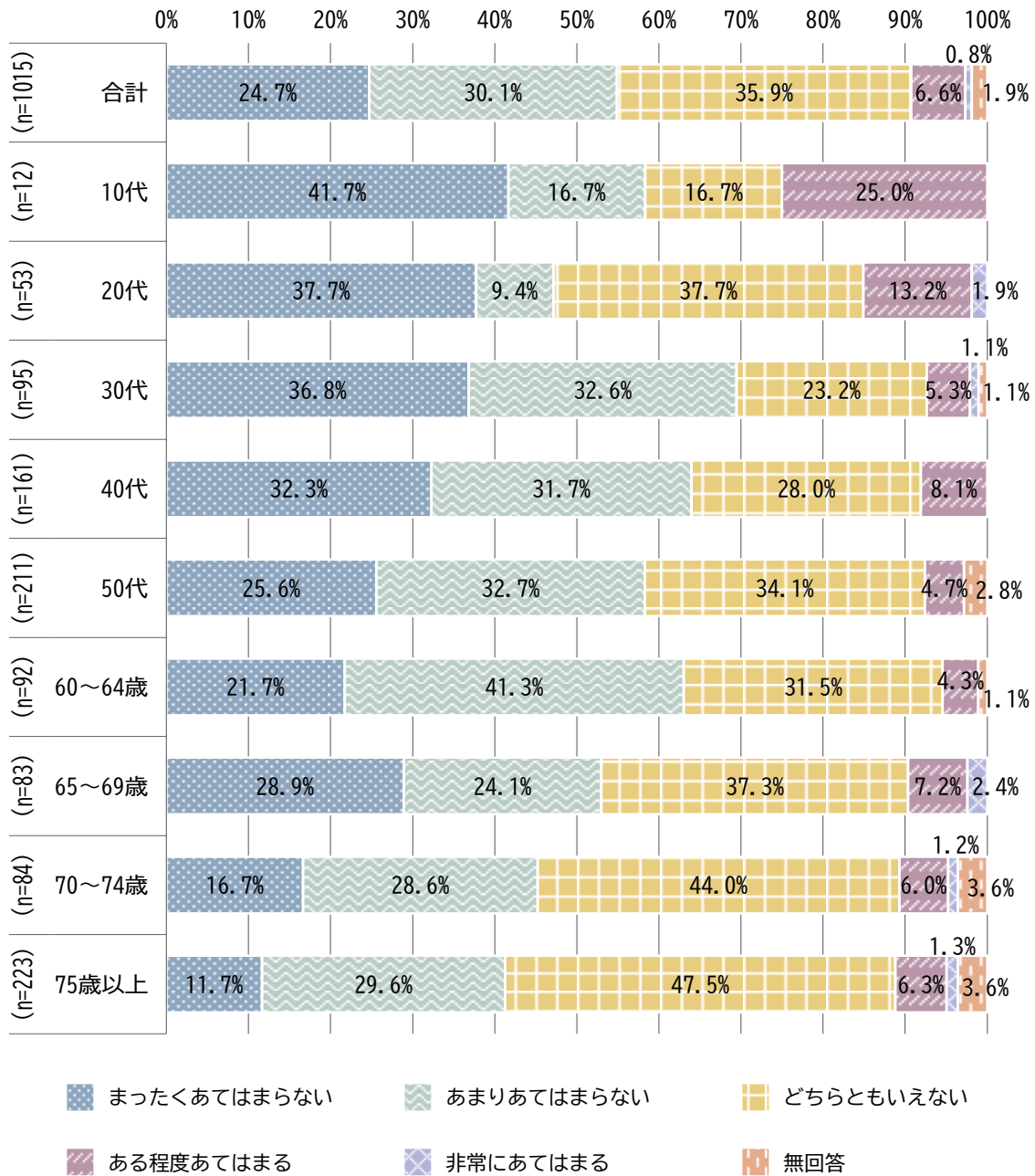
図表 1-155 町内には、どんな人の意見も受け入れる雰囲気がある（居住年数別）



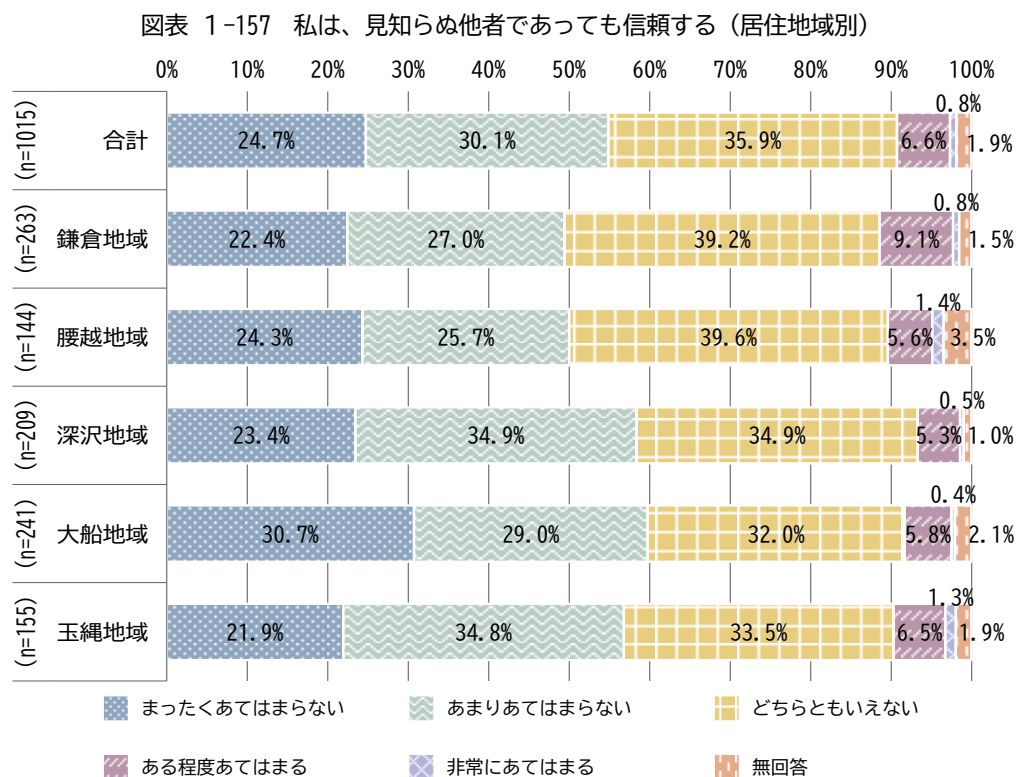
Q8-7 私は、見知らぬ他者であっても信頼する

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代で高くなっている。

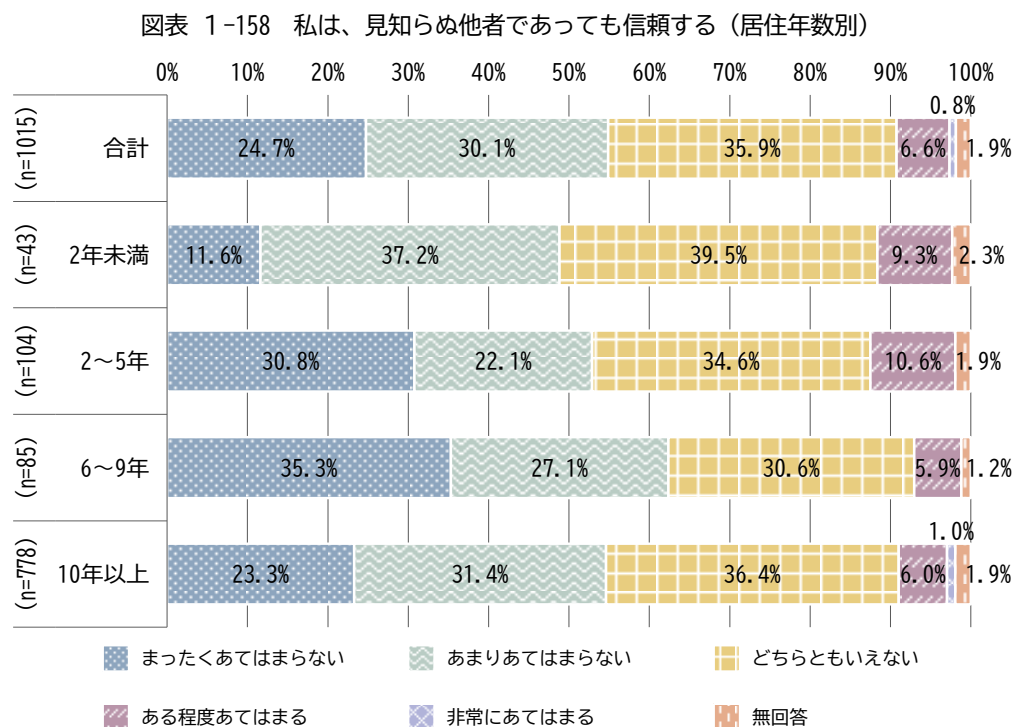
図表 1-156 私は、見知らぬ他者であっても信頼する（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域でやや高くなっている。



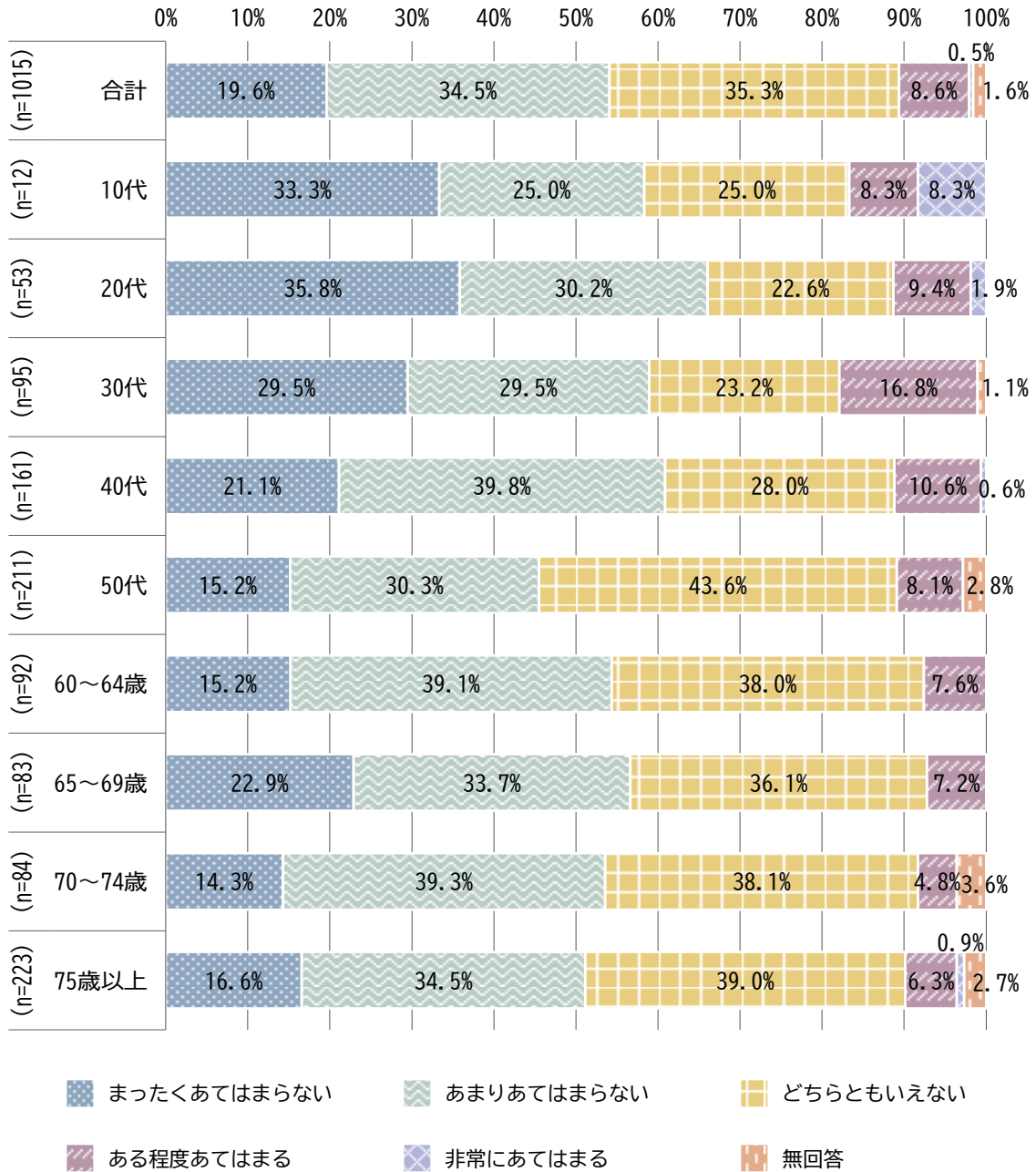
居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2～5年で高くなっており、6～9年で低くなっている。



Q8-8 私は、町内の人が自分をどう思っているかが気になる

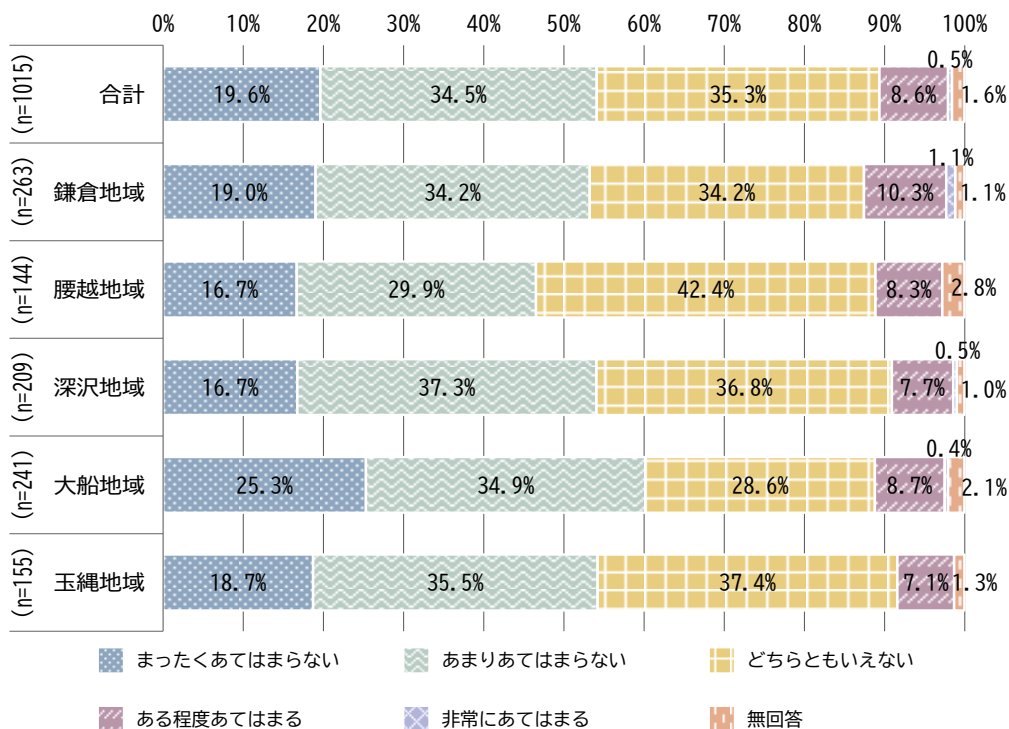
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は30代で高くなっており、50代以上は低くなっている。

図表 1-159 私は、町内の人が自分をどう思っているかが気になる（年齢別）



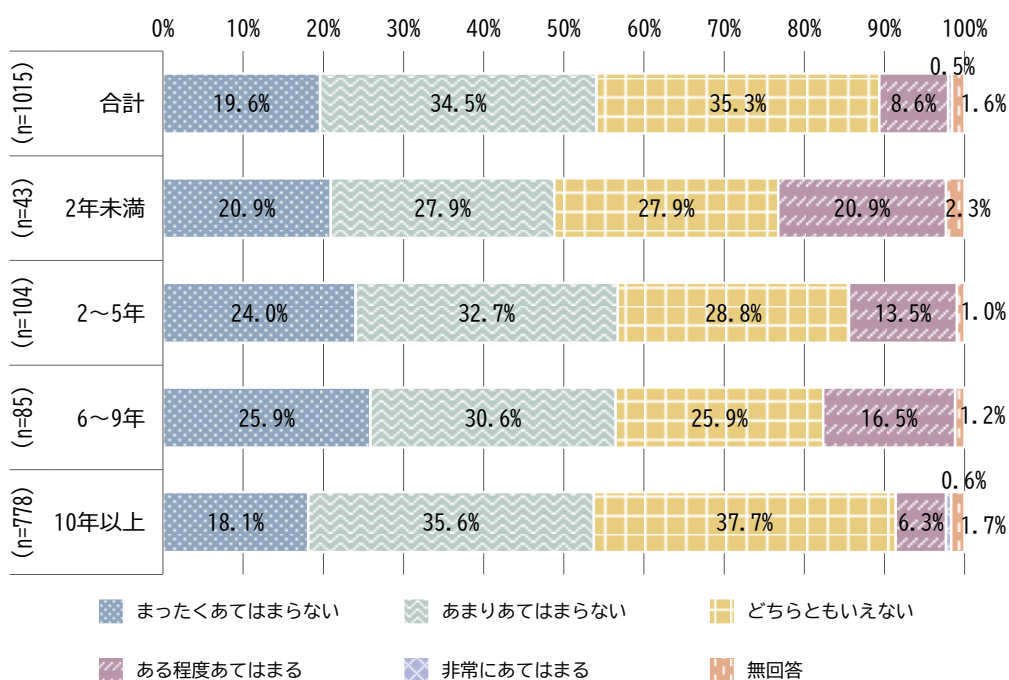
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域でやや高くなっている。

図表 1-160 私は、町内の人が自分をどう思っているかが気になる（居住地域別）



居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は居住年数2年未満で高く、10年以上で低くなっている。

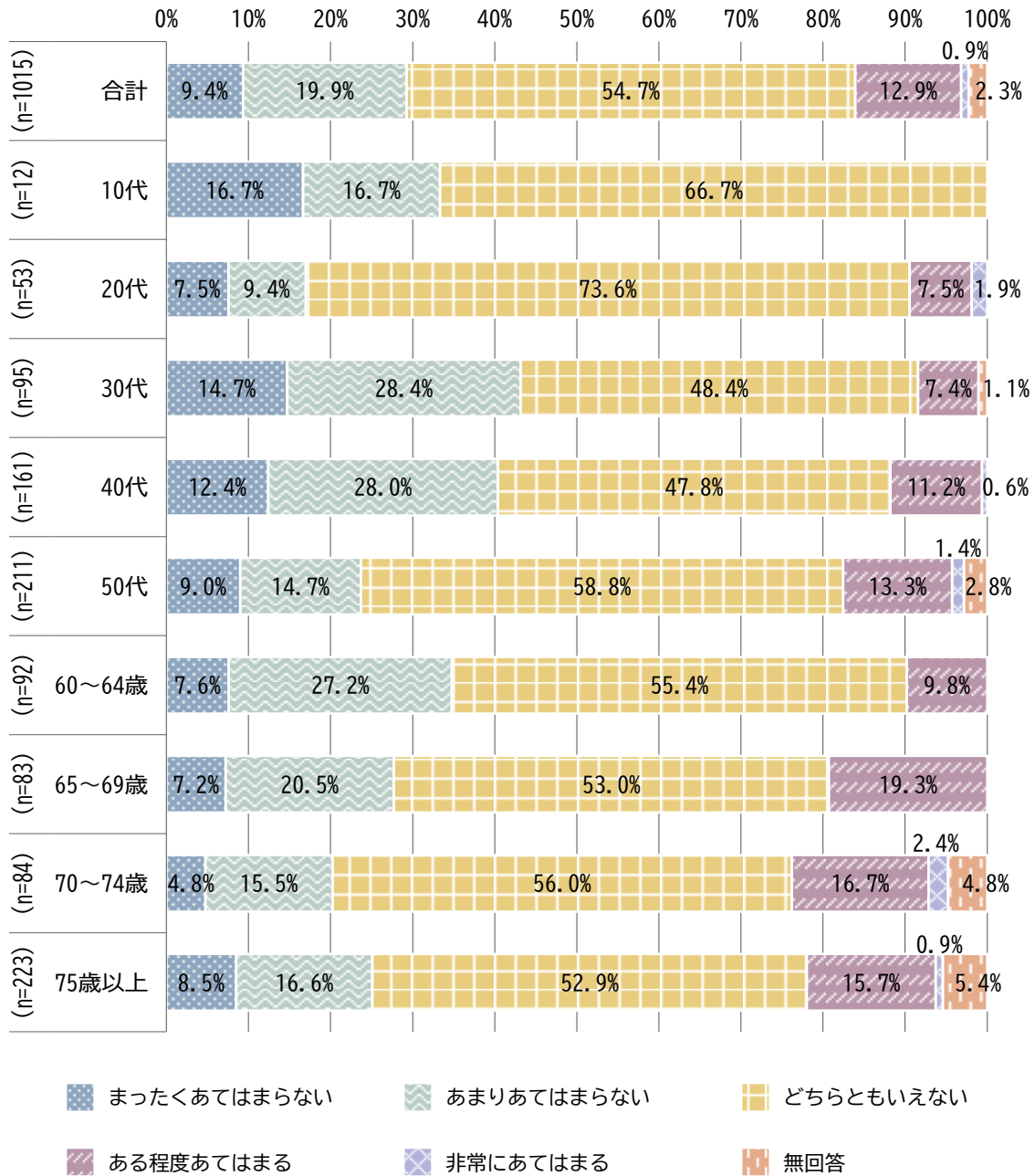
図表 1-161 私は、町内の人が自分をどう思っているかが気になる（居住年数別）



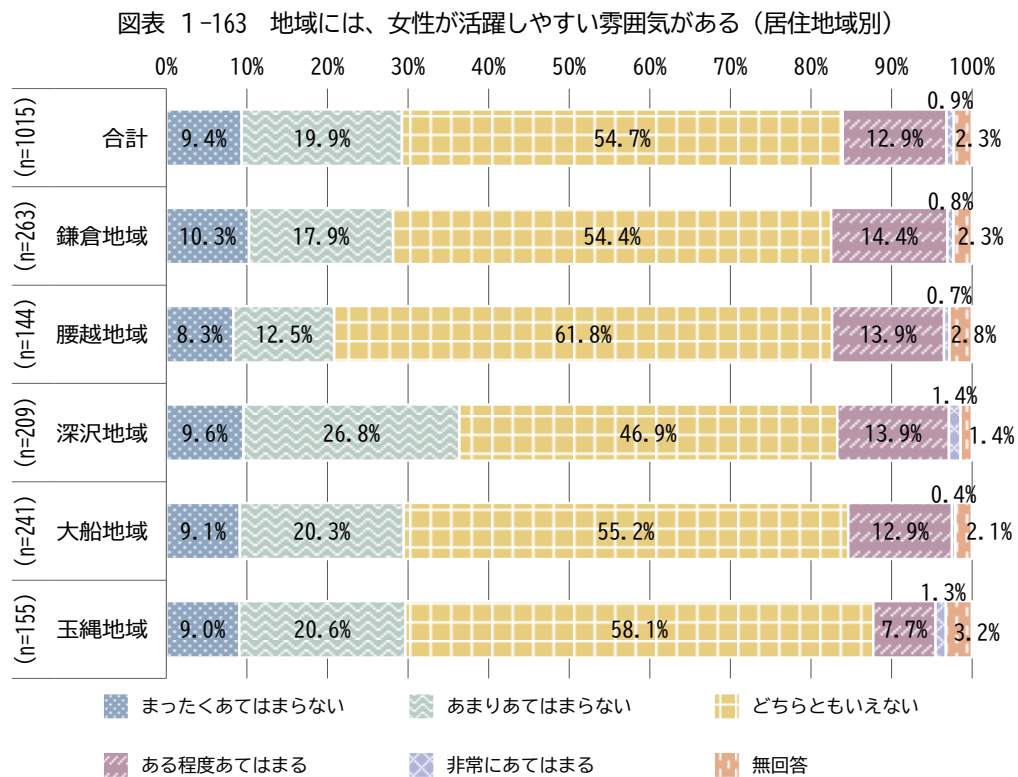
Q8-9 地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は65歳以上の年代で高くなっており、30代以下で低くなっている。

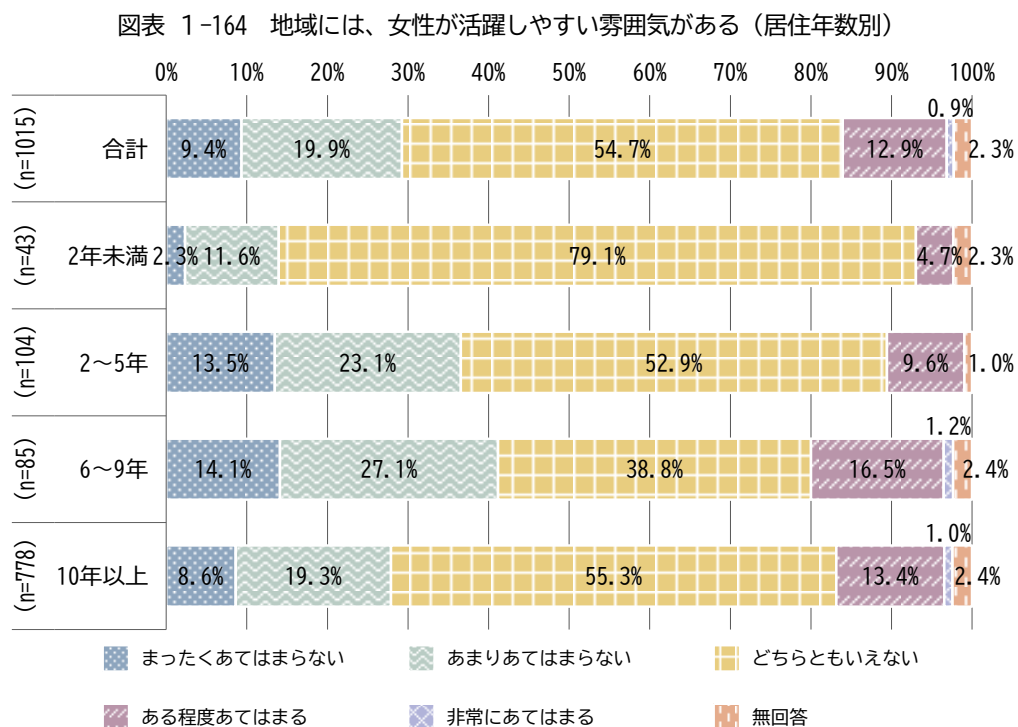
図表 1-162 地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は、玉縄地域で低くなっている。

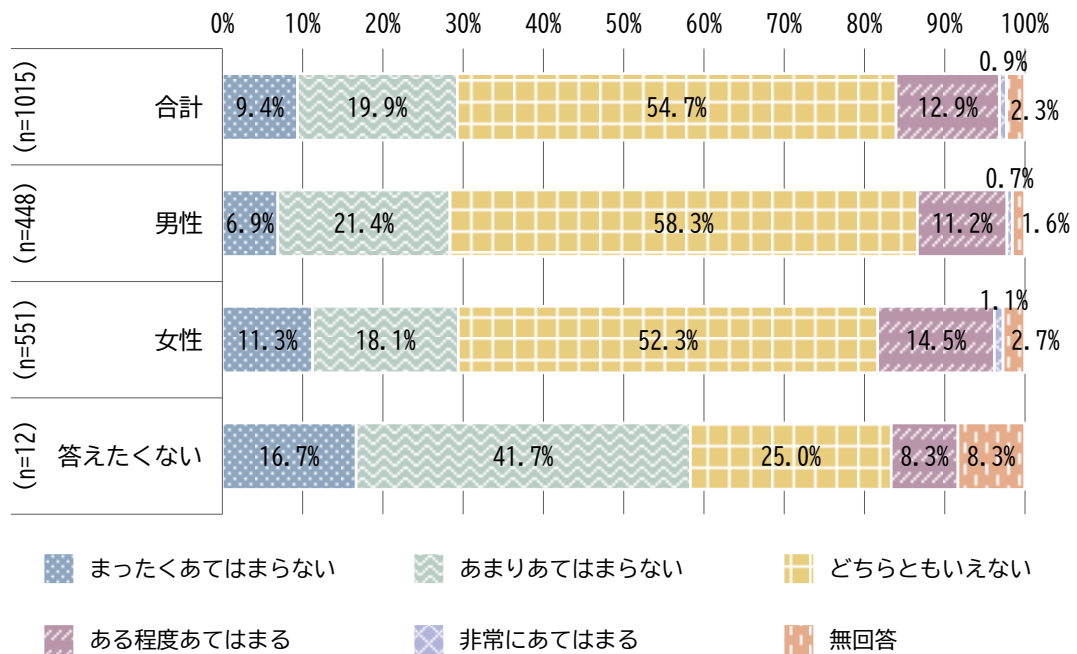


居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は、居住年数6～9年でやや高くなっており、2年未満で低くなっている。



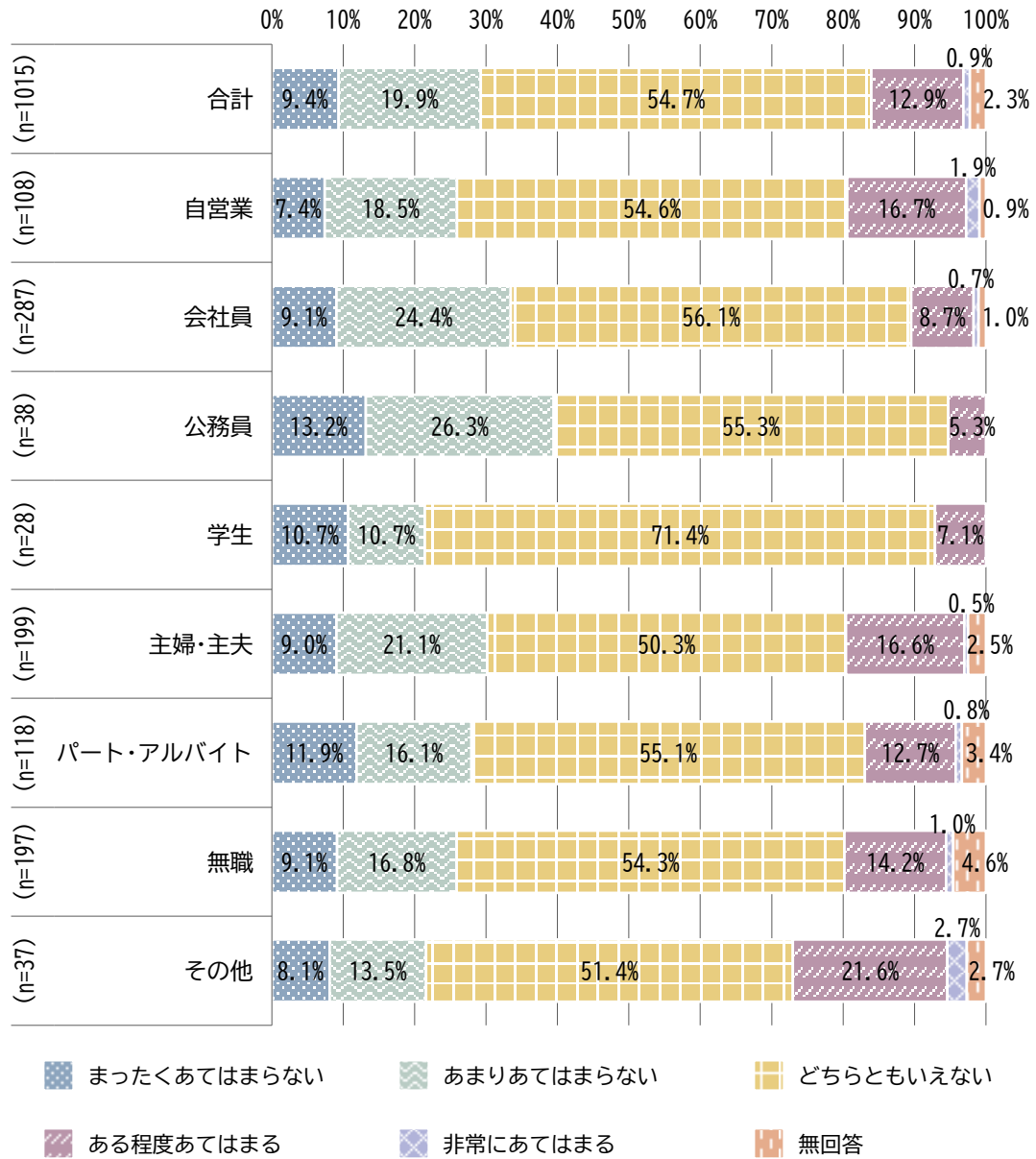
性別で見ると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は男性よりも女性の方がやや高くなっている。

図表 1-165 地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある（性別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は公務員で最も低く、次いで学生、会社員の順に低くなっている。

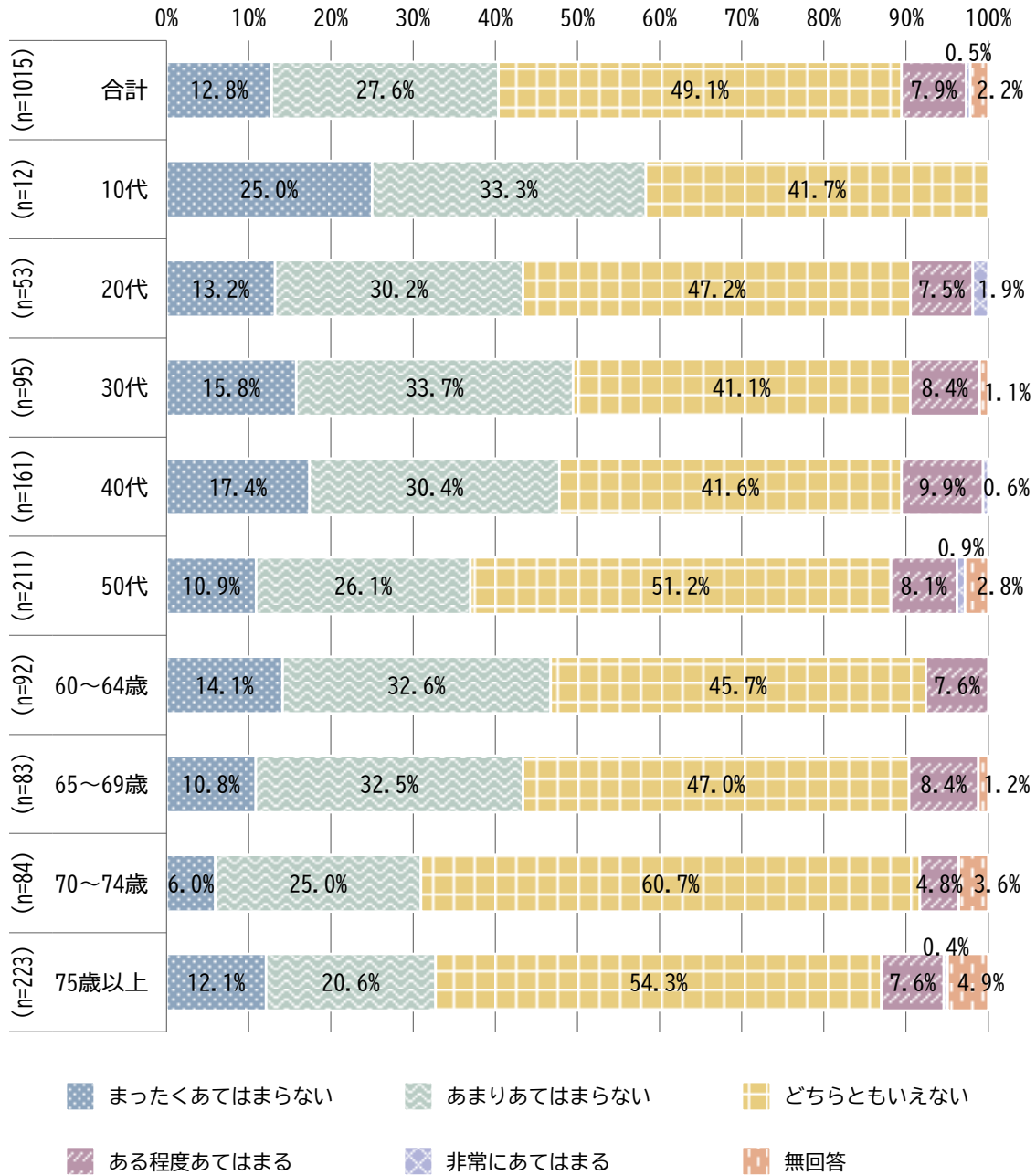
図表 1-166 地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある（職業別）



Q8-10 地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある

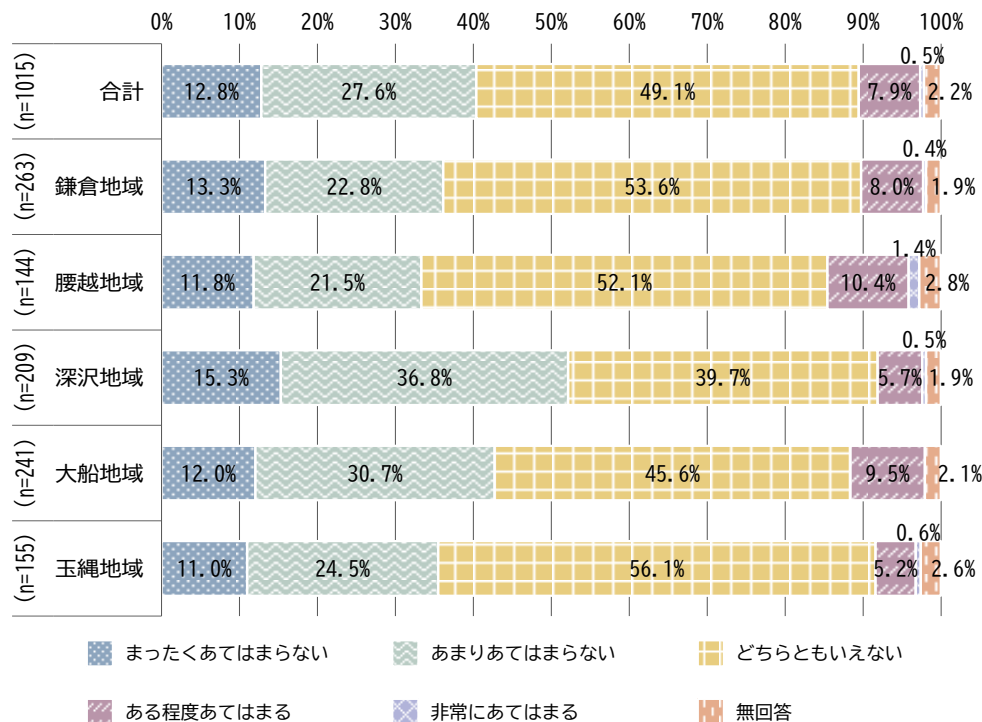
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代が低くなっているが、それ以外の世代間で特段の較差はみられない。

図表 1-167 地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある（年齢別）



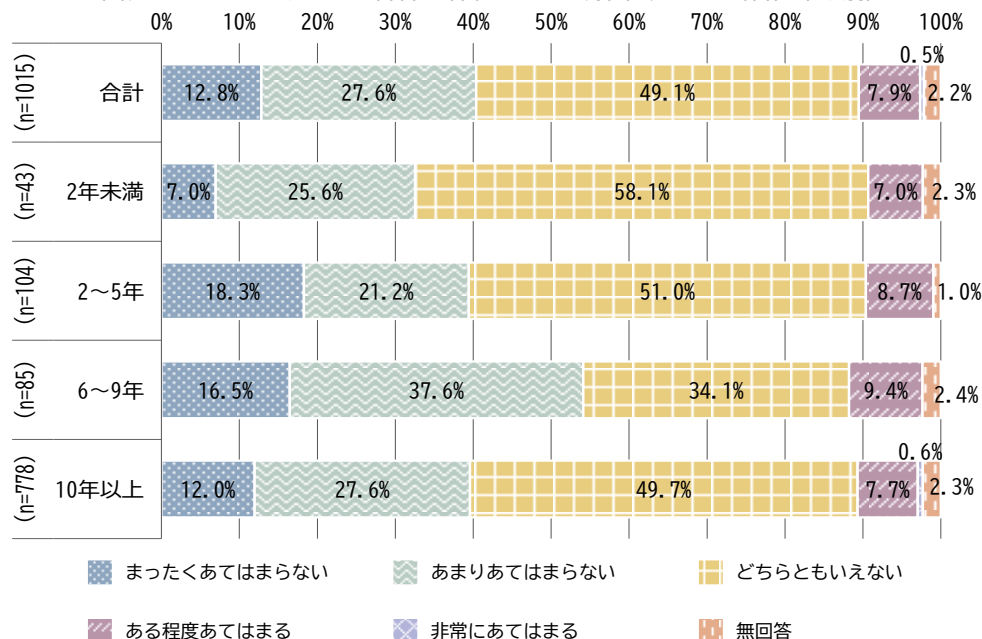
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は腰越地域でやや高くなっており、深沢地域と玉縄地域でやや低くなっている。

図表 1-168 地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある（居住地域別）



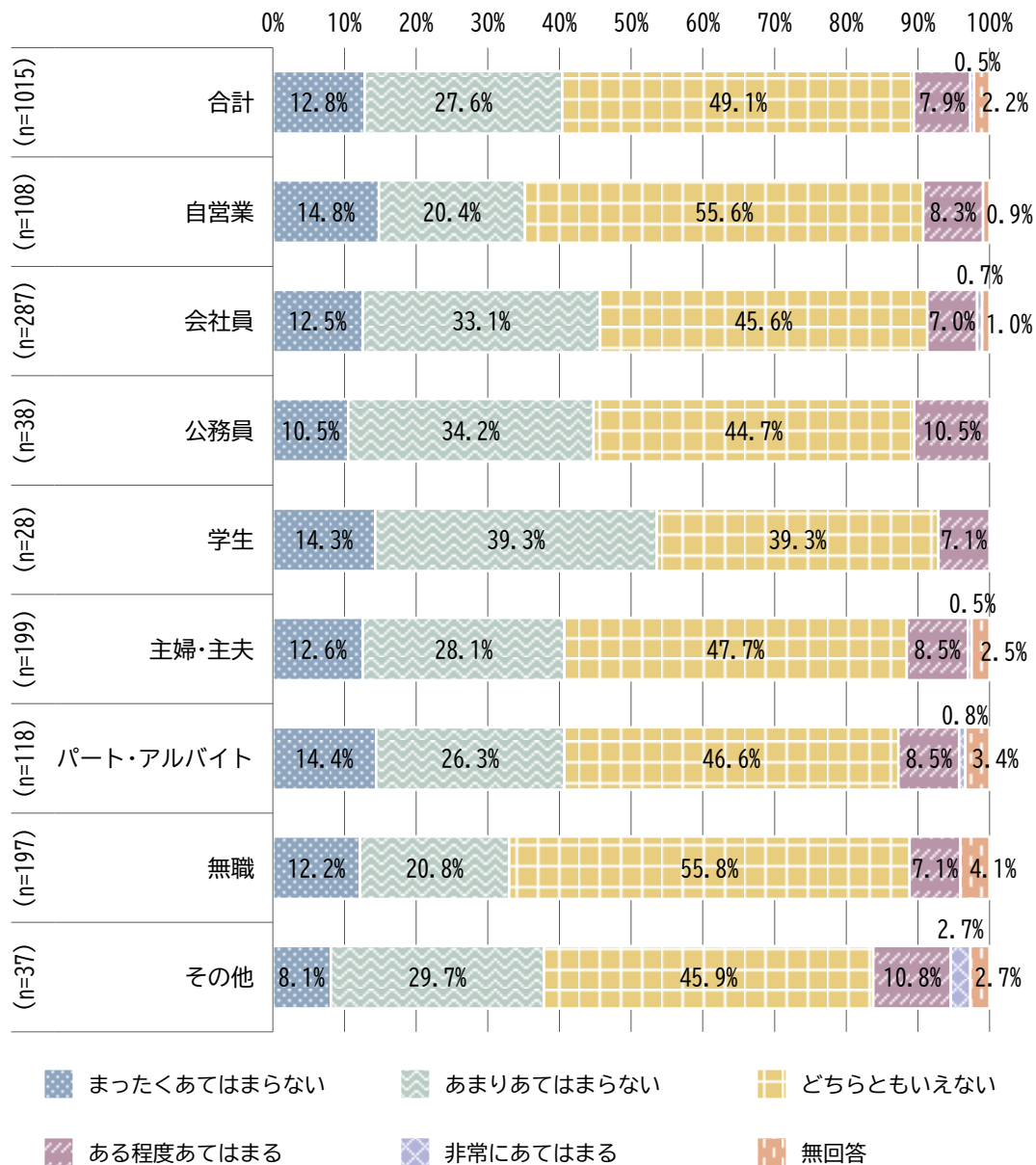
居住年数別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」については特段の格差はないが、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合では居住年数6～9年で高くなっており、2年未満でやや低くなっている。

図表 1-169 地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある（居住年数別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は公務員でやや高くなっており、学生でやや低くなっている。

図表 1-170 地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある（職業別）



(7) 自分自身の状態に関する指標

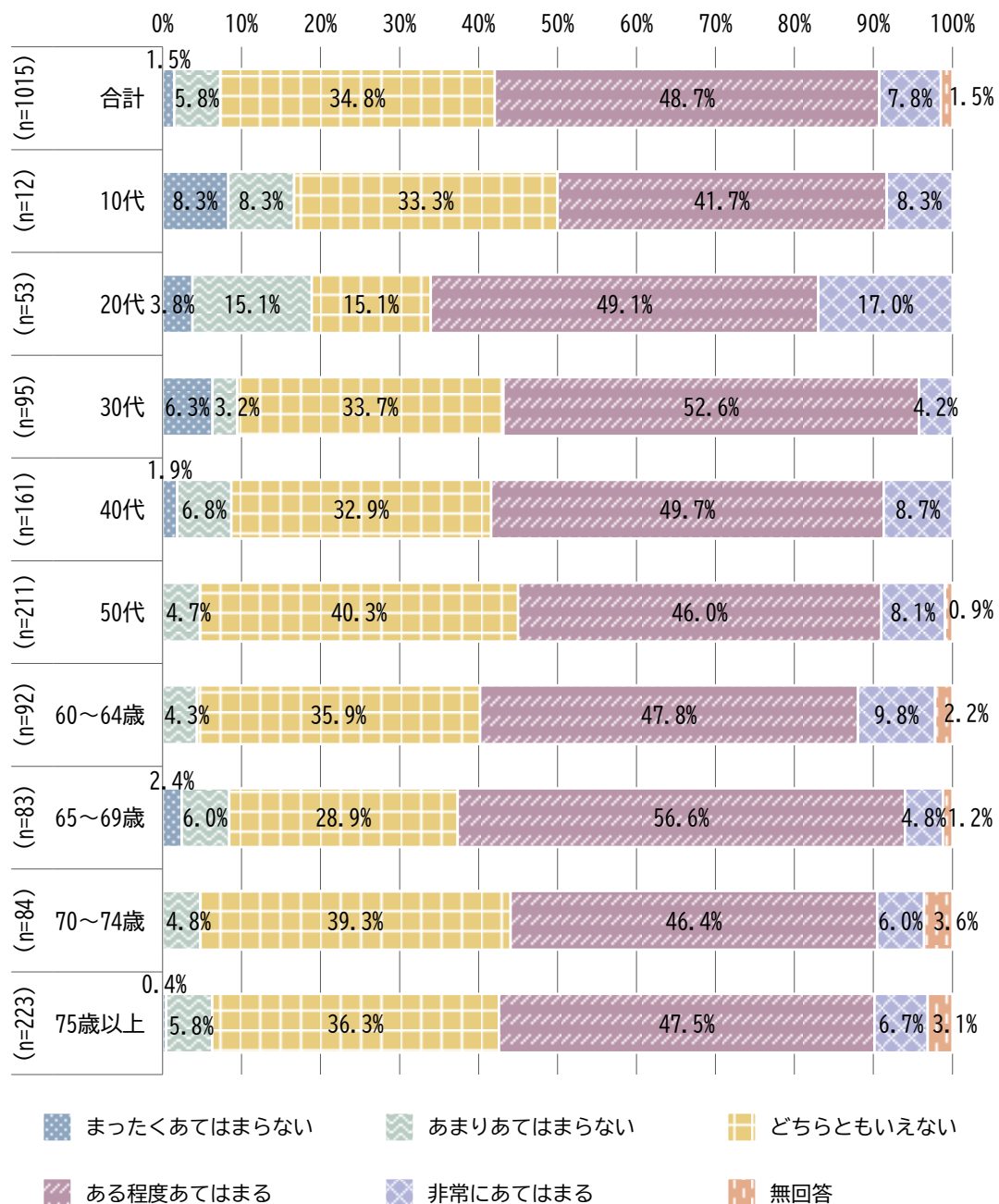
①自己効力感

Q9-1 自分のことを好ましく感じる

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は20代で最も高く、65～69歳でやや高くなっている一方で、10代で低くなっている。

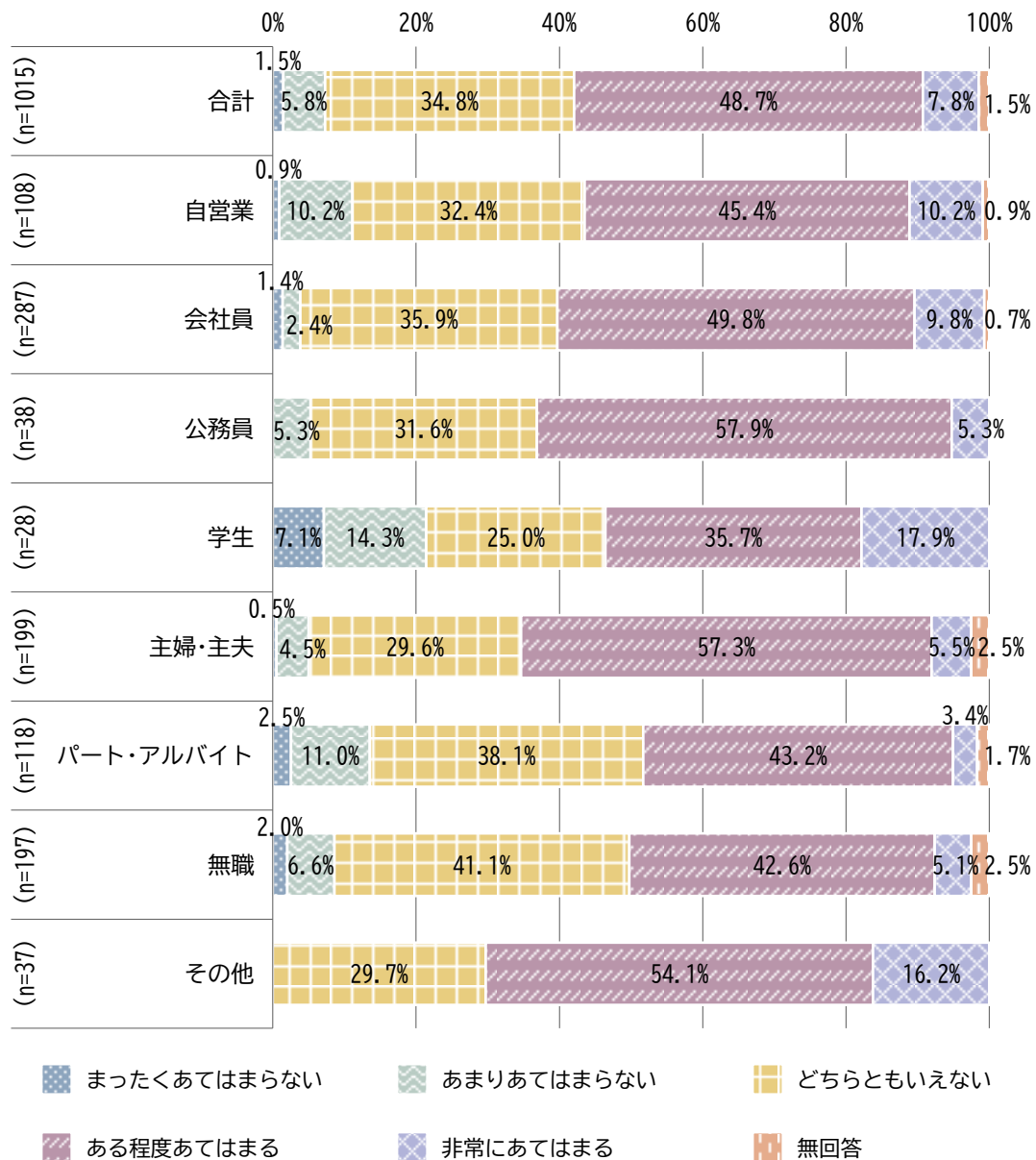
また、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合は10～20代で高くなっている。

図表 1-171 自分のことを好ましく感じる（年齢別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は公務員、主婦・主夫でやや高く、学生やパート・アルバイト、無職でやや低くなっている。

図表 1-172 自分のことを好ましく感じる（職業別）

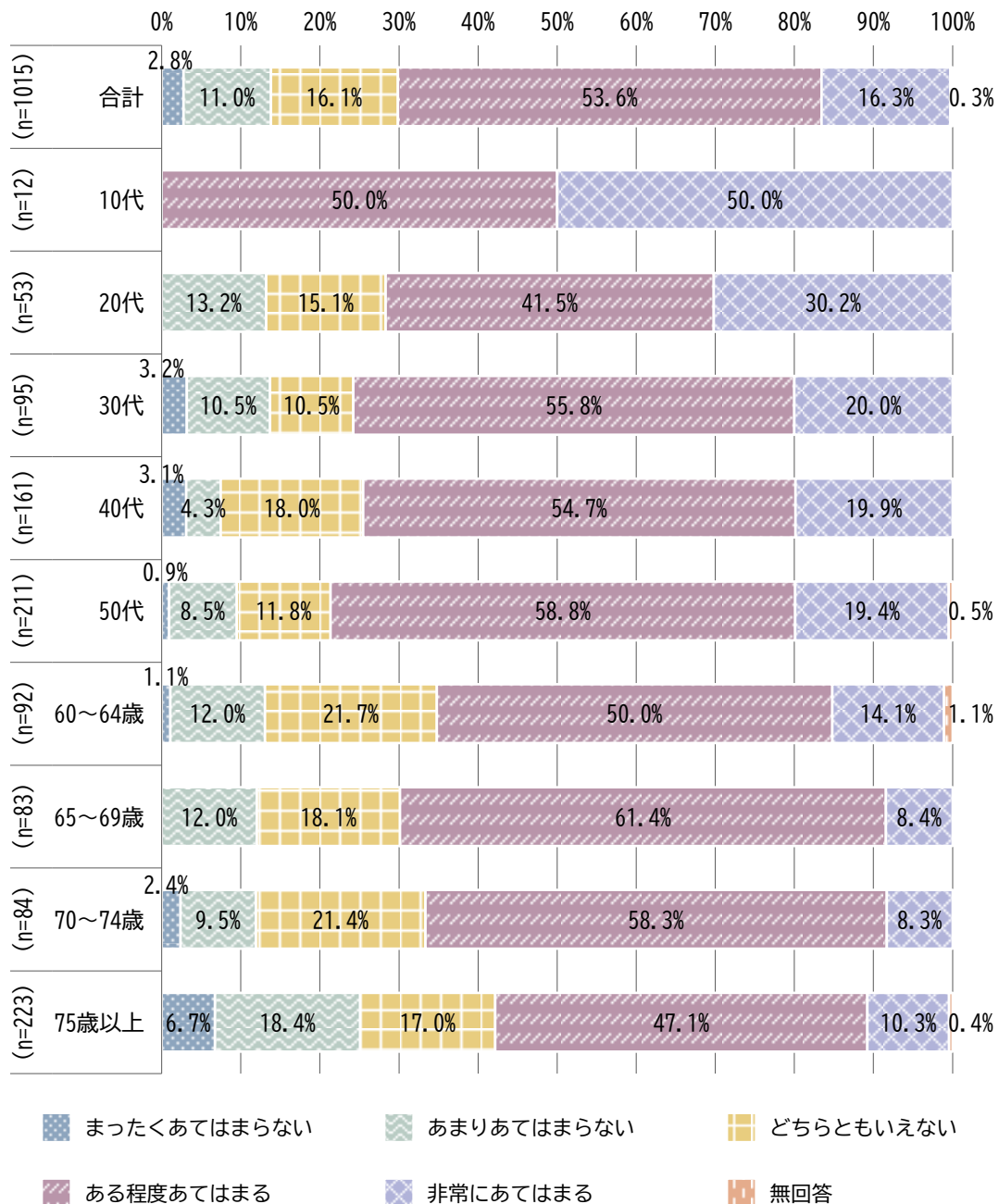


②健康状態

Q9-2 私は、身体的に健康な状態である

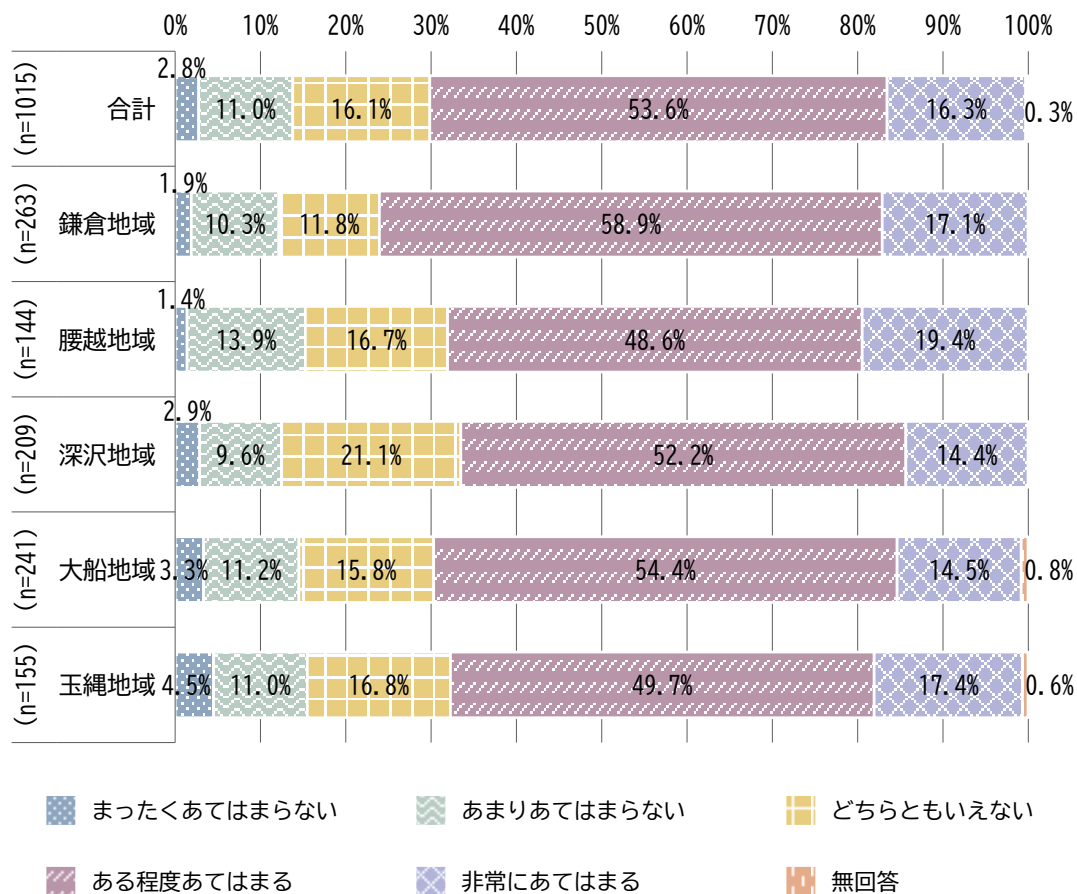
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は、60代以上と比較すると50代以下の方が高くなっているが、10～50代の中で比較した場合は、20代で最も割合は低くなっている。

図表 1-173 私は、身体的に健康な状態である（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域で高くなっている。

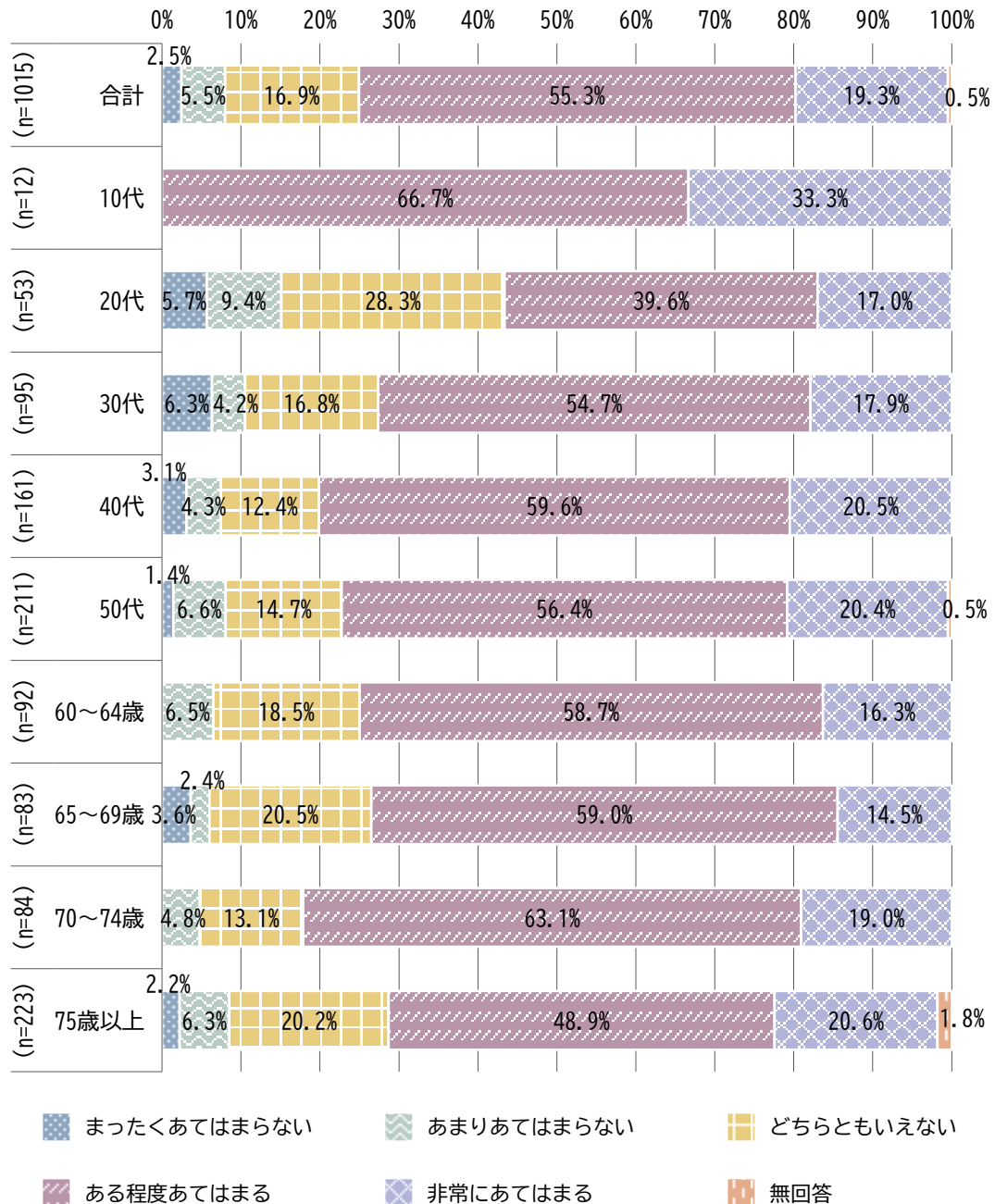
図表 1-174 私は、身体的に健康な状態である（居住地域別）



Q9-3 私は、精神的に健康な状態である

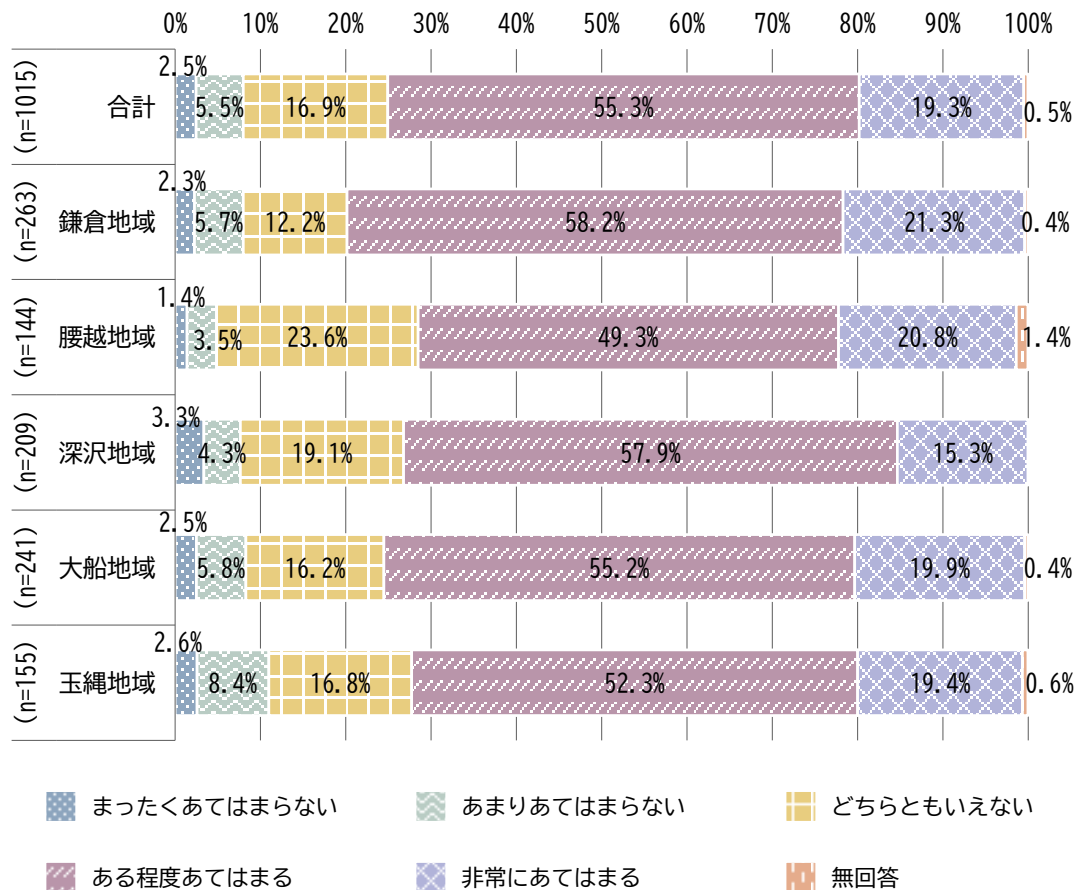
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は40代、70～74歳で高く、20代で特に低くなっている。

図表 1-175 私は、精神的に健康な状態である（年齢別）



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域でやや高くなっている。

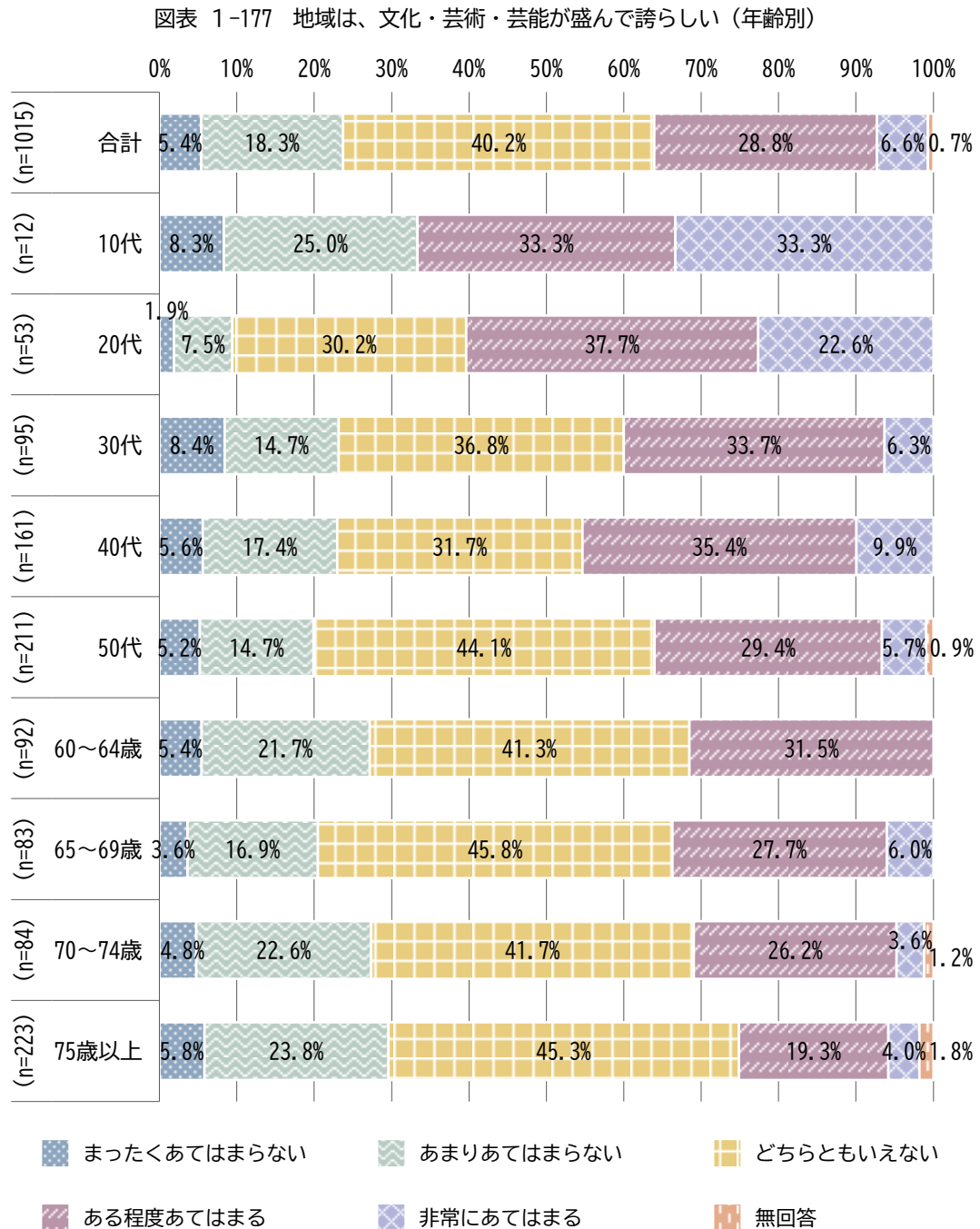
図表 1-176 私は、精神的に健康な状態である（居住地域別）



③文化・芸術

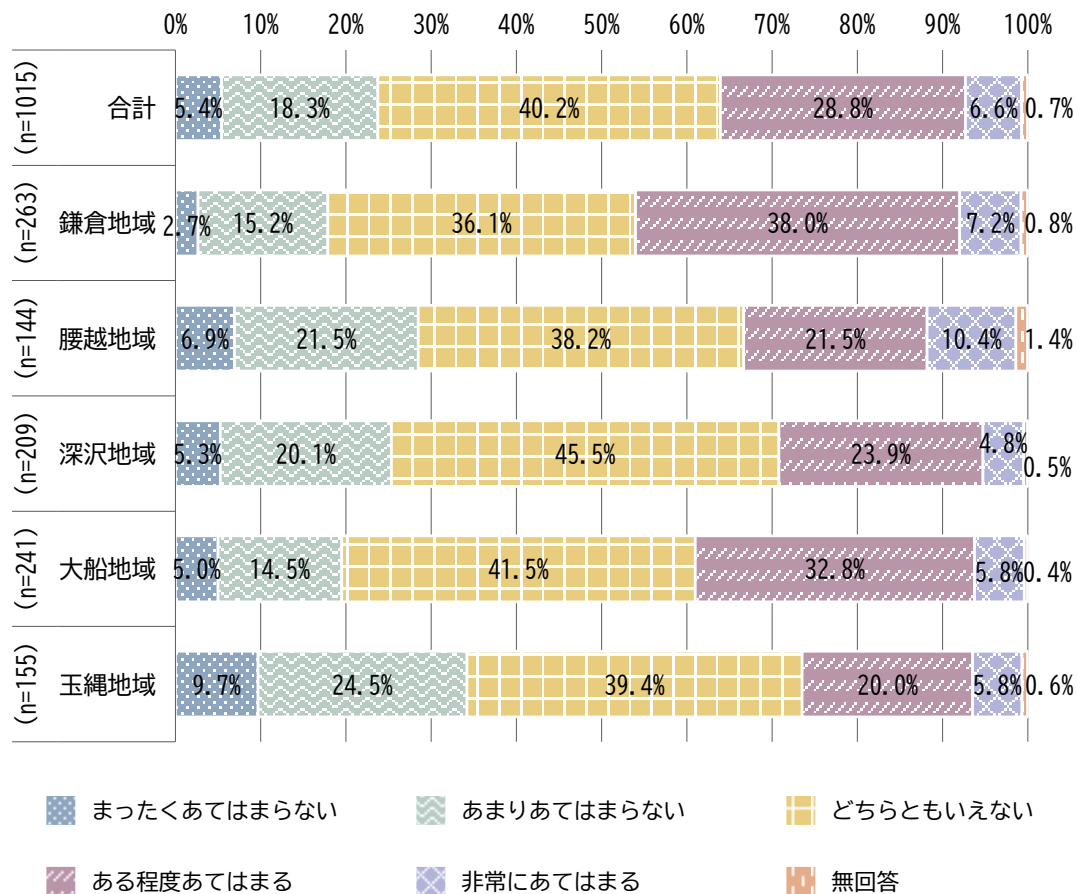
Q9-4 地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代で最も高く、年代が上がるにしたがって低くなる傾向がある。



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は鎌倉地域で高く、次いで大船地域となっており、深沢地域と玉縄地域でやや低くなっている。

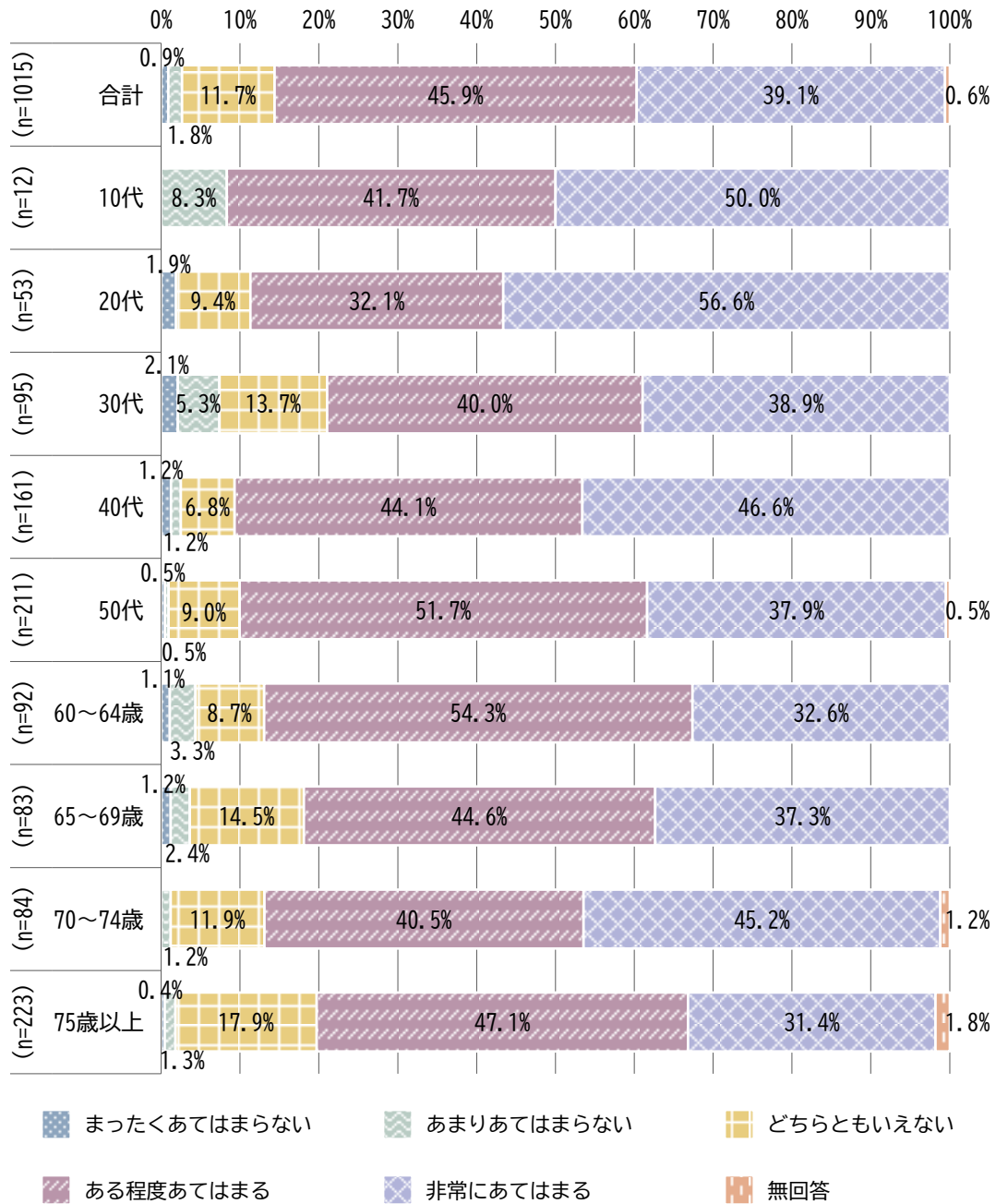
図表 1-178 地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい（居住地域別）



Q9-5 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい

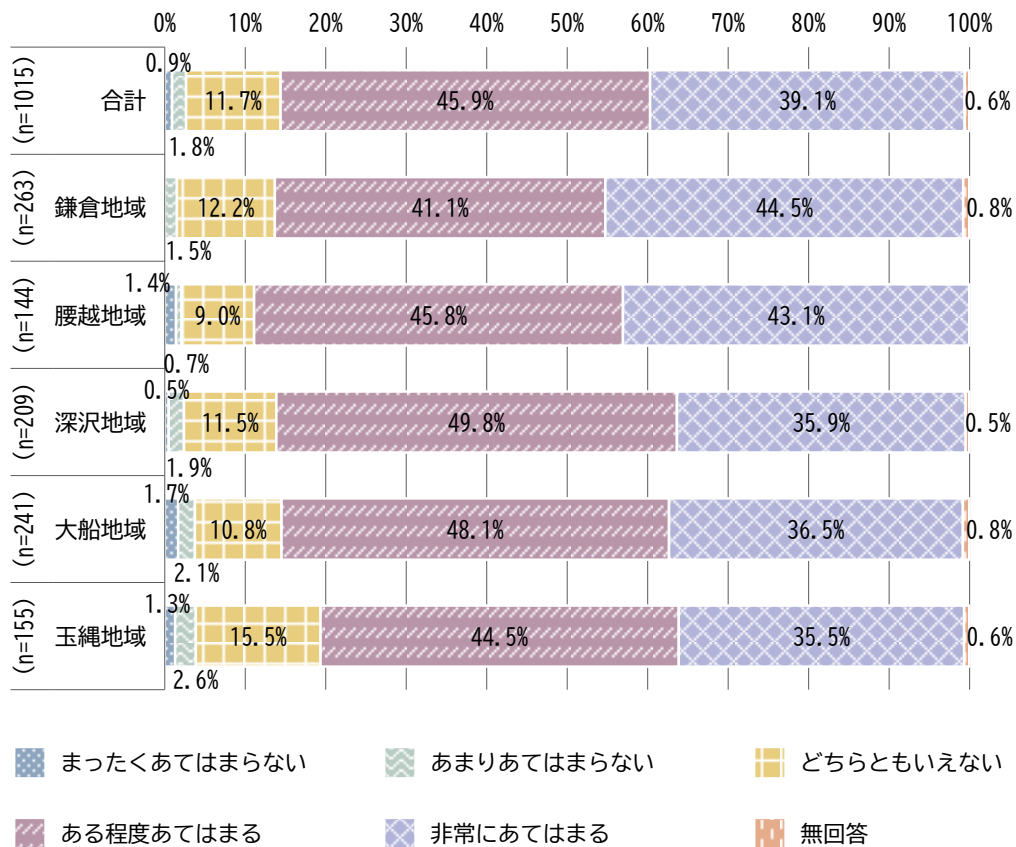
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は30代と75歳以上でやや低くなっている。

図表 1-179 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（年齢別）



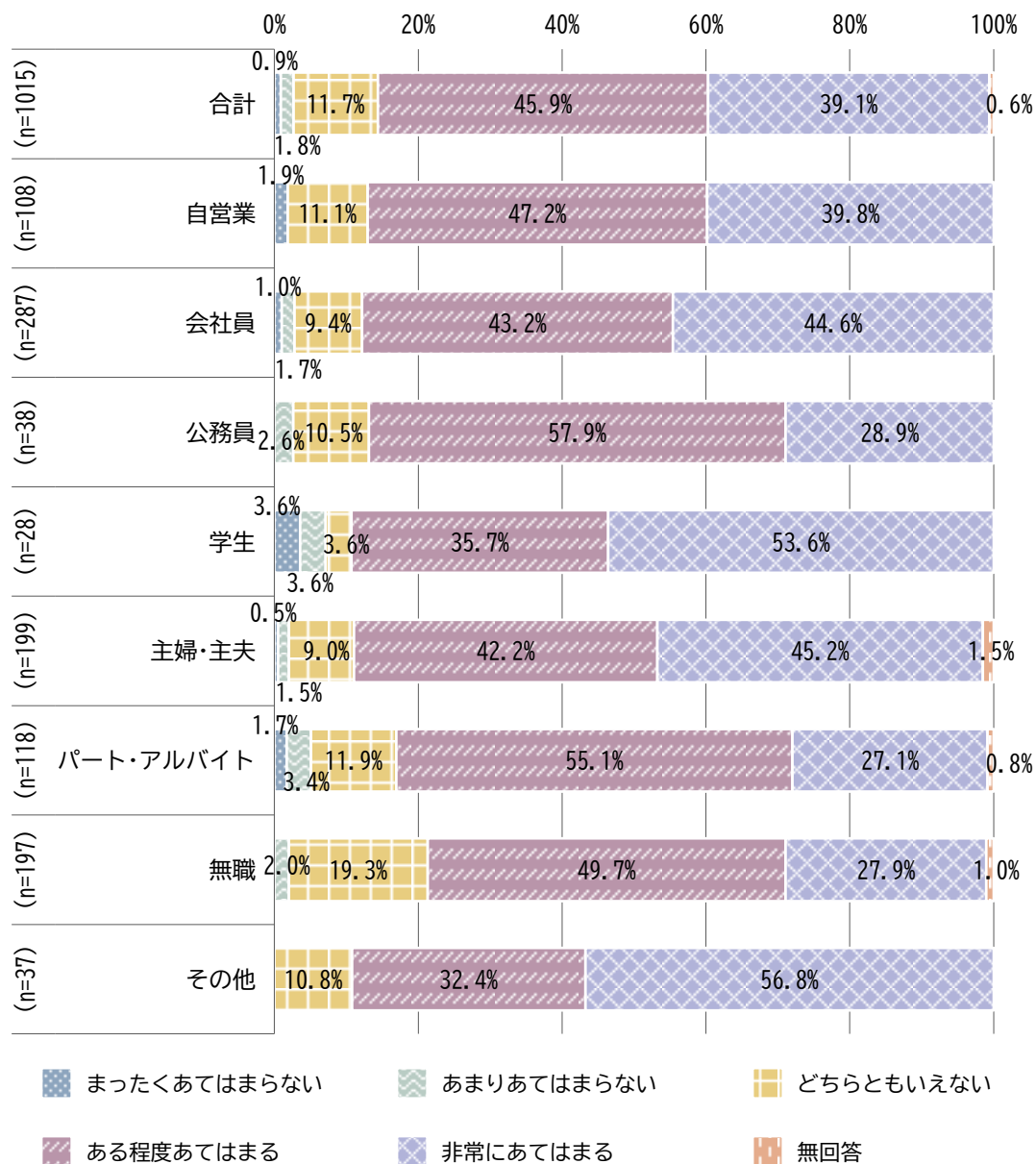
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は玉縄地域でやや低くなっている。

図表 1-180 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（居住地域別）



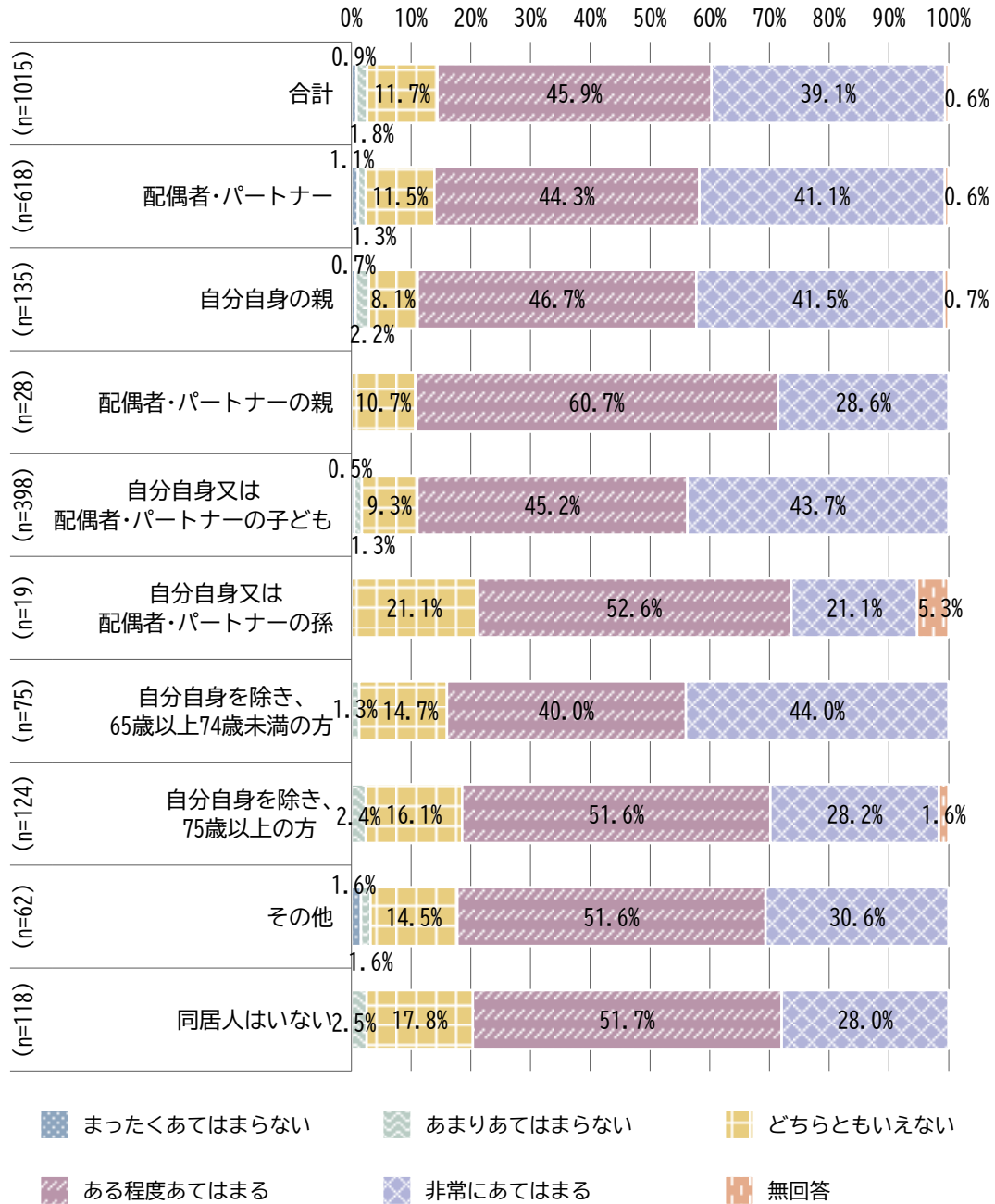
職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合はパート・アルバイト、無職でやや低くなっている。

図表 1-181 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身又は配偶者・パートナーの孫と同居しているケースで低くなっている。

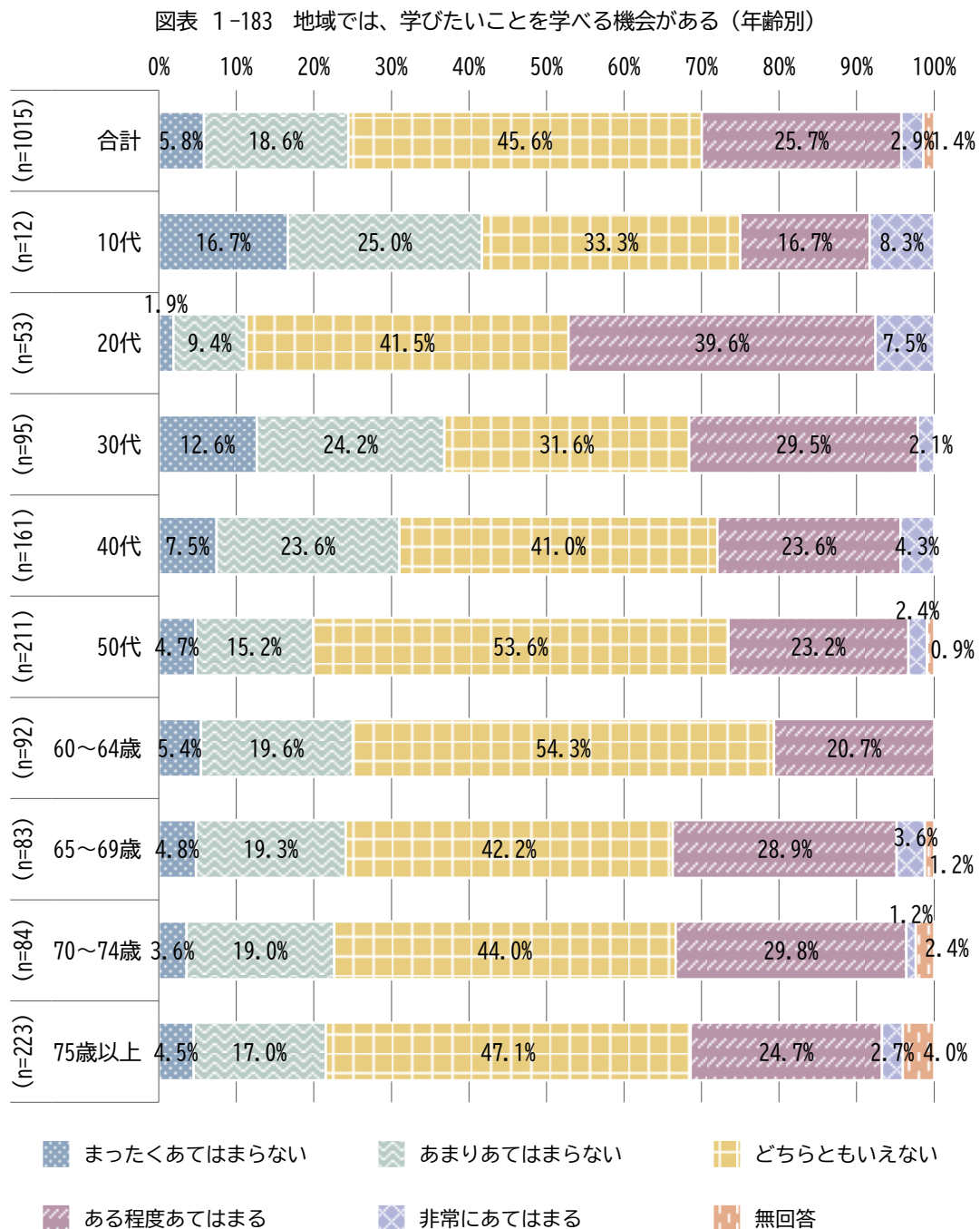
図表 1-182 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（同居家族別）



④教育機会の豊かさ

Q9-6 地域では、学びたいことを学べる機会がある

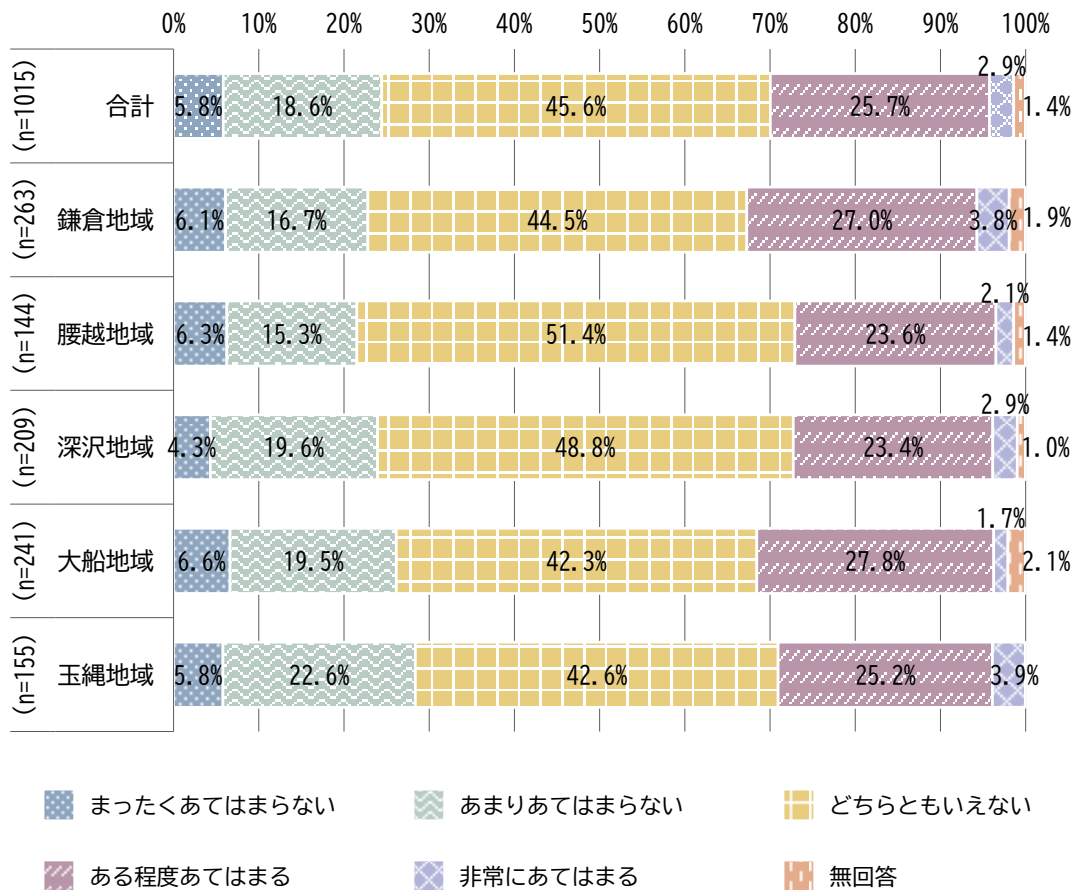
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10代で低くなっているが、20代で最も高くなっており、60～64歳までは年代が上がるにしたがって低くなっている。



居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合には特段の格差がみられない。

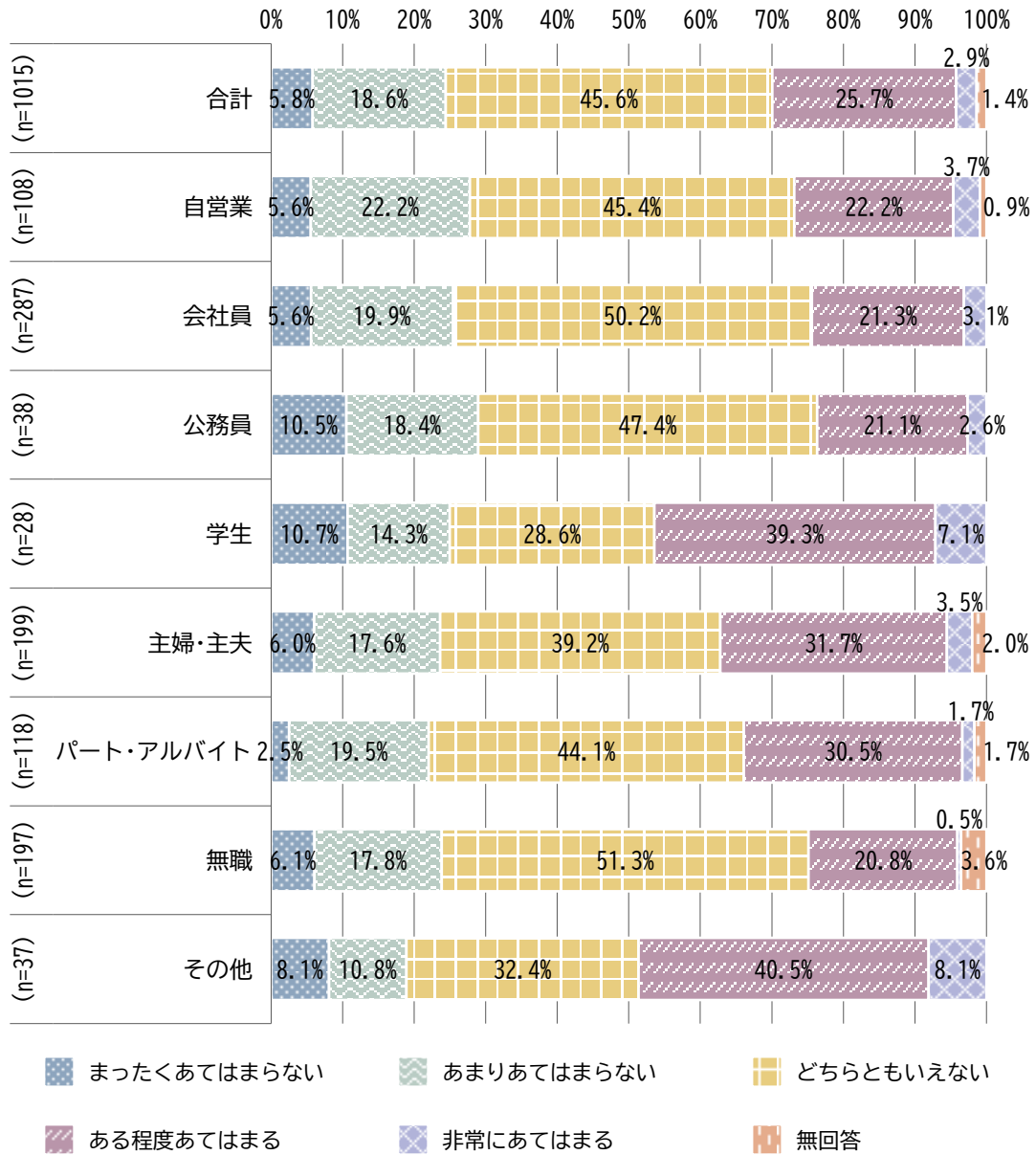
一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合は、大船地域、玉縄地域でやや高くなっている。

図表 1-184 地域では、学びたいことを学べる機会がある（居住地域別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は学生で高くなっており、会社員や公務員、無職でやや低くなっている。

図表 1-185 地域では、学びたいことを学べる機会がある（職業別）



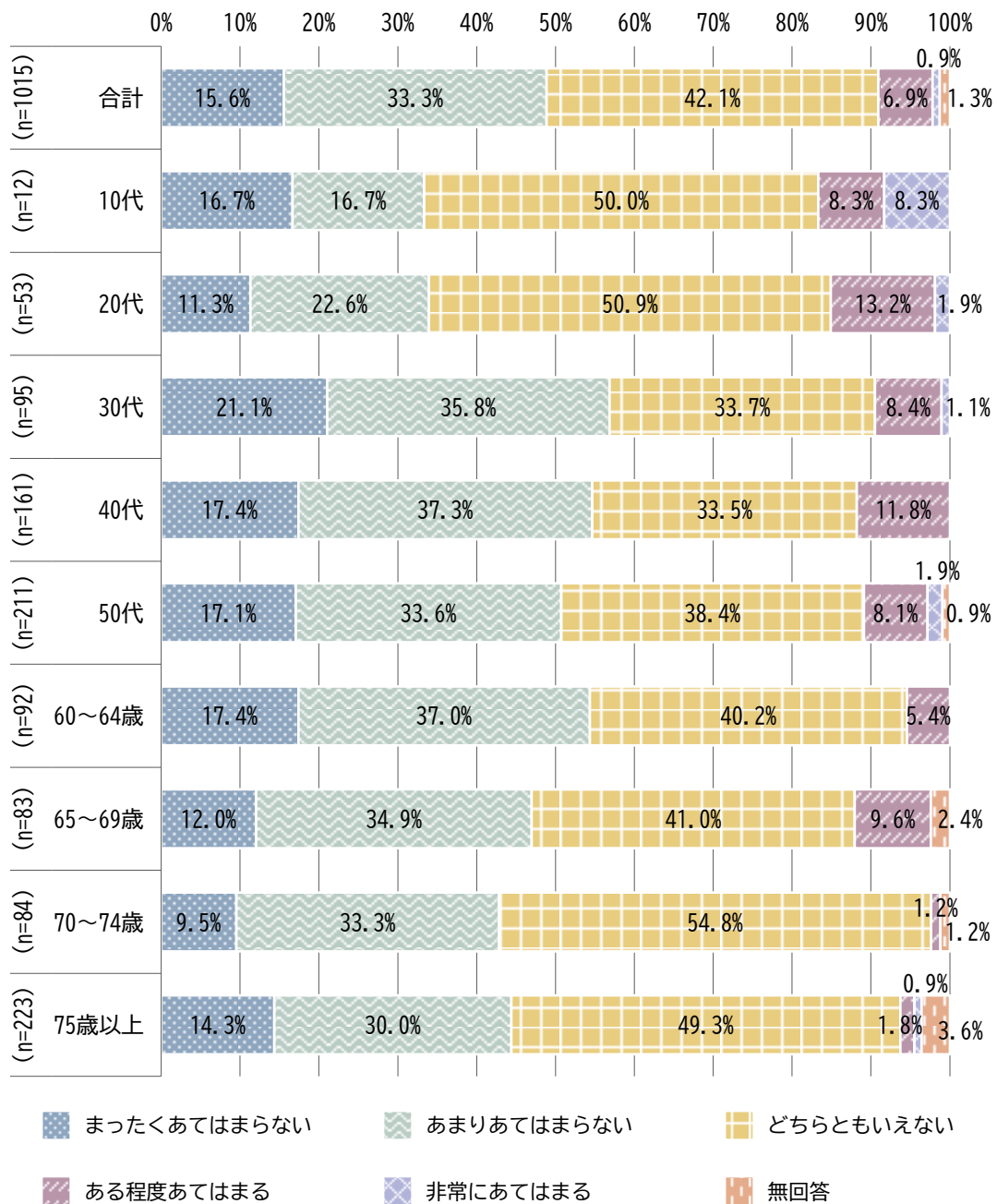
⑤雇用・所得

Q9-7 地域では、やりたい仕事を見つけやすい

年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代でやや高くなっており、70歳以上で低くなっている。

一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合は、10～20代で低くなっており、30代ではやや高くなっているが、40代以降は年代が上がるにしたがって低くなる傾向がある。

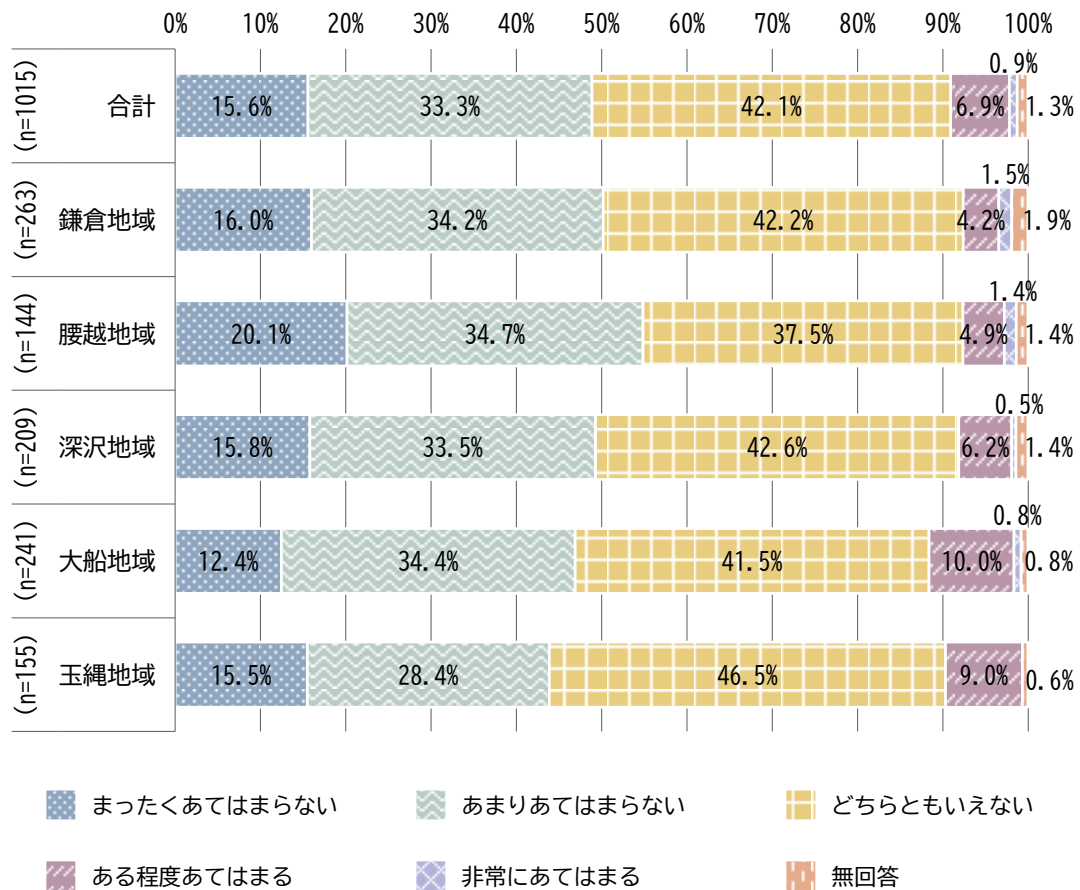
図表 1-186 地域では、やりたい仕事を見つけやすい（年齢別）



居住地域にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域でやや高くなっている。

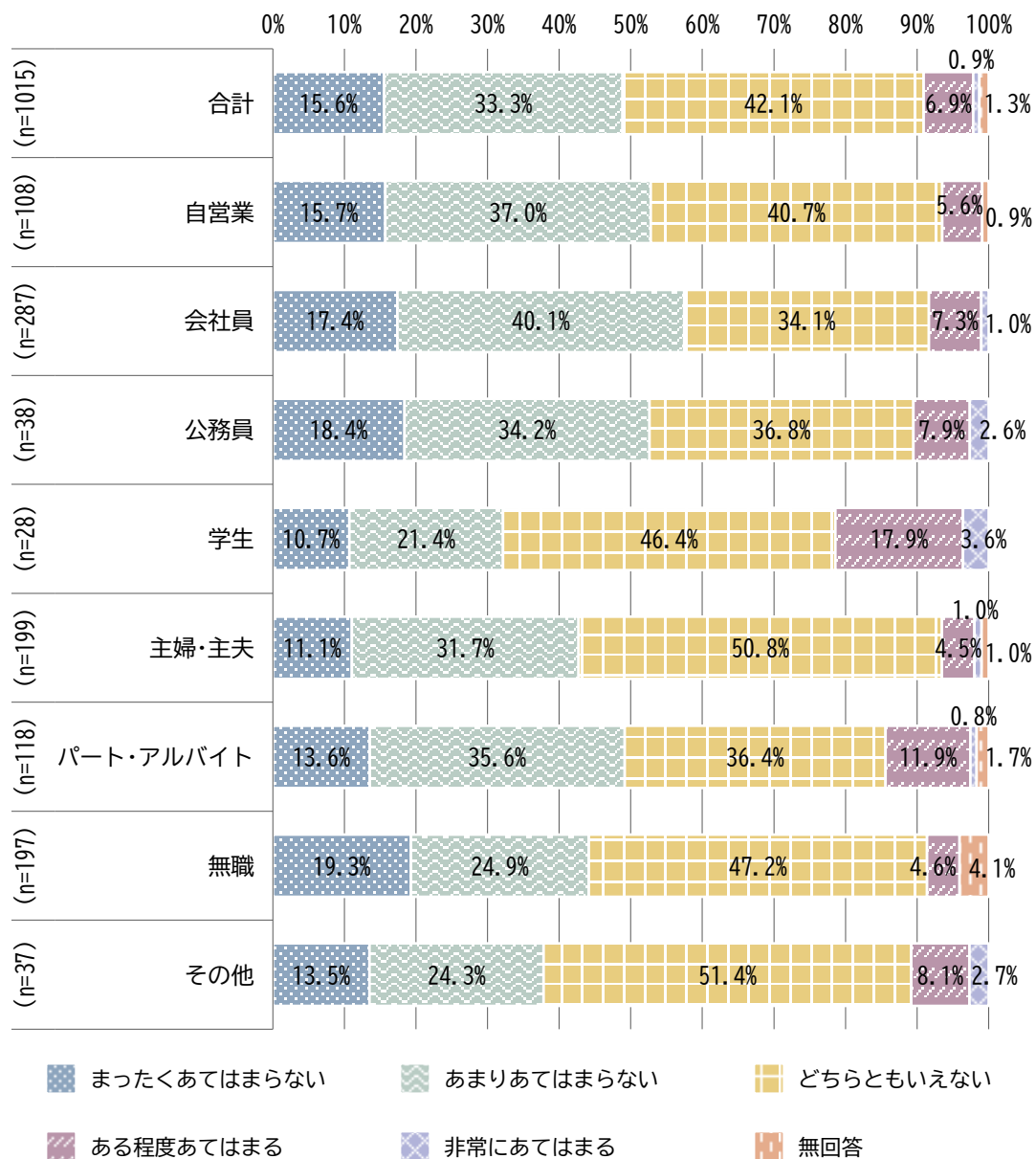
一方、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計の割合は、腰越地域でやや高くなっており、玉縄地域でやや低くなっている。

図表 1-187 地域では、やりたい仕事を見つけやすい（居住地域別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は学生が高くなっており、自営業や主婦・主夫、無職で低くなっている。

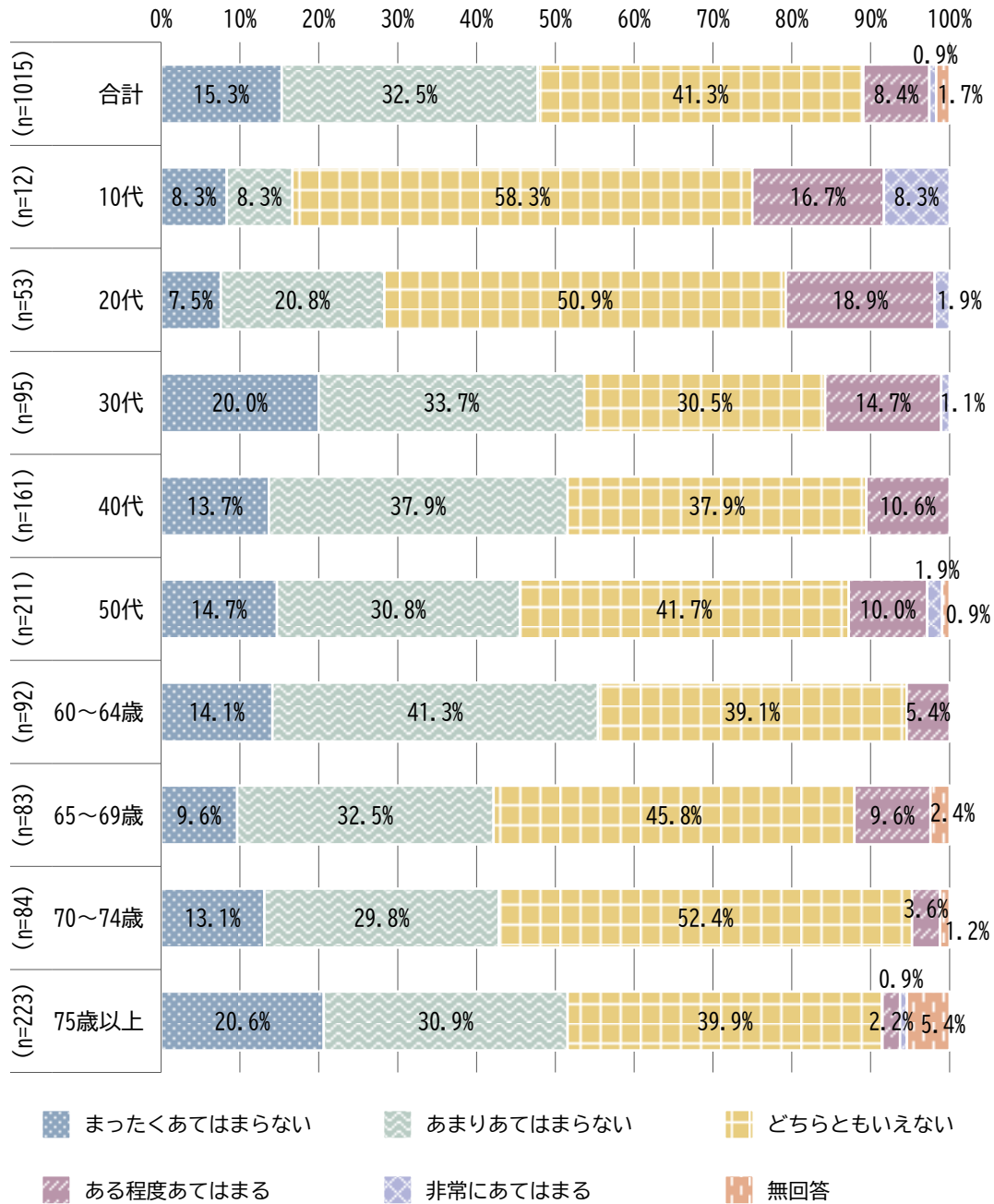
図表 1-188 地域では、やりたい仕事を見つけやすい（職業別）



Q9-8 地域では、適切な収入を得るための機会がある

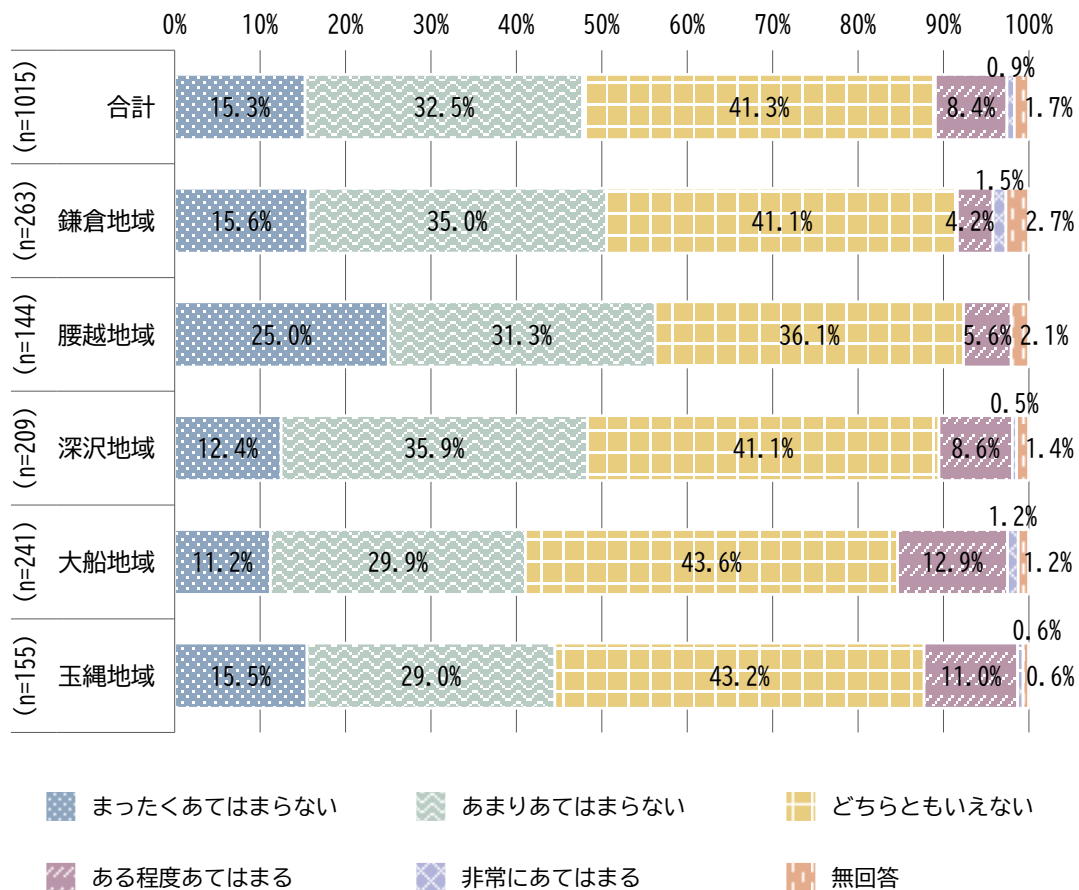
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代で高く、60～64歳、70代以上で低くなっている。

図表 1-189 地域では、適切な収入を得るための機会がある（年齢別）



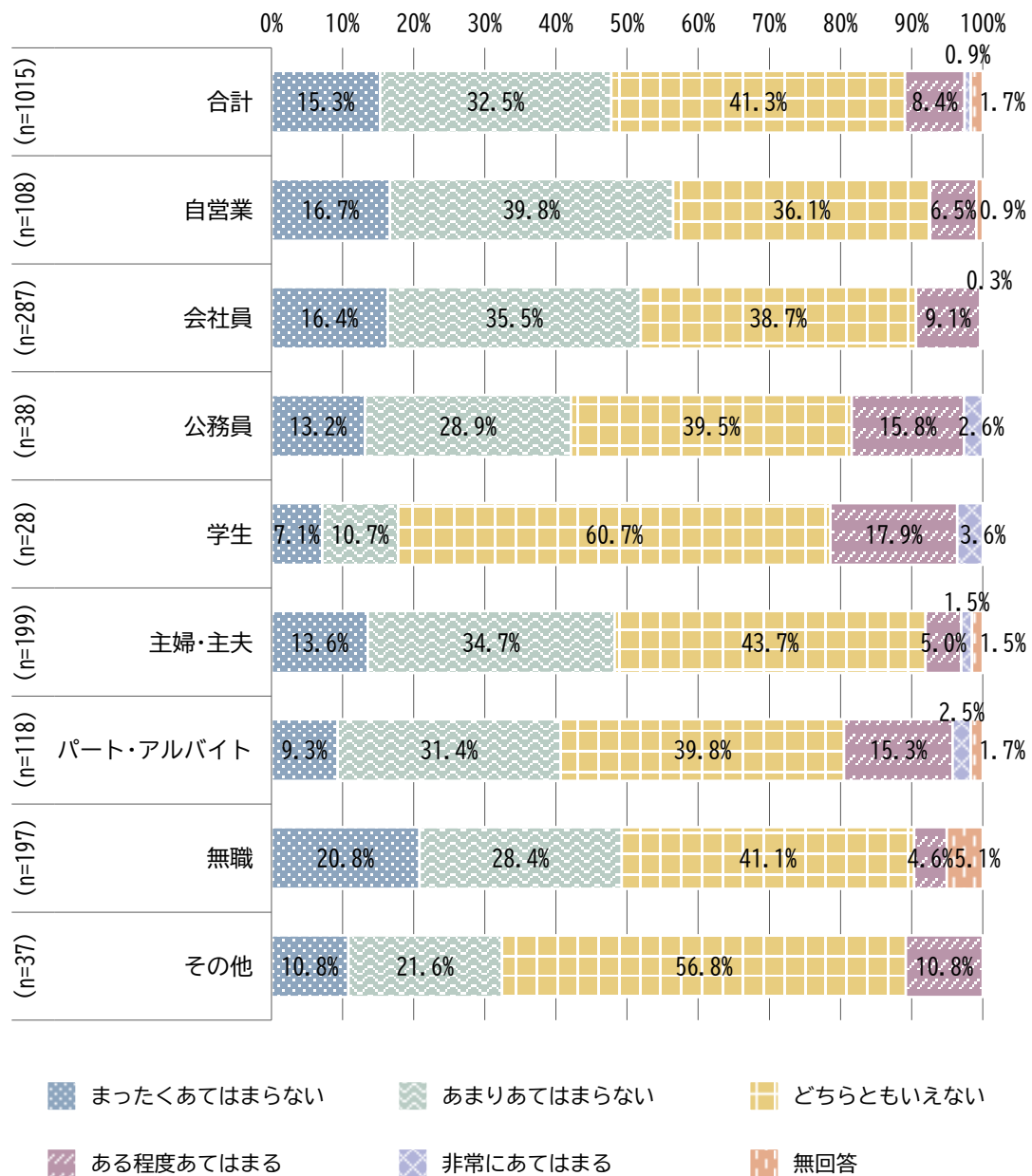
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域で高くなっており、鎌倉地域、腰越地域で低くなっている。

図表 1-190 地域では、適切な収入を得るための機会がある（居住地域別）



職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は公務員や学生、パート・アルバイトで高くなっており、自営業や主婦・主夫、無職で低くなっている。

図表 1-191 地域では、適切な収入を得るための機会がある（職業別）

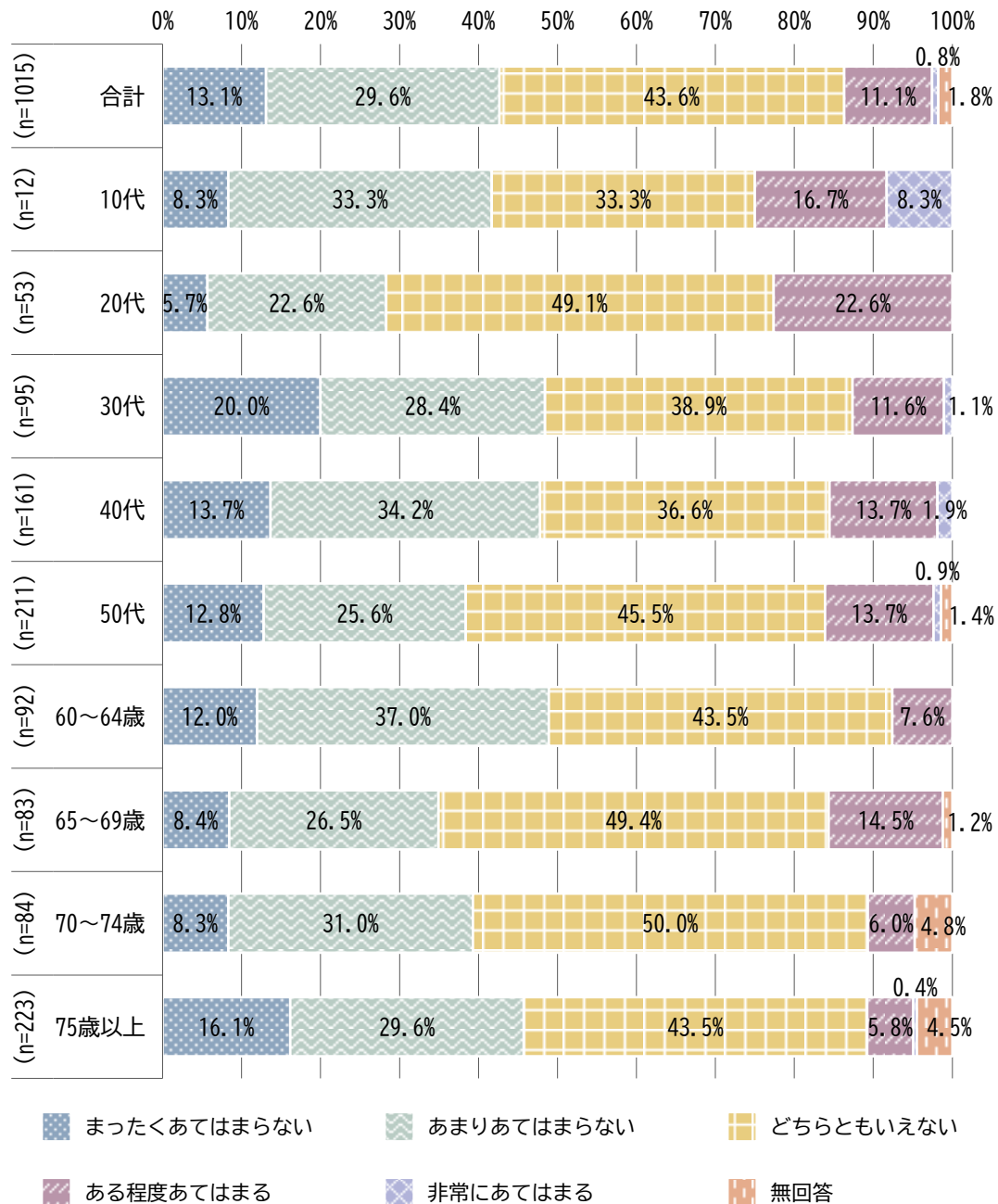


⑥事業創造

Q9-9 地域には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある

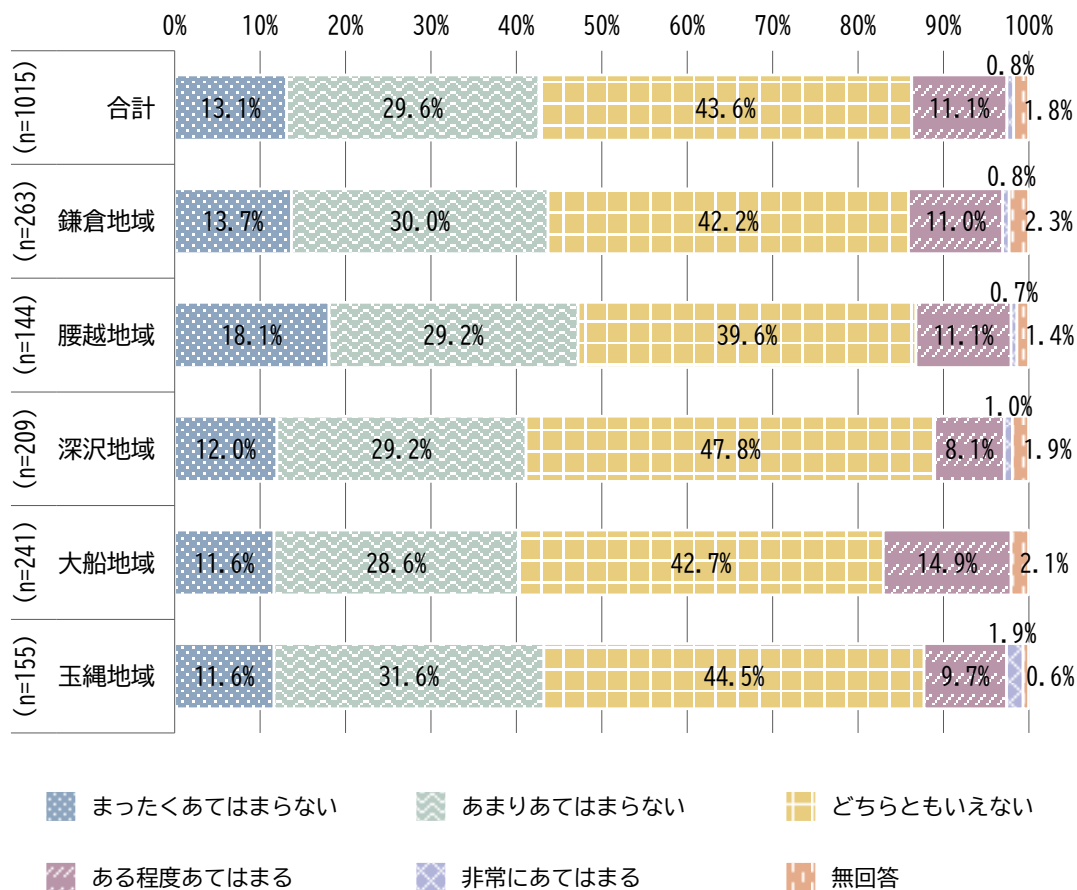
年齢別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は10～20代で最も高く、60～64歳と70～74歳、75歳以上で低くなっている。

図表 1-192 地域には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある（年齢別）



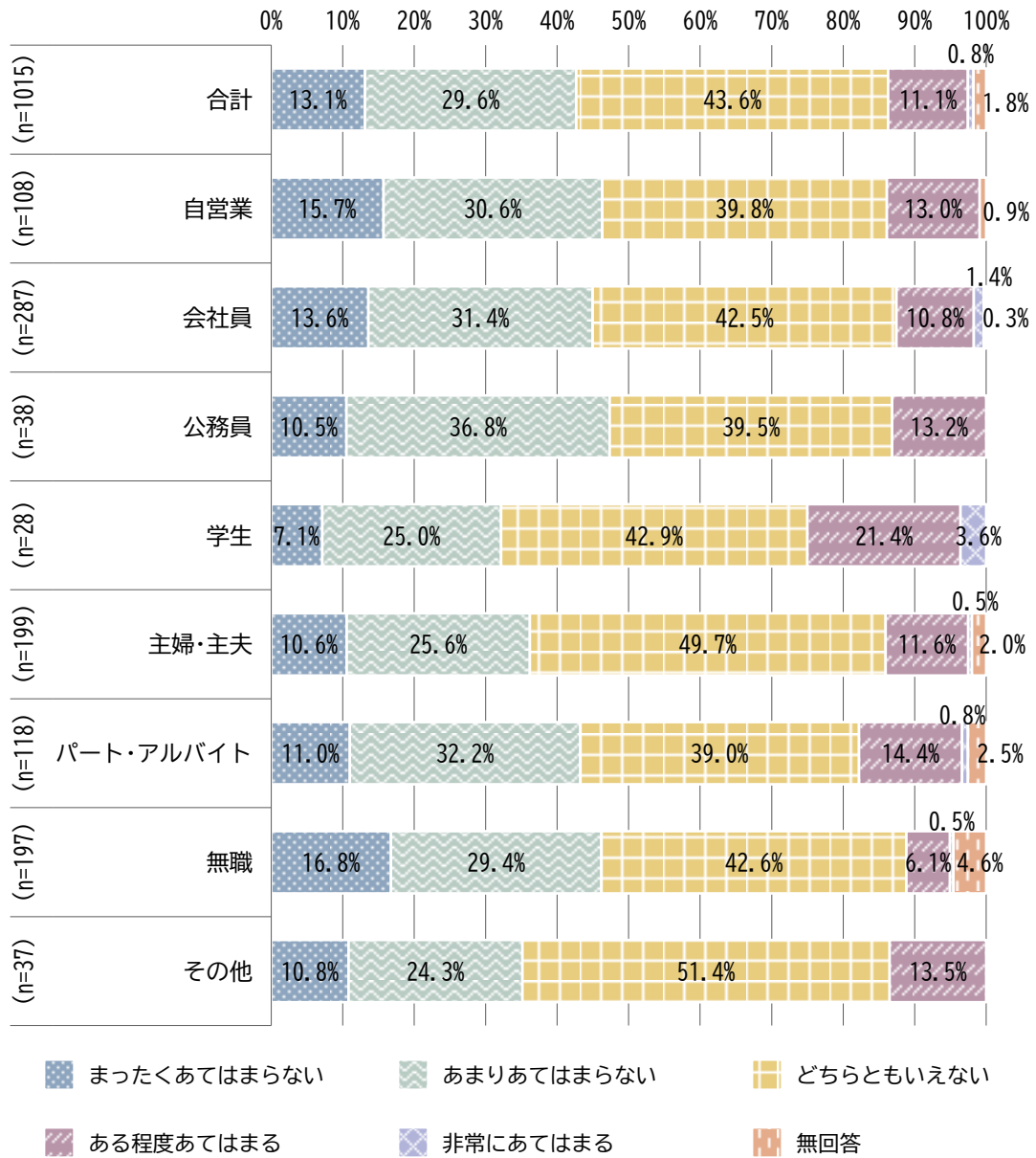
居住地域別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は大船地域でやや高くなっている。

図表 1-193 地域には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある（居住地域別）



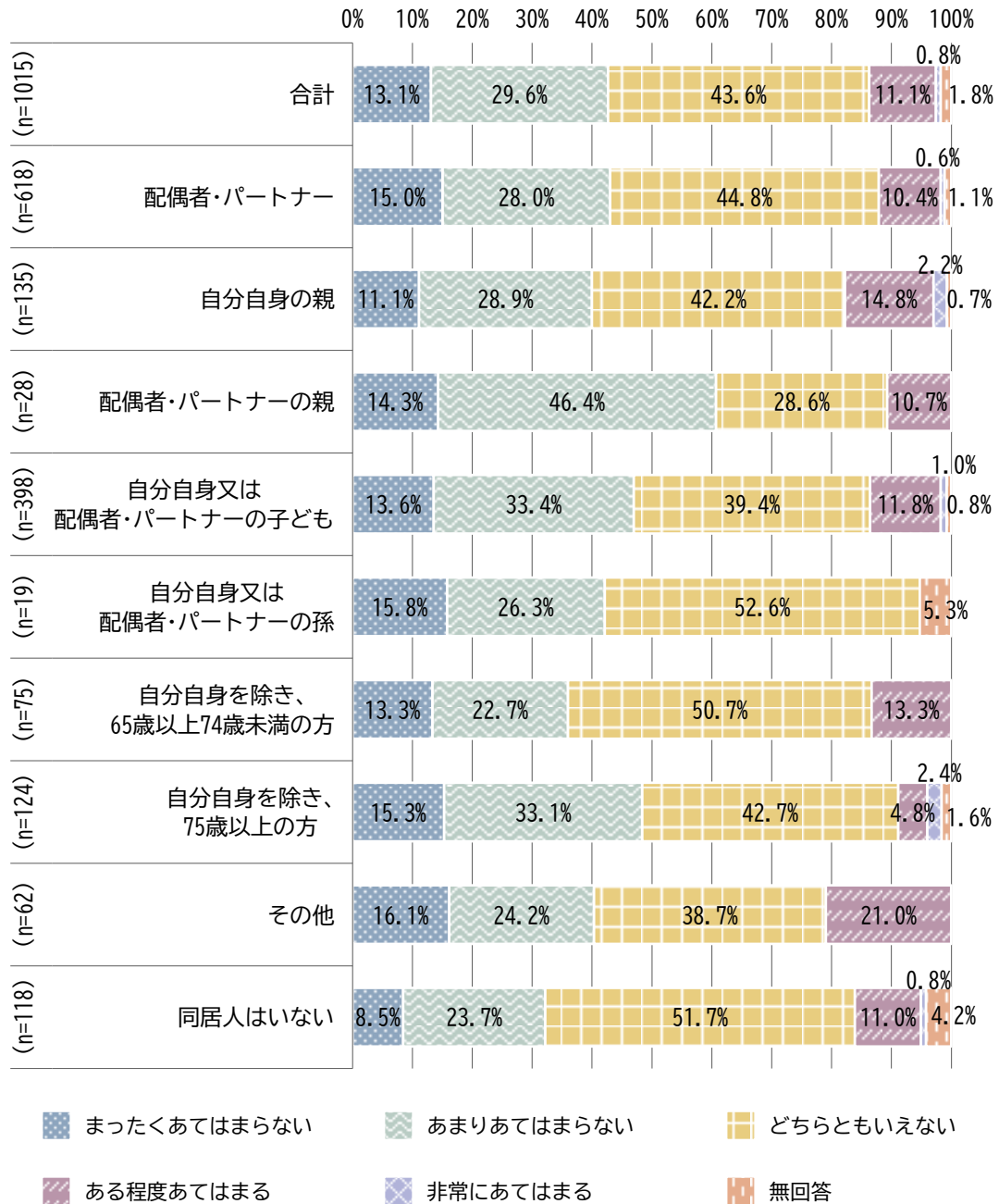
職業別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は学生で高くなっており、無職で低くなっている。

図表 1-194 地域には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある（職業別）



同居家族別にみると、「ある程度あてはまる」、「非常にあてはまる」の合計の割合は自分自身の親と同居しているケースで高くなっており、自分自身又は配偶者・パートナーの孫と同居しているケースで低くなっている。

図表 1-195 地域には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある（同居家族別）



IV. 幸福度及び満足度と各指標の相関分析

自身の幸福度及び地域への満足度と各指標との相関分析を行った。

(1) 生活環境因子に係る指標

生活環境因子に係る指標と幸福度、満足度の関係についてみると、「自宅には、心地のいい場所がある」「仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい」の指標では、幸福度の高さ、満足度の高さのいずれにもやや強い正の相関がみられた。また、「子どもたちがいきいきと暮らせる」については、満足度の高さにやや強い正の相関がみられた。

図表 1-196 生活環境因子に係る指標と幸福度、満足度の相関係数

	相関係数	現在の幸福度	住んでいる地域 に対する満足度
0	あなたの住んでいる地域に対する満足度	0.62	-
1	医療機関が充実している	0.14	0.31
2	介護・福祉施設のサービスが受けやすい	0.13	0.31
3	子育て支援・補助が手厚い	0.16	0.33
4	子どもたちがいきいきと暮らせる	0.26	0.40
5	教育環境が整っている	0.17	0.30
6	通学しやすい場所に学校がある	0.15	0.29
7	日常の買い物にまったく不便がない	0.14	0.32
8	飲食を楽しめる場所が充実している	0.13	0.27
9	自宅には、心地のいい居場所がある	0.47	0.41
10	自宅の近辺では、騒音に悩まされていない	0.19	0.23
11	適度な費用で住居を確保できる	0.14	0.18
12	公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	0.16	0.28
13	楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	0.11	0.21
14	行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	0.21	0.35
15	公共施設は使い勝手がよく便利である	0.19	0.33
16	行政サービスのデジタル化が進んでいる	0.07	0.21
17	仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	0.41	0.59
18	雰囲気は、自分にとって心地よい	0.25	0.35
19	まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	0.16	0.24
20	自慢できる都市景観がある	0.21	0.27
21	自慢できる自然景観がある	0.22	0.27
22	身近に自然を感じる事ができる	0.20	0.26
23	空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	0.15	0.25
24	環境への取組みが盛んである	0.14	0.27
25	防災対策がしっかりしている	0.13	0.29
26	防犯対策が整っており、治安がよい	0.10	0.22
27	歩道や信号が整備されていて安心である	0.08	0.22

※ 16「行政サービスのデジタル化が進んでいる」×「現在の幸福度」の相関係数は $p<0.05$ 、それ以外はすべて $p<0.01$ で無相関が棄却され、有意性が認められた。

※ 相関係数 0.4 以上を赤、0.3~0.4 未満を濃い青、0.2~0.3 未満を薄い青としている。

(2) 地域の間人関係因子並びに自分らしい生き方因子に係る指標

地域の間人関係因子並びに自分らしい生き方因子に係る指標と幸福度、満足度の関係についてみると、「自分のことを好ましく感じる」「精神的に健康な状態である」と、幸福度の高さにやや強い正の相関がみられた。また、「町内に対して愛着を持っている」と、満足度の高さにやや強い正の相関がみられた。

なお、「町内の人自分が自分をどう思っているかが気になる」ことについては、幸福度、満足度との相関関係係数は有意とならなかった（無相関であることが有意水準5%で棄却されなかった）。

図表 1-197 地域の間人関係因子並びに自分らしい生き方因子に係る指標と幸福度、満足度の相関係数

	相関係数	現在の幸福度	住んでいる地域に対する満足度
1	私は、同じ町内に住む人々を信頼している	0.28	0.39
2	地域では、地域活動への市民参加が盛んである	0.23	0.28
3	地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	0.27	0.29
4	私は、町内の人々が困っていたら手助けをする	0.21	0.28
5	私は、この町内に対して愛着を持っている	0.33	0.45
6	町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	0.22	0.37
7	私は、見知らぬ他者であっても信頼する	0.14	0.21
8	私は、町内の人自分が自分をどう思っているかが気になる	-0.01	0.04
9	地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	0.12	0.25
10	地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	0.10	0.26
11	自分のことを好ましく感じる	0.42	0.30
12	私は、身体的に健康な状態である	0.36	0.26
13	私は、精神的に健康な状態である	0.44	0.28
14	地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	0.25	0.34
15	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	0.31	0.34
16	地域では、学びたいことを学べる機会がある	0.22	0.34
17	地域では、やりたい仕事を見つけやすい	0.17	0.27
18	地域では、適切な収入を得るための機会がある	0.18	0.26
19	地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	0.19	0.31

※ 8「私は、町内の人自分が自分をどう思っているかが気になる」の相関係数はいずれも無相関が棄却されず、有意性は認められなかった。それ以外はすべて $p < 0.01$ で無相関が棄却され有意性が確認された。

※ 相関係数 0.4 以上を赤、0.3~0.4 未満を濃い青、0.2~0.3 未満を薄い青としている。

2 他自治体とのサービスレベル比較

I. 分析概要

(1) 分析方法

市民の暮らしやすさや幸福度に基づき、他自治体とのサービスレベル比較を行った。分析方法は次のとおり。

【分析方法】

1. 市のアンケート調査の各指標（主観指標）について、「まったくあてはまらない」を1pt、「あまりあてはまらない」を2pt、「どちらともいえない」を3pt、「ある程度あてはまる」を4pt、「非常にあてはまる」を5ptとし、指標ごとの平均値として「得点」を算出した。
2. LWC Iの因子に基づき、各主観指標を統合して分類し、当該因子の指標の得点の平均値を「（主観）因子得点」として算出した。
3. 全国のLWC Iの平均値、標準偏差に基づき、市の満足度、重要度、（主観）因子得点の「（主観）偏差値」を算出した。
4. 3で算出した「（主観）偏差値」に基づき、複数の自治体におけるLWC Iに基づく「（主観）偏差値」との比較分析を行った。
5. LWC Iに基づく「（主観）偏差値」と、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが公表するLWC I「（客観）偏差値」に基づき、市と複数の自治体における比較分析を行った。

※主観と客観については、「1I. (3) LWC Iの「因子」と「指標」について」（2頁）を参照。

なお、LWC Iにおける因子と主観指標の関係は次頁のとおりである。

図表 2-1 LWC Iにおける生活環境因子と主観指標

指標	因子
医療福祉、子育て	
医療機関が充実している	医療・福祉
介護・福祉施設のサービスが受けやすい	医療・福祉
子育て支援・補助が手厚い	子育て
子どもたちがいきいきと暮らせる	子育て
教育環境が整っている	初等・中等教育
通学しやすい場所に学校がある	初等・中等教育
買物、住宅環境等	
日常の買い物にまったく不便がない	買物・飲食
飲食を楽しめる場所が充実している	買物・飲食
自宅には、心地のいい居場所がある	住宅環境
自宅の近辺では、騒音に悩まされていない	住宅環境
適度な費用で住居を確保できる	住宅環境
公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	移動・交通
楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	遊び・娯楽
行政等	
行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	地域行政
公共施設は使い勝手がよく便利である	地域行政
行政サービスのデジタル化が進んでいる	デジタル生活
仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	デジタル生活
まちなみ、公共空間	
雰囲気は、自分にとって心地よい	公共空間
まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	公共空間
自慢できる都市景観がある	都市景観
自慢できる自然景観がある	自然景観
身近に自然を感じるができる	自然の恵み
空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	自然の恵み
環境への取組みが盛んである	環境共生
防災対策がしっかりしている	自然災害
防犯対策が整っており、治安がよい	事故・犯罪
歩道や信号が整備されていて安心である	事故・犯罪

図表 2-2 LWC Iにおける地域の人間関係因子と主観指標

指標	因子
地域とのつながり等	
私は、同じ町内に住む人たちを信頼している	地域とのつながり
地域では、地域活動への市民参加が盛んである	地域とのつながり
地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	地域とのつながり
私は、町内の人困っていたら手助けをする	地域とのつながり
私は、この町内に対して愛着を持っている	地域とのつながり
町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	多様性と寛容性
私は、見知らぬ他者であっても信頼する	多様性と寛容性
私は、町内の人自分が自分をどう思っているかが気になる	多様性と寛容性
地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	多様性と寛容性
地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	多様性と寛容性

図表 2-3 LWC Iにおける自分らしい生き方因子と主観指標

指標	因子
自身について	
自分のことを好ましく感じる	自己効力感
私は、身体的に健康な状態である	健康状態
私は、精神的に健康な状態である	健康状態
地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	文化・芸術
将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	文化・芸術
地域では、学びたいことを学べる機会がある	教育機会の豊かさ
地域では、やりたい仕事を見つけやすい	雇用・所得
地域では、適切な収入を得るための機会がある	雇用・所得
地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	事業創造

(2) 比較対象自治体

鎌倉市と比較分析を行う対象自治体として、地域性が共通する「東京圏」で、財政規模（一般会計当初予算額）が同等程度の自治体及び鎌倉市の周辺自治体、鎌倉市との転出入数上位自治体のうち、市が比較対象として選定した団体を、「ベンチマーク自治体」として下記のとおり設定し、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが公表する令和5年度 Well-being アンケートダッシュボードの値を用いて、本アンケート調査結果による LWCI との比較を行う。

神奈川県	(8団体)	平塚市、茅ヶ崎市、小田原市、秦野市、海老名市、座間市、藤沢市、大磯町
埼玉県	(2団体)	上尾市、熊谷市
千葉県	(2団体)	浦安市、八千代市
東京都	(8団体)	千代田区、港区、品川区、目黒区、世田谷区、武蔵野市、日野市、多摩市

なお、上尾市、武蔵野市は主観指標のサンプル数が20未満であること、また、大磯町は主観指標データがないことから、これら2市1町は主観指標の比較から除外した。

図表 2-4 比較対象自治体における各指標の偏差値

	幸福度	5年後の幸福度	満足度	町内の幸福度	周りも楽しい
鎌倉市	80 以上	60.1	55.7	63.2	80 以上
神奈川県平塚市	56.9	56.4	58.3	58.0	55.8
神奈川県藤沢市	66.8	67.3	68.5	67.7	70.0
神奈川県小田原市	45.7	45.2	49.5	52.9	47.1
神奈川県茅ヶ崎市	53.2	49.9	65.0	64.4	60.8
神奈川県秦野市	65.2	53.2	51.3	58.1	47.7
神奈川県海老名市	54.4	40.0	52.1	51.0	55.8
神奈川県座間市	57.8	56.8	49.9	45.8	46.7
埼玉県熊谷市	40.7	44.3	41.2	37.7	42.2
千葉県八千代市	71.0	72.5	60.8	59.4	63.8
千葉県浦安市	53.2	60.7	68.6	66.9	72.9
東京都千代田区	58.1	63.1	68.0	74.6	73.8
東京都港区	75.5	80 以上	77.3	74.5	75.3
東京都品川区	45.3	46.0	69.9	59.2	67.5
東京都目黒区	56.1	58.4	72.6	71.2	63.5
東京都世田谷区	61.6	61.5	70.0	77.4	74.5
東京都日野市	54.7	43.3	57.2	53.1	56.1
東京都多摩市	60.1	64.4	64.9	66.3	65.2

※偏差値の計算については、MAX を 80、MIN を 20 と調整した。

※各指標について、鎌倉市より偏差値が高い箇所を着色した。

II. 分析結果

(1) 指標ごとの得点とLWC Iに基づく因子得点

①指標の得点（平均値）

1) 医療・福祉、子育てに関する指標の得点

医療・福祉、子育てに関する指標の得点は、「通学しやすい場所に学校がある」が3.53と最も高く、次いで「教育環境が整っている(3.49)」、「医療機関が充実している(3.48)」となっている。

一方で、「子育て支援・補助が手厚い」は2.91と最も低く、かつ、中間値の3を下回っている。教育に関する評価が高い一方で、子育て支援については評価が低い。

図表 2-5 医療・福祉、子育てに関する指標の得点

医療・福祉、子育てに関する指標	得点
医療機関が充実している	3.48
介護・福祉施設のサービスが受けやすい	3.18
子育て支援・補助が手厚い	2.91
子どもたちがいきいきと暮らせる	3.36
教育環境が整っている	3.49
通学しやすい場所に学校がある	3.53

2) 買物、住宅環境に関する指標

買物、住宅環境に関する指標の得点は、「自宅には、心地のいい場所がある」が4.10と最も高く、次いで「自宅の近辺では、騒音に悩まされていない(3.75)」となっている。

一方で、「楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」は2.24と最も低く、次いで、「適度な費用で住居を確保できる(2.66)」「飲食を楽しめる場所が充実している(2.98)」となっており、これらの得点は中間値の3を下回っている。

居住環境に関する評価が高い一方で、飲食や娯楽施設、住居費用については評価が低い。

図表 2-6 買物、住宅環境に関する指標の得点

買物、住宅環境に関する指標	得点
日常の買い物にまったく不便がない	3.35
飲食を楽しめる場所が充実している	2.98
自宅には、心地のいい居場所がある	4.10
自宅の近辺では、騒音に悩まされていない	3.75
適度な費用で住居を確保できる	2.66
公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	3.37
楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	2.24

3) 行政サービス、デジタル化に関する指標

行政サービス、デジタル化に関する指標の得点は、いずれも中間値の3を下回っており評価が低い。中でも、「行政サービスのデジタル化が進んでいる」は2.60で最も低い。

図表 2-7 行政サービス、デジタル化に関する指標の得点

行政サービス、デジタル化に関する指標	得点
行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	2.78
公共施設は使い勝手がよく便利である	2.77
行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.60
仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.66

4) まちなみ、公共空間に関する指標

まちなみ、公共空間に関する指標の得点は、「身近に自然を感じることができる」が4.05と最も高く、次いで「雰囲気は、自分にとって心地よい(3.88)」「自慢できる自然景観がある(3.71)」となっている。

一方で、「歩道や信号が整備されていて安心である」は3.07と最も低く、次いで、「防災対策がしっかりしている(3.08)」「防犯対策が整っており、治安がよい(3.09)」となっているものの、中間値の3を下回る指標はなかった。

まちなみ、公共空間に関しては、総じて評価が高く、とりわけ自然環境や雰囲気について評価が高い。安全・安心にかかわる指標が相対的にやや低いものの、よくも悪くもないといえる。

図表 2-8 まちなみ、公共空間に関する指標の得点

まちなみ、公共空間に関する指標	得点
雰囲気は、自分にとって心地よい	3.88
まちなみ、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	3.58
自慢できる都市景観がある	3.27
自慢できる自然景観がある	3.71
身近に自然を感じることができる	4.05
空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.65
環境への取組みが盛んである	3.27
防災対策がしっかりしている	3.08
防犯対策が整っており、治安がよい	3.09
歩道や信号が整備されていて安心である	3.07

5) 地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標

地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標の得点は、「この町内に対して愛着を持っている」が3.59と最も高く、次いで「町内の人困っていたら手助けをする(3.53)」「同じ町内に住む人たちに信頼している(3.47)」となっている。

一方で、「見知らぬ他者であっても信頼する」は2.27と最も低く、次いで、「町内の人自分がどう思っているか気になる(2.35)」「若者が活躍しやすい雰囲気がある(2.55)」となっており、これらを含めた6つの指標の得点は中間値の3を下回っている。

住んでいる町内への愛着や、町内の住民に対する愛他性や共助・互助については評価が高いものの、一方で、見知らぬ他者は信頼しがたいことや、若者が活躍しやすい雰囲気がないといった評価であり、やや町内の排他性も垣間見える。

図表 2-9 地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標の得点

地域とのつながりや地域の雰囲気に関する指標	得点
私は、同じ町内に住む人たちに信頼している	3.47
地域では、地域活動への市民参加が盛んである	3.10
地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.86
私は、町内の人困っていたら手助けをする	3.53
私は、この町内に対して愛着を持っている	3.59
町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.87
私は、見知らぬ他者であっても信頼する	2.27
私は、町内の人自分がどう思っているかが気になる	2.35
地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.76
地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.55

6) 自分自身の状態に関する指標

自分自身の状態や認識に関する指標の得点は、「将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」が4.21と最も高く、次いで「精神的に健康な状態である（3.84）」「身体的に健康な状態である（3.70）」となっている。

一方で、「地域では、やりたい仕事を見つけやすい」は2.44と最も低く、次いで、「適切な収入を得るための機会がある（2.46）」「新たな事に挑戦・成長するための機会がある（2.56）」となっており、これらの得点は中間値の3を下回っている。

健康状態や精神状態は良好であり、また、市の環境や文化を残していこうとする意識は高いものの、一方で、仕事の見つけやすさや収入、新たなことへの挑戦・成長といった評価が低く、地域での就労環境については改善の余地があるものと見込まれる。

図表 2-10 自分自身の状態に関する指標の得点

自分自身の状態や認識に関する指標	得点
自分のことを好ましく感じる	3.56
私は、身体的に健康な状態である	3.70
私は、精神的に健康な状態である	3.84
地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	3.13
将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	4.21
地域では、学びたいことを学べる機会がある	3.01
地域では、やりたい仕事を見つけやすい	2.44
地域では、適切な収入を得るための機会がある	2.46
地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.56

②因子得点

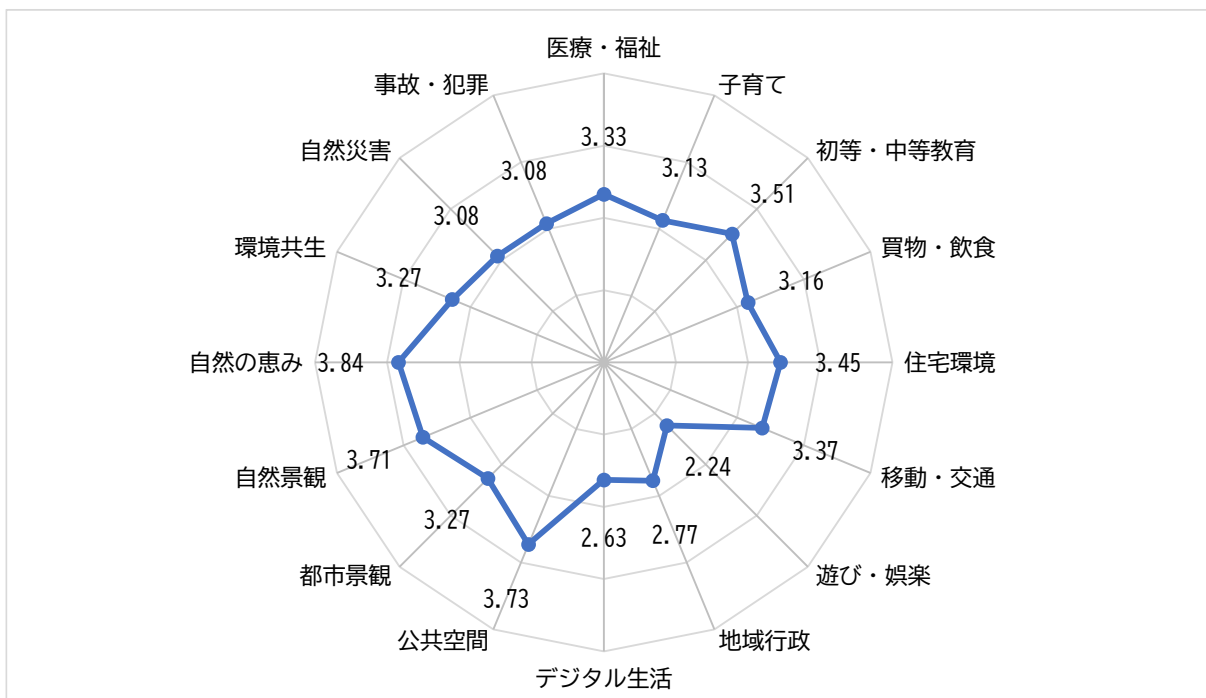
1) 生活環境因子

①で示した1)～4)の指標について、LWCI分類に基づく生活環境因子として分類し、得点化した。指標と因子の関係については、166～167頁のとおり。

因子得点が最も高いのは「自然の恵み(3.84)」であり、次いで「公共空間(3.73)」、「自然景観(3.71)」となっている。

最も低いのは「遊び・娯楽(2.24)」であり、次いで「デジタル生活(2.63)」「地域行政(2.77)」となっており、「自然の恵み」と「遊び・娯楽」の因子得点の差は1.60ポイントとなっている。

図表 2-11 生活環境因子の得点



LWCI 分類－生活環境	因子得点
医療・福祉	3.33
子育て	3.13
初等・中等教育	3.51
買物・飲食	3.16
住宅環境	3.45
移動・交通	3.37
遊び・娯楽	2.24
地域行政	2.77
デジタル生活	2.63
公共空間	3.73
都市景観	3.27
自然景観	3.71
自然の恵み	3.84
環境共生	3.27
自然災害	3.08
事故・犯罪	3.08

2) 地域の人間関係因子

地域の人間関係因子については、「地域とのつながり」が 3.28 である一方、多様性と寛容性は 2.55 と、その差が 0.73 ポイントとなっている。

図表 2-12 地域の人間関係因子の得点

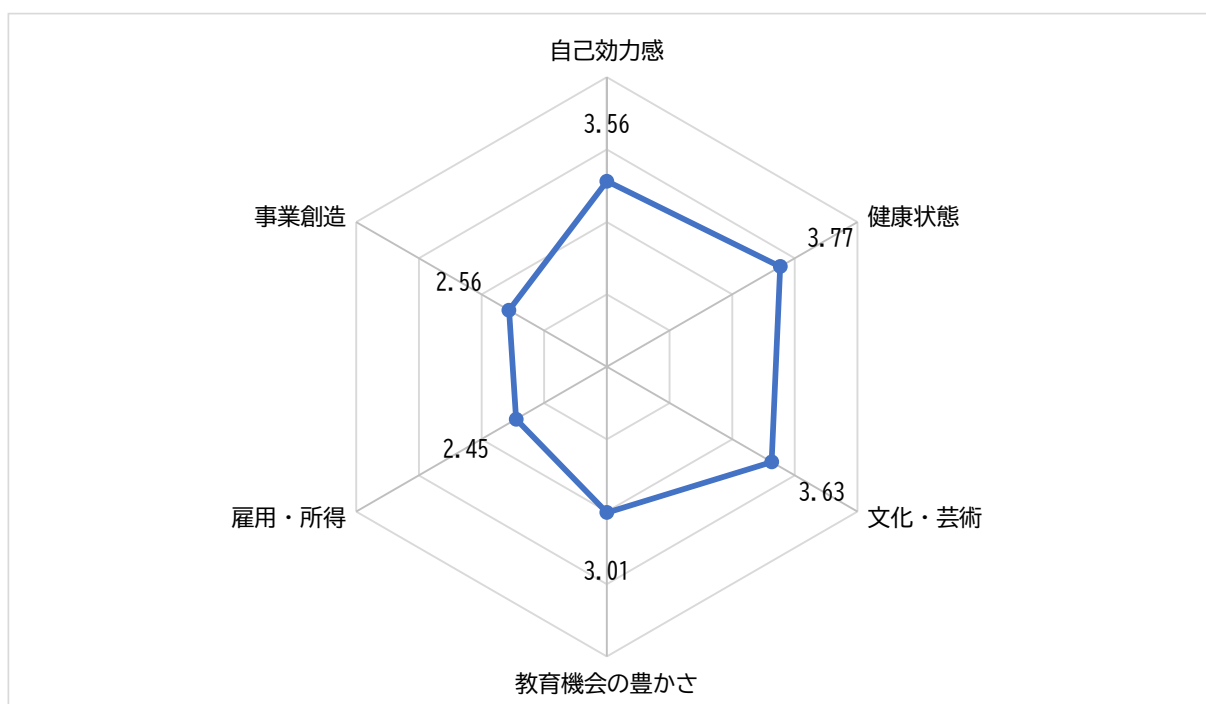
LWCI 分類－地域の人間関係	因子得点
地域とのつながり	3.28
多様性と寛容性	2.55

3) 自分らしい生き方因子

因子得点が最も高いのは「健康状態 (3.77)」であり、次いで「文化・芸術 (3.63)」となっている。

最も低いのは「雇用・所得 (2.45)」であり、次いで「事業創造 (2.56)」となっており、「健康状態」と「雇用・所得」の因子得点の差は 1.32 ポイントとなっている。

図表 2-13 自分らしい生き方因子の得点



LWCI 分類－自分らしい生き方	因子得点
自己効力感	3.56
健康状態	3.77
文化・芸術	3.63
教育機会の豊かさ	3.01
雇用・所得	2.45
事業創造	2.56

(2) 鎌倉市における LWCi 偏差値の算出と他自治体との比較

①主観指標

1) 生活環境因子を構成する指標

生活環境因子を構成する 27 指標の鎌倉市における偏差値は次のとおり。鎌倉市の偏差値が比較自治体の偏差値の平均値に比べ高い指標は「子どもたちがいきいきと暮らせる」「自宅には、心地のいい居場所がある」「雰囲気は、自分にとって心地よい」「自慢できる自然景観がある」など9つとなっている。

図表 2-14 生活環境因子を構成する指標の偏差値の比較

	医療機関が充実している	介護・福祉施設のサービスが受けやすい	子育て支援・補助が手厚い	子どもたちがいきいきと暮らせる	教育環境が整っている	通学しやすい場所に学校がある
鎌倉市	51.0	43.8	47.1	61.1	53.6	53.1
比較自治体	56.8	56.6	56.3	57.5	58.4	57.2

	日常の買い物にまったく不便がない	飲食を楽しむ場所が充実している	自宅には、心地のいい居場所がある	自宅の近辺では、騒音に悩まされていない	適度な費用で住居を確保できる	公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
鎌倉市	38.3	41.5	80 以上	65.5	26.3	54.4	33.5
比較自治体	57.4	58.1	58.3	49.0	41.9	59.8	59.2

	行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	公共施設は使い勝手がよく便利である	行政サービスのデジタル化が進んでいる	仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	雰囲気は、自分にとって心地よい	まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	自慢できる都市景観がある
鎌倉市	32.7	39.4	33.3	38.2	78.5	56.2	61.4
比較自治体	56.5	59.0	59.2	60.0	62.1	59.7	58.6

	自慢できる自然景観がある	身近に自然を感じる事ができる	空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	環境への取り組みが盛んである	防災対策がしっかりしている	防犯対策が整っており、治安がよい	歩道や信号が整備されていて安心である
鎌倉市	72.0	72.0	60.8	72.5	50.1	52.7	42.1
比較自治体	54.1	50.6	48.0	56.0	60.7	60.5	60.1

2) 地域の人間関係因子並びに自分らしい生き方因子を構成する指標

地域の人間関係因子を構成する 10 指標、並びに自分らしい生き方因子を構成する 9 指標の鎌倉市における偏差値は次のとおり。

鎌倉市の偏差値が比較自治体の偏差値の平均値に比べ高い指標は、地域の人間関係因子に係る指標では「私は、同じ町内に住む人たちを信頼している」「地域では、地域活動への市民参加が盛んである」「地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる」「私は、町内の人が困っていたら手助けをする」「私は、この町内に対して愛着を持っている」の5つである。

自分らしい生き方因子に係る指標では「自分のことを好ましく感じる」「私は、身体的に健康な状態である」「私は、精神的に健康な状態である」「地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」「将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」の5つである。

図表 2-15 地域の人間関係因子並びに自分らしい生き方因子を構成する指標の偏差値の比較

	私は、同じ町内に住む人たちを信頼している	地域では、地域活動への市民参加が盛んである	地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	私は、町内の人が困っていたら手助けをする	私は、この町内に対して愛着を持っている
鎌倉市	80 以上	65.7	59.5	80 以上	80 以上
比較自治体	58.2	57.6	52.9	51.8	61.0

	町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	私は、見知らぬ他者であっても信頼する	私は、町内の人が自分をどう思っているかが気になる	地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある
鎌倉市	56.2	26.5	23.2	48.6	38.7
比較自治体	60.8	52.9	44.7	60.9	60.3

	自分のことを好ましく感じる	私は、身体的に健康な状態である	私は、精神的に健康な状態である	地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
鎌倉市	80 以上	80 以上	80 以上	65.8	80 以上
比較自治体	58.1	57.7	57.9	56.0	54.7

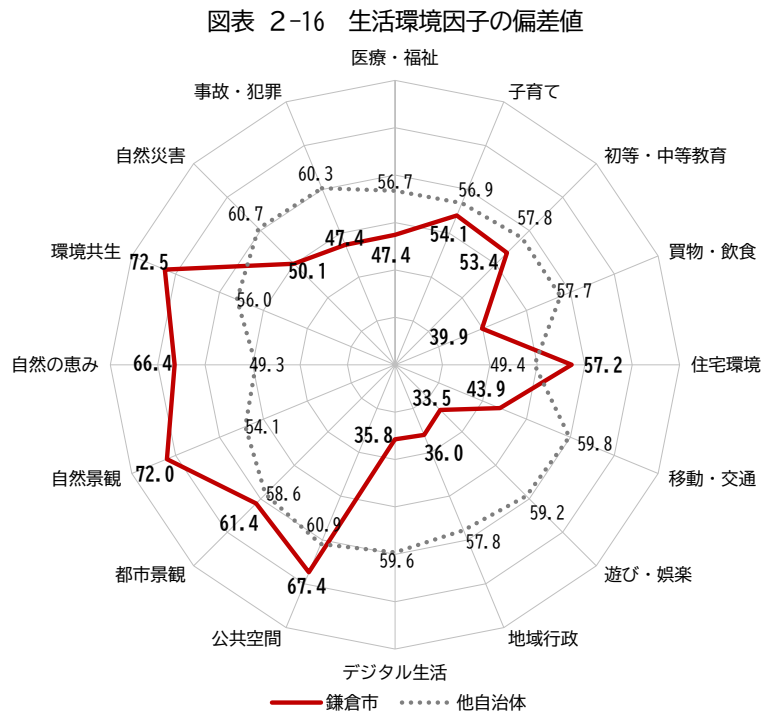
	地域では、学びたいことを学べる機会がある	地域では、やりたい仕事を見つけやすい	地域では、適切な収入を得るための機会がある	地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	
鎌倉市	51.6	36.7	34.5	39.9	
比較自治体	57.9	59.3	58.9	60.2	

②主観指標の因子偏差値

1) 生活環境因子

①の指標から算出した生活環境因子ごとの偏差値は次のとおり。

比較対象とした 17 自治体の平均値に比べ偏差値が高いのは「住宅環境」「公共空間」「都市景観」「自然景観」「自然の恵み」「環境共生」の 6 つとなっている。



比較対象とした 17 自治体との比較結果は次のとおり。

鎌倉市を含めた 18 自治体の中で、上位 3 位以内は「自然景観（1 位）」「環境共生（1 位）」「自然の恵み（2 位）」「住宅環境（3 位）」となっている。

一方で、「買物・飲食」「移動・交通」「遊び・娯楽」「地域行政」「デジタル生活」の 5 因子については 18 位（最下位）となっている。

図表 2-17 生活環境因子の偏差値（他自治体比較・順位・18 団体中）

	医療・福祉	子育て	初等・中等教育	買物・飲食	住宅環境	移動・交通	遊び・娯楽	地域行政
順位	14	12	13	18	3	18	18	18

	デジタル生活	公共空間	都市景観	自然景観	自然の恵み	環境共生	自然災害	事故・犯罪
順位	18	5	8	1	2	1	15	15

図表 2-18 生活環境因子の偏差値（他自治体比較）

No.	医療・福祉		子育て		初等・中等教育	
1	東京都港区	73.4	千葉県浦安市	71.4	東京都品川区	71.4
2	東京都千代田区	71.4	東京都品川区	70.6	千葉県浦安市	68.8
3	東京都品川区	67.8	神奈川県藤沢市	69.4	東京都世田谷区	64.5
4	東京都目黒区	67.0	東京都世田谷区	64.1	神奈川県藤沢市	64.2
5	千葉県浦安市	65.1	東京都千代田区	63.8	東京都千代田区	64.2
6	東京都世田谷区	63.7	東京都多摩市	63.7	東京都目黒区	64.0
7	神奈川県藤沢市	63.4	東京都港区	62.7	東京都港区	63.1
8	東京都多摩市	59.2	東京都目黒区	60.0	東京都日野市	61.1
9	東京都日野市	57.0	東京都日野市	57.3	神奈川県茅ヶ崎市	59.9
10	神奈川県平塚市	55.9	神奈川県平塚市	55.6	神奈川県平塚市	58.4
11	神奈川県茅ヶ崎市	53.9	神奈川県海老名市	54.8	東京都多摩市	56.5
12	千葉県八千代市	51.0	鎌倉市	54.1	千葉県八千代市	54.0
13	神奈川県海老名市	47.5	神奈川県茅ヶ崎市	50.6	鎌倉市	53.4
14	鎌倉市	47.4	千葉県八千代市	48.2	神奈川県座間市	53.0
15	神奈川県座間市	46.6	神奈川県座間市	46.2	神奈川県海老名市	49.5
16	神奈川県秦野市	44.2	神奈川県小田原市	44.6	神奈川県小田原市	46.8
17	神奈川県小田原市	43.9	神奈川県秦野市	43.6	神奈川県秦野市	44.3
18	埼玉県熊谷市	32.9	埼玉県熊谷市	40.8	埼玉県熊谷市	39.2

No.	買物・飲食		住宅環境		移動・交通	
1	東京都品川区	72.6	千葉県八千代市	58.2	東京都品川区	68.8
2	東京都目黒区	68.8	東京都多摩市	58.0	東京都港区	68.7
3	東京都世田谷区	68.2	鎌倉市	57.2	東京都目黒区	67.1
4	千葉県浦安市	68.1	神奈川県秦野市	56.2	東京都千代田区	65.9
5	東京都港区	65.9	東京都日野市	53.8	東京都世田谷区	64.9
6	神奈川県藤沢市	63.5	埼玉県熊谷市	53.6	東京都多摩市	62.2
7	神奈川県茅ヶ崎市	63.2	神奈川県茅ヶ崎市	52.9	千葉県浦安市	62.1
8	東京都多摩市	59.8	神奈川県小田原市	52.7	神奈川県藤沢市	60.9
9	神奈川県平塚市	57.1	神奈川県座間市	50.7	東京都日野市	60.1
10	東京都千代田区	54.5	東京都世田谷区	50.4	神奈川県座間市	59.2
11	千葉県八千代市	54.3	神奈川県平塚市	50.4	千葉県八千代市	57.6
12	神奈川県座間市	52.0	神奈川県藤沢市	50.1	神奈川県海老名市	57.0
13	神奈川県海老名市	51.2	千葉県浦安市	49.2	神奈川県茅ヶ崎市	55.0
14	東京都日野市	48.7	東京都目黒区	47.2	神奈川県平塚市	54.8
15	神奈川県小田原市	47.6	神奈川県海老名市	44.8	神奈川県小田原市	54.4
16	埼玉県熊谷市	43.7	東京都品川区	41.5	神奈川県秦野市	52.1
17	神奈川県秦野市	42.6	東京都港区	38.4	埼玉県熊谷市	45.6
18	鎌倉市	39.9	東京都千代田区	32.2	鎌倉市	43.9

図表 2-19 生活環境因子の偏差値（他自治体比較）（続き）

	遊び・娯楽		地域行政		デジタル生活	
1	千葉県浦安市	79.5	千葉県浦安市	74.8	東京都港区	80 以上
2	東京都港区	70.8	東京都港区	74.3	東京都千代田区	78.9
3	東京都千代田区	66.7	東京都千代田区	70.5	千葉県浦安市	73.5
4	東京都目黒区	65.6	東京都品川区	69.2	東京都目黒区	70.2
5	神奈川県藤沢市	64.0	東京都目黒区	67.0	東京都品川区	69.1
6	神奈川県平塚市	62.7	東京都世田谷区	63.3	東京都世田谷区	66.3
7	東京都世田谷区	61.6	神奈川県藤沢市	60.9	神奈川県藤沢市	59.8
8	神奈川県茅ヶ崎市	61.4	東京都多摩市	59.6	東京都多摩市	59.3
9	東京都品川区	59.6	神奈川県平塚市	55.5	神奈川県海老名市	58.9
10	神奈川県海老名市	59.4	神奈川県海老名市	53.1	神奈川県平塚市	57.7
11	東京都多摩市	58.9	神奈川県茅ヶ崎市	52.9	神奈川県茅ヶ崎市	55.5
12	神奈川県小田原市	56.1	千葉県八千代市	50.5	神奈川県座間市	52.4
13	千葉県八千代市	55.2	東京都日野市	49.7	千葉県八千代市	51.6
14	神奈川県座間市	50.3	神奈川県座間市	48.6	東京都日野市	48.5
15	東京都日野市	46.1	神奈川県秦野市	48.4	神奈川県小田原市	47.6
16	神奈川県秦野市	44.7	神奈川県小田原市	44.5	神奈川県秦野市	45.2
17	埼玉県熊谷市	43.0	埼玉県熊谷市	39.5	埼玉県熊谷市	38.3
18	鎌倉市	33.5	鎌倉市	36.0	鎌倉市	35.8

	公共空間		都市景観		自然景観	
1	東京都多摩市	74.8	東京都港区	77.9	鎌倉市	72.0
2	千葉県浦安市	74.3	千葉県浦安市	76.7	神奈川県秦野市	70.6
3	東京都世田谷区	69.3	神奈川県藤沢市	70.1	神奈川県藤沢市	66.9
4	東京都目黒区	68.9	東京都千代田区	70.1	東京都多摩市	66.8
5	鎌倉市	67.4	東京都多摩市	63.6	神奈川県茅ヶ崎市	64.1
6	東京都日野市	66.9	神奈川県茅ヶ崎市	63.4	神奈川県小田原市	62.3
7	神奈川県藤沢市	66.6	東京都目黒区	62.3	神奈川県平塚市	59.8
8	神奈川県茅ヶ崎市	63.5	鎌倉市	61.4	東京都日野市	58.4
9	東京都港区	63.1	東京都世田谷区	59.5	千葉県浦安市	56.2
10	東京都品川区	62.7	神奈川県小田原市	58.9	東京都目黒区	53.4
11	千葉県八千代市	60.8	神奈川県秦野市	58.2	東京都世田谷区	49.1
12	神奈川県平塚市	59.5	神奈川県平塚市	58.0	東京都千代田区	48.8
13	神奈川県秦野市	58.3	東京都品川区	55.3	千葉県八千代市	47.0
14	東京都千代田区	53.1	東京都日野市	51.4	神奈川県座間市	46.6
15	神奈川県小田原市	51.9	神奈川県海老名市	47.5	東京都港区	45.9
16	神奈川県座間市	49.7	千葉県八千代市	47.1	神奈川県海老名市	44.8
17	神奈川県海老名市	49.1	神奈川県座間市	41.1	東京都品川区	41.6
18	埼玉県熊谷市	43.6	埼玉県熊谷市	34.9	埼玉県熊谷市	37.5

図表 2-20 生活環境因子の偏差値（他自治体比較）（続き）

	自然の恵み		環境共生	
1	神奈川県秦野市	70.6	鎌倉市	72.5
2	鎌倉市	66.4	東京都港区	68.6
3	東京都多摩市	63.7	神奈川県藤沢市	67.8
4	東京都日野市	60.5	千葉県浦安市	64.3
5	神奈川県小田原市	59.0	東京都多摩市	63.6
6	神奈川県茅ヶ崎市	55.6	東京都日野市	62.9
7	神奈川県藤沢市	55.2	神奈川県秦野市	62.3
8	神奈川県平塚市	51.6	神奈川県海老名市	59.6
9	神奈川県座間市	50.9	東京都千代田区	57.9
10	千葉県八千代市	49.8	東京都品川区	57.6
11	神奈川県海老名市	49.0	神奈川県平塚市	55.3
12	埼玉県熊谷市	45.4	東京都目黒区	55.2
13	東京都世田谷区	43.3	神奈川県小田原市	52.2
14	千葉県浦安市	43.0	東京都世田谷区	51.8
15	東京都目黒区	41.2	神奈川県茅ヶ崎市	49.5
16	東京都千代田区	35.3	千葉県八千代市	46.0
17	東京都品川区	33.1	神奈川県座間市	45.8
18	東京都港区	31.2	埼玉県熊谷市	32.5

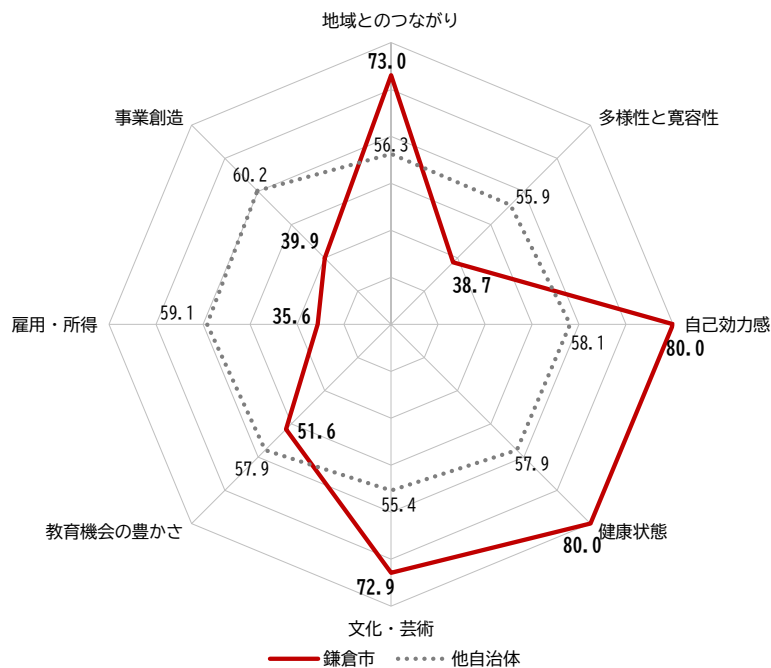
	自然災害		事故・犯罪	
1	東京都港区	79.7	東京都港区	80 以上
2	千葉県浦安市	78.6	東京都千代田区	76.6
3	東京都千代田区	74.7	東京都目黒区	75.0
4	東京都目黒区	70.7	東京都品川区	72.6
5	東京都品川区	69.9	千葉県浦安市	69.1
6	東京都世田谷区	63.7	東京都多摩市	67.6
7	神奈川県藤沢市	63.7	東京都世田谷区	65.9
8	東京都多摩市	63.5	東京都日野市	59.7
9	神奈川県平塚市	61.3	神奈川県藤沢市	58.8
10	神奈川県秦野市	59.0	神奈川県平塚市	55.4
11	東京都日野市	58.7	千葉県八千代市	55.0
12	神奈川県海老名市	55.8	神奈川県海老名市	53.9
13	千葉県八千代市	54.4	神奈川県秦野市	53.5
14	神奈川県小田原市	51.0	神奈川県茅ヶ崎市	51.1
15	鎌倉市	50.1	鎌倉市	47.4
16	神奈川県茅ヶ崎市	49.1	神奈川県座間市	46.2
17	神奈川県座間市	44.8	神奈川県小田原市	45.9
18	埼玉県熊谷市	32.6	埼玉県熊谷市	38.5

2) 地域の人間関係因子並びに自分らしい生き方因子

①の指標から算出した地域の人間関係因子並びに自分らしい生き方因子ごとの偏差値は次のとおり。

比較対象とした 17 自治体の平均値に比べ偏差値が高いのは、地域の人間関係因子は「地域とのつながり」、「自己効力感」、「健康状態」、「文化・芸術」となっている。

図表 2-21 人間関係因子並びに自分らしい生き方因子の偏差値



比較対象とした 17 自治体との比較結果は次のとおり。

鎌倉市を含めた 18 自治体の中で、上位 3 位以内は「地域とのつながり（1 位）」「自己効力感（1 位）」「健康状態（1 位）」「文化芸術（3 位）」となっている。

一方で、「多様性と寛容性」「雇用・取得」「事業創造」の 3 因子については 18 位（最下位）となっている。

図表 2-22 地域の人間関係因子の偏差値（他自治体比較・順位・18団体中）

	地域とのつながり	多様性と寛容性
順位	1	18

図表 2-23 自分らしい生き方因子の偏差値（他自治体比較・順位・18団体中）

	自己効力感	健康状態	文化・芸術	教育機会の豊かさ	雇用・所得	事業創造
順位	1	1	3	12	18	18

図表 2-24 地域の人間関係因子の偏差値（他自治体比較）

No.	地域とのつながり		多様性と寛容性	
1	鎌倉市	73.0	千葉県浦安市	71.3
2	東京都目黒区	66.1	東京都千代田区	67.9
3	千葉県浦安市	65.2	神奈川県海老名市	65.1
4	神奈川県茅ヶ崎市	64.4	千葉県八千代市	63.1
5	東京都千代田区	64.3	東京都港区	61.1
6	東京都多摩市	63.3	東京都目黒区	60.0
7	神奈川県藤沢市	60.0	東京都世田谷区	59.2
8	東京都港区	59.4	東京都多摩市	59.1
9	東京都品川区	58.5	神奈川県藤沢市	58.1
10	千葉県八千代市	56.9	神奈川県茅ヶ崎市	55.4
11	神奈川県秦野市	55.4	神奈川県平塚市	52.9
12	東京都世田谷区	55.3	東京都品川区	52.1
13	神奈川県平塚市	55.1	神奈川県秦野市	50.3
14	神奈川県小田原市	51.9	東京都日野市	47.1
15	神奈川県海老名市	51.8	神奈川県小田原市	46.0
16	東京都日野市	45.3	神奈川県座間市	42.8
17	埼玉県熊谷市	42.4	埼玉県熊谷市	39.1
18	神奈川県座間市	41.8	鎌倉市	38.7

図表 2-25 自分らしい生き方因子の偏差値（他自治体比較）

No.	自己効力感		健康状態		文化・芸術	
1	鎌倉市	80 以上	鎌倉市	80 以上	東京都千代田区	76.3
2	東京都目黒区	76.5	東京都港区	79.6	東京都港区	73.4
3	東京都千代田区	73.5	東京都目黒区	76.0	鎌倉市	72.9
4	千葉県八千代市	73.5	東京都千代田区	73.1	千葉県浦安市	68.9
5	東京都世田谷区	71.4	千葉県浦安市	70.8	東京都世田谷区	63.2
6	東京都港区	70.8	東京都世田谷区	69.6	東京都目黒区	62.3
7	千葉県浦安市	63.1	千葉県八千代市	64.3	東京都多摩市	61.0
8	神奈川県藤沢市	60.8	神奈川県茅ヶ崎市	62.7	神奈川県藤沢市	58.2
9	東京都多摩市	60.1	東京都日野市	56.3	神奈川県茅ヶ崎市	55.7
10	神奈川県茅ヶ崎市	57.6	神奈川県秦野市	55.7	東京都日野市	55.1
11	神奈川県座間市	56.6	東京都多摩市	54.3	神奈川県小田原市	52.2
12	東京都品川区	50.0	東京都品川区	50.7	千葉県八千代市	52.0
13	神奈川県海老名市	49.8	神奈川県藤沢市	50.3	東京都品川区	50.1
14	神奈川県小田原市	49.6	神奈川県座間市	48.5	神奈川県秦野市	45.0
15	東京都日野市	48.7	埼玉県熊谷市	47.6	神奈川県海老名市	44.7
16	神奈川県平塚市	48.2	神奈川県小田原市	47.6	神奈川県平塚市	43.7
17	埼玉県熊谷市	39.4	神奈川県海老名市	41.5	埼玉県熊谷市	42.0
18	神奈川県秦野市	37.7	神奈川県平塚市	35.3	神奈川県座間市	37.4

図表 2-26 自分らしい生き方因子の偏差値（他自治体比較）（続き）

No.	教育機会の豊かさ		雇用・所得		事業創造	
1	東京都港区	80 以上	東京都港区	80 以上	東京都港区	80 以上
2	東京都千代田区	76.4	東京都千代田区	76.1	東京都目黒区	73.3
3	千葉県浦安市	73.8	千葉県浦安市	69.6	東京都千代田区	73.1
4	東京都目黒区	70.7	東京都目黒区	68.7	千葉県浦安市	69.4
5	東京都世田谷区	63.0	東京都品川区	65.3	東京都品川区	66.8
6	東京都品川区	62.7	東京都世田谷区	64.8	東京都世田谷区	66.5
7	神奈川県藤沢市	60.8	神奈川県藤沢市	60.5	神奈川県藤沢市	64.1
8	東京都多摩市	58.6	千葉県八千代市	57.5	東京都多摩市	59.5
9	神奈川県海老名市	55.6	神奈川県海老名市	57.1	神奈川県海老名市	58.9
10	千葉県八千代市	54.4	東京都多摩市	56.9	千葉県八千代市	58.7
11	神奈川県茅ヶ崎市	52.3	神奈川県茅ヶ崎市	54.3	神奈川県平塚市	56.5
12	鎌倉市	51.6	神奈川県平塚市	52.7	東京都日野市	55.7
13	神奈川県平塚市	50.9	神奈川県秦野市	52.2	神奈川県茅ヶ崎市	53.7
14	東京都日野市	50.4	東京都日野市	50.9	神奈川県秦野市	51.0
15	神奈川県小田原市	47.5	神奈川県小田原市	49.2	神奈川県小田原市	48.9
16	神奈川県秦野市	47.3	神奈川県座間市	47.3	神奈川県座間市	46.2
17	埼玉県熊谷市	40.0	埼玉県熊谷市	42.3	埼玉県熊谷市	41.2
18	神奈川県座間市	39.7	鎌倉市	35.6	鎌倉市	39.9

(3) 客観偏差値と主観偏差値の関係

①生活環境因子

一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが公表する令和5年度 Well-being アンケートダッシュボードの客観指標に基づく偏差値を用いて、主観指標に基づく偏差値との関係を整理した。

(※主観指標に基づく偏差値とは、アンケート調査に基づく偏差値である。)

鎌倉市において、客観指標に基づく偏差値に比べ、主観指標に基づく偏差値が5ポイント以上高い因子は、「子育て」「住宅環境」「公共空間」「自然景観」「自然の恵み」「環境共生」となっており、こうした因子は、客観的な市の状況に比べ、市民の評価は高いといえる。

一方で、客観指標に基づく偏差値に比べ、主観指標に基づく偏差値が5ポイント以上低い因子は、「買物・飲食」「移動・交通」「遊び・娯楽」「地域行政」「デジタル生活」「事故・犯罪」となっており、こうした因子は、客観的な市の状況に比べ、市民の評価は低いといえる。

さらに見ていくと、「子育て」「住宅環境」「自然景観」「自然の恵み」については、客観指標に基づく偏差値が50を下回っており、全国の自治体と比べ平均未満の整備状況といえる。しかしながら、主観指標に基づく偏差値は50を超えており、環境として整備されているわけではないが、市民の評価は高いことがうかがえる。

一方で、「移動・交通」や「地域行政」、「デジタル生活」、「事故・犯罪」については、客観指標に基づく偏差値が50を超えており、全国の自治体と比べ平均以上といえる。しかしながら、主観指標に基づく偏差値は50未満となっており、環境としては整備されているが、市民の評価は低いことがうかがえる。

「子育て」「住宅環境」「自然景観」「自然の恵み」については、客観的に見れば全国平均未満であるものの、市民の評価は高いことから、現状を維持していくことが、市民の評価の維持につながるものと考えられる。

一方で、「移動・交通」「地域行政」「デジタル生活」「事故・犯罪」については、実際には全国的に見て環境整備が進んでいるため、市民ニーズを十分に理解し、市民ニーズに寄り添った施策展開が必要と考えられる。

なお、「買物・飲食」「遊び・娯楽」については、客観的にも全国平均未満であり、市民の評価も低いことから、こうした環境を整備するとともに、市民の評価向上に向けた対応が求められる。

図表 2-27 生活環境因子の客観指標に基づく偏差値と主観指標に基づく偏差値

自治体	医療・福祉		子育て		初等・中等教育		買物・飲食		住宅環境		移動・交通		遊び・娯楽		地域行政	
	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観
鎌倉市	47.3	47.4	46.7	54.1	53.6	53.4	49.4	39.9	48.6	57.2	53.0	43.9	47.8	33.5	50.2	36.0
神奈川県平塚市	48.8	55.9	50.7	55.6	48.8	58.4	51.1	57.1	50.1	50.4	53.5	54.8	45.9	62.7	53.3	55.5
神奈川県藤沢市	48.8	63.4	49.8	69.4	45.4	64.2	50.8	63.5	45.6	50.1	52.8	60.9	48.2	64.0	54.1	60.9
神奈川県小田原市	47.5	43.9	48.1	44.6	49.8	46.8	49.9	47.6	51.9	52.7	53.2	54.4	49.7	56.1	54.0	44.5
神奈川県茅ヶ崎市	47.5	53.9	47.4	50.6	45.5	59.9	48.8	63.2	49.3	52.9	51.7	55.0	45.5	61.4	46.8	52.9
神奈川県秦野市	51.6	44.2	48.8	43.6	43.8	44.3	48.5	42.6	51.0	56.2	52.8	52.1	47.8	44.7	46.9	48.4
神奈川県海老名市	47.1	47.5	45.5	54.8	43.5	49.5	49.9	51.2	48.5	44.8	50.7	57.0	46.2	59.4	51.8	53.1
神奈川県座間市	45.4	46.6	42.6	46.2	46.9	53.0	48.7	52.0	47.0	50.7	51.6	59.2	43.8	50.3	52.5	48.6
埼玉県熊谷市	51.6	32.9	44.7	40.8	50.2	39.2	48.1	43.7	56.3	53.6	48.3	45.6	45.5	43.0	52.3	39.5
千葉県八千代市	49.2	51.0	45.2	48.2	43.0	54.0	49.2	54.3	49.0	58.2	52.1	57.6	48.1	55.2	49.8	50.5
千葉県浦安市	50.8	65.1	54.5	71.4	51.3	68.8	49.2	68.1	37.7	49.2	53.4	62.1	46.9	79.5	62.4	74.8
東京都千代田区	51.5	71.4	58.3	63.8	61.2	64.2	62.2	54.5	23.7	32.2	54.9	65.9	80以上	66.7	60.6	70.5
東京都港区	47.3	73.4	60.1	62.7	59.9	63.1	62.2	65.9	24.7	38.4	53.8	68.7	80以上	70.8	70.4	74.3
東京都品川区	44.8	67.8	54.7	70.6	57.3	71.4	52.5	72.6	25.6	41.5	53.2	68.8	54.3	59.6	56.0	69.2
東京都目黒区	46.7	67.0	56.3	60.0	63.7	64.0	51.8	68.8	26.7	47.2	52.4	67.1	54.0	65.6	61.1	67.0
東京都世田谷区	44.3	63.7	53.6	64.1	57.9	64.5	47.8	68.2	32.0	50.4	51.1	64.9	48.9	61.6	53.6	63.3
東京都日野市	52.4	57.0	50.7	57.3	44.6	61.1	49.1	48.7	43.8	53.8	53.0	60.1	42.7	46.1	54.4	49.7
東京都多摩市	50.5	59.2	48.0	63.7	55.4	56.5	50.2	59.8	40.2	58.0	52.3	62.2	48.4	58.9	63.1	59.6
神奈川県大磯町	48.1	-	39.3	-	51.2	-	45.0	-	54.5	-	47.4	-	46.8	-	52.7	-
埼玉県上尾市	51.6	-	47.4	-	47.1	-	49.4	-	50.8	-	50.7	-	49.2	-	51.0	-
東京都武蔵野市	51.1	-	56.1	-	59.8	-	54.4	-	31.7	-	52.9	-	58.0	-	53.5	-

※鎌倉市のみ、主観指標と客観指標の差（主観指標－客観指標）の値が＋5％以上の場合は橙色に、－5％以上の場合は青色に着色している。

図表 2-28 生活環境因子の客観指標に基づく偏差値と主観指標に基づく偏差値（続き）

自治体	デジタル生活		公共空間		都市景観		自然景観		自然の恵み		環境共生		自然災害		事故・犯罪	
	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観
鎌倉市	54.2	35.8	53.0	67.4	57.8	61.4	41.6	72.0	45.4	66.4	56.6	72.5	50.5	50.1	55.1	47.4
神奈川県平塚市	49.2	57.7	51.4	59.5	57.8	58.0	56.2	59.8	47.7	51.6	47.7	55.3	52.1	61.3	50.2	55.4
神奈川県藤沢市	51.3	59.8	52.1	66.6	47.1	70.1	41.6	66.9	44.5	55.2	49.9	67.8	52.0	63.7	54.3	58.8
神奈川県小田原市	48.2	47.6	46.6	51.9	47.1	58.9	56.2	62.3	55.3	59.0	54.5	52.2	51.8	51.0	47.4	45.9
神奈川県茅ヶ崎市	46.4	55.5	48.9	63.5	57.8	63.4	56.2	64.1	45.8	55.6	48.9	49.5	48.9	49.1	58.2	51.1
神奈川県秦野市	47.9	45.2	47.2	58.3	47.1	58.2	56.2	70.6	57.9	70.6	52.3	62.3	51.1	59.0	55.7	53.5
神奈川県海老名市	45.5	58.9	47.3	49.1	47.1	47.5	41.6	44.8	45.5	49.0	52.3	59.6	52.1	55.8	54.4	53.9
神奈川県座間市	43.7	52.4	49.9	49.7	47.1	41.1	41.6	46.6	43.3	50.9	51.2	45.8	50.5	44.8	53.0	46.2
埼玉県熊谷市	51.9	38.3	56.6	43.6	47.1	34.9	41.6	37.5	47.7	45.4	50.3	32.5	49.7	32.6	49.5	38.5
千葉県八千代市	45.9	51.6	53.1	60.8	36.5	47.1	41.6	47.0	46.5	49.8	44.1	46.0	51.6	54.4	53.1	55.0
千葉県浦安市	44.1	73.5	46.4	74.3	57.8	76.7	41.6	56.2	44.3	43.0	45.5	64.3	44.1	78.6	55.0	69.1
東京都千代田区	60.5	78.9	59.7	53.1	68.4	70.1	41.6	48.8	40.5	35.3	40.0	57.9	48.6	74.7	32.4	76.6
東京都港区	61.5	80以上	55.7	63.1	57.8	77.9	41.6	45.9	39.2	31.2	44.2	68.6	50.6	79.7	41.9	80以上
東京都品川区	57.3	69.1	52.8	62.7	47.1	55.3	41.6	41.6	39.1	33.1	44.8	57.6	48.1	69.9	55.1	72.6
東京都目黒区	58.1	70.2	57.4	68.9	57.8	62.3	41.6	53.4	38.9	41.2	47.0	55.2	51.0	70.7	57.0	75.0
東京都世田谷区	59.1	66.3	55.2	69.3	47.1	59.5	41.6	49.1	40.0	43.3	50.2	51.8	49.5	63.7	56.5	65.9
東京都日野市	50.6	48.5	49.7	66.9	36.5	51.4	41.6	58.4	43.7	60.5	57.2	62.9	49.4	58.7	57.2	59.7
東京都多摩市	50.6	59.3	58.1	74.8	36.5	63.6	41.6	66.8	42.9	63.7	52.1	63.6	48.6	63.5	56.1	67.6
神奈川県大磯町	42.6	-	51.0	-	47.1	-	41.6	-	52.0	-	49.0	-	45.3	-	56.8	-
埼玉県上尾市	37.1	-	48.2	-	36.5	-	41.6	-	44.6	-	49.4	-	51.1	-	53.8	-
東京都武蔵野市	57.1	-	51.5	-	36.5	-	41.6	-	39.6	-	52.6	-	50.0	-	49.7	-

※鎌倉市のみ、主観指標と客観指標の差（主観指標－客観指標）の値が＋5％以上の場合は橙色に、－5％以上の場合は青色に着色している。

② 地域の間人関係因子並びに自分らしい生き方因子

①と同様に、地域の間人関係因子並びに自分らしい生き方因子についてみる。

鎌倉市において、客観指標に基づく偏差値に比べ、主観指標に基づく偏差値が5ポイント以上高い因子は、地域の間人関係因子では「地域とのつながり」、自分らしい生き方因子では「自己効力感」「健康状態」「文化・芸術」となっており、こうした因子は、客観的な市の状況に比べ、市民の評価は高いといえる。

一方で、客観指標に基づく偏差値に比べ、主観指標に基づく偏差値が5ポイント以上低い因子は、地域の間人関係因子では「多様性と寛容性」、自分らしい生き方因子では「雇用・所得」「事業創造」となっており、こうした因子は、客観的な市の状況に比べ、市民の評価は低いといえる。

さらに見ていくと、「健康状態」「文化・芸術」については、客観指標に基づく偏差値が60を超えており、主観指標に基づく偏差値は70を超えている。客観的にも主観的にも鎌倉市の強みであるといえよう。

一方で、「事業創造」については、客観指標に基づく偏差値が50を超えており、全国の自治体と比べ平均以上といえる。しかしながら、主観指標に基づく偏差値は50未満となっており、環境としては整備されているが、市民の評価は低いことがうかがえる。

「事業創造」については、実際には全国的に見ても平均的には環境整備が進んでいるため、市民ニーズを十分に理解し、市民ニーズに寄り添った施策展開が必要と考えられる。

なお、「雇用・所得」については、客観的にも全国平均未満であり、市民の評価も低いことから、こうした環境を整備するとともに、市民の評価向上につながる対応が必要と考えられる。

図表 2-29 地域の人間関係因子並びに自分らしい生き方因子の客観指標に基づく偏差値と主観指標に基づく偏差値

自治体	地域とのつながり		多様性と寛容性		自己効力感		健康状態		文化・芸術		教育機会の豊かさ		雇用・所得		事業創造	
	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観	客観	主観
鎌倉市	53.8	73.0	57.5	38.7	50.3	80 以上	64.0	80 以上	63.4	72.9	55.3	51.6	49.9	35.6	51.5	39.9
神奈川県平塚市	48.7	55.1	46.4	52.9	48.3	48.2	51.2	35.3	45.8	43.7	49.1	50.9	44.8	52.7	46.0	56.5
神奈川県藤沢市	49.1	60.0	48.5	58.1	35.4	60.8	64.6	50.3	47.7	58.2	50.8	60.8	49.2	60.5	51.5	64.1
神奈川県小田原市	55.0	51.9	49.0	46.0	48.2	49.6	50.5	47.6	50.4	52.2	46.8	47.5	47.4	49.2	46.6	48.9
神奈川県茅ヶ崎市	50.0	64.4	55.8	55.4	44.0	57.6	64.1	62.7	48.5	55.7	52.9	52.3	45.5	54.3	49.7	53.7
神奈川県秦野市	48.7	55.4	47.7	50.3	44.2	37.7	49.9	55.7	45.5	45.0	48.8	47.3	40.1	52.2	45.9	51.0
神奈川県海老名市	49.3	51.8	53.8	65.1	56.4	49.8	62.9	41.5	46.1	44.7	48.6	55.6	51.8	57.1	47.4	58.9
神奈川県座間市	44.9	41.8	47.5	42.8	48.1	56.6	42.7	48.5	47.0	37.4	48.1	39.7	42.0	47.3	46.1	46.2
埼玉県熊谷市	50.3	42.4	47.1	39.1	48.3	39.4	38.5	47.6	45.7	42.0	47.5	40.0	47.5	42.3	47.1	41.2
千葉県八千代市	46.6	56.9	46.4	63.1	37.3	73.5	50.3	64.3	47.0	52.0	48.0	54.4	47.1	57.5	48.1	58.7
千葉県浦安市	46.2	65.2	55.3	71.3	44.0	63.1	63.6	70.8	50.4	68.9	54.7	73.8	55.3	69.6	51.2	69.4
東京都千代田区	55.4	64.3	53.8	67.9	52.1	73.5	53.3	73.1	55.6	76.3	65.1	76.4	69.3	76.1	78.2	73.1
東京都港区	54.9	59.4	65.9	61.1	30.9	70.8	50.0	79.6	58.1	73.4	61.5	80 以上	63.8	80 以上	80 以上	80 以上
東京都品川区	46.6	58.5	50.2	52.1	38.5	50.0	57.3	50.7	55.2	50.1	58.1	62.7	60.8	65.3	62.4	66.8
東京都目黒区	45.9	66.1	54.7	60.0	35.7	76.5	61.0	76.0	57.5	62.3	58.6	70.7	58.6	68.7	61.7	73.3
東京都世田谷区	47.1	55.3	63.0	59.2	45.1	71.4	65.5	69.6	57.1	63.2	54.3	63.0	55.1	64.8	58.5	66.5
東京都日野市	44.6	45.3	55.2	47.1	40.6	48.7	59.5	56.3	49.3	55.1	52.1	50.4	51.0	50.9	49.7	55.7
東京都多摩市	45.4	63.3	56.4	59.1	47.8	60.1	63.9	54.3	50.8	61.0	55.6	58.6	43.1	56.9	56.3	59.5
神奈川県大磯町	48.7	-	45.9	-	50.5	-	59.0	-	45.4	-	50.2	-	42.1	-	48.1	-
埼玉県上尾市	47.1	-	49.6	-	35.9	-	43.6	-	46.0	-	51.8	-	46.7	-	47.3	-
東京都武蔵野市	44.8	-	57.3	-	48.6	-	50.9	-	56.9	-	56.9	-	56.0	-	53.1	-

※鎌倉市のみ、主観指標と客観指標の差（主観指標－客観指標）の値が＋5％以上の場合は橙色に、－5％以上の場合は青色に着色している。

(4) まとめ（転出入調査、市民意識調査、世論・住民意識調査ソリューションの共同研究結果を踏まえた分析）

本分析では、本アンケート調査結果並びに一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが公表する令和5年度 Well-being アンケートダッシュボードの値を用いて、LWCI に基づく偏差値を分析した。

また、分析にあたっては、本アンケート調査結果に加え、過年度市が実施した調査（転出入調査、市民意識調査、世論・住民意識調査ソリューションの共同研究）の結果も踏まえて実施した。

①生活環境について

○自然環境・住環境は市の大きな魅力である

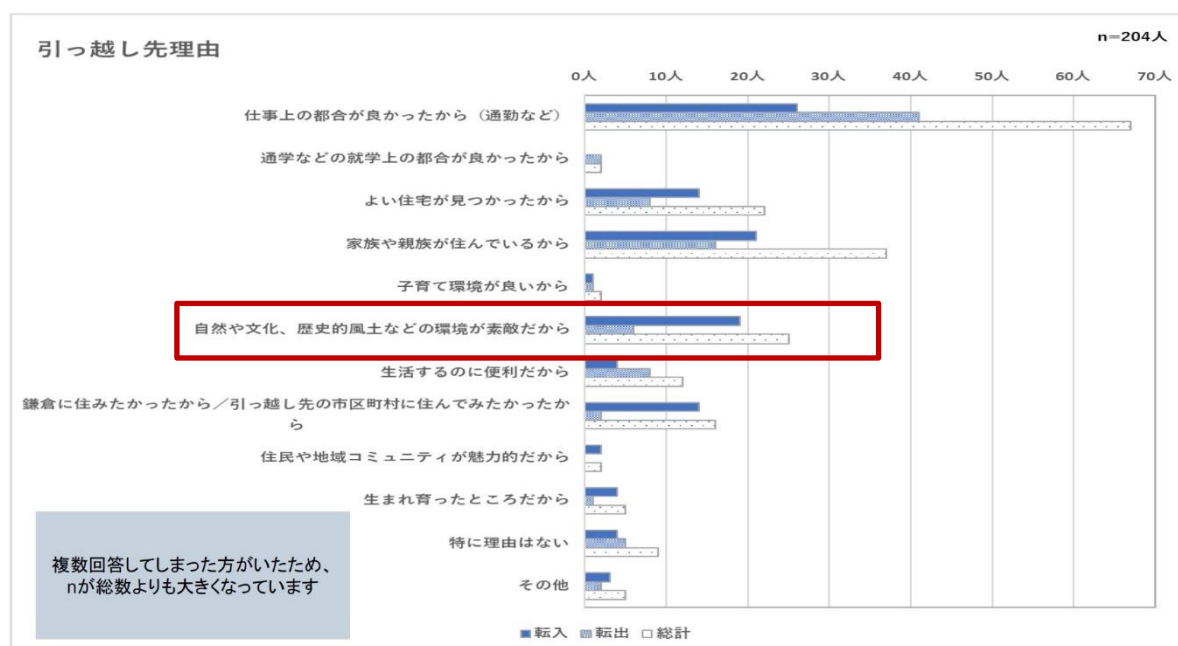
>>本アンケート調査結果から

市では、自然や住環境といった偏差値が高く、全国的に見ても市民の評価が高いといえる。客観的には、自然景観や自然の恵みといった偏差値は全国的に見ると平均未満であるが、市民の評価は高く、LWCI で定められた客観指標では、鎌倉市の魅力を表現できていない可能性も示唆された。

>>転出入調査結果から

市が実施した転出入調査においても、市への転入理由として通勤などの仕事上の都合や家族や親族が住んでいるという理由が多いものの、「自然や文化、歴史的風土などの環境が素敵だから」の回答数が3番目に多く、自然環境が市の転入者の引っ越し先の決め手になっていることがうかがえる。

図表 2-30 引っ越し先を選んだ理由（決め手）



出典：鎌倉市「転出入者アンケート調査結果」より

>>市民意識調査結果から

鎌倉市市民意識調査においても、住み続けたいと回答した方のうち、愛着があるという回答が最も高いが、次いで「緑や自然が豊かだから」となっている。また、「鎌倉市は、豊かな自然や自然的景観を大切に保全するとともに、市民がみどりとふれあえるまちだと思いますか。」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせて 86.4%となっており、本アンケート調査結果同様に市の自然環境への評価が高い。

図表 2-31 住み続けたいと思うと回答した方のその理由

回答	1. 住み慣れていて愛着があるから	2. 緑や自然が豊かだから	3. 地震・台風など災害に対して安全だから	4. 子育てする環境として適しているから	5. 教育・学習環境が充実しているから	6. 働く環境が整っているから	7. その他	8. 無回答
回答数	418	263	6	10	0	15	48	39
%	52.3%	32.9%	0.7%	1.3%	0.0%	1.9%	6.0%	4.9%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

図表 2-32 鎌倉市は、豊かな自然や自然的景観を大切に保全するとともに、市民がみどりとふれあえるまちだと思うか。

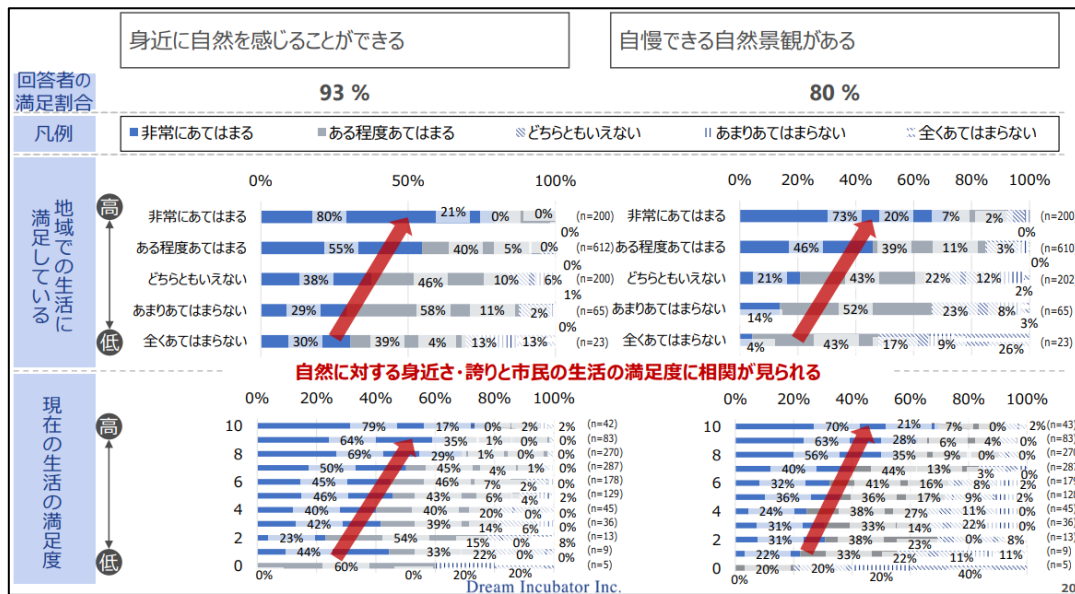
回答	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない	5. 無回答
回答数	351	391	65	47	5
%	40.9%	45.5%	7.6%	5.5%	0.5%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

>>世論・住民意識調査ソリューションの共同研究から

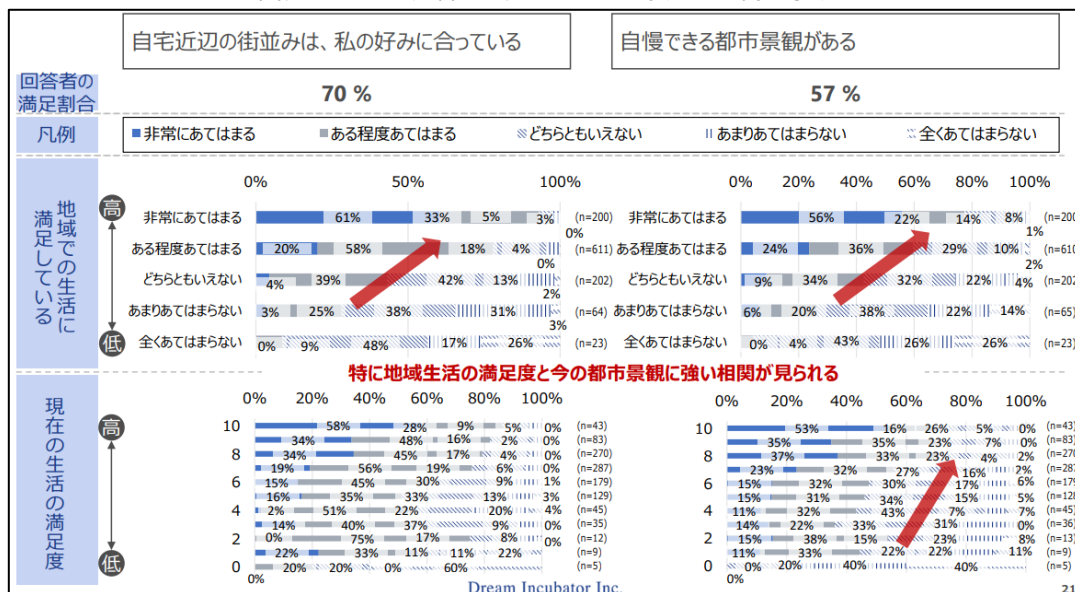
さらに、鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータの「世論・住民意識調査ソリューションの共同研究」に基づいて実施された「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」においても、鎌倉市の豊かな自然や都市景観は市の強みであり、それらの強みを生かした政策が市民の暮らしの満足度につながる可能性が指摘されている。

図表 2-33 分析から見てきた“強み”：豊かな自然との繋がり



出典：鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ『「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」結果確報』より

図表 2-34 分析から見てきた“強み”：街の景観



出典：鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ『「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」結果確報』より

○買い物や娯楽環境には改善の余地がある

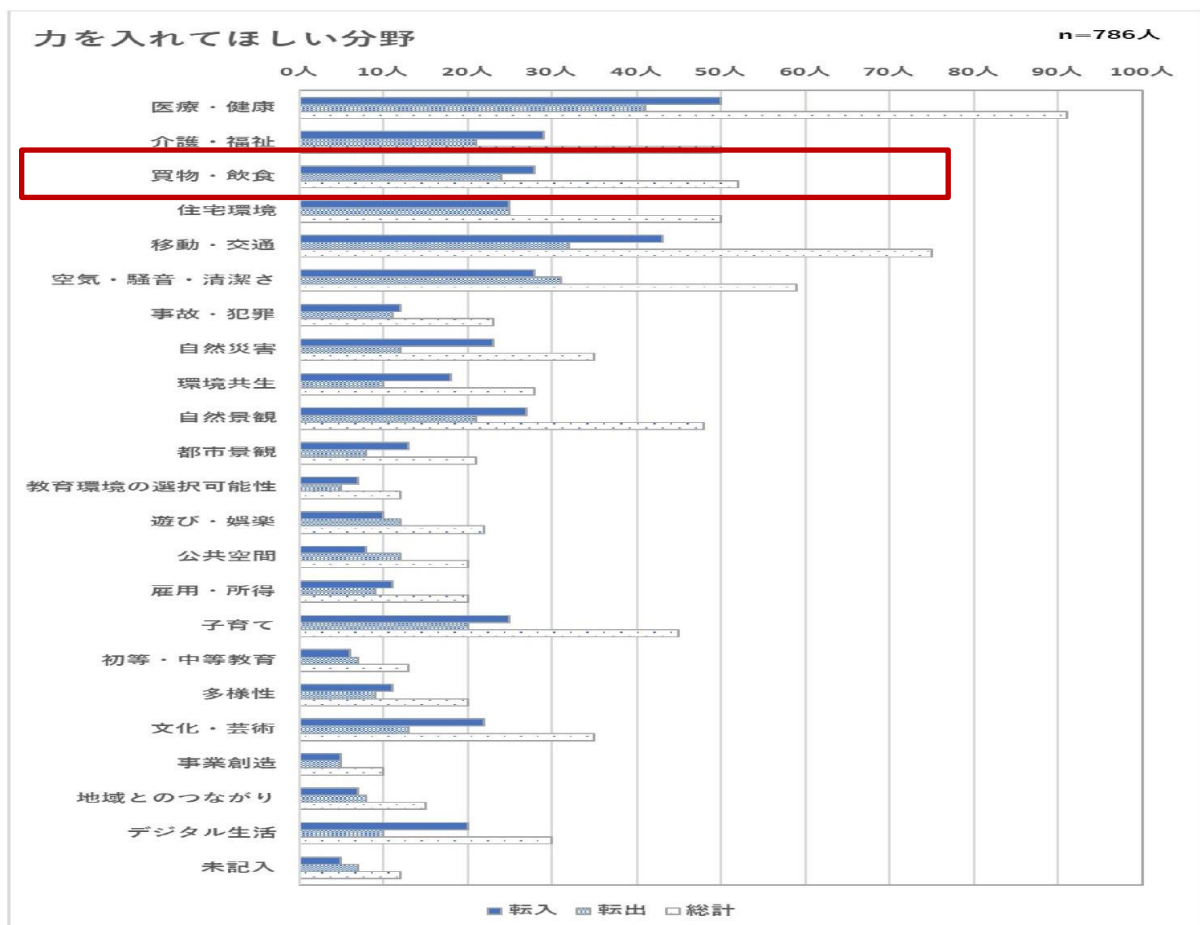
>>本アンケート調査結果から

買物・飲食や遊び・娯楽といった日常生活の楽しみについては、客観的にも主観的にも全国平均未満であり、改善の余地があるといえる。

>>転出入調査結果から

市が実施した転出入調査においても、市に力を入れてほしい分野として「買物・飲食」の回答は4番目に多い。

図表 2-35 市に力を入れてほしい分野



出典：鎌倉市「転出入者アンケート調査結果」より

>>市民意識調査結果から

鎌倉市市民意識調査において、「あなたのお住まいの近くの商店街では、あなたにとって便利で魅力的な買い物ができていると思いますか」に対し、「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高いが、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の回答は、「そう思う」回答よりも高い。

図表 2-36 あなたのお住まいの近くの商店街では、あなたにとって便利で魅力的な買い物ができていると思いますか

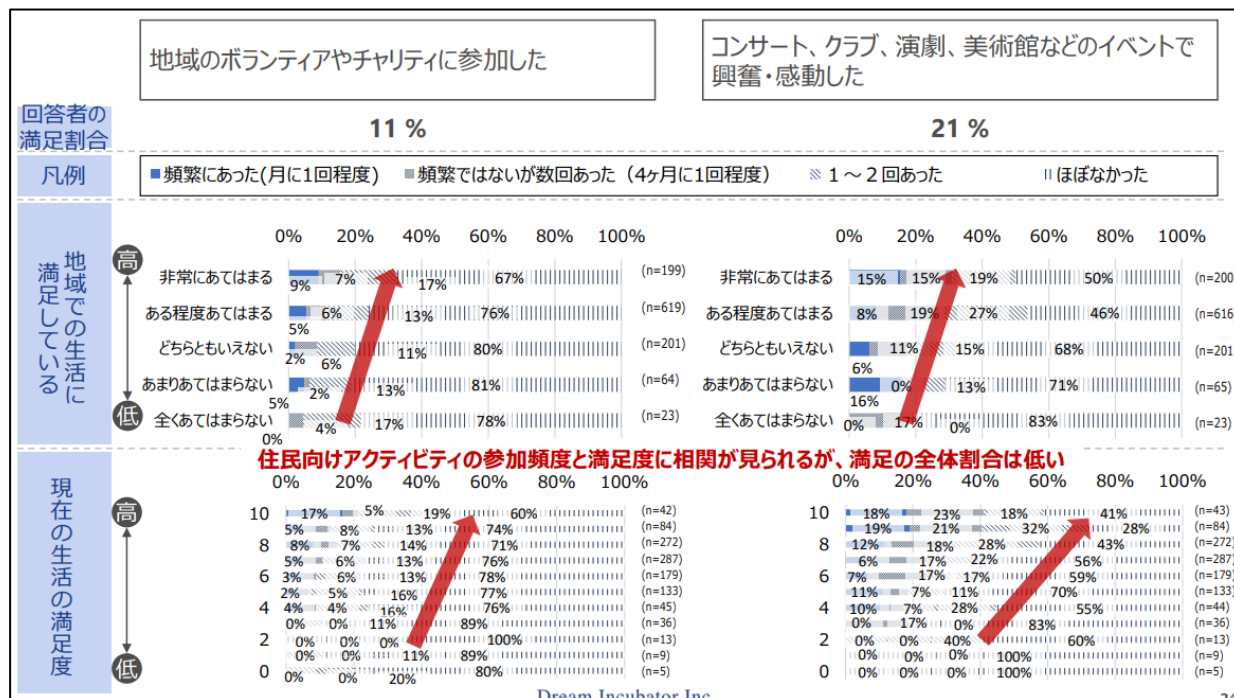
回答	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない	5. 無回答
回答数	162	331	179	179	8
%	18.9%	38.5%	20.8%	20.8%	1.0%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

>>世論・住民意識調査ソリューションの共同研究から

「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」においては、地域のアクティビティが市の弱みとして指摘されており、住民向けのアクティビティの充実や参加のしやすさの改善を図っていくことが必要と指摘されている。

図表 2-37 分析から見えてきた“弱み”：地域のアクティビティ



出典：鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ『「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」結果確報』より

○移動・交通、行政、事故・犯罪等は市民の評価が低い傾向にある

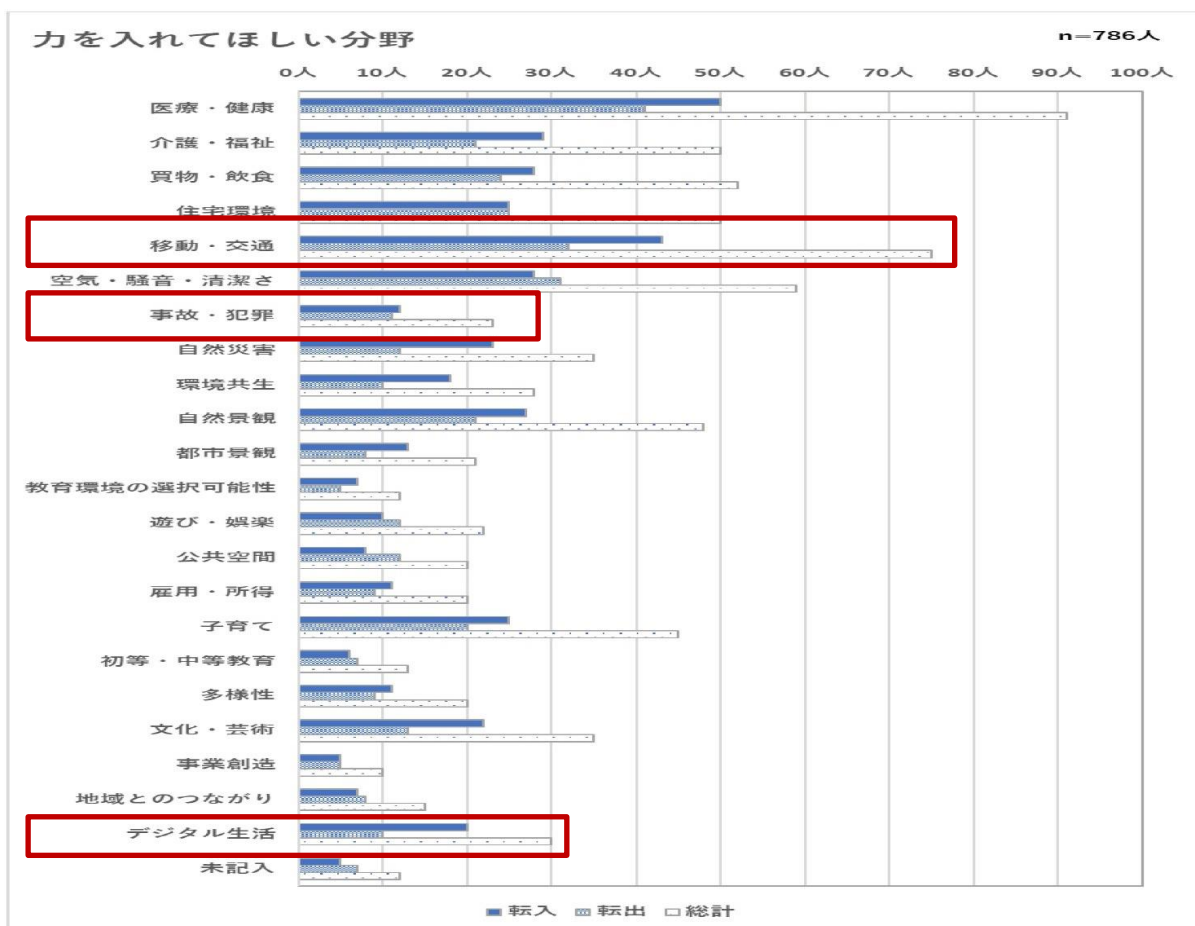
>>本アンケート調査結果から

移動・交通や地域行政、デジタル生活、事故・犯罪については、客観的には全国平均以上であるが、市民の評価は全国的に見れば平均未満であり、LWCI で定められた客観指標に係る取組を進めるのではなく、より市民のニーズに即した環境づくりをするとともに、市の現状や取組状況を適切に伝えることも必要であると考えられる。

>>転出入調査結果から

市が実施した転出入調査においても、市に力を入れてほしい分野として「医療・福祉」が最も多いが、次いで「移動・交通」の回答が多く、転出入調査結果からもニーズが高いことがうかがえる。ただし、「事故・犯罪」や「デジタル生活」については、調査対象とした選択肢の中では中位である。

図表 2-38 市に力を入れてほしい分野（再掲）



出典：鎌倉市「転出入者アンケート調査結果」より

>>市民意識調査結果から

鎌倉市市民意識調査において、「鎌倉市は、幹線道路ではスムーズな交通環境が、また、生活道路では安全な歩行空間が、確保されているまちだと思うか」に対し、「そう思わない」の割合が最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思わない」となっている。「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせて 85.3%であり、市の交通環境には課題があることがうかがえる。

図表 2-39 鎌倉市は、幹線道路ではスムーズな交通環境が、また、生活道路では安全な歩行空間が、確保されているまちだと思うか

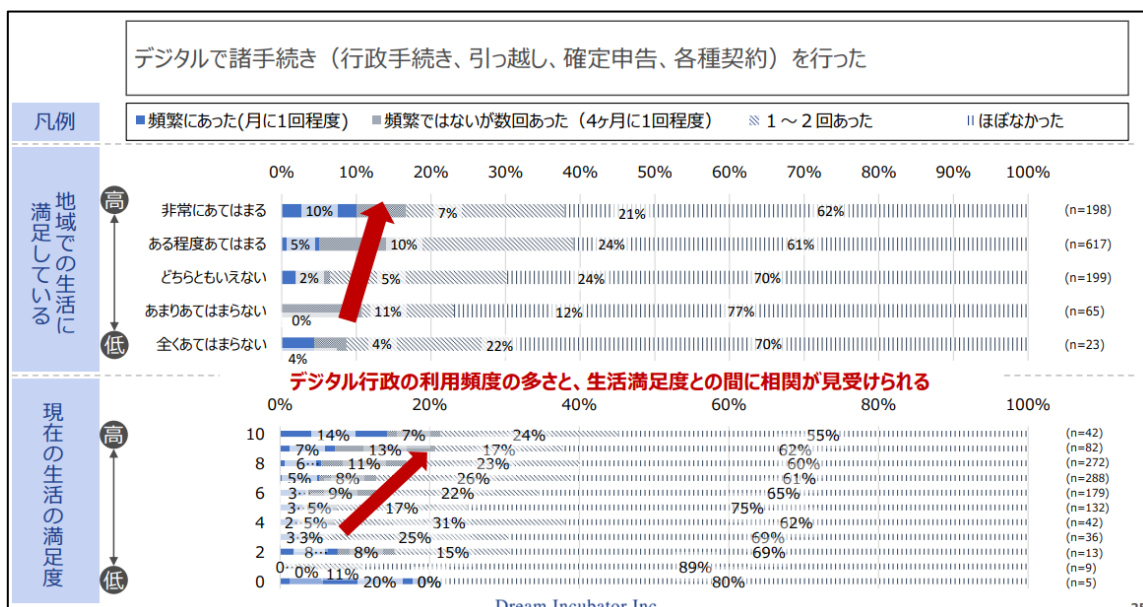
回答	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない	5. 無回答
回答数	35	118	314	384	8
%	4.1%	13.7%	36.6%	44.7%	0.9%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

>>世論・住民意識調査ソリューションの共同研究から

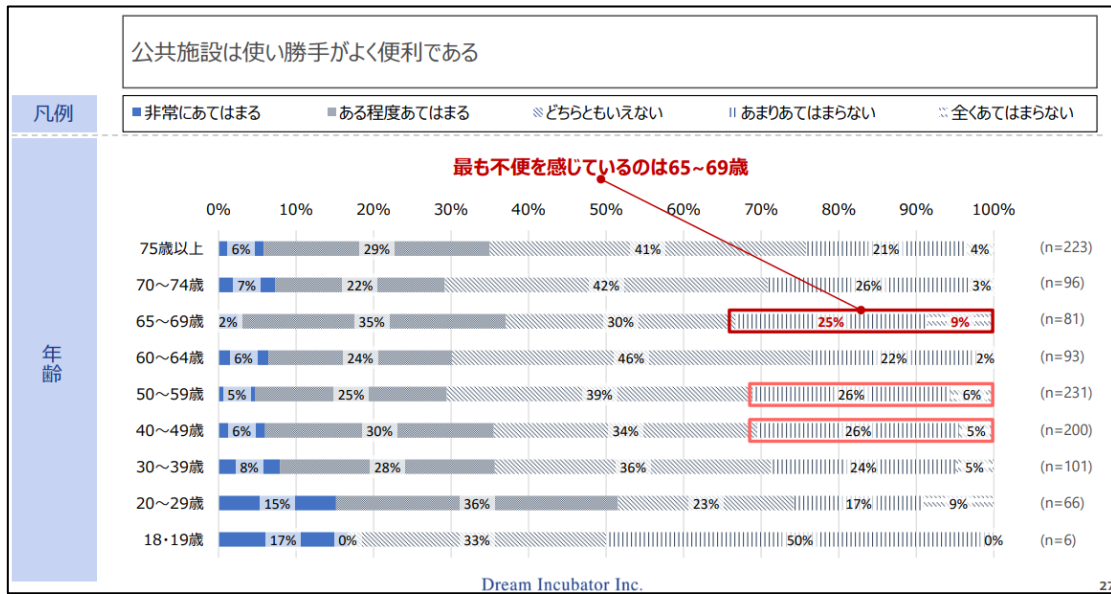
「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」においては、今後の地域づくりの工夫としてデジタル行政や公共施設利用について挙げられており、行政手続きのデジタル化のさらなる推進や公共施設のアクセス・利活用方法の改善等の検討が求められている。

図表 2-40 今後の地域づくりの工夫：デジタル行政



出典：鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ『「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」結果確報』より

図表 2-41 今後の地域づくりの工夫：公共施設利用



出典：鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ『「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」結果確報』より

②人間関係・自分らしさについて

○人間関係や健康状態等は良好である

>>本アンケート調査結果から

市では、地域の間人間関係や自己効力感、健康状態、文化芸術といった偏差値が高く、全国的に見ても市民の評価が高いといえる。こうした因子は、客観的にも市民の評価も高い。

>>市民意識調査結果から

鎌倉市市民意識調査において、「鎌倉市は、市民一人ひとりがお互いを尊重し、支え合い、社会に参画することのできる「共生社会」が実現しているまちだと思うか」に対し、「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く、過半を超える。また、「鎌倉市は、豊かな歴史的遺産が大切に保存され、伝統的な文化が保存・継承されているまちだと思うか」について、「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く、次いで「そう思う」の割合が高い。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて87.4%であり、歴史・文化保全に対する市民の評価は高い。

なお、「歴史や文化をより身近に感じられる取組として、あなたはどのようなものを鎌倉市に望むか」については、「社寺や歴史的遺産などをもっと身近な場所で理解できるような機会がほしい」の回答割合が最も高い。

図表 2-42 鎌倉市は、市民一人ひとりがお互いを尊重し、支え合い、社会に参画することのできる「共生社会」が実現しているまちだと思うか

回答	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない	5. 無回答
回答数	54	470	226	91	18
%	6.3%	54.7%	26.3%	10.6%	2.1%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

図表 2-43 鎌倉市は、豊かな歴史的遺産が大切に保存され、伝統的な文化が保存・継承されているまちだと思うか

回答	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない	5. 無回答
回答数	343	408	56	47	5
%	39.9%	47.5%	6.5%	5.5%	0.6%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

図表 2-44 歴史や文化をより身近に感じられる取組として、あなたはどのようなものを鎌倉市に望むか
(複数回答可)

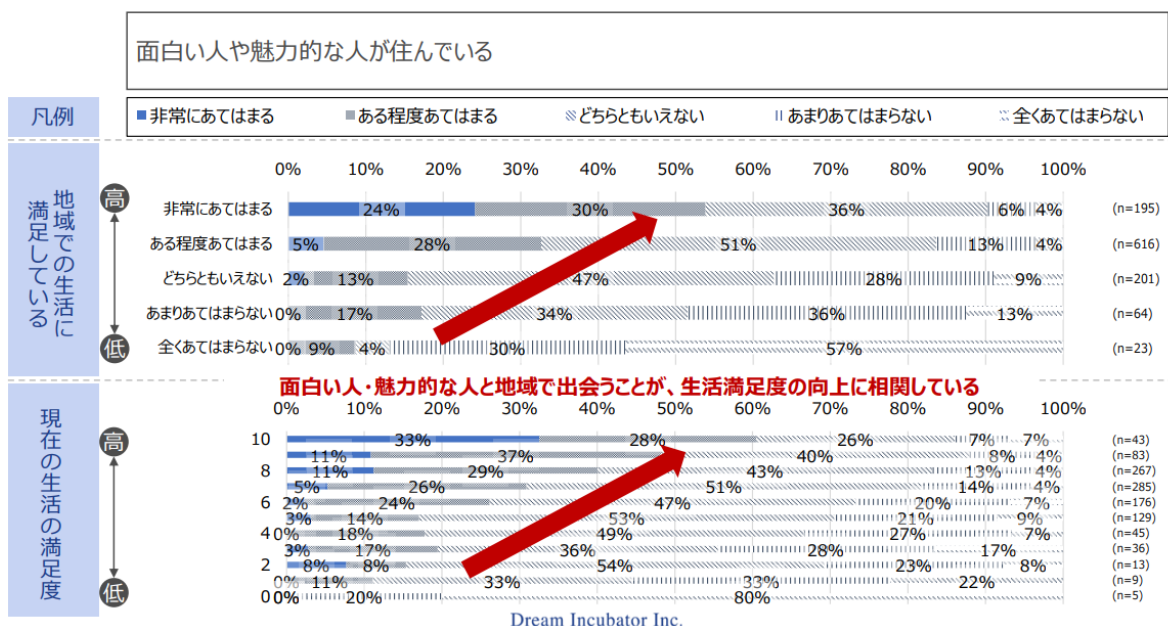
回答	1. 社寺や歴史的遺産などをもっと身近な場所で理解できるような機会がほしい	2. 貴重な文化財などを博物館で観覧するだけでなく、家に居ながらデジタル画像などで鑑賞できるなど、いつでも学習できるようにしてほしい	3. 博物館の展示の質や数量の充実をはかってほしい	4. 学芸員などの専門的な解説を聞いて、より理解を深めたい	5. 特になし	6. 無回答
回答数	380	187	219	193	209	14
%	44.2%	21.8%	25.5%	22.5%	24.3%	1.6%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

>>世論・住民意識調査ソリューションの共同研究から

「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」においては、面白い人や魅力的な人と地域で出会っていることと、生活満足度との間に相関があることが示されており、地域コミュニティの活性化など地域交流を促す政策の検討が提言されている。

図表 2-45 今後の地域づくりの工夫：地域コミュニティ



出典：鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ『「鎌倉市の暮らしやすさと満足度に関する基礎調査」結果確報』より

○市の労働・就労環境については改善の余地がある

他方で、雇用・所得は客観的にも主観的にも全国平均未満であり、改善の余地があるといえる。また、多様性と寛容性や事業創造については、客観的には全国平均以上であるが、市民の評価は全国的に見れば平均未満であり、LWCI で定められた客観指標に係る取組を進めるだけでなく、より市民のニーズに即した環境づくりをするとともに、市の現状や取組状況を適切に伝えることも必要であると考えられる。

>>市民意識調査結果から

鎌倉市市民意識調査においても、住み続けたいと回答した方のうちのその理由について、「働く環境が整っているから」と回答した割合は1.9%にとどまる。また、「現在希望する職場に就労していますか」については、「希望通りの職場に就労している」割合は26.8%にとどまり、「希望通りではないがどちらかといえば希望に近い職場に就労している」「希望とは異なる職場だが就労している」を合わせて25.6%となっている。さらに、「就労を希望しているが、就労できていない」は7.0%おり、希望通りでない方は3割を超える。就労環境については市での対応も限界はあるが、一定程度、働きたい仕事に就くことのできる産業の創出が必要である可能性もある。

図表 2-46 住み続けたいと思うと回答した方のその理由（再掲）

回答	1. 住み慣れていて愛着があるから	2. 緑や自然が豊かだから	3. 地震・台風など災害に対して安全だから	4. 子育てする環境として適しているから	5. 教育・学習環境が充実しているから	6. 働く環境が整っているから	7. その他	8. 無回答
回答数	418	263	6	10	0	15	48	39
%	52.3%	32.9%	0.7%	1.3%	0.0%	1.9%	6.0%	4.9%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より

図表 2-47 あなたは、現在希望する職場に就労していますか。

回答	1. 希望通りの職場に就労している	2. 希望通りではないがどちらかといえば希望に近い職場に就労している	3. 希望とは異なる職場だが就労している	4. 就労を希望しているが、就労できていない	5. 就労を希望していない	6. 無回答
回答数	230	150	70	60	305	44
%	26.8%	17.5%	8.1%	7.0%	35.5%	5.1%

出典：鎌倉市「市民意識調査結果」より